

明治国際医療大学 看護学科

講義概要

〔2024〕

看護学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
大学の教育と研究	前期	1	1
学習技法	前期	1	1
ボランティア論	前期	1	1
ボランティア活動	通年	1～4	1
ドイツ語	前期	1	1
東洋医学概論	後期	1	1
病理学	後期	1	1
看護学概論	前期	1	2
基礎看護援助論Ⅰ	前期	1	1
成人看護学概論	後期	1	1
老年看護学概論	前期	1	1
小児看護学概論	後期	1	1
母性看護学概論	後期	1	1
精神看護学概論	後期	1	1
地域・在宅看護概論	後期	1	2
基礎看護学実習Ⅰ	後期	1	1
フィールドワーク実習	前期	1	1
健康スポーツ実習Ⅱ	後期	1	1
医療情報学	前期	2	1
医療コミュニケーション学	後期	2	1
疾病治療総論	前期	2	1
疾病治療論Ⅲ	前期	2	1
社会保障論	前期	2	1
基礎看護援助論Ⅲ	前期	2	2
看護過程論	前期	2	1
ヘルスアセスメントⅡ	後期	2	1
ヘルスアセスメントⅢ	後期	2	1
看護アセスメント	後期	2	1
急性期看護援助論Ⅰ	前期	2	1
急性期看護援助論Ⅱ	後期	2	1
慢性期看護援助論Ⅰ	前期	2	1
慢性期看護援助論Ⅱ	後期	2	1
回復期看護概論	前期	2	1
回復期看護援助論Ⅰ	前期	2	1

看護学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
回復期看護援助論Ⅱ	後期	2	1
小児看護援助論Ⅰ	前期	2	2
小児看護援助論Ⅱ	後期	2	1
母性看護援助論Ⅰ	前期	2	2
母性看護援助論Ⅱ	後期	2	1
精神看護援助論Ⅰ	前期	2	1
精神看護援助論Ⅱ	後期	2	1
地域・在宅看護援助論Ⅰ	後期	2	2
地域・在宅看護援助論Ⅱ	後期	2	2
公衆衛生看護学概論	後期	2	2
基礎看護学実習Ⅱ	後期	2	2
家族看護学	後期	2	1
看護に生かす補完代替療法論	前期	2	1
社会福祉学	後期	3	1
保健医療福祉行政論	後期	3	2
基礎助産学	後期	3	2
助産診断・技術学Ⅰ	後期	3	4
助産診断・技術学Ⅱ	後期	3	5
公衆衛生看護方法論Ⅰ	後期	3	2
公衆衛生看護方法論Ⅱ	後期	3	2
公衆衛生看護学活動論	後期	3	2
成人看護学実習Ⅰ	通年	3	3
成人看護学実習Ⅱ	通年	3	3
成人看護学実習Ⅲ	通年	3	3
小児看護学実習	通年	3	2
母性看護学実習	通年	3	2
精神看護学実習	通年	3	2
地域・在宅看護実習	通年	3	2
包帯・固定学	後期	4	2
助産管理	通年	4	1
急性期看護学実習	前期	4	3
慢性期看護学実習	前期	4	3
老年看護学実習	前期	4	2
リハビリテーション看護学実習	前期	4	2

看護学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
小児看護学実習	前期	4	2
母性看護学実習	前期	4	2
精神看護学実習	前期	4	2
在宅看護実習	前期	4	2
公衆衛生看護学実習Ⅰ	前期	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅱ	前期	4	4
コンプリメンタリーセラピーⅡ	後期	4	1
看護技術論	後期	4	1
緩和ケア論	後期	4	1
クリティカルケア論	後期	4	1
高齢者健康論	後期	4	1
癒しの看護論	後期	4	1
ヘルスプロモーション	後期	4	1
地域保健活動システム論	後期	4	1
合計単位数			127
省令で定める基準単位数			13

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択
担当教員			
村迫 萌生			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	本科目は、各関節における適切な固定・被覆包帯について学ぶ。 また、テーピング技術についても理解する。		
授業計画	第1回	包帯の基本と指の包帯 【内容・到達目標】 伸縮包帯と非伸縮包帯の違い、基本走行、指の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 包帯の基本、指の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してこること。 アクティブラーニング：有	
	第2回	前腕の包帯 【内容・到達目標】 前腕の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 前腕の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してこること。 アクティブラーニング：有	
	第3回	肩の包帯 【内容・到達目標】 肩の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 肩の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してこること。 アクティブラーニング：有	
	第4回	足関節・下腿の包帯 【内容・到達目標】 足関節・下腿の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 足関節・下腿の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してこること。 アクティブラーニング：有	
	第5回	足趾・膝の包帯 【内容・到達目標】 足趾・膝の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 足趾・膝の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してこること。 アクティブラーニング：有	
	第6回	金属副子(クラーメル)の巻き方 【内容・到達目標】 副子材料の固定に対する包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 副子材料の固定に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してこること。 アクティブラーニング：有	
	第7回	アルミ副子の作成と巻き方 【内容・到達目標】 アルミ副子の作成及び固定時の包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 アルミ副子の作成及び固定に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してこること。 アクティブラーニング：有	
	第8回	熱可塑性キャスト材の作成と巻き方 【内容・到達目標】 熱可塑性キャスト材の作成及び固定時の包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 熱可塑性キャスト材の作成及び固定に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してこること。 アクティブラーニング：有	
	第9回	石膏ギプスの作成と巻き方 【内容・到達目標】 石膏ギプスの作成及び固定時の包帯の施行について理解する。 【授業時間外学修の指示】 石膏ギプスの作成及び固定に関して予習(45分間)	

第10回	<p>講義内容に関して復習（45分間）してこるこ。アクティブラーニング：有</p> <p>吸水硬化性キャスト材の作成</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>吸水硬化性キャスト材の作成方法について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】</p> <p>吸水硬化性キャスト材の作成方法に関して予習（45分間）</p> <p>講義内容に関して復習（45分間）してこるこ。アクティブラーニング：有</p>
第11回	<p>吸水硬化性キャスト材の巻き方</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>吸水硬化性キャスト材の固定時の包帯の施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】</p> <p>吸水硬化性キャスト材の固定方法に関して予習（45分間）</p> <p>講義内容に関して復習（45分間）してこるこ。アクティブラーニング：有</p>
第12回	<p>足関節のテーピング</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>テーピングの基本について理解する。</p> <p>足関節外側側副靭帯損傷などに対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】</p> <p>テーピングに関して予習（45分間）</p> <p>講義内容に関して復習（45分間）してこるこ。アクティブラーニング：有</p>
第13回	<p>膝、下腿、指のテーピング</p> <p>【内容・到達目標】</p> <p>鵁足炎・腸脛靭帯炎・下腿・膝などに対するキネシオテーピングについて理解する。</p> <p>指に対するテーピングを用いてテーピングの原理をより深く理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】</p> <p>テーピングに関して予習（45分間）</p> <p>講義内容に関して復習（45分間）してこるこ。アクティブラーニング：有</p>
第14回	<p>総合復習</p> <p>【授業概【内容・到達目標】</p> <p>今まで学習した包帯、副子材料の固定およびテーピングについて総復習を行い、学習した内容を自分の技術として確実に習得する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】</p> <p>包帯、副子材料、テーピングに関して予習（45分間）</p> <p>講義内容に関して復習（45分間）してこるこ。アクティブラーニング：有</p>
第15回	<p>まとめ・評価</p> <p>【授業概要】</p> <p>14回の講義で学習した内容の習得について評価を行うこで確認する。</p> <p>評価後にアドバイスを行い、臨床への活用ができるように技術を習得する。</p> <p>アクティブラーニング：有</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>実技技術を修得するため、日々の自主練習は非常に重要である。</p> <p>授業時間内に学んだ内容の復習は必ず行うこ。</p>
教科書	<p>特に必要なし。</p> <p>参考資料に関しては適時配付する。</p>
参考書	<p>社団法人全国柔道整復学校協会 監修 包帯固定学 THE TAPING 著：長尾淳彦 ニチバン株式会社</p>
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して評価を行う。</p> <p>実技試験での評価=100%</p>
担当教員の基本情報	<p>単位認定者：村迫萌生（保健医療学部 柔道整復学科）</p> <p>e-mail: m_murasako@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>本科目におけるDPの位置づけ</p> <p>◎-5、○-4</p>
	KK-1-ME6-ES-S-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
〇〇〇、東孝至、栗山真由美、森岡朋子、大倉和子、伊藤三紀子、村上久恵、福田セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習（アクティブラーニング）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本実習は、本学の看護学生としての実習の最終段階に位置づける。看護チームの一員としての看護管理の視点を持ち、複数患者の受け持ち・多重課題を通して、館gの知識・技術・態度を統合し、専門職として必要な看護実践能力を修得すること、また西洋医学と東洋医学の伝統医療を融合した統合医療の概念に基づき、という剛医療の要素を看護実践に応用する基本的姿勢・能力を取得すること、を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院および病棟におおえる看護管理の実際を理解することができる。 2. 看護チームのメンバー、リーダーの役割を理解し、メンバーシップを発揮することができる。 3. 複数患者の健康状態に合わせた看護援助を、優先順位や時間管理を考慮して実践することができる。 4. 対象の健康問題を統合医療的視点から捉え、アセスメントすることができる。 5. 統合医療的視点からの介入（療法・ケア）のための計画を立案することができる。 6. 統合医療的視点から実施された介入の評価、およびフィードバックを行うことができる。 7. 自習を通して看護職を目指す学生としての自覚をもった行動をとり、看護専門職としての自己の課題を明確にすることができる。
授業計画	<p>実習目標 1 病院いび病棟における看護管理の実際を理解することができる。</p> <p>{到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院理念、看護部理念、病棟目標と看護の実践を結びつけ、自身に考えとともに記述することができる。 2) 看護管理の必要性について記述することができる。 3) 他職種協働における看護師の役割について記述することができる。 <p>実習目標 2 看護チームのメンバー、リーダーの役割を理解し、メンバーシップを発揮することができる。</p> <p>{到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護チームリーダーの役割と責任について記述することができる。 2) 看護チームメンバーの役割と責任について記述することができる。 3) 看護チームリーダー、メンバーの役割をふまえて行動することができる。 <p>実習目標 3 複数患者の健康状態に合わせた看護援助を、優先順位や時間管理を考慮して実践することができる。</p> <p>{到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 複数患者の身体的・心理的・社会的特徴を記述することができる。 2) 複数患者の優先順位を判断しお、その根拠を記述することができる。 3) 複数患者の反応をもとに実施した看護ケアの評価、優先順位に対する評価が記述できる。 <p>実習目標 4 対象の健康問題を統合医療的視点から捉え、アセスメントすることができる。</p> <p>{到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 統合医療の適応と考え方について説明できる。 2) 施術謝および記録物を通して、対象の健康問題について情報を得ることができる。 3) 対象の健康問題に対し、統合医療的視点に基づいてアセスメントすることができる。 <p>実習目標 5 統合医療的視点にたった介入（療法・ケア）のための計画を立案することができる。</p> <p>{到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 統合医療的視点にたった介入・ケアの方法について説明できる。 2) 対象に対して、統合医療的視点にたった介入・ケア計画を立案することができる。 <p>実習目標 6 統合医療的視点から実施された介入の評価、およびフィードバックを行うことができる。</p> <p>{到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 立案した看護計画にそって、ケアを実施できる。 2) 立案した看護計画および実施後の対象の反応から、実施したケアの評価ができる。 3) 実施したケアの評価を対象にフィードバックすることができる。 <p>実習目標 7 実習を通して看護職を目指す学生としての自覚を持った行動をとり、看護専門職としての自己の課題を明確にすることができる。</p> <p>{到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 支持された期間、看護学生として自覚をもって健康および生活管理を行い、問題が生じた場合は適切な行動をとることができる。 2) 守秘義務を遵守し、自己の行動に責任をもって、実習中に知り得た個人情報を保護することができる。 3) 実習を通しての気づき・学びから、看護専門職としての自己の課題を明確にし、記述することができる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	これまで学んだ「医療概論 1年前期」「東洋医学概論 1年後期」「東洋医学診断・治療学 2年前期」「コンプリメンタリセラピー援助論 3年前期」「看護管理 3年前期」などの教科書講義資料を活用し学習する
教科書	<p>「医療概論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学概論 ・基本としくみがよくわかる 平馬直樹（総監修） 東洋医学の教科書』ナツメ社 ・リラクゼーション法入門 小坂橋喜久代 荒川 唱子 日本看護協会出版社 ・ナーシングマッサージ 小坂橋喜久代 河内香久子他 日本看護協会出版社 ・看護管理 第4版 ナーシンググラフィカー看護の統合と実践（1）吉田千史他 メディカ出版

参考書	専門科目のテキスト全て
成績評価	出席状況, 実習記録, 実習態度, 討論参加状況, 課題レポートなどにより総合的に評価する。
担当教員の基本情報	科目責任者 : 今井理香 研究室 : 10号館8階 研究室805 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定しないが、事前にメールにて確認を行うこと。
備考	実習期間 : 2023年7月10日 (月) ~ 7月21日 (金)
	実習施設 明治国際医療大学付属病院 綾部市立病院 亀岡市立病院 京丹後市立弥栄病院 市立大津市民病院 老人福祉の園 はぎの里
	この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-4, ○-1, 2, 5 科目コード : KK-4-NSc57-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
佐藤 裕見子			
看護学科	30時間	講義・演習（対面）	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	本講義ではまず補完代替療法（CAM）および統合医療について学習し、それらについて実際の看護の臨床場面を想定しながら活用の方法を考察する。 さらにコンプリメンタリーセラピーの実際として、リラクゼーション法（呼吸法、筋弛緩法、自律訓練法）やマッサージ、その他を取り上げる。演習を通して学生相互にモデル学習して心地よさと安全性、指導上のポイントについて検討する。		
授業計画	和辻	統合医療とは何か [到達目標]	
	和辻	統合医療とは何かを理解する。 日本の統合医療 [到達目標] 日本における統合医療について理解する。 [備考]	
	和辻	世界の統合医療 [到達目標] 世界の統合医療の発展過程を理解する。	
	佐藤	統合医療と看護の概念 [到達目標]	
	玉井	統合医療における看護の概念について理解する。 セルフケアがなぜ必要か 「到達目標」 ホリスティックナーシングを実践していく上での基本となる、「看護師自身のセルフケア」と「癒しの環境づくり」の重要性について検討する。看護師のセルフケアがなぜ大切かについて学ぶ。 [備考] からだところの調和をはかる基本的な知識を身につける。	
	玉井	セルフケアの実践 [到達目標] [到達目標] 「看護師自身のセルフケア」の実践方法を学ぶ。 「実技指導」 リラクゼーション法の実技	
	柿沼	と「癒しの環境づくり」の重要性について検討する 事前学習課題①資料「補完代替療法 看護師のセルフケア」「癒しの環境づくり」について理解する。 [授業形態：講義] セルフケアの実践法としての、リラクゼーション法を実践してみる。 統合医療と看護の関連性について [到達目標]	
	柿沼	[到達目標]終末期や術前の患者に対する寄り添うケアについては補完代替療法の効果が大きな意味を持つ。経絡・経穴を応用したケアリングの概念を理解し、安楽な状態を提供できる看護について理解を深める。 [授業形態：講義] [授業形態：講義]	
	栗山	統合医療と看護（演習） [到達目標]ホリスティックナーシングを実践していく上での基本となる、看護実践方法を体験する。 [授業形態：演習] タクティールケアとは何かを学ぶ [到達目標] 看護にとってのコンプリメンタリーセラピーにおけるタクティールケアとは何かを学ぶ。	
	栗山	[授業形態：講義] タクティールケアの実践 [到達目標]	

	<p>看護にとってのコンプリメンタリセラピーにおけるタクティークアの実践方法を学ぶ。</p> <p>[授業形態：実技指導] アロマセラピーを学ぶ [到達目標]</p> <p>看護にとってのコンプリメンタリセラピーにおけるアロマセラピーとは何かを学ぶ。</p> <p>[授業形態：講義] アロマセラピーの実技 [到達目標] 看護にとってのコンプリメンタリセラピーにおけるアロマセラピーの実践方法を体験し理解を深める。</p> <p>[授業形態：実技指導] ケアにおける癒しの重要性 [到達目標]ホリスティックナーシングにおける寄り添うケアとは何かを学ぶ。</p> <p>[授業形態：講義] セルフケアの実践（リラクゼーション） 到達目標]</p> <p>事前学習課題②「リラクゼーション法入門」を参考に、呼吸法と筋弛緩法を指導するためのマニュアル（文字・イラストを取り入れたオリジナルな小冊子）を作成する。 当日は、作成したマニュアルを使って、セルフケアの体験をするとともに、模擬患者を想定して指導する。[授業形態：演習]</p> <p>佐藤 まとめ 全体をとおして、コンプリメンタリセラピーについて理解を深める。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業時間内にレポート課題を提示します。 教科書および配布プリントを事前に一読して講義を受講して下さい。 また、実技を行いますので、実習ができる服装で受講して下さい。</p> <p>「リラクゼーション入門法」及び参考書を用いて授業に関連する内容を予習を行うこと。指示された課題について期限内に提出する。</p> <p>【予習・復習及び課題作成には4.5時間以上を取り組むことを目安とする】</p>
教科書	<p>「リラクゼーション法入門」小坂橋喜久代・荒川唱子／日本看護協会出版会 「ナーシングマッサージ入門」小坂橋喜久代・河内香久子・福田彩子／日本看護協会出版会</p>
参考書	<p>「ケアの中の癒し」看護の科学社</p>
成績評価	<p>課題レポート（授業終了時に指示する）のオムニバス形式で評価する。 平常評価（出席カード：20%）、レポート評価（80%）とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：佐藤裕見子 研究室：806号室 メールアドレス：y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義実施日、月曜日午前</p> <p>担当教員名：</p>
備考	<p>看護師や鍼灸師としての経験や臨床現場での実践経験を有する看護師が、寄り添う看護に求められるコンプリメンタリセラピー（補完代替療法）の理論と実技を教授する。デプロマポリシーとの関連：◎ー⑤、○ー④</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
【調整中】			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護技術についての理解を深めるために、現代的リベラルアーツ（文理にとらわれず広く知識を身につけながら、創造的な発想を訓練する教育システム）という視点からの看護技術への接近/再考を試みる</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床で用いられる看護技術の意味を問い直し、科学的裏付けを明らかにするためのプロセスがわかる 2) これまでに学んだ看護技術を再度「ナースの技」として定直し、考究することができる 3) これからの看護技術とその課題について現代的課題を考察することができる
授業計画	<p>1回目 導入／オリエンテーション [到達目標] ・オリエンテーション（授業概要とねらいの説明）を受けることができる ・看護技術についての理解を深めることができる ・臨地実習を終えて自己の看護技術の振り返りができる [授業形態] 講義形式</p> <p>2回目 日常生活援助技術 再考 [到達目標] ・日常生活を支える技術の変遷と今後の課題、展望、可能性について考察することができる [授業形態] 講義形式＋グループワーク</p> <p>3回目 生命活動を支える技術 再考 [到達目標] ・診療にかかわる看護援助技術の現代的位置づけと課題について考察することができる [授業形態] 講義形式＋グループワーク</p> <p>4回目 安楽 再考 [到達目標] ・安楽とはなにか、安楽を阻害する要因やより安楽を促進することについて考察することができる ・安楽/安寧と社会との関連を考究することができる [授業形態] 講義形式＋グループワーク</p> <p>5回目 自立/自律 再考 [到達目標] ・看護技術における自立/自律とはなにかを考察することができる [授業形態] 講義形式＋グループワーク</p> <p>6回目 ナースの技 再考 [エキスパート/ビギナー、専門看護師/ジェネラリスト] [到達目標] ・看護師の役割を看護技術の視点からその深まりについて考察することができる [授業形態] 講義形式＋グループワーク</p> <p>7回目 まとめ・レポート課題発表 [到達目標] ・看護技術論で学んだこと、考えたことをまとめることができる ・レポート課題を発表することができる [授業形態] 講義形式＋発表会</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で課題を提示するので、期限を守って必ずレポートを提出すること なお、提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	適宜提示する
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「看護の力」川嶋みどり著 岩波新書 2) 「ナイチンゲール 心に効く言葉」F.ナイチンゲール著 ハーパー保子訳 サンマーク出版 3) 「看護の挑戦 フロントランナーの仕事に学ぶ」北川隆吉監修 桐書院 4) 「看護師の臨床の『知』 看護職生涯発達学の視点から」佐藤紀子著 医学書院 5) 「その先の看護を変える気づき 学び続けるナースたち」柳田邦男、陣田泰子、佐藤紀子編集 医学書院 6) 「チーム医療と看護 専門性と主体性への問い」川嶋みどり著 看護の科学社 7) 「看護教育学」第6版 杉森みどり 舟島なをみ著 医学書院
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業への出席が全体の3/5以上であること 2) 出席状況、授業への参加度、レポートの提出と内容をふまえ、総合的に評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 大山由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後に相談すること</p>

備考	公立病院での実務経験及び看護学校管理者経験をもとに看護技術論の授業を行う
	この授業とDPとの関連 「◎-5」「○-3,4」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
杉江 礼子			
看護学科	15時間	講義・演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	1) 緩和ケアの理念・歴史的変遷を理解する。 2) 日本における緩和ケアの現状と課題および看護実践について学ぶ。 3) 緩和ケアにおけるチーム医療および看護職の役割について学ぶ。
授業計画	<p>1回目</p> <p>〔授業概要〕 終末期の理解／緩和ケアとは 〔到達目標〕 1. 死の理解。死とは何かを考える。 2. 終末期と終末期医療を理解する。 〔授業形態〕 講義とディスカッション</p> <p>2回目</p> <p>〔授業概要〕 終末期にある患者・家族の理解 〔到達目標〕 1. 生活者としての患者を理解する。（終末期看護の対象の理解） 2. 患者や家族の体験を理解する。 〔授業形態〕 講義とディスカッション</p> <p>3回目</p> <p>〔授業概要〕 終末期医療の歴史／緩和ケアの歴史 〔到達目標〕 1. 日本と世界の歴史を理解する。 2. 終末期医療における倫理的課題について理解する。 〔授業形態〕 講義とディスカッション</p> <p>4回目</p> <p>〔授業概要〕 看護にできること・すべきこと 〔到達目標〕 1. 緩和ケアにおける看護職の役割が理解できる。 2. 全人的苦痛へのケアを考える。 〔授業形態〕 講義とディスカッション</p> <p>5回目</p> <p>〔授業概要〕 看護ケアのあり方と課題〔GW〕 〔到達目標〕 1. 今後の緩和ケアのあり方について考察できる。 2. ホリスティックナーシングの視点から終末期看護を考究する。 〔授業形態〕 グループワーク</p> <p>6回目</p> <p>〔授業概要〕 看護ケアのあり方と課題〔GW〕 〔到達目標〕 今後の緩和ケアのあり方について考察できる。 〔授業形態〕 グループワーク</p> <p>7回目</p> <p>〔授業概要〕 終末期ケアのあり方と課題（まとめ） 〔到達目標〕 グループワークの成果を発表する。 〔授業形態〕 発表会 まとめ</p> <p>8回目</p> <p>〔授業概要〕 終末期ケアのあり方と課題（まとめ） 〔到達目標〕 グループワークの成果を発表する。 〔授業形態〕 発表会 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	1) 事前に教科書を熟読しておくこと。 2) 事前課題はその都度指示します。
教科書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 恒藤暁 編集 医学書院
参考書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 「緩和ケア」メディカ出版 経過別成人看護学④「終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」メヂカルフレンド社
成績評価	出席状況、レポートにて総合的に評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 杉江 礼子 研究室 : メールアドレス :
備考	緩和ケア認定看護師及びがん看護専門看護師としての実務経験をもとに授業を行う 授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-3, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
今井 理香			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義+ディスカッション	
添付ファイル			

授業目標	急性期看護における既習の知識に基づき、生命の危機的状況にある対象の身体的特徴と家族を含む心理的特徴を理解し、クリティカルケアの実践に必要な基本的知識を習得することを目的とする。 1) クリティカルケア看護の特性と生命危機状態にある患者・家族の特徴について説明できる。 2) クリティカルケアを必要とする患者と家族への援助方法について説明できる。 3) クリティカルケア領域で専門性を発揮する看護師の役割について述べることができる。 4) クリティカルケア看護における倫理的課題について具体的に述べるができる。
授業計画	<p>1回 クリティカルケアとは 〔到達目標〕 救急医療・集中医療の現状と、治療を受ける患者、家族の特徴、看護の概要、倫理的問題について理解する。 〔授業形態〕 対面講義 〔備考〕 教科書3～71Pを熟読してくる。終了後レポート課題あり。</p> <p>2回 ICUにおける看護 〔到達目標〕 ICU入室患者に対するアセスメント、看護の実際について教科書から理解する 〔授業形態〕 対面講義 〔備考〕 教科書73～116Pを熟読してくる。</p> <p>3回 救急外来における看護 〔到達目標〕 救急外来患者に対するアセスメント、看護の実際について教科書から理解する 〔授業形態〕 対面講義 〔備考〕 教科書117～142Pを熟読してくる。</p> <p>4回 事例で考えるクリティカルケア①－激しい胸痛－ 〔到達目標〕 主要病態を呈する救急患者の事例を通して、救急外来からICU入室までの一連の看護過程の実際を理解する。 〔授業形態〕 対面講義 〔備考〕 教科書191～210Pを熟読してくる。</p> <p>5回 事例で考えるクリティカルケア②－激しい頭痛－ 〔到達目標〕 主要病態を呈する救急患者の事例を通して、救急外来からICU入室までの一連の看護過程の実際を理解する。 〔授業形態〕 対面講義 〔備考〕 教科書211～236Pを熟読してくる。</p> <p>6回 事例で考えるクリティカルケア③－急性腹症①－ 〔到達目標〕 主要病態を呈する救急患者の事例を通して、救急外来からICU入室までの一連の看護過程の実際を理解する。 〔授業形態〕 対面講義 〔備考〕 教科書254～269Pを熟読してくる。</p> <p>7回 クリティカルケア領域における看護師の専門性 〔到達目標〕 クリティカルケア領域における看護師の専門性と役割について理解することができる。 〔授業形態〕 対面講義 〔備考〕 クリティカルケア認定看護師による臨床講義、講義後レポート課題あり</p> <p>8回 クリティカルケア領域における倫理的課題 〔到達目標〕 クリティカルな場面を通して倫理的課題について考えることができる。 〔授業形態〕 対面+ディスカッション 〔備考〕 教科書47～52Pを熟読してくる。講義内で提示された事例から倫理的課題について検討する。最終レポート課題提示あり。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業ごとに提示される課題について準備学習を行う。 授業後は、提示された課題についてのレポートをまとめる。
教科書	1) 成人看護学 急性期看護Ⅱ クリティカルケア 改訂第4版 佐藤まゆみ他 南江堂
参考書	1) 見てできる臨床ケア図鑑 ICUビジュアルナーシング 学研 2) クリティカルケア看護 完全ガイド 医歯薬出版株式会社
成績評価	1) 出席状況は大学学生便覧に準ずる 2) 授業で適宜提示する課題レポート及び最終レポートで評価する。
担当教員の基本情報	担当教員：今井理香 研究室：10号館 8階 805研究室 メールアドレス：r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：特に指定しない。質問等がある場合は、あらかじめメール等にて連絡をすること。 備考：急性期病院での勤務実績あり（脳神経外科、デイスジャーリー診療部、血液内科、消化器内科）
備考	出席確認は、出席表にて行うため、携帯・スマホは他学生の迷惑にならないようにして鞆にしまっておくこと。机に出しっぱなしになっている場合は没収する。

	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-5, ○-3, 4 科目ナンバー：KK-3-NSc65-ES-L-1
	本科目は講義及びグループディスカッション（アクティブラーニング）をもって行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
東 孝至			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に起こりやすい健康障害や症状を理解でき、生活への影響を説明できる。 ・健康障害や症状を抱える高齢者の生活を支える看護援助を説明できる。 ・高齢者の生活を支える社会資源の活用や多職種連携、および家族への支援について説明できる。 ・看護師国家試験に対応でき、高齢者に対する知識を説明できる。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・高齢者の現状</p> <p>1) 統計データから高齢者の現状を理解できる。 2) 高齢者に起こりやすい健康障害や症状を説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>2回目 老年症候群</p> <p>1) 老年症候群とは何か理解できる。 2) 老年症候群に対する治療や看護を説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>3回目 認知症高齢者ケア</p> <p>1) 認知症関連制度および認知症の病態生理が理解できる。 2) 認知症ケア技術が理解できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>4回目 介護保険法①介護保険法関連</p> <p>1) 介護保険法が説明でき、看護師の役割が説明できる。 2) 【授業形態：講義とディスカッション】) 介護保険サービスが理解でき、看護師の役割が説明できる。</p> <p>5回目 高齢者の服薬</p> <p>1) 高齢者の服薬を理解できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>6回目 エンドオブライフ・ケア 高齢者の社会問題</p> <p>1) ターミナル期における看護について説明できる。 2) グリーフケアについて説明できる。 3) 高齢者に起こっている社会問題について説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>7回目 講義のまとめ</p> <p>1) 高齢者に関する看護問題が理解でき、苦手分野を克服するため、看護師国家試験の必須問題と一般状況設定問題を解きすすめ、看護師国家試験に対応できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>8回目 講義のまとめと試験</p> <p>1) 高齢者に関する看護問題が理解でき、看護師国家試験に対応できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	本講座は今までに修学してきた高齢者看護に関するものを復習して看護師国家試験に対応するものです。今までのテキストや配布物を熟読し、わからない点は図書館等で調べてください。予習復習及び課題作成には4.5時間の学習を行い、国家試験への学びとしてください。
教科書	「老年看護学-①高齢者の健康と障害」堀内ふき著（メディカ出版） 「老年看護学-②高齢者看護の実践」堀内ふき著（メディカ出版）
参考書	授業の中で紹介します。
成績評価	出席基準を満たした者について筆記試験を行い、60点以上を合格とします。60点未満のものに対して再試験を行います。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 東 孝至 研究室 : 10号館7階709号室 メールアドレス : t_azuma@meiji-u.ac.jp
備考	介護老人福祉施設や居宅介護支援事業所、地域包括支援センターでの実務経験を活かして、超高齢社会を生きる高齢者の理解について目指す方向を共有する。
	⑤ - ②、②④-① 科目ナンバリング：KK-3-NS c 66-ES-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
小西 奈美			
授業形態：講義・演習	時間数：15時間	コミュニケーションカードを使用	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	1. これまでの講義や実習を通しての学び・考え・体験してきた自らの経験をふまえて看護における癒しとは何かを探究することができる。 2. 看護に生かす代替療法を体験し、その種類と方法を説明することができる。 3. 看護における癒しについて、自身の考えを述べるることができる。
授業計画	<p>第1回 「癒し」について [到達目標] 看護・医療場面に限らずに、日常生活の中にある「癒し」はどのようなものがあるのかを考え、人はなぜそれに癒されるのかを意見交換できる。(※グループ形式)「癒し」について自身の考えを述べて、その根拠となる資料を収集してまとめることができる。</p> <p>第2回 「癒し」についてのグループディスカッション [到達目標] 1回目の講義でまとめたグループ資料を発表して、講義参加者全員で意見交換を行うことができる。(※グループ形式)</p> <p>第3回 「癒されること」について [到達目標] 学生自身の実習体験などをもとにして、学生が患者から「癒された」経験などについて分析し、考察することができる。</p> <p>第4回 「癒すこと」について [到達目標] 看護・医療に関係するあらゆる場面において、「癒し」とは何かを考えてまとめることができる。学生自身の実習や日常における体験などをもとにして、患者にとって何が「癒し」になるのか考察することができる。</p> <p>第5回 「癒し」に関連する映画を鑑賞する。 [到達目標] 「癒し」をテーマとした映画を批評的に鑑賞する。映画から得られた「癒し」のとらえ方についてディスカッションし、自分の考えを述べるることができる。</p> <p>第6回 「癒し」に関連する資料作成 [到達目標] 「癒し」に関するパンフレットやコラージュ作りなどの実践を通して、身体的・精神的効果について学ぶことができる。</p> <p>第7回 作成した「癒し」に関連する資料の発表 [到達目標] ・実践した「癒し」に関する成果を発表し、意見交換を行うことができる。</p> <p>第8回 グループワーク及び試験 ・グループワーク30分 ・筆記試験（論述形式）60分</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習経験を振り返り、特に患者様との人間関係において「癒し」を感じた場面について簡単にまとめておく。どのような内容のものでも良いので、「癒し」に関して書かれた書物を一冊は読んでおく。各講義のタイトルに関連した内容について事前学習し、講義で学修した内容をまとめておく。合わせて1時間程度。
教科書	なし 資料を配布する。
参考書	特に指定しない。
成績評価	筆記試験（論述形式）70％・授業内演習30％で評価する。 授業内評価とは、グループディスカッションへの参加度や発言度、講義内の作成資料による発表を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小西奈美 研究室 : 10号館8階808研究室 メールアドレス : n_konishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（精神看護学実習のため病院出張以外）
備考	小西教員：精神看護学領域での臨床・教育経験をもとに癒しの看護についての講義を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4
	科目ナンバー：KK-3-NSc67-ES-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
玉井 公子、佐藤裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	ヘルスプロモーションの概念、変遷、ならびに公衆衛生看護における意義と展開方法について学習する。住民主体のヘルスプロモーション事例から、行政と関係機関、住民との協働による健康な地域づくりを目指すヘルスプロモーションの展開方法を理解する。
授業計画	<p>1 (佐藤) 健康政策とヘルスプロモーション [到達目標] ヘルスプロモーションの概念、変遷、国際的動向、健康日本21（目的・理念など総論を中心に）について理解し説明できる。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>2 (佐藤) ヘルスプロモーションの実際 [到達目標] ライフスタイル（たばこ、身体活動、食生活）などの健康の阻害要因について理解し、健康日本21の各論を例にとり、目標設定、目標達成度、今後の課題を中心に理解する。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>3 健康の社会的決定要因について [到達目標] 世界における健康格差とヘルスプロモーションと国際保健のめざす方向を理解する。科学的な評価の流れ、各種健康指標の意義、具体例への応用（新型インフルエンザなど、いくつかを取り上げる）を理解する。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>4 人口減少社会におけるヘルスプロモーション [到達目標] 地域包括ケアのめざす方向、地域共生社会とは何かについて学ぶ。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>5 住民主体のヘルスプロモーション① 到達目標 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションの展開方法を事例を通して理解する。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>6 住民主体のヘルスプロモーション② [到達目標] 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションにおける住民、関係機関、行政の協働による展開方法を事例を通して理解する。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>7 健康な地域づくりを目指すヘルスプロモーションの展開・演習 [到達目標] 地域というキャンパスに 実現したい理想の地域の姿を描いてみよう [授業形態：グループディカッション]</p> <p>8 健康な地域づくりを目指すヘルスプロモーションの展開・演習および発表 [到達目標] 地域というキャンパスに 実現したい理想の地域の姿を描いてみよう 他グループの発表を参考に、理想の地域の姿をバージョンアップできる [授業形態：グループディカッション]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配付された参考資料を熟読する。授業内容を確認するために出された課題をまとめて、期限までに提出する。予習復習及び課題作成には4.5時間の学習を行うこと。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
成績評価	<p>担当教員名 : 玉井公子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 佐藤裕見子 オフィスアワー : 講義終了時</p>
担当教員の基本情報	行政における実務経験を生かして、人口減少社会におけるヘルスプロモーションについて、保健師学生とともに議論し、将来の地域保健及び地域づくりの目指す方向について共有する。
備考	<p>デプロマポリシーとの関連：◎ー③ ○ー④⑤</p> <p>科目ナンバー：「KK-3-NSc68-ES-L-Ns/PHN」</p> <p>「アクティブラーニング」</p>

	Classroomを活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
大倉 和子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	個々のネットワーク、コーディネート、ケアマネジメントなどに対して、組織的・系統的な支援を行い、全体として地域保健の向上を目指す地域保健システムの発展過程を考える。
授業計画	<p>1回 ガイダンス、地域ケアシステムとは 【到達目標】地域ケアシステムの概念、目的、発展過程について理解し、個別支援のチームづくりから地域ケアシステムの構築、政策形成過程を系統的に説明することができる。 【授業形式】地区組織活動の歴史、概念を学び、おがやモデルについて説明できる 【宿題】予習：地域包括ケアシステム、地域包括支援センターの役割について、ノートにまとめておく。</p> <p>2回 地域ケアシステムの構築について 【到達目標】地域ケアシステムの概念、目的、発展過程について理解し、個別支援のチームづくりから「地域包括ケアシステムの構築」、政策形成過程を系統的に説明することができる。</p> <p>3回 母子保健活動における地域ケアシステムの構築について 【到達目標】母子保健活動における地域ケアシステムの構築に係る保健師の役割を理解する。 【授業形式】事例を通して、母子保健活動を通じた児童虐待予防等保健師の役割を確認する。 【宿題】予習：医療的ケア児の現状について調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>4回 地域ケアシステムにおけるネットワーク形成と調整活動について(保健所の役割) 【到達目標】地域ケアネットワークの形成過程とそれに伴う調整活動及び保健所保健師の役割について理解する。地域ケアシステムの展開過程で実施される各種連携会議の構成機関もメンバー、企画運営について具体的に説明することができる。 【授業形式】医療的ケア児の事例を基に、グループディスカッションを通じて連携会議をシミュレーションし、支援ネットワーク構築に対する参加メンバーの役割を考察する。 【宿題】予習：認知症に関する主な課題と施策を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>5回 家族支援ネットワークについて 【到達目標】家族の支援ネットワークについて、その形成過程及び支援システムについて理解する。ソーシャルネットワークを家族支援に活用することができる。 【授業形式】認知症の家族教室から自主組織活動への支援事例を通してネットワークの形成過程をグループで考察する。 【宿題】予習：難病に関する主な施策を調べ、ノートにまとめておく。</p> <p>6回 地域保健活動システム論の総括 【到達目標】地域保健活動の諸要素とネットワーク形成、システムづくりについて理解する。 【授業形式】事例発表「わが町で住民が安心して生活するためにはどのような保健医療福祉の仕組みが必要か」多職種連携の必要な事例を通してネットワーク形成やシステムづくりについて各自発表を行い全体でディスカッションを行う。</p> <p>7回 地域保健活動システム論の総括 【到達目標】地域保健活動の諸要素とネットワーク形成、システムづくりについて理解する。 【授業形式】事例発表「わが町で住民が安心して生活するためにはどのような保健医療福祉の仕組みが必要か」多職種連携の必要な事例を通してネットワーク形成やシステムづくりについて各自発表を行い全体でディスカッションを行う。</p> <p>8回 地域保健活動システム論の総括 【到達目標】地域保健活動の諸要素とネットワーク形成、システムづくりについて理解する。 【授業形式】講義、期末テスト</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。毎回の予習復習等には45分以上取り組むことを目安とする。
教科書	標準保健師講座2「公衆衛生看護技術」中村裕美子編(医学書院) 公衆衛生が見える4版(メディック・メディカ)
参考書	国民衛生の動向2023/2024(厚生労働省統計協会)
成績評価	授業への参加態度(グループ学習の参加態度を含む)・小テスト(40%)、レポート(60%) 最終レポート課題：テーマ「あなたの住んでいる町で住民が安心して生活するためには、どのような保健医療福祉の仕組みが必要かを、地域の特徴から優先順位からテーマを決めて、自分の考えを自分の言葉で記述してください。」 レポート用紙2枚(2,400字程度)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 大倉 和子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_ohkura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	行政の実務経験の豊富な教員として、地域ケアシステム構築のための実践的な技術や方法について教授する。アクティブラーニングにより、互いに意見交流し理解を深める。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-③、○-④⑤ 「科目ナンバー」KK-3-NSc69-ES-L-NS/PHN/MW

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
高橋 詩野美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>これまで大学で4年間学んできた日本での「看護」の知識・経験をベースに、本講義でいくつかの国の実践を知り、国際社会における看護について、特に下記の視点を身につける</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【看護のグローバル化】 Think globally, act locallyの視点・態度 2. 【多様な文化と看護】 馴染みのない文化に触れた時にも、状況を確認し、その場での最善の看護を追求できる素地を得る 3. 【看護の国際協力活動】 保健分野の国際機関、国際協力の仕組みについて理解する
授業計画	<p>1回目 国際看護、国際保健、グローバルヘルス [到達目標] 国際機関や国際的枠組み、用語の定義を身につける [備考] MDGs, SDGs</p> <p>2回目 世界の保健医療システム、母子保健/ コンゴ民主共和国 [到達目標] 保健システムの構成要素を知り、母子保健を例に国による医療・看護の実践の違いを知る [備考] 保健システム, 保健人材, 医療者の国家間移動, UHC</p> <p>3回目 感染症に対する看護の役割 / フィジー [到達目標] 感染症対策における看護師・保健師・助産師の役割 (病院、地域) を理解する [備考] 3大感染症, COVID-19, サル痘, NTDS, IHR, Vaccine hesitancy, One Health, Planetary Health</p> <p>4回目 世界の人口統計・栄養課題、非感染性疾患/ キリバス・バヌアツ [到達目標] 国や地域による疾病構造の違いを理解する、文化による健康観の違い、環境・社会的要因と健康の関連を理解する [備考] 人口転換, 保健政策, 医薬品アクセス, 気候変動, Infodemic, リスク・ベネフィットコミュニケーション, 疾患と病</p> <p>5回目 文化と健康、異文化を経験する [到達目標] 第1-4講で知識として学んできたことを実際に体験してみる [備考] 国際看護・国際保健について、知識ではない別の角度から考える機会となる講義を準備します</p> <p>6回目 文化と健康、異文化を経験する [到達目標] 第1-4講で知識として学んできたことを実際に体験してみる [備考] 第5講と2コマ連続の講義です</p> <p>7回目 国際協力と日本における国際看護・国際保健の実践・第1-6回の講義の復習/モロッコ [到達目標] 国際協力の仕組みを知り、日本での国際看護の実践、看護師としてのキャリアを考える、文化による健康観の違いを理解する [備考] 多国間・2国間協力, NGO, 官民連携, ODA, JICA, 海外協力隊, エビデンスとは</p> <p>8回目 まとめ (評価含む) [到達目標] 第1-7講での学びを身につけ、自分の言葉で説明できる [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>授業計画に記載の国名はその講義で事例として紹介する国です。</p> <p>[備考]に記載の用語は、各講義で扱う項目 (略語含) です。授業前に、それらの用語を自分なりに情報検索してみてください、各講義を批判的に受講することができ、学びが深まるはずです。</p>
教科書	特になし
参考書	<p>「グローバルヘルス 世界の健康と対処戦略の最新動向」(2018) 木原正博・木原雅子監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>「国際保健医療学 (第3版)」(2013) 日本国際保健医療学会編, 株式会社杏林書院</p> <p>「実践グローバルヘルス: 現場における実践力向上をめざして」(2022) 日本国際保健医療学会編, 株式会社杏林書院</p> <p>「国際看護学入門 第2版」(2020) 日本国際看護学会編, 医学書院</p> <p>「厚生指針増刊 国民衛生の動向 2022/2023」(2022) 一般財団法人厚生労働統計協会</p> <p>「日本型開発協力とソーシャルイノベーション: 知識創造が世界を変える」(2024) 野中郁次郎編著, 千倉書房</p> <p>「京大医学部で教える合理的思考」(2015) 中山健夫著, 日経ビジネス人文庫</p>
成績評価	出席と講義への参加 (40%)、最終評価 (国試形式の試験、など) (60%)

	を統合して評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 高橋詩野美 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	*講義中にGoogle Formsを使用します。 *本講義が、看護師（保健師）として日本で経験を積んだ後の少し先のキャリアについても考える機会になればと思います。
	【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-2、○-4】

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
玉井公子、栗山真由美、扇田千代、岩本美由紀、伊藤三紀子、小高真理子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国家試験合格のため、これまで学んだ基礎的な知識の再確認を行う。		
授業計画	未定①	基礎看護学 試験	
	未定②	母性看護学 試験	
	未定③	小児看護学 試験	
	未定④	老年看護学 試験	
	未定⑤	急性期看護学 試験	
	未定⑥	慢性期看護学 試験	
	未定⑦	リハビリテーション看護学 試験	
	未定⑧	精神看護学 試験	
	未定⑨	在宅看護 試験	
	未定⑩	健康支援と社会保障 試験	
	未定⑪	解剖生理 試験	
	未定⑫⑬	必修問題 試験	
	⑭ ⑮	総合問題 試験	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	国試合格に向けた科目になるので、ここまでやれば良いというものではない。日常的に国試勉強を実施し、提示された課題があれば取り組むこと。詳細は4年前期中に提示する。		
教科書	これまで使用してきた教科書 領域によっては「要点集（手作り）」の配布や課題提示があるため、メリーを閲覧すること		
参考書	国試のために購入した参考書		
成績評価	14コマを各領域に配分し、試験、講義を実施。 60点未満の場合は各領域において再テスト実施。 全ての試験点数を合計し、科目評価を行う。		
担当教員の基本情報	各領域教員の情報を参照		
備考	D P との関連「①知識・理解」－◎ 「②思考・判断」－○		
	必修問題の解答は試験後に配布するので復習しておくこと。 科目ナンバー：「KK-3-NSc73-RS-S-1」		
	Classroomを活用		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
玉井公子、栗山真由美、扇田千代、岩本美由紀、伊藤三紀子、小高真理子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国家試験合格のため、代表的疾患の基礎知識や制度など更なる知識の再確認を行う。
授業計画	<p>①② 脳神経系講座 解剖生理を含めた脳神経系疾患の病態生理、検査、治療について知識を確認する</p> <p>③④ 循環器講座 解剖生理を含めた循環器系疾患の病態生理、検査、治療について知識を確認する</p> <p>⑤⑥ 消化器講座 解剖生理を含めた消化器系疾患の病態生理、検査、治療について知識を確認する</p> <p>⑦⑧ 苦手克服講座</p> <p>⑨⑩ 苦手克服講座 健康支援と社会保障制度 統計 社会保険制度 医療保険制度 介護保険制度など</p> <p>⑪⑫ 苦手克服講座 健康支援と社会保障制度 保健/医療 社会福祉 関係法規等</p> <p>⑬⑭ 終講試験 100問テストを実施する グループに分かれ、学生間で解説を行う</p> <p>⑮ まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	国試合格に向けた科目になるので、ここまでやれば良いというものではない。日常的に国試勉強を実施し、提示された課題があれば取り組むこと。詳細は4年前期中に提示する。 選択科目であるが履修することを勧める。
教科書	これまで使用してきた教科書 領域によっては「要点集（手作り）」の配布や課題提示があるため、メリーを閲覧すること
参考書	国試のために購入した参考書
成績評価	領域ごとに試験や講義を実施。 終講試験を含めて評価する
担当教員の基本情報	各領域教員の情報を参照
備考	D Pとの関連 ◎-1 ○-2 科目ナンバー：「KK-3-NSc74-ES-S-1」
	Classroomを活用 アクティブラーニング

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
今西 二郎			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：遠隔授業（オンデマンド）・対面授業	
添付ファイル			

授業目標	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。さらに、看護における統合医療の必要性についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補完・代替医療および統合医療の概念について理解すること 2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAMの特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること
授業計画	<p>1回目 統合医療と補完・代替医療 [到達目標] 統合医療とは何かを理解し、その構成要素である補完・代替医療を理解し、概説できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 1-101</p> <p>2回目 漢方医学 [到達目標] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。さらに生薬と漢方方剤を理解する。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 6-13 入門漢方医学（参考書1）</p> <p>3回目 サプリメント [到達目標] サプリメント、特定保健食品、栄養機能食品、機能性表示食品を理解し、サプリメントの有用性、副作用など概説できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 18-21</p> <p>4回目 植物療法 [到達目標] メディカル・アロマセラピーおよびハーブ療法を含む植物療法とは何か、それらの手法、応用について理解を得られるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 27-29、38-40</p> <p>5回目 温泉療法 [到達目標] 温泉療法、温浴療法とは何か、それらの手法、応用について理解を得られるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 43-48</p> <p>6回目 環境を利用した統合医療 [到達目標] 環境を利用した統合医療である森林療法、地形療法、スパセラピー、タラソセラピーなどを理解できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 48-54</p> <p>7回目 次世代型および健康創生型統合医療 7回目： [到達目標] 統合医療の将来、現行型、次世代型、健康創生型統合医療について概説できるようにする。また、統合医療についての受講者の考え方をまとめる [備考] 統合医療（テキスト）p. 108-133</p> <p>8回目 まとめ（※対面授業で実施）</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書、参考書をあらかじめ読んでおくこと 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。
教科書	今西二郎著：統合医療改訂2版、金芳堂、2015.
参考書	1. 入門漢方医学、日本東洋医学会学術教育委員会編集、南江堂、2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編、日本統合医療学会、2007. 3. 今西二郎著：メディカル・アロマセラピー改訂3版、金芳堂、2015. 4. 今西二郎著：医療従事者のための補完代替医療第2版、金芳堂、2009.
成績評価	評価方法と評価割合：レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 今西 二郎 研究室 : メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー :
備考	毎回、課題を与え、学生にそれについてのプレゼンテーションを行ってもらえるなどのアクティブラーニングにより、講義内容の深化を図る。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-5, ○-2・4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	実習
担当教員			
岸田 聡子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	メディカル・アロマセラピーの看護学への応用として、概論、演習を通して習得した知識を基に、実際に臨床で実践できるマッサージ技術を習得する。		
授業計画	1回目	アロママッサージの実際 1 [到達目標] マッサージを行う前の準備、環境の整え方を、実際に行い習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	2回目	アロママッサージの実際 2 [到達目標] 下枝後面マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	3回目	アロママッサージの実際 3 [到達目標] 背部マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	4回目	アロママッサージの実際 4 [到達目標] 背部マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	5回目	アロママッサージの実際 5 [到達目標] 下枝後面、背部マッサージの手技の確認、習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	6回目	アロママッサージの実際 6 [到達目標] 下肢前面マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	7回目	アロママッサージの実際 7 [到達目標] 腹部マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	8回目	アロママッサージの実際 8 [到達目標] 手のマッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	9回目	アロママッサージの実際 9 [到達目標] 前胸部マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	10回目	アロママッサージの実際 10 [到達目標] 下肢前面、腹部、手、前胸部マッサージの手技確認、習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	11回目	アロママッサージの実際 11 [到達目標] フェイシャルマッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	
	12回目	アロママッサージの実際 12 [到達目標] 全身マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編	

	<p>13回目 アロママッサージの実際1 2 [到達目標] 全身マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー (テキスト) 総論編p. 66-70、実技編</p> <p>14回目 アロママッサージの実際1 2 [到達目標] 全身マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー (テキスト) 総論編p. 66-70、実技編</p> <p>15回目 まとめ (評価含む) [到達目標] 実技習得の確認 [備考] メディカル・アロマセラピー (テキスト) 総論編p. 66-70、実技編</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>練習を行い、実技の習得を目指すこと。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習 (予習30分) し、講義で学修した内容をまとめて下さい (復習30分)。</p>
教科書	統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版
参考書	今西二郎、荒川唱子編：アロマセラピー入門第2版、日本看護協会出版会、2010.
成績評価	全身マッサージの実技試験により評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岸田 聡子 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業時間の前後</p>
備考	【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：○-2、○-4、◎-5】

講義科目名称： スキンケア

授業コード： 3K417

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
中務 直美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義5・演習3	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンケアに関する基礎的知識を得る。 ・スキンケアに関する専門知識を統合して看護のできる実践方法を知る。 ・スキンケアにおける看護師の役割を考えることができる。
授業計画	<p>1回目 (講義) スキンケアとは何かを理解する [授業概要] ・皮膚の構造 ・脆弱な皮膚とその要因(高齢者、浮腫、その他)</p> <p>2回目 (演習) スキンケア用品を正しく知る [授業概要] ・スキンケアの実際 ・スキンケア用品の特徴と使用方法</p> <p>3回目 (講義) スキンケアの実際① [授業概要] ・高齢者に多い「スキン-ケア」とは ・褥瘡ではない失禁関連皮膚炎 (IAD)</p> <p>4回目 (講義、一部演習) スキンケアの実際② [授業概要] ・ストーマケア ・ストーマ周囲のスキントラブル (ABCD-stoma®ケア)</p> <p>5回目 (講義) 褥瘡について理解する [授業概要] ・褥瘡発生機序と予測スケール (ブレーデンスケール他) ・褥瘡評価ツールが変わった (改定DESIGN-R®2020) ・医療関連機器圧迫創傷 (MDRPU)</p> <p>6回目 (演習：実習室) 褥瘡予防のポジショニング [授業概要] ・実際の背上げ背下げ、ポジショニングを体験する</p> <p>7回目 (講義) 足病変について理解する [授業概要] ・足のアセスメント、胼胝・鶏眼 ・足潰瘍の分類、治療と医療におけるフットケア</p> <p>8回目 (演習) 足のアセスメントと爪切り [授業概要] ・足の観察、爪切りを施行する</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	臨床ではスキンケアはあらゆる患者に必須である。基礎知識である解剖生理はもちろん、全身に起こりうる損傷のリスクや保護の方法を考えることを習慣付ける。また実技においては、演習で基礎を経験し実践のシミュレーションが必要である。
教科書	特になし
参考書	日本創傷オストミー失禁管理学会編 「スキンケア ガイドブック」 照林社 2017
成績評価	レポート試験
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中務 直美 研究室 : 非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-⑤ ○-④

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 3K418

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	3	必修
担当教員			
桂 敏樹 等			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	ゼミ単位で担当学生を受け持ち、各担当教員が論文検索方法や論文の読み方、引用論文の書き方等を指導する。 集めた論文を読み解き、課題を見つけ自己の研究へとつなげられるように、研究計画書を作成する。提出は、研究の動機となった論文のまとめと、「はじめに」で、研究動機と課題を入れて、何を明らかにするための研究計画書に記載する。研究方法や分析方法について記載して、提出期限を厳守して提出する。
授業計画	ゼミ 各領域のゼミで担当学生を決定し研究計画書の作成を進める。 各担当教員が3単位の相当する時間数を学生に指導する。 少なくとも21コマ分の指導を行う。 論文を検索し、批判的に読みまとめ、研究課題を見つけ、「はじめに」に課題と研究動機を記載し、研究方法を記載して締め切り日までに研究計画の提出をおこなう。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各担当教員
教科書	各担当教員
参考書	各担当教員
成績評価	各担当教員
担当教員の基本情報	桂 敏樹 研究室：10号館800号室 メールアドレス：t_katura@meiji-u.ac.jp 各卒業研究担当教員 他：ゼミ担当教員
備考	D P との関連 ◎-3 ○-2.4
	科目コード KK-4-GR1-RS-S-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
【1年アドバイザー】			
看護学科	15時間	講義 (対面)	アクティブラーニングあり
添付ファイル			

授業目標	京都は日本の長い歴史の中で政治や文化の中心として重要な役割を担ってきた都市であり、伝統的な特有の文化を発展させてきている。伝統的な職業や生活様式などに精通した講師から京都のさまざまな文化を学び学び、異文化を理解して日本人や人間について考える。そして、京都は看護教育の発祥の地であり、様々な視点から京都の文化を学ぶことで、医療専門職として看護の視点で健康を考える。		
授業計画	1～2回	京都府、南丹市を知る (坪倉・大倉) 「到達目標」 大学の立地する京都府と南丹市を知り、住民の生活や健康について考えることができる (レポート提出) [授業形態]講義形式	
	3回	京都の地理的特徴と気候 (坪倉) 「到達目標」 京都の地理的気候特徴を理解できる 京都府の災害時の対応について考えることができる (レポート提出) [授業形態]講義形式	
	4回	座禅体験 (西尾住職) 「到達目標」 お寺の歴史を学び、座禅体験を通して座禅の真髄に触れる。 座禅を通して気持ちの落ち着かせ方を体得する。 [授業形態]講義形式+座禅演習 (レポート提出)	
	5回	京都丹波の魅力 (京都府南丹広域振興局) 到達目標]京都は日本の長い歴史の中で政治や文化の中心として重要な役割を担ってきた都市であり、伝統的な特有の文化を発展させてきている。伝統的な職業や生活様式などに精通した方々から京都のさまざまな文化を学び、異文化を理解して日本人や人間について考える。 京都中部の南丹市に立地する本校で学ぶ学生として、南丹を中心とした地域の様々な取り組みを紹介してもらい、南丹市に興味をもって様々なイベント等に参加し地域の人々との交流を通して愛着を深める。 [授業形態]講義形式 (レポート提出)	
	6回	南丹市の伝統文化と魅力 (南丹市農林商工部) 「到達目標」大学が立地する南丹市職員の立場から、南丹地域の自然「ブナ林、オオルリ、桜」の由来、南丹市の歴史や伝統文化、自然との共生の中で育ってきた衣・食・住など自然と調和した人間の生き方を大切にすまのちの魅力、昔からある伝統行事の価値 (田植え、稲刈り時の助け合い) や村祭りなどの伝統文化、伝統食が大切にされ、地域のつながりが脈々と息づく人とのつながり (ソーシャルキャピタル) の大切さについて発信していただき、地元住民が大切にしたい生き方について学ぶ。 また、南丹市エコツーリズム推進全体構想の紹介により、地元とつながりのある企業が地元の行事に参加し、地元との関係、交流を構築し、Uターン、Iターンも、若者も、年配もそれぞれに地域に暮らし、地域とつながりながら、豊かな自然や伝統文化、地域産業を都市との連携で守り育てることの大切さを学ぶ。地域に訪れた都市住民との交流を深め、地域の宝を共有することにより、地域に暮らし一人ひとりが伝統文化を守り次世代に送り届けることの大切さを理解する。 [授業形態]講義形式 (レポート提出)	
	7回	学生生活を安全に過ごすために (南丹警察・岡田警部補) 「到達目標」 防犯意識や交通マナーを守って安全に生活できる。 大学に近くの保野田駐在所の警察官の講義。 犯罪に巻き込まれないように学生生活を過ごす方法を考えることができる。 [授業形態]講義形式 (レポート提出)	
	8回	本学の看護と東洋医学の関連を知る (佐藤) 「到達目標」 本学の特徴である東洋医学の要素を取り入れた看護の特徴を知る。 [授業形態]講義形式+演習 (レポート提出)	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	講義の前には、キーワードを用いてインターネット等を用いて検索し、予備知識を得てから授業に臨む。 講義終了後、感想文や内容に関連した文献を調べてレポート1枚を作成、提出する。		
教科書	指定なし		

参考書	指定なし
成績評価	講義後のレポートで評価する。
担当教員の基本情報	坪倉浩美：10号館8階 メールアドレス：hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 大倉和子：10号館7階 メールアドレス：K_ohkura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	講義は様々な職業に従事する講師が担当するオムニバス形式の講義です。 警察官・僧侶・南丹市職員等の方々からさまざまな講義が聞けます。
	試験はしないが、毎回レポート1枚の提出がある。 レポート作成にあたって、ChatGPTなどの文章生成AIアプリを使用した場合は0点とする。 締め切り日：毎回、授業終了から金曜日中に10号館8F田中のBOXに提出すること。
	この授業のDPとの関連： ◎—4、○—3 科目ナンバー：KK-1-MS12-ES-L-0

講義科目名称： 日本国憲法Ⅱ

授業コード： 4K201

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
山谷 真			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。
授業計画	<p>第1講 基本的人権その1（自由権1） [到達目標]]憲法第20条・第21条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法21条等に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第2講 基本的人権その2（自由権2） [到達目標] 憲法第22条・第29条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法22条等に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第3講 基本的人権その3（参政権） [到達目標] 参政権の意義を説明できる。日本の選挙制度につき説明できる。</p> <p>第4講 基本的人権その4（国務請求権・新しい人権） [到達目標] 国務請求・新しい人権の意義を説明できる。新しい人権の諸問題につき指摘できる。</p> <p>第5講 統治機構等その1（裁判所） [到達目標] 裁判所の組織や権能について説明できる。</p> <p>第6講 統治機構等その2（天皇その他） [到達目標] 天皇の地位を説明できる（特に明治憲法と日本国憲法における地位の違いについて）。 憲法9条の意義について説明できる。</p> <p>第7講 教育法規入門 [到達目標] 教育法規の体系を理解し、学校保健関係の重要な規定を理解する。</p> <p>第8講 これまでの内容の補充とまとめ [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	既習事項の確認を行う。
教科書	特になし
参考書	芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第八版』（岩波書店）
成績評価	試験50%・毎回の提出物等30%・授業態度など平常点20点
担当教員の基本情報	担当教員名： 山谷真 研究室： 6号館1階非常勤講師 メールアドレス： オフィスアワー： 授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 医療システムから出力されるデジタルデータの取り扱いを想定し、実際に取得したデータを使って表計算ソフトを利用した四則演算・データ解析・統計学の手法を活用したデータ処理を実践することで、データを正しく判断できる力を養います。また、医療情報の新しい展開として期待されるウェアラブルデバイスなどIoTの現状について、医療情報収集における課題やセキュリティ対策などを踏まえて調査し、今後のデータ活用のあり方を考えます。</p> <p>【到達目標】 ・医療情報システムから出力されるデータを正しく把握するための統計学の基礎知識を修得する。 ・医療システムについて理解し、診療情報を含めた医療情報の流れなどの仕組みと医療情報のあり方および医療データの利活用について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1講 統計学の概念 [到達目標] 基本的な統計用語について説明できる 仮説検定の概念を理解する 数字の性質を理解し、尺度水準を用いた分類ができる [備考] 課題あり</p> <p>第2講 統計手法の理解 [到達目標] パラメトリック・ノンパラメトリックの違いを説明できる 対応の有無について理解し、判別することができる 適切な統計手法を選択できる [備考] 課題あり</p> <p>第3講 グラフを使った多様な表現方法とデータ処理 [到達目標] グラフで表現できる事項を理解する データの可視化において必要となる「正しいグラフの選択」ができる データ処理上の誤りを指摘することができる 複合グラフの読み取りができる [備考] 課題あり</p> <p>第4講 実務における統計 [到達目標] 推計統計と記述統計の違いを理解する 統計が必要となる場面を想定し、どのような技術を身につける必要があるのか考察する データをグラフや表で表現することができる データに即した統計的表現を選択することができる [備考] 課題あり</p> <p>第5講 統計処理の実践 [到達目標] 統計用語について説明できる グラフと表および数値の読み方と使い方が適切に行える データに即した統計手法を選択することができる 独力でデータの統計処理を実施できる [備考] 統計領域の理解度テストをする</p> <p>第6講 医療情報システムとデータベース [到達目標] 医療システムの仕組みを理解する 病院内の医療情報と電子カルテについて、医療情報システムのメリット・デメリットおよび個人情報保護の仕組みについて説明できる [備考] レポートあり</p> <p>第7講 IoT技術と医療の新しい展開 [到達目標] 医療用デバイスの意義と問題点について、情報を集めることができる 多岐にわたるデバイスから得られるデータがどのように収集され、活用されているのかを理解する IoTが医療や社会にもたらす変化について考察する [備考] レポートあり</p>

	<p>第8講 医療の産業化とAIの活用</p> <p>[到達目標] 新しい時代の医療とデータの関係について考察する 医療データの社会的な活用状況について調査し、AIの関わりについて知る</p> <p>[備考] レポートあり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義に使用するHPを参考にして各講義で必要となる用語や操作手順をまとめましょう。(120分程度) ・復習：講義内容および理解に時間を要した操作についてファイル等にまとめ、次回以降の躓き解消に努めるとともに、講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにして下さい。(120分程度) ・講義をやむを得ず欠席した場合は必ず欠席した講義内容を確認し、演習問題にチャレンジして下さい。 ・webブラウザのブックマークやリンクの活用、フォルダを利用したファイル整理など、必要な情報は各自でまとめ、併せてコンピュータスキルの獲得に努めましょう。
教科書	特に指定しない
参考書	活用事例でわかる!統計リテラシー (noa出版) 医療・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版)
成績評価	評価割合は試験60%、課題40%とします。 試験は選択式の問題を解答し、統計学的な判断力を評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報</p> <p>担当教員名 : ○ 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ○-4, ◎-5 「科目ナンバー」 : KK-2-LI10-ES-L-PHN 講義資料および課題は授業専用のHPにて提供します(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
藤原 浩子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義・グループワーク・ロールプレイ	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	1. 医療現場におけるコミュニケーションにおいて必要な倫理的配慮、態度を習得する。 2. 対象者に応じた適切で効果的なコミュニケーション技法を習得する。 3. 医療者間のコミュニケーション不足は患者の安全を脅かすことを理解し、適切なコミュニケーション技法を習得する。
授業計画	<p>第1回 医療コミュニケーションの基本 [到達目標] ワークショップを通じて ・医療コミュニケーションとは何かを理解できる。 ・医療コミュニケーションの目的が理解できる。</p> <p>第2回 短い出会いの中で有効な情報を得るためのコミュニケーション [到達目標] ワークショップを通じて ・カルテの記載方法と初診患者に必要な情報が理解でき説明できる。 (主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現症)</p> <p>第3回 患者及び家族とのコミュニケーション(1) [到達目標] ワークショップを通じて ・患者及び家族とのコミュニケーションにおいて必要な態度を理解する。 ・ロールプレイを通じて患者及び家族とのコミュニケーション技法を習得する。</p> <p>第4回 患者及び家族とのコミュニケーション(2) [到達目標] ・攻撃的、悲観的な患者、治療に対する理解の乏しい患者との対応において必要な態度を理解する。 ・ロールプレイを通じて攻撃的、悲観的な患者及び家族とのコミュニケーション技法を習得する。 ・ロールプレイを通じて自己管理について理解の乏しい患者に対する退院指導の方法を習得する。</p> <p>第5回 上司及び同僚とのコミュニケーション [到達目標] ワークショップを通じて ・上司及び同僚とのコミュニケーションにおいて適切な態度を理解する。 ・ロールプレイを通じて上司および同僚とのコミュニケーション技法を習得する。</p> <p>第6回 医師及び他職種とのコミュニケーション [到達目標] ・医師および他職種とのコミュニケーションにおいて適切な態度を理解する。 ・ロールプレイを通じて上司および同僚とのコミュニケーション技法を習得する。</p> <p>第7回 まとめ [到達目標] ・各自が学修した内容について振り返り理解を深めることができる。 ・試験に関する説明。</p> <p>第8回 まとめ及び試験 まとめ30分 試験(記述) 60分</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義で学修した内容を復習してください。60分程度。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	筆記試験・各回の提出課題を合わせて100%とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 藤原浩子 研究室 : 10号館7階710研究室 メールアドレス : h_fujiwara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (小児看護学実習のため病院出張以外)
備考	藤原教員：精神看護学領域およびその他の領域での臨床経験をもとに医療コミュニケーション学についての講義を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎—5、○—2
	科目ナンバー：KK-2-ME3-ES-L-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
選択	2	1	選択
担当教員			
榎原 智美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	KK-2-MM3-ES-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>解剖生理学では、看護の対象となる人間のからだのしくみの正常な基本を学び、病的状態を理解するための基礎知識を修得する。</p> <p>本特論では、1年次の解剖生理学（科目名「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」）をベースに、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 解剖生理学の基本を復習しさらに深めること、 2) 実習を取り入れて座学の知識を実学に深めること、 3) 最新の研究を紹介し医学基礎研究の実際ともつなげること、 <p>を通じて、人体の構造と機能を包括的に把握できるように深化させるのが目標である。</p> <p>具体的なミッション（※）は、</p> <p>“妊婦である明治花子さんは、軽く体操した後、焼魚定食を食べ、トイレを済ませ、好きな映画を観て感動の涙を流し、胎児にやさしく話しかけた。”</p> <p>という状況を、図やことばを用いて解剖生理学的観点から自分なりに解説できるようになることを目指す。</p>
授業計画	<p>1回目 からだのなりたち 【到達目標】《教科書 第1・2章》 人体の成り立ちについて概説できる。 細胞と組織について説明できる。 上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織を区別できる。</p> <p>2回目 血液をめぐる 循環器系1（総論、血液、心臓） 【到達目標】《教科書 第4・5章》 体液について説明できる。 血液について説明できる。 循環器系の概要と心臓について説明できる。</p> <p>3回目 血液をめぐる 循環器系2（血管系・リンパ系・免疫系） 【到達目標】《教科書 第5・15章》 動脈、静脈および毛細血管について説明できる。 免疫系（リンパ系）について説明できる。</p> <p>4回目 息をする 呼吸器系（総論、気道・肺、呼吸運動） 【到達目標】《教科書 第6章》 呼吸器系の概要と気道（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支）について説明できる。 肺の構造と呼吸運動について説明できる。 肺循環（循環器系）と併せて呼吸を説明できる。</p> <p>5回目 食べる 消化器系1（総論、消化管） 【到達目標】《教科書 第7章》 消化器系の概要と口腔、咽頭、消化管（食道、胃、小腸、大腸）について説明できる。</p> <p>6回目 食べる 消化器系2（消化腺、腹膜） 【到達目標】《教科書 第7章》 消化腺（肝臓、膵臓）と腹膜について説明できる。</p> <p>7回目 尿をつくる 泌尿器系1（腎臓） 【到達目標】《教科書 第8章》 腎臓について説明できる。 再吸収とは、何が、どこからどこへ動くかを説明できる。</p> <p>8回目 尿を出す 泌尿器系2（尿路） 【到達目標】《教科書 第8章》 尿路（尿管、膀胱、尿道）について説明できる。</p> <p><<<<提出物中間提出期限>>>></p> <p>9回目 からだの恒常性を維持・調整する 内分泌系 【到達目標】《教科書 第9・13章》 内分泌系の概要と下垂体、甲状腺、ランゲルハンス島、副腎について説明できる。 自律神経の交感神経と副交感神経を区別して説明できる。</p> <p>10回目 子どもを生む 生殖器系1（男性・女性生殖器） 【到達目標】《教科書 第10章》 男性生殖器：精巣と精路について説明できる。 女性生殖器：卵巣・卵管・子宮・膣について説明できる。</p> <p>11回目 子どもを生む 生殖器系2（女性性周期・胎盤・胎児循環） 【到達目標】《教科書 第10章》 女性性周期についてホルモンと関連させて説明できる。 胎盤において、母体と胎児の血液が混ざらないことを説明できる。 胎児循環を説明できる。</p> <p>12回目 感じて考えてうごくために 神経・感覚器系1 【到達目標】《教科書 第13・14章》 神経系の概要と中枢・末梢神経について説明できる。</p>

	<p>13回目 感じて考えてうごくために 神経・感覚器系2 【到達目標】《教科書 第13・14章》 視覚器、聴覚器、平衡覚器、皮膚について説明できる。</p> <p>14回目 支える・うごく 運動器系（骨格、関節と骨格筋） 【到達目標】《教科書 第11・12章》 骨格、関節および骨格筋について説明できる。 脊柱・胸郭・骨盤を説明できる。 体幹、上肢・下肢の主要な関節を挙げ、運動について説明できる。</p> <p>15回目 皮膚と膜 解剖生理学総括 【到達目標】 ”妊婦である明治花子さんは、軽く体操した後、焼魚定食を食べ、トイレを済ませ、好きな映画を観て感動の涙を流し、胎児にやさしく話しかけた。” という状況を、図やことばを用いて解剖生理学的観点から自分なりに解説できる。</p> <p><<<<提出物最終提出期限>>>></p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	シラバスの各項をチェックし、事前学習してください(予習約1時間程度/1回分)。授業で学習した内容を自分なりのノートにまとめて下さい(復習約1時間程度/1回分)。 最終の提出物(★)（課題は上記※）完成を目標に、自分なりの学習ノートを作成してください。 満トラや、1年次の教科書文字起こしデータを用いて、予習復習に役立ててください。
教科書	1年次の解剖生理学Ⅰ・Ⅱの教科書および配布物 『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学』坂井建雄 他（医学書院） （適宜、授業・実習資料を配布します。） Classroom オンデマンド教材 ”満トラ（満点トライアルテスト）”
参考書	『系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』坂井建雄 他（医学書院） 『新体系看護学全書 人体の構造と機能① 解剖生理学』橋本尚詞・鯉淵典之 編（メヂカルフレンド社） 『カラー人体解剖学』井上貴央 監訳 西村書店 『入門組織学』牛木辰男著 南江堂 その他なんでも、各自が興味を持つ解剖生理学関係の専門書。
成績評価	所定の出席率があること、減点対象（授業妨害等）がないこと、期日までに“満トラ”が全問クリアできていること、を合否判定に用います（筆記試験なし）。 “満トラ（総得点）”、満トラ早勝ちポイント、および提出物（上記★）、との合計点数獲得状況で上位成績を評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○ 榎原 智美（博士（医学） 専門：解剖学・組織学・神経機能形態学） 研究室 : 5号館3階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー(対面)：火～水 早朝または放課後（できるだけ前日までにメールまたはmellyで予約下さい。） 質問等は、Mellyでは随時（24時間）受け付けます。可及的速やかに（原則として週日の早朝）お返事します。
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1 ○-2 科目ナンバリング：KK-2-MM3-ES-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
浅沼 博司、オムニバス			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	健康から疾病に至る変化のプロセス、疾病がもたらす身体内部の変化について学ぶ。疾病の診断に必要な様々な検査（放射線検査・内視鏡検査・生理機能検査・MR・CT・PET・組織診・細胞診）・治療（内科的・外科的・放射線・等）・麻酔について学ぶ。
授業計画	<p>1回目 病態（足立准教授） 「看護のための臨床病態学」の以下の項目を熟読しておくこと 免疫(p.542)、アレルギー・自己免疫(p.542-545)、炎症(p.546-549)、感染(p.590-598)、代謝(p.280-285)、高次脳機能・意識障害(p.445-448)</p> <p>免疫、アレルギー・自己免疫、炎症、感染、代謝、高次脳機能・意識障害の病態について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 症状①身体の不調の捉え方（症状・兆候・症候）（足立准教授） 「看護のための臨床病態学」の以下の項目を熟読しておくこと 呼吸器の症候（咳、痰、血痰、咯血、呼吸困難：p.8-12）、循環器の症候（胸痛・胸部圧迫感、動悸、呼吸困難、浮腫、ショック：p.83-87）、消化管の症候（胸やけ、腹痛、悪心・嘔吐、下痢、便秘、吐血、下血：p.161-164）、肝/胆/膵の症候（腹痛、黄疸、悪心・嘔吐、肝・脾腫、胆嚢腫大、腹水、浮腫、肝性脳症、皮膚症状：p.227-231）、栄養/代謝の症候（口渇、多飲、多尿、体重減少、体重増加、肥満、意識障害、昏睡、冷汗、皮膚粘膜症状、易骨折性：p.286-287）</p> <p>呼吸器の症候（咳、痰、血痰、咯血、呼吸困難）、循環器の症候（胸痛・胸部圧迫感、動悸、呼吸困難、浮腫、ショック）、消化管の症候（胸やけ、腹痛、悪心・嘔吐、下痢、便秘、吐血、下血）、肝/胆/膵の症候（腹痛、黄疸、悪心・嘔吐、肝・脾腫、胆嚢腫大、腹水、浮腫、肝性脳症、皮膚症状）、栄養/代謝の症候（口渇、多飲、多尿、体重減少、体重増加、肥満、意識障害、昏睡、冷汗、皮膚粘膜症状、易骨折性）について、概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>3回目 症状②身体の不調の捉え方（症状・兆候・症候）（足立准教授） 「看護のための臨床病態学」の以下の項目を熟読しておくこと 内分泌の症候（低身長、高身長、肥満、やせ、顔貌変化、女性化乳房、乳汁分泌、血圧変動、多尿、二次性徴遅延、無月経：p.327-329）、腎臓の症候（尿の色・量、排尿回数、尿の排泄異常、浮腫、高血圧：p.365-370）、血液の症候（貧血、易感染性、発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、脾腫：p.502-504）、感染症の症候（発熱、発疹、髄膜刺激徴候：p.599-600）</p> <p>内分泌の症候（低身長、高身長、肥満、やせ、顔貌変化、女性化乳房、乳汁分泌、血圧変動、多尿、二次性徴遅延、無月経）、腎臓の症候（尿の色・量、排尿回数、尿の排泄異常、浮腫、高血圧）、血液の症候（貧血、易感染性、発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、脾腫）、感染症の症候（発熱、発疹、髄膜刺激徴候）について、概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>4回目 内科的治療（浅沼教授） 各種疾患（高血圧、糖尿病、脂質異常症、心不全、肺炎、癌など）の内科的治療について概説する アクティブ・ラーニング無</p> <p>5回目 臨床放射線医学①（北村主査） 医用X線の性質と種類、単純X線検査の読影の基本、CT・エコー・MRIの基本的性質とその違いを説明することができる。（時間外学習の指示など）医用X線の性質と種類、単純X線検査の読影の基本、CT・エコー・MRIの基本的性質とその違いを「臨床検査」教科書で調べる。※臨床放射線医学（医学書院）を持参。</p> <p>6回目 臨床放射線医学②（北村主査） 放射線治療の原理と種類、放射線治療の適応疾患、放射線治療の副作用を説明することができる。（時間外学習の指示など）放射線治療の原理と種類、放射線治療の適応疾患、放射線治療の副作用を教科書「臨床放射線医学」で調べる。※臨床放射線医学（医学書院）を持参。</p> <p>7回目 臨床検査の基礎と検体検査（松岡技師長） 臨床検査の意義と目的、検体の取り扱い方、臨床検査データの読み方を理解する。 系統看護学講座(医学書院)別巻 臨床検査を熟読し、講義の際に持参すること。</p> <p>8回目 生理学検査（山口技師） 心電図・呼吸機能などの生理学的検査を理解する。 系統看護学講座(医学書院)別巻 臨床検査を熟読し、講義の際に持参すること。</p> <p>9回目 病理検査（細胞診、病理組織検査、剖検診断 等）（後藤講師） 病理検査の種類（細胞診、病理組織検査、剖検診断 等）とそれぞれの特徴、検体採取時の注意や検体の取扱い方法など、病理検査により何がわかるかについて説明できる。講義前に臨床検査（医学書院）の第9章病理検査の項を読んで予習しておくこと。※臨床検査（医学書院）を持参</p> <p>10回目 外科的治療① 外科学概論と創傷 外科的基本手技を学ぶ（中西教授） 「内科的治療」に対比して「外科的治療」を学ぶ。外科概論と歴史、外科的診断法、損傷と創傷について学ぶ。外科的基本手技、基本技術について学ぶ。</p>

	<p>11回目 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（2-10, 34-52, 63-71, 144-160, 205-207） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参 外科的治療② 炎症・外科的感染症、消毒と滅菌（神山教授） 炎症の原因・症状、外科的感染症の治療、消毒法の実際、無菌法、外科的処置について学ぶ。外科的基本手技、創傷処置を復習する。</p> <p>12回目 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（12-34, 71-74, 144-160, 286-304） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参 外科的治療③ 外科的栄養管理、輸血法、腫瘍の診断と治療（糸井啓教授） 外科領域の栄養管理：輸液・経腸栄養の実際について学ぶ。血液型、輸血について学ぶ。腫瘍の検査法と治療法（手術療法、化学療法、放射線療法）について学ぶ。</p> <p>13回目 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（54-63, 109-136, 169-182, 317-319） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参 外科的治療④ 周術期管理と合併症の予防（糸井啓教授） 周術期の管理、術前・術中の管理と合併症の予防、特に集中治療における管理、高齢者術後の管理と合併症の予防について学ぶ。最新の内視鏡手術、鏡視下手術の特徴とその術後管理について理解する。</p> <p>14回目 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（161-169, 202-409） 臨床外科看護各論（176-177） ※臨床外科看護総論・各論（医学書院）を持参 麻酔 概論 悪性高熱（智原教授） 意識消失時の気道確保と人工呼吸、全身管理に必要な生体監視装置（モニター）、各種麻酔法（全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、局所浸潤麻酔、伝達麻酔）の鎮痛メカニズム</p> <p>15回目 授業時間外学習の指示等：酸素と二酸化炭素の生体での役割、心電図について予習しておく。痛み の感覚の伝達経路について予習しておく。各種の麻酔方法とメカニズムについて、鎮痛法について復習する。 まとめと筆記試験 前半にまとめの講義を行い、後半に筆記試験による成績評価を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読すること。各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習90分）、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。配布するプリントを精読すること。理解できないところがあれば、下記の参考書で該当するところを調べる。それでも、解決できなければ、講義の前後に、担当教員に質問して下さい。
教科書	看護のための臨床病態学 改訂4版（南山堂） 系統看護学講座 別巻 臨床検査（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）
参考書	内科系 1) わかりやすい内科学（文光堂）第4版 2) Step 内科学（全6巻、分冊別に購入可能。海馬書房） 3) カラー版 内科学 第9版（西村書店） 外科系 「標準外科学」第16版 北野正剛・坂井義治監修（医学書院） 「標準麻酔科学」第6版 弓削孟文監修（医学書院） 「国民衛生の動向2018/2019」（厚生労働統計協会） 病理検査 「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」大橋健一他著（医学書院） 「新訂版クイックマスター病理学」第2版 堤寛著（サイオ出版）
成績評価	15回目の前半にまとめの講義を行い、後半に行う筆記試験（100点満点）で評価する。私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	<p>◎担当教員名：浅沼博司 病院長室：病院2階 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜午後</p> <p>担当教員名：足立 孝臣 研究室：附属病院2階 メールアドレス： オフィスアワー：</p> <p>（外科学） 担当教員名：糸井 啓純 研究室：附属病院2階 メールアドレス：hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日17：00-18：00</p> <p>担当教員名：神山 順 研究室：附属病院2階 メールアドレス：jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日17：00-18：00</p> <p>担当教員名：中西 健史 研究室：附属病院2階 メールアドレス：t_nakanishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日17：00-18：00</p> <p>（麻酔科学） 担当教員名：智原 栄一 研究室：6号館2階 メールアドレス： オフィスアワー：</p>

	<p>(放射線医学) 担当教員：北村 真 (放射線主査)</p> <p>(臨床検査) 担当教員：後藤 涉子 (病理学 講師) 研究室 : 附属病院 2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日14:00-17:00</p> <p>担当教員：松岡 利昌 (臨床検査技師長)、山口由美 (臨床検査技師)</p>
備考	<p>◎担当教員名：浅沼博司 大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科および循環器内科の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「疾病治療総論」について授業をすすめる。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
苗村 建慈、浅沼 博司、足立 孝臣、神山 順、糸井 啓純			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>呼吸器、循環器、血液・造血器の疾患について、主な疾患の病院・病態、診断、治療と予後について学ぶ。</p> <p>1) 呼吸器疾患：上気道炎と気管支炎、細菌性肺炎・非定型肺炎、肺結核、間質性肺炎。気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）。肺癌（原発性、転移性）。肺動脈血栓塞栓症、肺水腫（ARDSなど）。2) 循環器疾患：心不全、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心臓弁膜症、高血圧症、動脈疾患、先天性心疾患。腎疾患。3) 血液・造血器の疾患：貧血症；貧血症の特徴。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血。白血球に関する疾患；白血球、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫。止血・凝固に関する（出血性）疾患；特発性血小板減少性紫斑病、アレルギー性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群。</p> <p>外科系においては、胸部外科疾患について、その治療と管理について学ぶ。肺では肺がんを中心に、気胸や胸部外傷に関する外科治療とその管理について、心臓・血管外科においては、弁膜疾患、冠動脈疾患の心臓手術と動脈瘤、末梢動脈・静脈疾患の血管外科の手術について、外科治療と管理を理解する。</p>
授業計画	<p>1回目 呼吸器疾患①（苗村教授） 呼吸器疾患の総論として、症状、診断法（理学所見、臨床検査、X線検査。気管支鏡検査。細菌検査、細胞診・組織診。呼吸機能検査など。）と、治療法について学ぶ。総論を基礎として、第2回以降の、各論の各疾患の理解に進む。</p> <p>2回目 呼吸器疾患②（苗村教授） 上気道炎・急性気管支炎、細菌性肺炎・非定型肺炎、肺結核の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>3回目 呼吸器疾患③（苗村教授） 間質性肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>4回目 呼吸器疾患④（苗村教授） 肺癌（原発性、転移性）、肺動脈血栓塞栓症、肺水腫（ARDSなど）、肺性心の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>5回目 循環器疾患①（足立准教授） 1. 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、説明できる。 2. 動脈疾患（大動脈瘤、大動脈解離）について成因、及び、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し説明できる。 3. 腎不全の概念について理解し、分類、症状、検査所見、診断、治療法について理解し、説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>6回目 循環器疾患②（浅沼教授） 1. 狭心症と心筋梗塞の病因・病態、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し、説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>7回目 循環器疾患③（浅沼教授） 1. 心不全について、病因、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し、説明できる。 2. 心臓弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患）について成因、血行動態、及び、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>8回目 循環器疾患④（浅沼教授） 1. 不整脈の病態、血行動態及び症状、検査所見、診断、治療法について理解し、説明できる。 2. 先天性心疾患（ASD、VSD、ファロー四徴症）の病態、血行動態及び症状、検査所見、診断、治療法について理解し、説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>9回目 胸部外科①呼吸器疾患（糸井啓教授） 胸部外科：良性・悪性の呼吸器疾患、胸部外傷に対する外科的治療について理解する。また、呼吸管理について、理解する 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（101-109） 臨床外科看護各論（8-27, 37-58）ならびに系統看護学講座成人看護学2（呼吸器疾患患者の看護） ※臨床外科看護各論（医学書院）を持参</p> <p>10回目 胸部外科②循環器疾患・乳腺疾患（神山教授） 心臓・血管外科の外科治療における弁膜疾患、冠動脈疾患、動脈瘤、末梢動脈疾患の外科治療と管理（集中治療）を理解する。乳腺の良性・悪性疾患についての治療と患者看護について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（334-357）臨床外科看護各論（27-37, 59-72, 74-156） 系統看護学講座成人看護学2 循環器疾患患者の看護 ※臨床外科看護総論及び各論（医学書院）を持参</p> <p>11回目 血液・造血器疾患①（苗村教授） 貧血症の特徴（総論）、次いで、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血の各疾患（各論）について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>12回目 血液・造血器疾患②（苗村教授）</p>

	<p>再生不良性貧血、溶血性貧血の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>13回目 血液・造血器疾患③ (苗村教授)</p> <p>白血球、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>14回目 血液・造血器疾患④ (苗村教授)</p> <p>止血・凝固異常を示す疾患：特発性血小板減少性紫斑病、アレルギー性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群 (DIC)の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>15回目 まとめ (評価含む)</p> <p>筆記試験を行い、評価する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	教科書または参考書を読み、予習しておくこと。授業で配布するプリントを、必ず精読すること。理解できないところがあれば、下記の教科書や参考書で該当するところを調べる。それでも、解決できなければ、講義の前後に、担当教員に質問して下さい。
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)</p>
参考書	<p>内科系 看護のための臨床病態学 改訂3版 (南山堂)</p> <p>外科系 「標準外科学」第14版 畠山勝義監修 (医学書院)</p>
成績評価	<p>1) 定期試験により評価する。</p> <p>2) 出席率が低い場合は、受験資格は認めない。</p> <p>3) 再・追試験は、実施する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 苗村 建慈 研究室 : 病院2階教授室 メールアドレス : k_namura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:00</p> <p>担当教員名 : 浅沼 博司 研究室 : 病院2階病院長室 メールアドレス : h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜午後</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2階教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 神山 順 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>GIO（一般目標）：「消化器」「代謝・内分泌」分野の、看護師として必要な代表的疾患について、それぞれのリスク因子・症状・病態生理・診断（検査を含む）・治療（薬物療法・手術療法ほか）および予後について説明できる。</p> <p>SBO（個別目標）：定期試験での60点以上の獲得を目標とします。定期試験は、国家試験と同形式（マークシート・4者択1から5者択2）・同程度の難易度で行います。勉強すべき範囲は厚生労働省の「看護師国家試験出題基準」がウェブなどで閲覧できるので参考にしてください。講師は、大切な事項は繰り返し登場するように協力しますので、受講生は繰り返したことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にしてください。</p>		
授業計画	1回目	オリエンテーション・疾病治療論の学び方 消化器・代謝・内分泌疾患について疾病治療論で学ぶべきことを説明できる	
	2回目	消化器疾患概論 消化器疾患の患者の症状（腹痛・下痢・便秘・嘔吐・下血など）から、鑑別する複数の疾患が抽出できる	
	3回目	消化管疾患（非腫瘍性） 非腫瘍性の消化管疾患（胃・十二指腸潰瘍、虫垂炎、炎症性腸疾患、イレウスなど）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる	
	4回目	消化器疾患（腫瘍性） 腫瘍性の消化器疾患（食道がん・胃がん・大腸がん・肝がん・膵がん）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療・術前術後管理）を説明できる	
	5回目	消化器疾患（小児疾患） 消化器の小児疾患（腸重積・先天性胆道閉鎖症・幽門狭窄症・腹壁破裂・鎖肛・ヒュルシュスブルング病・食道離断）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療・術前術後管理）を説明できる	
	6回目	消化器疾患（小児疾患） 消化器の小児疾患（腸重積・先天性胆道閉鎖症・幽門狭窄症・腹壁破裂・鎖肛・ヒュルシュスブルング病・食道離断）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療・術前術後管理）を説明できる	
	第7講	消化器疾患・応用演習① 6講までに取り上げなかった消化器疾患を含め、選択肢問題を使い、疾患名から臨床像またはその逆が特定できる	
	第8講	消化器疾患・応用演習② 6講までに取り上げなかった消化器疾患を含め、選択肢問題を使い、疾患名から臨床像またはその逆が特定できる	
	第9講	肝硬変・肝胆膵疾患 肝硬変を中心とした疾患（ウイルス性肝炎・門脈圧亢進症・食道静脈瘤など）とその他の肝胆膵疾患（胆石症・急性膵炎など）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる	
	第10講	糖尿病 糖尿病（1型・2型糖尿病、神経障害、網膜症、腎症）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる	
	第11講	代謝・内分泌疾患① 糖尿病以外の代謝・内分泌疾患（脂質異常症、高尿酸血症、汎下垂体機能低下症、甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、クッシング症候群）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる	
	第12講	代謝・内分泌疾患② 糖尿病以外の代謝・内分泌疾患（脂質異常症、高尿酸血症、汎下垂体機能低下症、甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、クッシング症候群）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる	
	第13講	代謝・内分泌・肝胆膵疾患・応用演習① 12講までに取り上げなかった代謝・内分泌・肝胆膵疾患を含め、選択肢問題を使い、疾患名から臨床像またはその逆が特定できる	
	第14講	代謝・内分泌・肝胆膵疾患・応用演習② 12講までに取り上げなかった代謝・内分泌・肝胆膵疾患を含め、選択肢問題を使い、疾患名から臨床像またはその逆が特定できる	
	第15講	まとめ（評価含む）	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	当科目は大学設置基準に基づいて、講義時間22.5時間(90分×15回)+時間外学習22.5時間=45時間(1単位あたりの必要学習時間)と定められています。普段の講義外での自己学習は特に求めないので、講義時間内で学習を完了させてください。定期試験を時間外学習22.5時間が必要な難易度に設定しますので、試験前には3時間×7日間程度の時間外学習時間の確保を必ずお願いいたします。
教科書	「看護のための臨床病態学 改定5版」(南山堂)
参考書	<p>おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。</p> <p>「なぜ? どうして? 2020-2021 ⑥消化器/肝胆膵/循環器」「④内分泌・代謝/腎・泌尿器」(メディックメディア) : 看護学生とネコナースの会話形式で、とにかくブログや絵本のように読みやすい参考書です。記憶がストーリーだと定着しやすい人向きです。1冊あたり安いので、講師のイチオシです。</p> <p>「病気がみえる」シリーズ(メディックメディア) : 中学高校の「資料集」のようなビジュアルで疾患や臓器のことを解説しているので、視覚で記憶する人向きの参考書です。</p>
成績評価	定期試験100%。試験形式は授業目標・SBOを参考にしてください。大学の取り決めがあり、定期試験の受験には規程にある出席日数が必要ですので気をつけてください。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはmellyyを使ってください。24時間送信いただいて大丈夫ですが、反応は早くありませんので、試験前や公休などは余裕を持って連絡してください。</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
武内 勇人、糸井 恵、木村 篤史、小藤 和孝、林 大智			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	脳・神経・運動器の主要な疾患（脳卒中、脳腫瘍、神経外傷、脱髄・変性疾患、骨折、絞扼性神経障害、骨粗鬆症、関節疾患、骨軟部腫瘍など）について修得するために、機能解剖、疾患の疫学、病態、診断、治療（薬物療法・手術療法・その他の療法）、予後およびそれらの疾患に対するリハビリテーションについて理解する。		
授業計画	1回目	脳・神経①（脳・神経系の構造と機能）（武内准教授） 中枢神経系、末梢神経系の神経解剖について説明できるようになる。 成人看護学 7、p.16-46 講義中に小テストを行うことがある。各自のスマートフォンを持参して下さい。	
	2回目	脳・神経②（症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置）（武内准教授） 神経症状（意識障害、麻痺、感覚障害など）について学ぶ。 神経疾患の診断方法（神経診察、画像診断など）および治療総論を学ぶ。 成人看護学 7、p.47-114 講義中に小テストを行うことがある。各自のスマートフォンを持参して下さい。	
	3回目	脳・神経③（疾患の理解-脳疾患）（武内准教授） 脳卒中に分類される疾患としてくも膜下出血、脳梗塞、脳出血などが存在することを理解する。 これらの疾患の症状、治療について説明できるようになる。 代表的な脳腫瘍の病態と症状、診断と治療を理解する。 成人看護学 7、p.120-163 講義中に小テストを行うことがある。各自のスマートフォンを持参して下さい。	
	4回目	脳・神経④（疾患の理解-脳疾患・脊髄疾患）（武内准教授） 頭部外傷、脊髄疾患の病態と症状、診断と治療を理解する。 成人看護学 7、p.163-185 講義中に小テストを行うことがある。各自のスマートフォンを持参して下さい。	
	5回目	脳・神経⑤（疾患の理解-末梢神経障害、筋疾患・神経筋接合部疾患、脱髄・変性疾患）（武内准教授） 末梢神経障害のうち、糖尿病性ニューロパチーについては糖尿病に対する理解を深める。 変性疾患の代表であるパーキンソン病に関して、原因、症状、治療方法、副作用などについて十分な理解を行う。 さらに、筋ジストロフィー、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症などの疾患についても理解する。 成人看護学 7、p.185-223 講義中に小テストを行うことがある。各自のスマートフォンを持参して下さい。	
	6回目	脳・神経⑥（疾患の理解-脳・神経系の感染症、中毒、てんかん、認知症）（武内准教授） 各種髄膜炎の相違、治療法などについて理解する。 認知症の疫学、病態について説明できるようになる。 成人看護学 7、p.223-252 講義中に小テストを行うことがある。各自のスマートフォンを持参して下さい。	
	7回目	整形①（小藤教授） 上肢の主な疾患、ギブス障害・フォルクマン拘縮 p95, 121 絞扼性神経障害(手根管症候群など) p221-226	
	8回目	整形②（林講師） 下肢の外傷と疾患 p97-100（大腿骨頸部・転子部骨折、人工骨頭置換術）	
	9回目	整形③（糸井恵教授） 運動器の機能と解剖 p20-41, ロコモティブシンドローム p181 画像診断 p62-69	
	10回目	整形④（小藤教授） 小児の疾患 p122-125, 骨軟部腫瘍 p143-150	
	11回目	整形⑤（林助教） 脊椎の疾患 p166-175, 脊髄損傷 p110 骨粗鬆症 p151	
	12回目	整形⑥（糸井恵教授） 関節疾患と関節リウマチ p132-143	
	13回目	リハビリ①（木村准教授） 脳血管疾患に対するリハビリテーション 脳血管疾患患者が呈する障害、評価、アプローチについて理解する。 脳血管障害者の日常生活動作能力の向上と社会復帰のためのケアについて理解する。	
	14回目	リハビリ②（木村准教授） 整形外科疾患に対するリハビリテーション 高齢者に頻発する大腿骨近位部骨折後の障害、評価、アプローチについて理解する。 大腿骨近位部骨折後の日常生活動作能力の向上と社会復帰のためのケアについて理解する。	

	<p>15回目 リハビリ③ (木村准教授) 呼吸・嚥下障害に対するリハビリテーション 呼吸・嚥下に関わる障害, 評価, アプローチについて理解する.</p> <p>16回目 まとめ (評価含む)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	教科書、参考書および授業用プリントを予習、復習それぞれ45分程度ずつ行う。
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学 7 (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学 10 (医学書院)</p> <p>*木村担当分は各講義開始前に講義資料をGoogle Classroom に掲載する</p>
参考書	<p>看護のための臨床病態学 (南山堂)</p> <p>ナースに役立つ整形外科とリハビリテーション (金芳堂)</p>
成績評価	定期試験、出席により評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 武内 勇人 研究室 : 付属病院2階医局 メールアドレス : h_takeuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 毎週水曜日13:00~15:00</p> <p>担当教員名 : 糸井 恵 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 小藤 和孝 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 林 大智 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 木村篤史 研究室 : 付属病院総合リハビリテーションセンター メールアドレス : a_kimura@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>武内勇人：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事、その実務経験をもとに授業を進める。</p> <p>木村篤史：医療機関のリハビリテーションセンターにて理学療法士として27年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

講義科目名称： 疾病治療論Ⅳ

授業コード： 4K209

英文科目名称： Medicine IV (Infectious Medicine, Immunology & Emergency Medicine)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>GIO（一般目標）：「アレルギー」「膠原病」「感染症」「救急」分野の、看護師として必要な代表的疾患について、それぞれの病態生理・診断（検査を含む）・治療（薬物療法・手術療法ほか）および予後について説明できる。</p> <p>SBO（個別目標）：定期試験での60点以上の獲得を目標とします。定期試験は、国家試験と同形式（マークシート・4者択1から5者択2）・同程度の難易度で行います。勉強すべき範囲は厚生労働省の「看護師国家試験出題基準」がウェブなどで閲覧できるので参考にしてください。講師は、大切な事項は繰り返し登場するように協力しますので、受講生は繰り返したことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にしてください。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 免疫 アレルギーと自己免疫 炎症と発熱・疼痛 これから学ぶ主要疾患</p> <p>第2講 アレルギーの主要疾患 花粉症（アレルギー性鼻炎） 蕁麻疹 接触皮膚炎 アナフィラキシーショック</p> <p>第3講 アレルギー(2) 気管支喘息 アトピー性皮膚炎 アレルギー性結膜炎</p> <p>第4講 アレルギー(3) 食物アレルギー 化学物質過敏症 シックハウス症候群 アレルギー性紫斑病</p> <p>第5講 膠原病の主要疾患 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス シェーグレン症候群</p> <p>第6講 膠原病(2) 多発性筋炎 全身性強皮症 血管炎症候群 ベーチェット病</p> <p>第7講 感染症概論 感染の原因（細菌・ウイルス・カビ・原虫） 感染症法と届出 感染経路別予防法</p> <p>第8講 敗血症・性感染症 敗血症 敗血症性ショック 梅毒 淋病 HIV HBV</p> <p>第9講 食中毒 サルモネラ ブドウ球菌 大腸菌 O-157 ボツリヌス</p> <p>第10講 呼吸器感染症 インフルエンザ 新型インフルエンザ 急性咽頭炎 結核</p> <p>第11講 ウイルス感染症 麻疹 風疹 流行性耳下腺炎 水痘／带状疱疹 ノロ ロタ 百日咳 RSウイルス</p> <p>第12講 救急(1) 熱傷 気道熱傷</p> <p>第13講 救急(2) 薬物中毒 誤飲</p> <p>第14講 救急(3) 熱中症 水中毒 溺水 虐待</p> <p>第15講 まとめ（評価と解説）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>当科目は大学設置基準に基づいて、講義時間22.5時間（90分×15回）＋時間外学習22.5時間＝45時間（1単位あたりの必要学習時間）と定められています。普段の講義外での自己学習は特に求めないので、講義時間内で学習を完了させてください。定期試験を時間外学習22.5時間が必要な難易度に設定しますので、試験前には3時間×7日間程度の時間外学習時間の確保を必ずお願いいたします。</p>
教科書	<p>「看護のための臨床病態学 改定5版」 南山堂</p>
参考書	<p>おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。</p> <p>「なぜ？どうして？2020-2021 ⑤免疫／血液／感染症／呼吸器」（メディックメディア） ：看護学生とネコナースの会話形式で、とにかくブログや絵本のように読みやすい参考書です。記憶がストーリーだと定着しやすい人向きです。1冊あたり安いので。講師のイチオシです。</p> <p>「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」（メディックメディア） ：中学高校の「資料集」のようなビジュアルで疾患や臓器のことを解説しているので、視覚で記憶する人向きの参考書です。</p>

	<p>「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」（南山堂） 「系統看護学講座 別巻 救急看護学」（医学書院） ：他教科の教科書が分かりやすい場面もあるので案内します。ぜひ活用しましょう。</p>
成績評価	<p>定期試験100%。試験形式は授業目標・SBOを参考にしてください。大学の取り決めがあり、定期試験の受験には規程にある出席日数が必要ですので気をつけてください。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはmellyを使ってください。24時間送信いただいて大丈夫ですが、反応は早くありませんので、試験前や公休などは余裕を持って連絡してください。</p>
備考	

講義科目名称： 疾病治療論Ⅴ

授業コード： 4K210

英文科目名称： Medicine V (Nephro-Urology, Ophthalmology, Otorhinolaryngology & Dermatology)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>GIO（一般目標）：「腎・泌尿器」「感覚器（眼・耳鼻咽喉・口腔・皮膚）」分野の、看護師として必要な代表的疾患について、それぞれの病態生理・診断（検査を含む）・治療（薬物療法・手術療法ほか）および予後について説明できる。</p> <p>SBO（個別目標）：定期試験での60点以上の獲得を目標とします。定期試験は、国家試験と同形式（マークシート・4者択1から5者択2）・同程度の難易度で行います。勉強すべき範囲は厚生労働省の「看護師国家試験出題基準」がウェブなどで閲覧できるので参考にしてください。講師は、大切な事項は繰り返し登場するように協力しますので、受講生は繰り返したことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にしてください。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 感覚器（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）障害と生活への影響</p> <p>第2講 眼の主要疾患 斜視 麦粒腫 眼の感染症 白内障 緑内障 網膜剥離</p> <p>第3講 視覚障害と生命・生活への影響(1) 網膜色素変性症</p> <p>第4講 視覚障害と生命・生活への影響(2) 近視 遠視 斜視 中途視覚障害者</p> <p>第5講 目の診断と治療 眼底検査 眼底光凝固療法 網膜剥離の治療 眼内レンズ挿入術</p> <p>第6講 耳の主要疾患 突発性難聴 Meniere<メニエール>病 中耳炎 聴力検査 鼓室形成術</p> <p>第7講 鼻の主要疾患 副鼻腔炎 鼻茸 鼻中隔湾曲症 鼻炎 経鼻的内視鏡検査</p> <p>第8講 口腔の主要疾患 歯・歯周・下顎骨の疾患 両性・悪性腫瘍</p> <p>第9講 咽頭・頭頸部の主要疾患と味覚検査 咽頭がん 喉頭がん 味覚検査</p> <p>第10講 皮膚の主要疾患 イボ？ ほくろ 湿疹 ニキビ？ 皮膚か？ん 全身性疾患 色素異常症 皮膚の感染症 物理化学的皮膚障害</p> <p>第11講 皮膚の主要症候 発疹 掻痒 老化 触覚障害と生活への影響</p> <p>第12講 皮膚疾患の診断と治療</p> <p>第13講 腎・泌尿器の主要疾患 腎・尿路結石 腎癌 膀胱癌 前立腺肥大</p> <p>第14講 腎・泌尿器の主要症候 蓄尿・排尿障害と生命・生活への影響</p> <p>第15講 腎・泌尿器の検査と治療 尿流動態検査 残尿測定 膀胱鏡 膀胱切除術 前立腺切除術 ホルモン療法</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>当科目は大学設置基準に基づいて、講義時間22.5時間（90分×15回）＋時間外学習22.5時間＝45時間（1単位あたりの必要学習時間）と定められています。普段の講義外での自己学習は特に求めないので、講義時間内で学習を完結させてください。定期試験を時間外学習22.5時間が必要な難易度に設定しますので、試験前には3時間×7日間程度の時間外学習時間の確保を必ずお願いいたします。</p>
教科書	<p>「看護のための臨床病態学 改定3版」（南山堂）</p>
参考書	<p>おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。</p> <p>「なぜ？ どうして？ 2020-2021 ④内分泌・代謝／腎・泌尿器」「⑥脳・神経／運動器／感覚器」（メディックメディア） ：看護学生とネコナースの会話形式で、とにかくブログや絵本のように読みやすい参考書です。記憶がストーリーだと定着しやすい人向きです。1冊あたり安いです。講師のイチオシです。</p> <p>「病気がみえる vol.8 腎・泌尿器」「vol.12 眼科」「vol.13 耳鼻咽喉科」「vol.14 皮膚科」（メディックメディア）</p>

	： 中学高校の「資料集」のようなビジュアルで疾患や臓器のことを解説しているので、視覚で記憶する人向きの参考書です。
成績評価	定期試験100%。試験形式は授業目標・SBOを参考にしてください。大学の取り決めがあり、定期試験の受験には規程にある出席日数が必要ですので気をつけてください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはmellyを使ってください。24時間送信いただいて大丈夫ですが、反応は早くありませんので、試験前や公休などは余裕を持って連絡してください。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
高屋 和志（内科）、菊山 （精神）、小西（精神）			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>1. 小児疾患の特色、主な疾患と治療、看護について学ぶ。 先天異常、感染症、アレルギー疾患、小児救急、臓器別疾患（消化器、代謝・内分泌、血液・悪性腫瘍、循環器、腎・泌尿器、神経、呼吸器）の疾患について学ぶ</p> <p>2. 精神疾患の特色、主な疾患と治療について学ぶ。 人格障害・うつ病・認知機能障害・について学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1講 先天異常、消化器疾患 先天異常、呼吸窮迫症候群、染色体異常（ダウン症候群など）、性腺異常などについて理解する。</p> <p>第2講 消化器疾患では、鎖肛、先天性胆道閉鎖症、幽門狭窄症、腸重積などについて理解する。 アレルギー疾患、小児救急疾患 気管支喘息、食物アレルギーなどについて理解する。 熱中症、熱傷などの小児救急疾患について理解する。</p> <p>第3講 代謝・内分泌、血液・悪性腫瘍 I型糖尿病などについて理解する。 ALL、脳腫瘍、神経芽腫などについて理解する。</p> <p>第4講 循環器疾患、腎疾患 先天性心疾患（ファロー四徴症、心室中隔欠損症など）、川崎病などについて理解する。 ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、溶血性尿毒症症候群（hemolytic uremic syndrome：HUS）などについて理解する。</p> <p>第5講 神経性疾患 てんかん、熱性けいれん、発達障害、脳性麻痺、二分脊椎などについて理解する。</p> <p>第6講 呼吸器疾患、感染症 喉頭炎、気管支炎、細気管支炎、肺炎などについて理解する。 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎などについて理解する。</p> <p>第7講 精神疾患① 統合失調症 人格障害 うつ病 主な疾患の病態、診断、治療を理解する 治療的環境 治療的関わり 精神科リハビリテーション 薬物療法 服薬管理</p> <p>第8講 精神疾患② 神経症 摂食障害 被虐待児 主な疾患の病態、診断、治療を理解する 治療的環境 治療的関わり 精神科リハビリテーション 薬物療法 服薬管理 まとめ（評価含む）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に教科書を熟読しておくこと。
教科書	<p>系統看護学講座 「小児臨床看護各論」小児看護学2 医学書院 第1回 第1、2、9、14、15章、 第2回 第5、19章 第3回 第3、4、10、11章、 第4回 第8、12章 第5回 第13章、 第6回 第6、7章</p> <p>系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学①（医学書院） 第7回、 第8回</p>
参考書	病気がみえる vol 15 小児科 メディックメディア
成績評価	定期試験により評価する ※【授業回数5分の3以上の出席】を満たしていない者は受験資格を失う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 高屋和志（非常勤講師） 所属 : 高屋こども診療所 院長</p> <p>担当教員名 : 菊山裕貴（非常勤講師） 所属 : 新阿武山病院 精神科医</p> <p>担当教員名 : 小西奈美（本学教員） 所属 : 看護学科 准教授</p>

備考	DPとの関連 ◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
石原 安信			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	薬物療法学(=薬物治療学)総論と、各臓器の疾患で臨床応用されている薬物を中心に、薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について講義します。 薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。各臓器の生理・疾患を説した後で、薬物がなぜ疾患を治療できるのか解説していきます。 授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。
授業計画	第1講 第1章 総論（1） 第2講 第1章 総論（2） 第3講 第2章 末梢神経系作用薬（1） 第4講 第2章 末梢神経系作用薬（2） 第5講 第3章 中枢神経系作用薬（1） 第6講 第3章 中枢神経系作用薬（2） 第7講 第4章 心臓・血管作用薬（1） 第8講 第4章 心臓・血管作用薬（2） 第9講 第5章 抗炎症薬 第10講 第6章 呼吸器系作用薬 第11講 第7章 消化器系作用薬 第12講 第8章 ホルモン系・生殖器系作用薬 第13講 第9章 抗感染症 第14講 第10章 抗悪性腫瘍薬・第11章 漢方薬 第15講 まとめ（評価含む）
授業時間外の学習（準備学習等）について	次回の講義範囲の教科書を読んで予習しておくこと。また各回の講義終了ごとに、教科書付属の整理ノートのポイントを読み、確認問題を解くことにより復習をすること。
教科書	教材(テキスト) 『わかりやすい薬理学』安原 一・小口勝司 編集ヌーベル・ヒロカワ 随時、プリントを配布する。
参考書	特になし
成績評価	期末試験、授業態度により総合的に評価する。 追再試験は試験当日欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。 分からないことかあれば、講義中ても終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。
担当教員の基本情報	担当教員名：石原 安信 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス： オフィスアワー：随時

備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
南波 英和			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 相手の思い、考え、期待などを理解するとともに、専門職として必要な情報提供や説明を行い、共同でケアを提供していくための合意と人間関係を築いていくための態度や能力を考えることができる。 人間関係についての理解を深め、よりよい関係をつくっていくためのさまざまな視点やスキルを知り、どのようにケアの実践にかかしていくことができるかを考えることができる。
授業計画	<p>第1回 人間関係の中の自己と他者、対人関係と役割 【到達目標】 ・人間関係を構成する自己と他者について、私たちが自分自身についての理解や意識をどのようにもち、他者をどのようにとらえているのかを理解することができる。 ・他者との関係形成や、それを維持または崩壊させようとする気持ちについて知ることができる。 【講義形】 講義・演習・振り返り</p> <p>第2回 態度と対人行動、集団と個人 【到達目標】 ・他者に対する態度や行動について理解することができる。 ・私たちがより大きな単位の人間関係、すなわち集団の中におかれたとき、どのような影響を受け、どのように行動するのかを考えることができる。 【講義形態】 講義・演習・振り返り</p> <p>第3回 人間関係をつくる理論と技法 【到達目標】 ・人間関係を形成するための、最も基本的な手段の1つがコミュニケーションであることを理解できる。 ・人間と人間、あるいは人間と社会との間の相互関係という複雑な現象を知ることができる。 【講義形態】 講義・演習・振り返り</p> <p>第4回 カウンセリングの実際 【到達目標】 ・カウンセリング（心理臨床）に関する理論と実践について知ることができる。 【講義形態】 講義・振り返り</p> <p>第5回 演習 【到達目標】 ・グループ内でコンセンサスを得る方法を習得する 【講義携帯】 グループワーク・振り返り</p> <p>第6回 代表的な対人関係の理論と技法 【到達目標】 ・コーチングの理論とスキルを理解することができる。 ・アサーションにの理論とスキルを理解することができる。 【講義形態】 講義・振り返り</p> <p>第7回 保健医療における人間関係 後半：試験 【到達目標】 ・医療現場における人間関係について理解し、考えることができる。 【講義形態】 講義・振り返り</p> <p>第8回 地域をつくる人間関係 【到達目標】 ・人間関係の集合としての地域の力について、理解を深め、考えることができる。 【講義形態】 講義・演習・振り返り</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>①教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、講義で学修した内容をまとめる。合わせて1時間程度。</p> <p>②自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。（各講義で提示する）</p>
教科書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 （医学書院）
参考書	特になし
成績評価	毎回の課題提出による評価
担当教員の基本情報	担当教員名：南波 英和（非常勤講師） オフィスアワー：
備考	この授業は、GoogleClassroomを活用し、オンデマンド形式で実施します
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎—2、○—3、○—4 科目ナンバー：KK-0-MM18-ES-L-Ns/PHN/MW</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
今西 康裕			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>教育目標は、学生が「家族」について理解し、今日の家族の抱える諸課題を整理して、それらを乗り越える適切な方策とはどのようなものかを思索できるようになることである。指導方法としては、まず、家族の基本的な形態や機能を確認し、またそれらを時代・国際比較すること等により、家族の多様性を説明する。その上で、現代の日本社会における家族の形態や機能の特徴をあらためて教示するとともに、日本の家族が抱えている諸課題とその解決策について考察を加える。</p>
授業計画	<p>第1回 これからの本講義についてのガイダンス [到達目標] これからの本講義の概要・概略を理解する。 [備考] 家族について、どのような学びを展開していきたいか、各自希望を表明できるように準備しておく。</p> <p>第2回 家族とは何か [到達目標] 家族について、その本質や概要を理解する。 [備考] 例えば、家族という社会集団を他の集団と比較し、家族の持つ独自性や特徴・特質を整理しておく。</p> <p>第3回 家族の機能 [到達目標] 家族の有する様々な機能について理解する。 [備考] 自らの家族を例に、家族集団がその成員に果たす多様な役割について考察を深め、その結果を整理しておく。</p> <p>第4回 家族の多様性 [到達目標] 家族は、地域（国）によって時代によって多様であることを理解する。 [備考] 他国の、あるいは他の時代の家族について、聞き取りや文書などの資料をもとに理解を深めておく。</p> <p>第5回 現代の家族形態としての核家族 [到達目標] 現代の核家族化の背景やその必然性について理解する。 [備考] 資料等をあらかじめ熟読し、核家族とはどのような家族形態か、また核家族化の進行の事由について確認しておく。</p> <p>第6回 現代人の恋愛観・家族観 [到達目標] 現代を生きる人々の家族観やその前提ともいえるべき恋愛観について探る。 [備考] 各自の恋愛観・家族観について、口頭あるいは文書での報告が可能ないように考えや思い、意見等をまとめておく。</p> <p>第7回 現代家族をめぐる諸問題 [到達目標] 幼児虐待やDVなど、現代家族をめぐる諸問題の背景や原因等について正しく理解する。 [備考] 書物や新聞記事等にあたり、現代の家族にかかわる諸問題について見識を広げ、これらに関する私見が述べられるようにしておく。</p> <p>第8回 まとめ（評価含む） [到達目標] 現代の社会や家族の状況を踏まえて、今後家族はどのように変化していくのか、よりの確かな把握に努める。 [備考] 現代の多様な家族状況の断面をできる限り多く抽出し、それが将来のどのような変化につながるのか、その因果関係を明らかにしておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>新聞等の「家族」に関する連載やコラム等に興味・関心をもち、それらに目を通しておくようにしてほしい。また、それらについての意見や感想をまさに家族で話し合う機会をもつことが望ましい。</p>
教科書	特になし
参考書	必要に応じて講義の中で適宜紹介する。
成績評価	受講姿勢や日々の提出物（小コメント等）等の平常点40%、試験点60%で総合的に評価する。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 今西 康裕 (非常勤講師) 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-2, ○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
扇田 千代、大山 由紀子、西野入 則江、篠原 百合子			
配当学科：看護学科	時間数：60時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	<p>1) 看護者が提供する診療に関わる技術について、根拠及び倫理的・法的側面を踏まえて、知識を深める事が出来る</p> <p>2) 「治療や検査に伴う援助」における技術・態度を修得する事が出来る</p> <p>3) 科学的根拠や安全性、効率性、裕子政などの視点と同時に、クリティカルシンキングの視点を身につけ、援助技術を探究する事が出来る</p>
授業計画	<p>第1.2.3回 概論・安全を守る技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアの場面における安全を脅かす要因について述べる事が出来る ・安全を脅かす要因を排除する方法について述べる事が出来る ・医療事故・医療過誤の意味を理解し、その方策について述べる事が出来る ・主な医療事故（転倒・転落・外傷・チューブ・ライントラブル・誤薬・誤嚥・窒息・放射線・薬剤暴露）の定義と要因、対策について述べる事が出来る <p>【授業形態】 講義+対話+シミュレーション</p> <p>第4.5.6回 感染予防を推進する技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の意義を理解し、さまざまな感染予防行動を原理・原則に沿って実行できる ・感染予防の為に組織作りと感染発症時の対応の基本知識を習得する ・清潔・不潔の概念に基づき、滅菌操作介助が出来る <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第7・8・9回 排泄を促す技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の排泄（排尿・排便に関するメカニズム、意義）を理解し、患者が健康的な生活を送る為に必要な援助方法を習得する <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第10.11.12回 呼吸循環を楽にする技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸の生理的メカニズムを理解し、呼吸困難を軽減する援助方法を学習する ・呼吸に関するニーズをアセスメントし、適切な援助方法を理解する ・効果的効率的なケアの方法を習得する ・実施したケアを評価する方法を学習する <p>【授業形態】 講義++演習+対話</p> <p>第13.14.15回 検査・治療を安全かつ正確に行う技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査・治療の意義及び検査・治療における看護者の役割を述べる事が出来る ・検査・治療の種類と実施時の注意点を理解できる ・検査・治療実施時の介助方法を習得する ・ME機器の取り扱いとモニタリング方法を習得する <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第16.17.18回 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬（薬物療法）・輸血について、その目的・用途・方法を理解する ・与薬・輸血の為に法的根拠を述べる事が出来る ・与薬・輸血に関わる安全管理のあり方について述べる事が出来る ・点滴作成・筋肉注射・静脈採血が安全に実施できる <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第19.20.21回 危篤・終末時における技術・健康学習支援</p>

	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の死に対する考え方、受け止め方を見つめることにより、人にとっての生と死を考えるきっかけとする ・死を迎える患者と家族の様々なニーズを知り、危篤・終末時における援助を理解する ・終末を迎えた後の故人、遺族への援助について理解する ・看護における健康学習支援の目的を理解し、効果的なアプローチ方法を学習する ・カウンセリングの定義及びプロセスを理解できる ・看護におけるカウンセリングの意義を理解できる ・看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴を理解できる ・看護に活用されるカウンセリング技法と実施時の留意点を理解できる <p>第22. 23. 24回</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話 救急救命処置を行う技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の生命の安全を確保するために、救命の連鎖の重要性を理解し、一時救命処置（BLS）に関する知識と技術を習得する <p>第25. 26. 27回</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話 皮膚・創傷を管理する技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の構造と機能、創傷の治癒過程を述べる事が出来る ・創傷を管理する知識と技術を理解し、実践できる <p>第28. 29. 30回</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話 まとめ・終講試験</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護援助論Ⅲで学んだことのまとめができる ・筆記試験において60点以上を取得できる <p>【授業形態】 筆記試験</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、治療的看護技術の習得となるため、解剖学・生理学・薬理学・免疫学の知識の復習をして講義に臨むこと（予習時間60分） ・各技術は、感染や与薬といった一つ一つの技術が患者の生命を脅かしかねないため、自己学習をしっかりと行い確実な技術をマスターすること ・各技術は、事例に基づく援助計画が実施できるような演習を行うため、看護過程論の知識を連動させること ・技術の自己学習（練習）のために、実習室は9:30～17:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること ・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする ・外部講師による講義がある為、予定回の変更あり
<p>教科書</p>	<p>1) 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術」 メディカ出版 2) 「看護が見える①基礎看護技術」 メディックメディア 3) 「看護が見える②基礎看護技術」 メディックメディア</p>
<p>参考書</p>	<p>「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院</p>
<p>成績評価</p>	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。提出期限を過ぎた物は受け付けない。 演習のみの参加は認めない</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館7階711研究室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大山由紀子 研究室 : 10号館8階80Ⅲ研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p>
<p>備考</p>	<p>①大阪急性期総合医療センターにおいて救命救急センター、ICU、CCU、SCU、NICUに勤務後感染管理認定看護師として院内感染対策に従事。30年以上にわたる豊富な臨床経験で、学生の指導にあたる。</p> <p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎-5 ○-1 ○-2 ③科目ナンバー：KK-2-NSc4-RS-S-1 ④Googleクラスルーム活用</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
大山 由紀子、扇田 千代、西野入 則江			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護過程の概念、系統的思考プロセス、看護過程の展開、看護診断について学ぶ</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の概念が理解できる 2) 系統的思考プロセスの各段階とその相互関係について理解できる 3) 演習を通して、看護過程の展開方法について具体的に理解し展開できる 4) 看護診断について概要が理解できる
授業計画	<p>1回目 導入／オリエンテーション 看護過程概論</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程を学ぶにあたってその意義がわかる ・看護過程の歴史について理解できる ・看護過程とは何かがわかる ・看護過程と問題解決技法 看護過程とクリティカルシンキング <p>【授業形態】 講義+ディスカッション 【予習課題】 テキストp14～20を読む</p> <p>2回目 看護過程 概論</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の概要・構造（各段階）がわかる ・看護過程と代表的な看護理論の関連が説明できる ・ゴードン ヘンダーソン オレム ロイ <p>【授業形態】 講義 【予習課題】 テキストp26～29までを読み要点をまとめる</p> <p>3回目 アセスメント</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントとは何かがわかる ・情報収集の方法と情報の種類が理解できる ・S情報／O情報がわかる ・情報収集の枠組み 看護理論との関係 ・事例紹介 <p>【授業形態】 講義+アクティブラーニング（演習） アクティブラーニング有 【予習課題】 テキスト p 26～36を読み要点をまとめる</p> <p>4回目 アセスメント</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントとは何かがわかる ・事例に基づいて情報分類ができる ・S情報／O情報がわかる <p>【授業形態】 講義+アクティブラーニング ドメイン1.2についてグループワーク 【予習課題】 事例の情報をドメイン1.2について分類し提出する</p> <p>5回目 アセスメント</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の分析と解釈について理解できる ・情報の分析と整理 推論 ・焦点アセスメントの理解ができる ・仮の看護問題の特定 <p>【授業形態】 講義+アクティブラーニング 【予習課題】 事例の情報を13のドメインに分類し提出する</p> <p>6回目 看護診断</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護診断の意義と目的、概要が説明できる ・NANDA-Iについて説明できる ・看護診断の定義と分類が説明できる ・NANDA-I分類法Ⅱと類について説明できる <p>【授業形態】 講義 【予習課題】 テキストp20～25を読んで要点をまとめる</p> <p>7回目 アセスメント</p> <p>到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の分析と解釈について理解できる ・事例に基づいて情報の分析と整理 推論ができる ・焦点アセスメントの理解ができる ・仮の看護問題の特定 <p>【授業形態】 講義+アクティブラーニング グループワーク 【予習課題】 テキストp36～39を読み要点をまとめる</p>

	<p>8回目 アセスメント 到達目標】 ・情報の分析と解釈について理解できる ・事例に基づいて情報の分析と整理 推論ができる ・焦点アセスメントの理解ができる ・仮の看護問題の特定 【授業形態】 講義+アクティブラーニング ①グループごとにアセスメントを白板に記入 ②ドメインごとにグループ発表 ③質疑応答</p> <p>【予習課題】 事例に基づきアセスメントを提出する</p> <p>9回目 アセスメント 到達目標】 ・関連図とは何かが説明できる ・関連図を描くことができる ・看護問題の優先順位が理解できる 【授業形態】 講義+アクティブラーニング</p> <p>10回目 アセスメント 到達目標】 ・事例に基づいて関連図が作成できる ・看護問題の優先順位が理解できる 【授業形態】 講義+アクティブラーニング グループワーク</p> <p>【予習課題】 関連図を提出する</p> <p>11回目 アセスメント 到達目標】 ・事例に基づいて関連図が作成できる ・看護問題の優先順位が理解できる 【授業形態】 講義+アクティブラーニング ①関連図を白板に記入(30分) ②グループ発表</p> <p>【予習課題】 関連図を提出する</p> <p>12回目 計画 【到達目標】 ・看護計画の立案方法が説明できる ・事例に基づいて看護目標が立案できる ・観察計画(OP) ケア計画(TP) 教育計画(EP) について説明できる ・長期目標と短期目標 【授業形態】 講義+アクティブラーニング 【予習課題】 テキストp39～44を読み要点をまとめる</p> <p>13回目 計画 到達目標】 ・具体的で個別的な計画とは何かがわかる ・事例に基づいて個別的な計画が立案できる 【授業形態】 講義+アクティブラーニング グループワーク</p> <p>【予習課題】 看護計画を提出する</p> <p>14回目 実施/評価 【到達目標】 ・計画の実施及び評価について説明できる ・実施及び評価の方法がわかる ・看護記録について理解できる ・看護記録の法的規定 目的と意義看護記録の構成要素 記載基準 【授業形態】 講義形式+演習 【予習課題】 テキスト45～47を読み要点をまとめる</p> <p>15回目 まとめ 終講試験 到達目標】 ・看護過程論で学んだことのまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる 【授業形態】 筆記試験</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	看護過程は看護師として必要な基本的な思考過程を学ぶ科目である。したがって、看護過程を理解できないと、看護師としてはもとよりそれ以前に基礎看護学実習において看護を展開することができない。各自が積極的に授業に参加し看護過程をしっかりと理解することがとても重要となる。各授業のタイトルに合わせて予習(60分)、復習(60分)を行う事。 看護過程を十分理解するために事例展開を行うので、適宜レポートの提出を求める。
教科書	1) 「基礎看護技術 I 基礎看護学②」メジカルフレンド 2) 「NANDA-I看護診断 定義と分類」医学書院 3) 「疾患別 看護過程の展開」学研 4) 「看護過程に沿った 対症看護 病態生理と看護のポイント」学研
参考書	1) 「はじめて学ぶ看護過程」医学書院 2) 「看護過程展開ガイド」任和子 照林社 3) 「看護学生のためのプチナース・ブックス 自分で描ける 病態関連図」山岸節子編集 照林社 4) 「エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規 5) 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規 6) 「看護学生のための疾患別看護過程(1, 2巻)」メジカルフレンド社

成績評価	講義には全出席することを要件とし、課題レポートの提出状況と内容を20%、筆記試験を80%で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 大山由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義後に相談すること</p> <p>担当教員 : 扇田千代 研究室 : 10号館 7階 711号室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p>
備考	看護専門学校での教育経験と病院での実務経験をもとに看護過程論の授業と演習を行う
	授業とDPとの関連 : 「◎-2」「○-4」 科目ナンバー : KK-2-NSc5-RS-S-1
	グーグルクラスルームを活用する

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
扇田 千代、大山 由紀子、西野入 則江、篠原 百合子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>1) ヘルスアセスメントの意義及び必要性を説明できる</p> <p>2) 人間を身体的・心理的・社会側面的にとらえる重要性を説明できる</p> <p>3) 身体的情報を得るための基本的技術を用い、フィジカルアセスメントが実施できる</p> <p>4) 身体的・心理的・社会的に統合している対象者のヘルスアセスメントを行う上で、個人情報保護を念頭に置いた倫理的配慮、礼節、態度を順守できる</p>
授業計画	<p>第1回 ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの概念</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・フィジカルアセスメントを学習する意義が理解できる</p> <p> ・看護過程の一領域であることを意識する</p> <p> ・人間を身体・心理・社会的存在としてとらえる重要性を認識する</p> <p> 【授業形態】 講義+対話</p> <p>第2回 呼吸系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・呼吸器系の構造と機能について説明出来る</p> <p> ・呼吸器系のアセスメントが的確に実施できる</p> <p> ・呼吸器系のアセスメント結果を記録できる</p> <p> ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる</p> <p> 【授業形態】 講義+対話</p> <p>第3回 呼吸系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる</p> <p> 【授業形態】 演習+対話</p> <p>第4回 循環器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・心・血管系のアセスメントの視点を説明できる</p> <p> ・心・血管系のアセスメントが的確に実施できる</p> <p> ・心・血管系のアセスメント結果を記録できる</p> <p> ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる</p> <p> 【授業形態】 講義+対話</p> <p>第5回 循環器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・心・血管系のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる</p> <p> 【授業形態】 演習+対話</p> <p>第6回 消化器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・腹部臓器の解剖生理が理解できる</p> <p> ・腹部のアセスメントが、問診→視診→聴診→打診→触診を通して系統立てて行える</p> <p> ・腹部のアセスメント内容（所見）を記録できる</p> <p> ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる</p> <p> 【授業形態】 講義+対話</p> <p>第7回 消化器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・腹部のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる</p> <p> 【授業形態】 演習+対話</p> <p>第8回 脳神経系・感覚器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・神経系・感覚器系の名称・構造および機能を理解できる</p> <p> ・脳神経・感覚器系のアセスメントの意味を理解できる</p> <p> ・神経系・感覚器系のアセスメントが実施できる</p> <p> ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる</p>

	<p>第9回 【授業形態】 講義+対話 脳神経系・感覚器系のヘルスアセスメント 【到達目標】 ・脳神経系・感覚器系のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる</p> <p>第10回 【授業形態】 演習+対話 筋・骨格系のヘルスアセスメント 【到達目標】 ・筋・骨格系の解剖生理が理解できる ・関節の機能や可動域及び筋力を系統的にアセスメントできる ・筋・骨格系のアセスメント内容（所見）を記録できる ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる</p> <p>第11回 【授業形態】 講義+対話 筋・骨格系のヘルスアセスメント 【到達目標】 ・筋・骨格系（関節可動域）のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる ・アセスメントツールを用いて結果を正しく判断・評価できる</p> <p>第12回 【授業形態】 演習+対話 心理的側面のアセスメント 【到達目標】 ・心理的側面のアセスメントの重要性を理解できる ・心理的側面のアセスメントの方法について理解できる ・心理的側面のアセスメントの結果を記録できる</p> <p>第13回 【授業形態】 講義+対話 心理的側面のアセスメント 【到達目標】 ・心理的側面のアセスメントを実施・習得できる ・アセスメントの結果を正しく記録できる</p> <p>第14回 【授業形態】 演習+対話 まとめ+試験 【到達目標】 ・ヘルスアセスメントⅡで学んだことのまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる</p> <p>【授業形態】 講義+筆記試験</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<p>・ヘルスアセスメントⅠ、人体の機能と構造・生理学等の基礎知識がないと全身を系統的にアセスメントすることができないので、事前学習として必要な知識を予習して授業に臨むこと。特に人体の部位と名称、その機能が分からないと演習が実施できないため、十分に学習しておくこと（予習時間60分）</p> <p>・技術の自己学習（練習）のために、実習室は9:30～17:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること</p> <p>・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする</p>
<p>教科書</p>	<p>1) 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術」 メディカ出版 2) 「看護がみえる①基礎看護技術」 メディックメディア 3) 「看護がみえる②臨床看護技術」 メディックメディア</p>
<p>参考書</p>	<p>1) 「看護技術プラクティス」学研 2) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院</p>
<p>成績評価</p>	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館 7階 711研究室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p>
<p>備考</p>	<p>①大阪急性期総合医療センターにおいて救命救急センター、ICU、CCU、SCU、NICUに勤務後感染管理認定看護師として院内感染対策に従事。30年以上にわたる豊富な臨床経験で、学生の指導にあたる</p>

	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-2, ○-1, ○-4 ③科目ナンバー：KK-2-NSc7-RS-S-1 ④Googleクラスルーム活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
扇田 千代、大山 由紀子、西野入 則江、篠原 百合子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	
添付ファイル			

授業目標	ヘルスアセスメントⅠ・Ⅱを通して、臨床判断能力に必要な基礎的能力強化のため、系統別に設定した事例からシミュレーション演習により多方面から患者をアセスメントする事で、問題点を見出し、患者に必要な援助が計画出来る
授業計画	<p>第1回 情報収集 【到達目標】 電子カルテ及び、患者を通じて13のドメインに必要な情報を収集する事が出来る</p> <p>第2回 アセスメント 【到達目標】 ドメインに記載した情報が患者にどのような影響を及ぼすのかをアセスメントする事が出来る</p> <p>第3回 関連図作成 【到達目標】 アセスメントした事を基に、関連図を作成し、患者の療養生活を脅かす問題点を明らかにすることが出来る</p> <p>第4回 関連図作成 【到達目標】 アセスメントした事を基に、関連図を作成し、患者の療養生活を脅かす問題点を明らかにすることが出来る</p> <p>第5回 看護計画作成 【到達目標】 関連図で明らかになった問題点に対し、患者に合った看護計画が作成できる</p> <p>第6回 プレゼンテーション 【到達目標】 関連図からどのように問題点を導き出したか、それに対してどのような看護計画を作成したのかを単刀直入にプレゼンテーションできる</p> <p>第7回 プレゼンテーション 【到達目標】 関連図からどのように問題点を導き出したか、それに対してどのような看護計画を作成したのかを単刀直入にプレゼンテーションできる</p> <p>第8回 終講試験 60点以上で合格</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	看護過程論、ヘルスアセスメントⅠ・Ⅱの資料復習及び解剖・生理学の復習を授業までにしておく事
教科書	1) 「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」メジカルフレンド 2) 「NANDA-I看護診断 定義と分類」医学書院
参考書	3) 「疾患別 看護過程の展開」学研 4) 「看護過程に沿った 対症看護 病態生理と看護のポイント」学研
成績評価	全出席を要件とし、課題、学修態度等を加点対象とする。また筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館7階711研究室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大山由紀子 研究室 : 10号館8階80Ⅲ研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p>
備考	<p>①大阪急性期総合医療センターにおいて救命救急センター、ICU、CCU、SCU、NICUに勤務後感染管理認定看護師として院 内感染対策に従事。30年以上にわたる豊富な臨床経験で、学生の指導にあたる</p> <p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」○-2, ○-1, ○-5 ③科目ナンバー：KK-2-NSc8-RS-S-1 ④Googleクラスルーム活④</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
今井 理香, 篠村安武			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義+課題解決型学習	
添付ファイル			

授業目標	<p>急性期，特に周手術期にある対象及び家族に対して，手術後の回復過程促進のための看護援助に必要な基礎的知識を理解することを目的とする。</p> <p>1) 周手術期にある対象，家族の身体的・社会的・心理的特徴について説明することができる。</p> <p>2) 手術前にある対象の身体的・心理社会的準備及び家族への支援について説明できる。</p> <p>3) 全身麻酔で手術を受ける対象の安全・安楽のための援助について説明できる。</p> <p>4) 手術・麻酔侵襲を受けた対象の術後合併症を含めた身体観察，苦痛軽減への援助について説明できる。</p> <p>5) 術後回復の障害となる術後合併症とその予防的看護について説明できる。</p> <p>6) 手術を受けた対象の回復過程促進のための援助について説明できる。</p> <p>7) 手術を受ける高齢者の看護について説明できる。</p> <p>8) 生命の危機的状態にある対象の看護について説明できる。</p>
授業計画	<p>1回 急性期・周手術期の概要 [到達目標]急性期（周手術期）にある対象とそ家族の特徴と看護の役割が理解できる。 [授業形態]講義+GW [備考]急性期（周手術期）にある患者の特徴とその援助について事前学習が重要となる。提示された講義前課題で自己学習を行い，講義時に配布された講義資料を完成させる。 1回目講義事前課題「臨床外科看護総論」202～225P，「周手術期看護論」4～50Pを熟読しておくこと。 2回目講義事前課題「臨床外科看護総論」228～259P，「周手術期看護論」78～100Pを熟読し，手術前看護について調べておくこと。</p> <p>2回 手術前の看護 [到達目標]手術に向けての身体・心理社会的準備と援助方法が理解できる。 [授業形態]講義+DVD [備考]インフォームドコンセント，術前検査，術前評価，術前オリエンテーション，手術前日・当日の援助について術前カレンダーにまとめる。 次回講義事前課題「臨床外科看護総論」262～304P，「周手術期看護論」101～128Pを熟読し，手術中の看護について調べておくこと。 「術前カレンダー」の課題提出期限は講義中に提示する。</p> <p>3回 手術中の看護 [到達目標]全身麻酔で手術を受ける対象の看護と手術室看護師の役割が理解できる。 [授業形態]講義+DVD [備考]手術室の環境と特徴，全身麻酔，手術室看護師の役割について自己学習した内容から講義資料を完成させる。 次回講義事前課題「臨床外科看護総論」13～21P，306～324P，「周手術期看護論」129～138Pを熟読し，手術侵襲に伴う生体反応，帰室直後の観察の視点と看護について調べておくこと。</p> <p>4回 手術直後の看護 [到達目標]手術直後の対象の受け入れ方法，観察の視点，看護について理解できる。 [授業形態]講義+DVD [備考]手術侵襲に伴う生体反応，帰室直後の観察の視点と看護について自己学習した内容から講義資料を完成させる。 次回講義事前課題「術後出血」「呼吸器合併症」「循環器合併症」「深部静脈血栓症/肺塞栓症」について課題シートに沿って自己学習しておくこと。</p> <p>5回 術後合併症と看護① [到達目標]術後合併症の発症機序をふまえ，早期発見と予防のための看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]「術後出血」「呼吸器合併症」「循環器合併症」「深部静脈血栓症/肺塞栓症」について自己学習した内容から課題シートを完成させる。 次回講義事前課題「術後イレウス」「術後感染」「縫合不全」「術後せん妄」について課題シートに沿って自己学習しておくこと。</p> <p>6回 術後合併症と看護② [到達目標]術後合併症の発症機序をふまえ，早期発見と予防のための看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]「術後イレウス」「術後感染」「縫合不全」「術後せん妄」について自己学習した内容から課題シートを完成させる。 次回講義事前課題「臨床外科看護総論」343～345P，「周手術期看護論」138～150P，230～261Pを熟読し，術後早期回復のための看護と継続看護について調べておくこと。</p> <p>7回 手術後の看護 [到達目標]手術後1日目からの早期回復のための看護と退院後の継続看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]手術翌日の早期離床を含めた看護，退院後の継続看護について自己学習した内容から講義資料を完成させる。第4回から第7回までの講義において術後看護の経過を「術後カレンダー」にまとめる。</p> <p>8回 課題説明（30分）+中間試験60分</p>

	<p>[到達目標]第1回から第7回までの講義について知識を確認する。 [授業形態]課題説明30分+筆記試験60分 [備考]術後カレンダーの課題について提示する。 次回講義課題 消化器系の解剖・生理, 胃がんの病態生理, 診断, 治療について自己学習を行う。</p> <p>9回 周手術期の患者の看護① 消化器系の手術(開腹術)を受ける患者の看護 [到達目標]消化器系の手術(開腹術)を受ける患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]次回講義課題 胆道系の解剖・生理, 胃がんの病態生理, 診断, 治療について自己学習を行う。</p> <p>10回 周手術期の患者の看護② 腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 [到達目標]腹腔鏡下手術を受ける患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]次回講義課題 乳腺系の解剖・生理, 胃がんの病態生理, 診断, 治療について自己学習を行う。</p> <p>11回 周手術期の患者の看護③ 乳腺系の手術を受ける患者の看護 [到達目標]乳腺系の手術を受ける患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]次回講義課題 運動器系の解剖・生理, 胃がんの病態生理, 診断, 治療について自己学習を行う。</p> <p>12回 周手術期の患者の看護④ 運動器系の手術を受ける患者の看護 [到達目標]運動器系の手術を受ける患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]次回講義課題「臨床外科看護総論」382～394Pを熟読し, 手術を受ける高齢者の看護について自己学習を行う。</p> <p>13回 手術を受ける高齢者の看護 [到達目標]手術を受ける高齢者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]次回講義課題「臨床外科看護総論」184～199P, 356～380Pを熟読し, 生命の危機的状況にある患者の看護について自己学習を行う。</p> <p>14回 生命の危機的状態にある患者の看護 [到達目標]生命の危機的状態にある患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]次回最終試験に備えて, 疑問・質問等をまとめておく。</p> <p>15回 まとめ(30分)+最終試験(60分) [到達目標]第9回から第14回までの講義について知識を確認する。 [授業形態]課題説明30分+筆記試験60分 [備考]</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	術前・術後カレンダーは課題として授業時間外の学習となる。また, 3年次の領域実習に向けて必要な課題を作成しながらの講義も予定している。 講義内容が多いため, 予習としておかないと講義スピードについていけない。
教科書	1) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 矢永勝彦他 医学書院 2) 周手術期看護論 雄西智恵美他 ヌーベルヒロカワ 3) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 北島政樹他 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学10 運動器 田中栄他 医学書院 5) 成人看護学 成人看護技術 野崎真奈美他 南江堂
参考書	1) 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 第3版 竹内登美子 医歯薬出版株式会社 2) 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版 竹内登美子 医歯薬出版株式会社 3) 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 第3版 竹内登美子 医歯薬出版株式会社 4) 手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 鎌倉やよい他 医学書院 5) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 成人看護学5 消化器 南川雅子他 医学書院
成績評価	出席状況は学生便覧に準ずる。 レポート課題20%, 筆記試験80%ととして総合的に評価する。 課題の提出状況, 授業態度の評価は, 全体の10%を上限として減点方式で行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館8階 805研究室 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定しないが, 必ず事前に連絡をとること。 その他 : 急性期病院で臨床看護師として外科系では脳神経外科, デイサージャリー診療部, 内科系では血液内科, 消化器内科での経験あり。 急性期担当教員歴10年</p> <p>担当教員名 : 篠村安武 研究室 : 未定 メールアドレス : 未定 オフィスアワー : 特に指定しないが, 必ず事前に連絡をとること。 その他 : 急性期病院での実務経験あり</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-1, 2, ○-4 科目ナンバー: KK-2-NSc11-RS-L-1
	出席確認について: 講義開始時に出席確認票を配布, また講義終了5分前にリアクションペーパーを配布し, 質問を記載する時間を設ける。それらの提出をもって最終的に出席を確認する。提出がなければその場にいたとしても欠席とみなす。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
今井 理香、篠村安武			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習（課題解決型学習）	
添付ファイル			

授業目標	急性期看護援助論Ⅰ及び疾病治療論などの既習の知識を基盤に、周手術期にある対象およびその家族に対する看護実践に必要な基本的知識と技術を習得することを目的とする。 1) 看護過程を通して、周手術期または生命危機状態にある対象の全体像を捉えることができる。 2) 看護過程を通して、術後の対象に応じた看護実践について考えることができる。 3) 周手術期に必要な看護技術が習得できる。
授業計画	<p>第1回 看護過程の展開①：疾患の理解 [到達目標] 提示された事例の疾患，治療，看護について知識を整理し説明することができる。 [授業形態] 課題解決型学習 [備考] 事例対象の「疾患の理解」課題を完成させる。講義内で完成しない場合は，次講義までに授業外学習として完成させ，第2回講義終了時に提出する。</p> <p>第2回 看護過程の展開②：NANDA-Iの領域について [到達目標] 看護過程，NANDA-Iの13の各領域について周手術期にある対象のアセスメントのための視点が理解できる。 [授業形態] 講義 [備考] 看護過程，NANDA-Iについて既習の知識の復習になる。</p> <p>第3回 看護過程の展開③情報整理と分析：領域1；ヘルスプロモーション [到達目標] 看護過程展開事例の情報を領域1のアセスメントの視点に基づき整理することができる。 [授業形態] 講義+課題解決型学習 [備考] 「疾患の理解」を返却する。領域1についての情報整理を完成させる。講義内で完成しない場合は，授業外学習とし，第4回講義開始時に提出する。</p> <p>第4回 周手術期に必要な看護技術①：手術直後の観察とアセスメント [到達目標] 手術直後の対象の全身観察のために必要な観察項目を挙げ，観察の結果から身体的アセスメントをすることができる。 [授業形態] 講義+課題解決型学習 [備考] 看護過程展開事例の情報から，手術直後の対象の状態を図示し，全身観察のための項目を挙げ，アセスメントを行う。講義内で完成しない場合は，授業外学習とし第5回講義開始時に提出する。急性期看護援助論Ⅰ「手術直後の看護」講義資料を持参すること。</p> <p>第5回 看護過程の展開④情報整理と分析：領域4；活動/休息，領域11；安全/防御 [到達目標] 看護過程展開事例の情報を領域4，領域11のアセスメントの視点に基づき整理することができる。 [授業形態] 講義+課題解決型学習 [備考] 前回の課題を返却する。領域4，11についての情報整理を完成させる。講義内で完成しない場合は，授業外学習とし，第6回講義開始時に提出する。</p> <p>第6回 看護過程の展開⑤情報の整理と分析：領域2；栄養，領域3；排泄と交換 [到達目標] 看護過程展開事例の情報を領域3，領域4のアセスメントの視点に基づき整理することができる。 [授業形態] 講義+課題解決型学習 [備考] 前回の課題を返却する。領域2，3についての情報整理を完成させる。講義内で完成しない場合は，授業外学習とし，第7回講義開始時に提出する。</p> <p>第7回 看護過程の展開⑥情報整理と分析：領域5；知覚/認知，領域6；自己知覚，領域12；安楽 [到達目標] 看護過程展開事例の情報を領域5，領域6，領域12のアセスメントの視点に基づき整理することができる。 [授業形態] 講義+課題解決型学習 [備考] 前回の課題を返却する。領域5，6，12についての情報整理を完成させる。講義内で完成しない場合は，授業外学習とし，8回講義開始時に提出する。</p> <p>第8回 看護過程の展開⑦：情報整理と分析：領域7；役割/関係，領域8；セクシュアリティ，領域13成長/発達 [到達目標] 看護過程展開事例の情報を領域7，領域8，領域13のアセスメントの視点に基づき整理することができる。 [授業形態] 講義+課題解決型学習 [備考] 前回の課題を返却する。領域4，8，13についての情報整理を完成させる。講義内で完成しない場合は，授業外学習とし第9回講義開始時に提出する。</p> <p>第9回 看護過程の展開⑧：情報整理と分析：領域9；コーピング/ストレス反応，10；生活原理 [到達目標] 看護過程展開事例の情報を領域9，領域10のアセスメントの視点に基づき整理することができる。 [授業形態] 講義+課題解決型学習</p>

	<p>[備考]前回の課題を返却する。 領域9, 10についての情報整理を完成させる。講義内で完成しない場合は、授業外学習とし、10回講義終了時に提出する。</p> <p>第10回 看護過程の展開⑨：情報整理と分析に基づく関連図 [到達目標]看護展開事例の関連図を作成し、対象の全体像を記述することができる。 [授業形態]講義+課題解決型学習</p> <p>[備考]前回の課題返却する。 「情報整理/分析」から手術後の対象の回復過程をふまえて関連図の記載方法に沿って関連図を完成させる。講義内で完成しない場合は、授業外学習とし第11回講義終了時に提出する。</p> <p>第11回 看護過程の展開⑩：関連図から導き出す健康上の問題/看護上の問題と看護診断 [到達目標]関連図から、優先順位をふまえて看護上の問題を抽出し看護診断を行うことができる。 [授業形態]講義+課題解決型学習</p> <p>[備考]関連図から、健康上の問題、看護上の問題を抽出し優先順位をふまえて看護上の問題に看護診断を行う。 講義内で完成しない場合は授業外学習とし、第12回講義終了後に提出する。</p> <p>第12回 看護過程の展開⑪：看護診断に基づく看護計画立案 [到達目標]看護診断に基づき実践可能な看護計画を立案することができる。 [授業形態]講義+課題解決型学習</p> <p>[備考]患者中心の看護目標、実践可能なO-P, C-P, E-Pを立案する。 講義内で完成しない場合は授業外学習とし、第13回講義開始時に提出する。</p> <p>第13回 周手術期に必要な看護技術②：手術翌日の看護；早期離床 [到達目標]看護過程展開事例対象の手術翌日の情報から離床計画を立案することができる。 [授業形態]講義+グループワーク</p> <p>[備考]第14, 15回技術演習のための離床計画をグループで作成する。講義内で完成しない場合は、授業外学習として、第14回講義前日に提出する。</p> <p>第14回 周手術期に必要な看護技術③：手術翌日の看護；早期離床 [到達目標]看護展開事例対象の手術翌日の離床を計画に基づき実践し、適宜計画の評価修正ができる。 [授業形態]シミュレーションに基づく演習</p> <p>[備考]グループ毎に模擬患者を対象に計画の実践を行う。 演習後の課題レポートは、提示されて期日内に提出する。 第14回と第15回は2コマ続きで行う。</p> <p>第15回 周手術期に必要な看護技術④：手術翌日の看護；早期離床 [到達目標]看護展開事例対象の手術翌日の離床を計画に基づき実践し、適宜計画の評価修正ができる。 [授業形態]シミュレーションに基づく演習</p> <p>[備考]グループ毎に模擬患者を対象に計画の実践を行う。 演習後の課題レポートは、提示されて期日内に提出する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事例に基づく看護過程課題については、授業内で提出できない場合は授業時間外の学習となる。 技術演習後の課題については、授業時間外学習となる。
教科書	1) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 矢永勝彦他 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 北島政樹他 医学書院 3) 周手術期看護論 雄西智恵美他 ヌーベルヒロカワ 4) 成人看護学 成人看護技術 野崎真奈美他 南江堂 5) NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 原著第12版 T.ヘザー・ハードマン他 医学書院
参考書	1) イラスト看護診断 古橋洋子(編) 医学書院 2) NEW実践!看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版 古橋洋子(著・編) 学研 3) これなら使える看護介入 厳選47NANDA-I看護診断への看護介入 第2版 江川隆子 医学書院
成績評価	事例に基づく看護過程においては、講義内で提示される課題を評価対象とする。 技術演習においては、演習後のレポート課題を評価対象とする。 課題の提出状況、授業態度の評価は、全体の10%を上限とし減点方式で行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館8階 805研究室 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定しないが、必ず事前に連絡をとること。 その他 : 急性期病院で臨床看護師として外科系では脳神経外科、デイサージャリー診療部、内科系では血液内科、消化器内科での経験あり。 急性期担当教員歴10年</p> <p>担当教員名 : 篠村安武 研究室 : 未定 メールアドレス : 未定 オフィスアワー : 特に指定しないが、必ず事前に連絡をとること。 その他 : 急性期病院での実務経験あり</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-2, ○-4, 5 科目ナンバー: KK-2-NSc12-RS-L-1
	出席確認について: 講義開始時に出席確認票を配布、その提出をもって最終的に出席を確認する。遅刻した場合は、講義終了後に教員に申し出、出席確認票を提出する。提出がなければその場にいたとしても欠席とみなす。
	本講義は、看護過程の展開を課題解決型学習(アクティブラーニング)として行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
【調整中】			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：オンデマンド	
添付ファイル			

授業目標	1) 慢性に経過する健康障害の特徴および健康障害が生活に与える影響について説明できる。 2) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者とその家族が健康障害を受容し対処していくための看護援助の方法について説明できる。
授業計画	<p>第1回 慢性期看護援助論 I ① 担当：毛利</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患の特徴 慢性疾患における治療の特徴 慢性疾患を有する人を取り巻く療養環境の特徴 慢性疾患を有する人に対する看護の役割 <p>第2回 慢性期看護援助論 I ② 担当：吉岡</p> <ol style="list-style-type: none"> イントロダクション～成人看護学でおさえないこと 成人の特徴～慢性疾患を有する人の特徴 慢性疾患・治療が及ぼす自己概念への影響 慢性疾患を有する人を支える家族の特徴 <p>第3回 慢性期看護援助論 I ③ 担当：吉岡</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患の特徴と看護援助のポイント コンプライアンスからアドヒアランスへ セルフマネジメントの基盤となる主な理論・概念 <ol style="list-style-type: none"> ① 病みの軌跡 ② トランスセオレティカルモデル（自己効力感） ③ 健康信念・健康信念モデル <p>第4回 慢性期看護援助論 I ④ 担当：吉岡</p> <ol style="list-style-type: none"> オレム看護理論～セルフケア理論の理解 症状マネジメントモデル(MSM)/症状マネジメントのための統合的アプローチ(IASM)の理解（紹介） 成人患者への教育的アプローチ <p>第5回 慢性期看護援助論 I ⑤ 担当：毛利</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の社会保障制度 <ul style="list-style-type: none"> 社会資源と社会保障制度 社会保障制度の種類 保健医療福祉制度 <ol style="list-style-type: none"> 医療保険制度 介護保険制度 障害者総合支援法 高齢者の医療の確保に関する法律 老人福祉法 難病に関する制度、取り組み <p>第6回 慢性期看護援助論 I ⑥ 担当：毛利</p> <ol style="list-style-type: none"> チーム医療とは チーム医療の実践 <ul style="list-style-type: none"> *呼吸リハビリテーションにおけるチーム医療の例 *多職種連携についてのDVD 視聴 <p>第7回 慢性期看護援助論 I ⑦ 担当：毛利・吉岡</p> <p>看護師国家試験問題から慢性期看護学の知識を学ぶ 看護師国家試験過去問題・予想問題から慢性期看護学の知識を学ぶ</p> <p>第8回 定期試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	「授業計画」を参照して下さい。
教科書	①成人看護学 慢性期看護―病気とともに生活する人を支える― 鈴木久美編集 南江堂 ②ナーシングキャンパス 年間購読(4月～3月) 学研
参考書	適宜紹介します。
成績評価	オンデマンド講義の動画を視聴後、URLにログインして出席確認を行う。 最終講義で対面での本試験を実施する。
担当教員の基本情報	毛利貴子先生 京都府立医科大学大学院保健看護学研究科 老年・在宅看護学 看護実践キャリア開発センターに所属しており、実践経験に基づいて講義を行う。 吉岡さゆり先生 京都府立医科大学大学院保健看護学研究科 老年・在宅看護学 看護実践キャリア開発センターに所属してお

	り、実践経験に基づいて講義を行う。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
今井 理香、中谷 弘美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義+演習（課題解決型学習）	
添付ファイル			

授業目標	<p>慢性的な健康障害を有し、病とともに生きる対象およびその家族の療養生活支援のための看護実践に必要な基本的知識と技術を習得することを目的とする。</p> <p>1) 慢性疾患を有する対象の特徴とアセスメントの視点について理解する。</p> <p>2) 慢性疾患を有する対象およびその家族が、健康障害を受容し対処していくための看護援助の方法について理解する。</p> <p>3) 事例の看護過程を通して、慢性期にある対象の全体像を捉えることができる。</p> <p>4) 看護過程を通して、慢性期にある対象及び家族の療養生活支援のための援助について考えることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助 〔到達目標〕呼吸器系の疾患をもつ患者の身体的・心理・社会的特徴，看護アセスメントの視点について理解し，患者・家族への具体的援助について考えることができる。 〔授業形態〕対面講義 〔備考〕教科書250～275Pを熟読し自己学習。講義を参考に資料を完成させる。</p> <p>第2回 循環器系の障害を有する人とその家族への援助 〔到達目標〕循環器系の疾患をもつ患者の身体的・心理・社会的特徴，看護アセスメントの視点について理解し，患者・家族への具体的援助について考えることができる。 〔授業形態〕対面講義 〔備考〕教科書276～317Pを熟読し自己学習。講義を参考に資料を完成させる。</p> <p>第3回 消化器系の障害を有する人とその家族への援助 〔到達目標〕消化器系の疾患をもつ患者の身体的・心理・社会的特徴，看護アセスメントの視点について理解し，患者・家族への具体的援助について考えることができる。 〔授業形態〕対面講義 〔備考〕教科書318～366Pを熟読し自己学習。講義を参考に資料を完成させる。</p> <p>第4回 代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助 〔到達目標〕代謝・内分泌系の疾患をもつ患者の身体的・心理・社会的特徴，看護アセスメントの視点について理解し，患者・家族への具体的援助について考えることができる。 〔授業形態〕対面講義 〔備考〕教科書367～399Pを熟読し自己学習。講義を参考に資料を完成させる。</p> <p>第5回 腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助 〔到達目標〕腎・泌尿器系の疾患をもつ患者の身体的・心理・社会的特徴，看護アセスメントの視点について理解し，患者・家族への具体的援助について考えることができる。 〔授業形態〕対面講義 〔備考〕教科書400～418Pを熟読し自己学習。講義を参考に資料を完成させる。</p> <p>第6回 血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助 〔到達目標〕血液・免疫系の疾患をもつ患者の身体的・心理・社会的特徴，看護アセスメントの視点について理解し，患者・家族への具体的援助について考えることができる。 〔授業形態〕対面講義 〔備考〕教科書419～464Pを熟読し自己学習。講義を参考に資料を完成させる。</p> <p>第7回 脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助 〔到達目標〕脳・神経系の疾患をもつ患者の身体的・心理・社会的特徴，看護アセスメントの視点について理解し，患者・家族への具体的援助について考えることができる。 〔授業形態〕面講義+課題 〔備考〕教科書465～496Pを熟読し自己学習。講義を参考に資料を完成させる。</p> <p>第8回 中間試験（60分） 〔到達目標〕第1回から第7回までの講義について知識を確認する。 〔授業形態〕筆記試験 〔備考〕</p> <p>第9回 看護過程の展開①：事例紹介と患者の理解 〔到達目標〕提示された事例，及び疾患，治療，看護について知識を整理し説明することができる。 〔授業形態〕対面講義+課題 〔備考〕提示事例の「患者の理解」を完成させる。講義内で完成しない場合は，次講義までに授業外学習として完成させ，第10回講義開始時に提出する。</p> <p>第10回 看護過程の展開②：情報の整理と分析① 〔到達目標〕看護過程展開事例の情報を，領域1；ヘルスポモーション，領域2；栄養，領域3；排泄</p>

	と交換，領域4；活動/休息の視点に基づき整理し分析することができる。 〔授業形態〕 課題解決型学習 〔備考〕 提示事例の領域1, 2, 3, 4についての情報整理と分析を完成させる。講義内で完成しない場合は，授業外学習として完成させ指定された期日に提出する。
第11回	看護過程の展開③：情報の整理と分析② 〔到達目標〕 看護過程展開事例の情報を，領域5；知覚/認知，領域6；自己知覚，領域7；役割関係，領域8；セクシュアリティの視点に基づき整理し分析することができる。 〔授業形態〕 課題解決型学習 〔備考〕 提示事例の領域5, 6, 7, 8についての情報整理と分析を完成させる。講義内で完成しない場合は，授業外学習として完成させ指定された期日に提出する。
第12回	看護過程の展開④：情報の整理と分析③ 〔到達目標〕 看護過程展開事例の情報を，領域9；コーピング/ストレス耐性，領域10；生活原理，領域11；安静/防御，領域12；安楽，領域13；成長/発達の視点に基づき整理し分析することができる。 〔授業形態〕 課題解決型学習 〔備考〕 提示事例の領域9, 10, 11, 12, 13についての情報整理と分析を完成させる。講義内で完成しない場合は，授業外学習として完成させ指定された期日に提出する。
第13回	看護過程の展開⑤：情報の整理と分析と関連図（全体像）作成 〔到達目標〕 看護過程展開事例の情報整理と分析から事例患者の全体像を記述することができる。 〔授業形態〕 課題解決型学習 〔備考〕 事例の情報整理と分析から関連図（全体像）を完成させる。講義内で完成しない場合は，次講義までに授業外学習として完成させる。
第14回	看護過程の展開⑥：関連図（全体像）から導く看護診断 〔到達目標〕 看護展開事例において記述した全体像から，健康上の問題及び看護上の問題を抽出し，看護上の問題に対して，看護診断をつけることができる。 〔授業形態〕 課題解決型学習 〔備考〕 情報の整理/分析から関連図を作成し，健康上の問題，看護上の問題を抽出し優先順位を考慮して看護診断を行う。講義内で完成しない場合は授業外学習として完成させる。
第15回	看護過程の展開⑦：看護診断に基づく看護計画の立案 〔到達目標〕 看護診断に基づき，実践可能な看護計画を立案することができる。 〔授業形態〕 課題解決型学習 〔備考〕 患者中心の看護目標，実践可能なO-P, C-P, E-Pを立案する。講義内で完成しない場合は，授業外学習とし，指定された期日以内に提出する。
授業時間外の学習（準備学習等）について	事例に基づく看護過程課題については，授業内で提出できない場合は授業時間外の学習となる
教科書	1) 成人看護学 慢性期看護－病気とともに生活する人々を支える－鈴木久美他 南江堂 2) 成人看護学 成人看護技術 野崎真奈美他 南江堂 3) NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 原著12版 T.ヘザー・ハードマン他 医学書院
参考書	1) イラスト看護診断 古橋洋子（編）医学書院 2) NEW実践！看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版 古橋洋子（著・編）学研 3) これなら使える看護介入 厳選NANDA-I 看護診断への看護介入 第2版 江川隆子 医学書院
成績評価	出席状況は学生便覧に準ずる。 筆記試験70%，看護過程展開課題30%として総合的に評価する。 課題の提出状況，授業態度の評価は全体の10%を上限として減点方式で行う。
担当教員の基本情報	担当教員：今井理香 研究室：10号館8階 805研究室 メールアドレス：r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：特に指定しないが，事前に連絡をとること その他：臨床看護師として，血液内科，消化器内科において，慢性期から終末期にある対象の看護実践の経験あり 看護教員歴10年 担当教員名：中谷弘美 研究室：10号館6階 共同研究室1 メールアドレス：h_nakaya@meiji-u.ac.jp その他：慢性期病棟での看護実践の経験あり
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, 2 ○-4, 5 科目ナンバー：KK-2-NSc14-RS-L-1
	出席確認について：講義開始時に出席確認票を配布，その提出をもって最終的に出席を確認する。遅刻した場合は，講義終了時に教員に申し出，出席確認票を提出する。提出がなければその場において欠席とみなす。
	本講義は，講義と課題解決型学習及びグループワーク（アクティブラーニング）を組み合わせで行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
栗山真由美、的野早苗、建家一美、上岡有里、山本由紀子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義・グループワーク アクティブラーニング	
添付ファイル			

授業目標	<p><目標> 治療に重点が置かれる段階を終えた病気や後遺症をもつ人に対して、医療チームメンバーが連携し、様々な側面から指導や訓練、ケアの提供を行うことで機能回復、社会復帰を目指していることを理解する。また、その中で看護が担う役割、機能について理解する。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション、ICFの概念、ノーマライゼーション等について [到達目標] 保健・医療・福祉、介護や教育、就労支援などの多領域における共通の思考枠組みであるICFの理念について述べることもできる。 対象理解のための理論や概念（ノーマライゼーションなど）を述べることもできる。 [授業形態] 講義・小テスト・振り返り</p> <p>2 生活者としての対象を支える看護 [到達目標] 医療機関・施設における回復過程を支える看護について述べることもできる。 [授業形態] 講義・演習</p> <p>3 障害を持つ人の日常生活体験(事例演習：食べるという生活行動) [到達目標] 事例を通して、障害を持つ人が日常生活で体験していることを述べることもできる。 [授業形態] 演習・グループワーク</p> <p>4 障害を持つ人の日常生活体験(事例演習：動くという生活行動) [到達目標] 事例を通して、障害を持つ人が日常生活で体験していることを述べることもできる。 [授業形態] 演習・グループワーク</p> <p>5 障害を持つ人の日常生活体験(事例演習：ポジショニング、座位訓練等の実践) [到達目標] 事例を通して、ポジショニング、座位訓練の基本的な方法について、演習を行い、実施することもできる。 [授業形態] 講義・演習</p> <p>6 障害を持つ人の日常生活体験(事例演習：高次脳機能という生活行動) [到達目標] 事例を通して障害を持つ人の心理について述べることもできる。 [授業形態] 事例を通して、障害を持つ人が日常生活で体験していることを述べることもできる。 [授業形態] 講義・グループワーク</p> <p>7 医療チームにおける看護の役割 [到達目標] 医療チームの連携について考えることができ、看護の役割を述べることもできる。 [授業形態] 講義・グループワーク</p> <p>8 対象やその家族の生活を支える社会資源 [到達目標] 障害を持つ人の人生の質と支援について考えることもできる。 [授業形態] 講義・グループワーク</p> <p>授業外 「課題レポート」の提示</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> 配布プリントを精読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからない場合は質問して解決すること。 レポートは評価点数となるため、提出期限は厳守のこと。 復習として授業後、資料、テキストの内容を自分なりにノートにまとめなおす(各回70分)。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず講義内容を確認し、授業資料を入手し学習を行う。
教科書	授業時指示あり
参考書	1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤『リハビリテーション看護』 奥宮暁子編(メディカ出版) その他、適時紹介する。
成績評価	総括的評価：課題レポート(60%) 観察的評価：受講態度・出席日数・ノートのとり方まとめ方・グループワークにおける貢献度(40%) 合計100%(100点)とし、60点以上を合格とする。

	再試験は1回のみの実施とする。 授業回数の5分の3以上の出席で単位認定の可否を決定する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 栗山真由美 研究室 : 10号館8階 研究室807 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡のこと 備考 : 臨床現場での実践的看護者（認定看護師）や病院での多職種連携・看護管理業務の実務経験者が授業を進める。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時には着席をしておくこと。 ・レポート等の作成において、引用・参考文献を使用した場合は必ず出典元を記載のこと。 ・レポート等でのコピペなどがあれば、厳重処分の対象とする（場合により単位不認定）。
	この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2、○-4 科目ナンバリング「KK-2-NSc17-RS-L-1」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
栗山 真由美、東 孝至、工藤 大祐、小高 真理子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・グループワーク・演習・アクティブ	
添付ファイル			

授業目標	<p>『目標』 看護の対象で多く関わる高齢者を中心に、加齢に伴う特徴を理解するとともに、老年期に特徴的な疾病や病態を説明することができる 高齢者に特有な日常生活機能の障害と看護援助を通して、自立支援に必要な知識、援助方法を述べるができる</p>
授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション/高齢者看護の基本となる概念・知識 [到達目標] ①老年看護学概論に関する理解度の確認 ②老化と加齢による変化に伴う疾患について説明できる [授業形態]講義・グループワーク・振り返りテスト (準備) シラバスに目を通しておくこと (予習) 関連するページ教科書「高齢者の健康と障害」を読んでおく（定期試験をもとにミニテストを実施） (復習) 課題：関連するレポート作成</p> <p>第2回 回復過程における高齢者の特徴理解 [到達目標] ①高齢者や障害を持つ対象者に関する統計的特徴を知り、これまでの変遷と将来予測まで説明できる ②講義について自分はどのように取り組み、学びたいか説明できる (予習) 関連するページ教科書「高齢者の健康と障害」を読んでおく (復習) 自己の興味や疑問について整理する</p> <p>第3回 [授業形態]講義・グループワーク・発表 対象者のQOL/加齢に伴う変化 [到達目標] ①対象者のQOLとは何かについて理解し、QOLを向上させる関わりについて説明できる ②ライフサイクルにおける老年期・回復期の特徴と課題を説明できる (予習) 関連するページ教科書「高齢者の健康と障害」を読んでおく (復習) 加齢に伴う身体・心理・社会的な特徴を整理する</p> <p>第4回 [授業形態]講義・グループワーク・発表 高齢者を取り巻く社会 [到達目標] ①高齢者や障害者が生活する場と家族の生活の場の特徴について説明できる ②対象者を支える社会制度の全体像、介護保険制度等の概要を説明できる (予習) 関連するページ教科書「高齢者の健康と障害」を読んでおく (復習) 社会制度の全体像を整理する</p> <p>第5回 [授業形態]講義・グループワーク・発表 対象者理解における倫理的課題 [到達目標] ①対象者を理解するための倫理と自己決定支援について説明できる ②様々な状況による安全の考え方（第三者からみた虐待の捉え方）事態と背景、対処方法を考え、説明できる (予習) 関連するページ教科書「高齢者の健康と障害」を読んでおく (復習) グループワークの学びを整理する</p> <p>第6回 [授業形態]グループワーク・発表 知識の整理とまとめ 小テスト 【到達目標】 学びの到達度を確認する [授業形態]講義 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 関連するページ教科書「高齢者の健康と障害」を読んでおく、授業資料ルーパーファイ</p>

	<p>ルの整理 (復習) 課題: 小テストの振り返り・修正</p> <p>第7回 高齢者の生活を支える看護/食生活を支える看護 【到達目標】 ①加齢に伴って生じる食生活の変化に対するアセスメントと健康的な生活のためのセルフケア支援方法を述べることができる</p> <p>【授業形態】講義・一部演習 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 関連するページ教科書「高齢者看護の実践」を読んでおく (復習) 課題: 関連するレポート作成</p> <p>第8回 高齢者の生活を支える看護/排泄を支える看護 【到達目標】 ①加齢に伴って起こりやすい排泄の機能に関する障害のアセスメントとセルフケア支援方法を述べるができる</p> <p>【授業形態】講義 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 関連するページ教科書「高齢者看護の実践」を読んでおく (復習) 課題: 関連するレポート作成</p> <p>第9回 高齢者の生活を支える看護/清潔・衣生活を支える看護 【到達目標】 ①高齢者の清潔・衣生活に関するアセスメントとセルフケア支援方法を述べるができる</p> <p>【授業形態】講義、一部演習 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 関連するページ教科書「高齢者看護の実践」を読んでおく (復習) 課題: 関連するレポート作成</p> <p>第10回 高齢者の生活を支える看護/活動と休息を支える看護 【到達目標】 ①高齢者の活動と休息の特徴を理解し、アセスメントと支援方法を述べるができる</p> <p>【授業形態】講義 一部演習 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 関連するページ教科書「高齢者看護の実践」を読んでおく (復習) 課題: 関連するレポート作成</p> <p>第11回 高齢者の生活を支える看護/歩行・移動を支える看護 【到達目標】 ①ADLに直結する歩行・移動のアセスメントとセルフケア支援方法を述べるができる</p> <p>【授業形態】講義 一部運動指導演習 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 関連するページ教科書「高齢者看護の実践」を読んでおく (復習) 課題: 関連するレポート作成</p> <p>第12回 高齢者の生活を支える看護/呼吸・循環機能障害を支える看護 【到達目標】 ①高齢者に特有の呼吸・循環機能障害やその障害が生活に与える影響を述べるができる ②高齢者の日常生活機能の障害や高齢者に多い疾患について述べるができる</p> <p>【授業形態】講義 一部呼吸指導演習 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 関連するページ教科書「高齢者看護の実践」を読んでおく (復習) 関連するレポート作成</p> <p>第13回 高齢者の生活を支える看護/その他高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護 【到達目標】 ①高齢者に特徴的な(貧血・浮腫・電解質代謝調節などの)種類や要因、看護について述べることができる ②高齢者の日常生活機能の障害や高齢者に多い疾患について述べることができる</p> <p>【授業形態】講義 一部演習 (予習) 関連するページ教科書「高齢者看護の実践」を読んでおく (復習) 関連するレポート作成</p> <p>第14回 【授業形態】講義・グループワーク・発表 高齢者の生活を支える看護/その他高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護 【到達目標】 ①高齢者に特徴的な(貧血・浮腫・電解質代謝調節などの)種類や要因、看護について述べることができる ②高齢者の日常生活機能の障害や高齢者に多い疾患について述べることができる</p> <p>【授業形態】講義 一部演習 グループワーク 発表 (予習) 関連するページ教科書「高齢者看護の実践」を読んでおく (復習) 関連するレポート作成</p> <p>第15回 知識のまとめと整理 (30分) 終講試験 (60分) 【到達目標】 回復期看護援助論 I での学びの到達度を確認する</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	(予習・復習の徹底) 予習: 授業予定の範囲の教科書を読んで授業に臨むこと。事前課題を課すことがある。60分程度 復習: 新しいキーワードや十分理解できなかった内容は復習し次の講義に備えること。課題は授業の進行をふまえてその都度指示する 60分程度
教科書	「老年看護学-①高齢者健康と障害-」堀内ふき著 (メディカ出版) 「老年看護学-②高齢者看護の実践」堀内ふき著 (メディカ出版)

参考書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著（医学書院） 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著（医学書院） 「老年看護せんぶガイド」八島妙子（照林社）
成績評価	定期試験（60％） 観察的評価：受講態度・出席日数・ノートのとり方まとめ方・グループワークにおける貢献度（40％） 合計100％（100点）とし、60点以上を合格とする。 課題レポートおよび提出物等の期限が守られない場合減点とする ☆老年看護学概論で配布したルーパーファイル（ポートフォリオ）を活用するため、指示された方法でまとめておくこと（紛失等は減点対象となる） 再試験は1回のみとする 授業回数5分の3以上の出席で定期試験を受けることができる
担当教員の基本情報	担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること） 担当教員名 : 東孝至 研究室 : 10号館7階研究室709 メールアドレス : t_azuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること）
備考	☆授業開始までに着席しておくこと 看護職として実務経験（総合病院にて地域医療連携、高齢者への運動指導・栄養管理等の経験）を踏まえて講義を行う ◎-2 ○-4 科目ナンバリング「Kk-2-NSc18-RS-S-1」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
栗山 真由美、東 孝至、工藤 大祐、小高 真理子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・グループワーク・演習 アクティブラーニング	
添付ファイル			

授業目標	「目標」 主な症候や症状、また主な疾患に対する回復期看護について理解するとともに、臨床でよく出会う事例をとおして、看護過程を学ぶ
授業計画	<p>第1回 「回復期看護援助論Ⅱ」の位置づけ・高齢者看護実習の基本 [到達目標] ①高齢者および回復期看護過程の特徴、アセスメント、看護過程の展開のポイントを述べるができる (準備) シラバスに目を通しておくこと、回復期看護援助論Ⅰの講義資料およびブルーパーファイル(ポートフォリオ)に目を通しておくこと 【予習】 関連する教科書を読んでおく</p> <p>第2回 [授業形態]講義 ミニテスト 高齢者・回復期のリスクマネジメント [到達目標] ①高齢者・回復期のリスクマネジメントの基本的な考え方を理解し、高齢者特有(転倒・誤嚥・栄養障害等)のリスクマネジメントについて述べるができる 【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.247-284 「高齢者の健康と障害」P.221-225 を読んでおく 【復習】講義に関連した学習の整理 [授業形態]講義 映像視聴 演習</p> <p>第3回 高齢者・回復期における治療を受ける看護 [到達目標] ①治療を受ける(入院・退院・検査等)高齢者・回復期の看護について述べるができる 【予習】教科書「高齢者看護の実践」関連する内容をまとめておく 【復習】講義に関連した学習の整理 [授業形態]グループワーク 発表</p> <p>第4回 高齢者・回復期に必要な看護(事例紹介・情報収集・アセスメント) [到達目標] ①事例をもとに実習施設をイメージした情報収集およびアセスメント方法を述べるができる ②映像視聴を通して、実習施設における看護師の役割を述べるができる 【予習】教科書「高齢者看護の実践」関連箇所を読んでおく 「ウェルネスにもとづく老年看護」を読んでおく 【復習】講義に関連した学習の整理 [授業形態]講義 映像視聴 演習</p> <p>第5回 認知症・うつ病・せん妄の看護① [到達目標] ①認知症・高齢者におけるうつ病・せん妄の要因と特徴を述べるができる ②認知症高齢者・うつ病・せん妄のアセスメントと看護を理解し、援助方法を述べるができる 【予習】教科書「高齢者看護の実践」関連する箇所を読んでおく 「ウェルネスにもとづく老年看護」を読んでおく 【復習】講義に関連した学習の整理 [授業形態]講義 映像視聴 演習 グループワーク 発表</p>

第6回	<p>認知症・うつ病・せん妄の看護②</p> <p>[[到達目標]</p> <p>①認知症高齢者・認知症におけるうつ病、せん妄のアセスメントと看護を理解し、援助方法を述べることができる</p> <p>②認知症高齢者のコミュニケーションの基本、アプローチ方法を述べることができる</p> <p>③認知症高齢者の人権と権利擁護について制度を含めて理解し、述べることができる</p> <p>【予習】関連する教科書を読んでおく</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 グループワーク 発表</p>
第7回	<p>高齢者・回復期に特有な症候・疾患・障害と看護①</p> <p>[到達目標]</p> <p>①事例にもとづく看護援助について理解し情報収集のポイントを記載することができる</p> <p>②グループ発表を通して、看護過程を展開することができる</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」関連した箇所を読んでおく 「ウエルネスにもとづく老年看護」を読んでおく</p> <p>【復習】講義に関連した学習の整理</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 ロールプレイ演習</p>
第8回	<p>高齢者・回復期に特有な症候・疾患・障害と看護②</p> <p>[到達目標]</p> <p>①高齢者に必要な余暇支援の目的・留意点・目指すことを事例を通して述べるができる</p> <p>②実習で体験するアクティビティ計画を作成することができる</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」 「ウエルネスにもとづく老年看護」 を読んでおく</p> <p>【復習】講義に関連した学習の整理</p> <p>[授業形態]講義 グループワーク 演習</p>
第9回	<p>高齢者・回復期に特有な症候・疾患・障害と看護③</p> <p>[到達目標]</p> <p>①高齢者によく見られる骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆症に特徴と看護を理解し、実践で役立つ転倒予防や移動の技術を修得する</p> <p>②看護過程を展開することができる</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」 「ウエルネスにもとづく老年看護」 を読んでおく</p> <p>【復習】講義に関連した学習の整理</p> <p>[授業形態]演習 グループワーク 発表</p>
第10回	<p>高齢者・回復期看護の看護過程①</p> <p>[到達目標]</p> <p>①看護上の問題とニーズの明確化、アセスメント、全体像の描写、看護の方向性が理解でき述べられる（事例）</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」 「ウエルネスにもとづく老年看護」 を読んでおく</p> <p>（復習）講義に関連した学習の整理</p> <p>第1回～9回までの講義資料に目を通しておく、また講義資料や課題レポートをまとめておく（ルーバーファイル（ポートフォリオ）にまとめる）</p> <p>[授業形態]事例 グループワーク 発表</p>
第11回	<p>高齢者・回復期看護の看護過程②</p> <p>[到達目標]</p> <p>①看護上の問題とニーズの明確化、アセスメント、全体像の描写、看護の方向性が理解でき述べられる（事例）</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」 「ウエルネスにもとづく老年看護」 を読んでおく</p> <p>（復習）講義に関連した学習の整理</p> <p>第1回～10回までの講義資料に目を通しておく、また講義資料や課題レポートをまとめておく（ルーバーファイル（ポートフォリオ）にまとめる）</p> <p>[授業形態]事例 グループワーク 発表</p>
第12回	<p>地域療養を支えるケア/継続看護と退院支援</p> <p>[到達目標]</p> <p>①継続看護・入院支援・退院支援の調整について概要を述べるができる</p> <p>②映像視聴を通して、事例に即したケアマネジメントの必要性と方法について述べるができる</p> <p>【予習】配布資料 教科書「高齢者看護の実践」 「ウエルネスにもとづく老年看護」 を読んでおく</p> <p>（復習）講義に関連した学習の整理</p>

	<p>第1回～11回までの講義資料に目を通しておく、また講義資料や課題レポートをまとめておく (ルーバーファイル (ポートフォリオ) にまとめる)</p> <p>[授業形態]事例 グループワーク 発表</p> <p>第13回 地域療養を支えるケア/退院前カンファレンス [到達目標] ①地域連携における関係機関・関係職種について述べるができる ②事例や模擬カンファレンスを通して看護師の役割について述べるができる 【予習】配布資料 教科書「高齢者看護の実践」 「ウエルネスにもとづく老年看護」を読んでおく (復習) 講義に関連した学習の整理</p> <p>第1回～12回までの講義資料に目を通しておく、また講義資料や課題レポートをまとめておく (ルーバーファイル (ポートフォリオ) にまとめる)</p> <p>[授業形態]事例 グループワーク 発表</p>
	<p>第14回 地域療養を支えるケア/事例展開・退院支援 [到達目標] ①事例に即した退院支援についてそれぞれの職種の役割、看護師の支援方法、今後の課題について述べるができる ②グループ発表を通して要点をまとめ、発表することができる 【予習】配布資料 教科書「高齢者看護の実践」 「ウエルネスにもとづく老年看護」を読んでおく (復習) 講義に関連した学習の整理</p> <p>第1回～13回までの講義資料に目を通しておく、また講義資料や課題レポートをまとめておく (ルーバーファイル (ポートフォリオ) にまとめる)</p> <p>[授業形態]事例 グループワーク 発表</p>
	<p>第15回 知識の整理とまとめ (30分) 終講試験 (60分) 【到達目標】 回復期看護援助論Ⅱでの学びの到達度を確認する</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	(予習と復習の徹底) 予習：授業予定の範囲の教科書を読んで授業に臨むこと。事前課題を課すことがある。60分程度 復習：新しいキーワードや十分理解できなかった内容は復習し次の講義に備えること。課題は授業の進行をふまえてその都度指示する 60分程度
教科書	「ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害」堀内 ふきほか著 (メディカ出版) 「ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践」堀内 ふきほか著 (メディカ出版) 「ウエルネスにもとづく老年看護過程 生活機能に焦点をあてたアセスメント」奥宮暁子 (医歯薬出版)
参考書	「系統看護学講座 別巻リハビリテーション看護」山本恵子ほか (医学書院) 「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」山田律子ほか (医学書院) 「老年看護ぜんぶガイド」八嶋妙子 (照林社)
成績評価	定期試験 (50%) 観察的評価：受講態度・出席日数・ノートのとり方まとめ方・グループワークにおける貢献度 (50%) 合計100% (100点) とし、60点以上を合格とする。 課題レポートおよび提出物等の期限が守られない場合減点とする。また、終講試験までに提出がない場合、終講試験を受けることはできない。 再試験は1回のみとする。 授業回数の5分の3以上の出席で定期試験を受けることができる
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p> <p>担当教員名 : 東孝至 研究室 : 10号館7階研究室 メールアドレス : t_azuma@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)
備考	☆授業開始までに着席しておくこと 看護職として実務経験 (総合病院にて地域医療連携、高齢者への運動指導・栄養管理等の経験) を踏まえて講義を行う ◎-2 ○-4 科目ナンバリング「KK-NSc19-RS-S-1」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
岩本 美由紀			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義 演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 健康障害をもつ子どもと家族への看護に必要な基礎的知識と技術を身につける。</p> <p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康問題・入院による子どもの成長発達への影響を学び、各発達段階に応じた看護を理解する。 様々な状況下にある子どもと家族への影響と支援を理解する。 子どもの心身の発達の特徴をふまえた症状のアセスメントを学ぶ。 子どもの成長・発達に合わせたアセスメントに必要な技術を身につける。 子どもの成長・発達段階の特徴に合わせた小児看護技術を身につける。 各期に応じた子どもの日常生活の特徴と必要な支援を理解する。
授業計画	<p>第1回 健康障害をもつ子どもと家族への看護</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 病気・障害が、子どもと家族に及ぼす影響を学び、発達段階に応じた支援が述べられる。 健康問題をもつ子どもに対する様々な支援（意思決定・セルフケア・日常生活・遊び）の必要性を理解する。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 病気・障害に対する子どもの反応（子どもの理解、ストレス） 子どもの病気・障害に対する家族の反応と支援 子どもの治療・健康管理に関わる看護支援 <ol style="list-style-type: none"> 意思決定の支援（インフォームドアセント、プレパレーション） セルフケア支援 日常生活支援（遊び・学習・社会生活の支援） 子どもと家族に必要な社会資源の活用 <p>【授業形態】講義＋グループ討議</p> <p>第2回 小児のアセスメントに必要な技術（講義）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階に合わせたコミュニケーション技術を身につけることができる。 子どものアセスメントに必要な観察技術を身につけることができる。 子どもの発達段階に応じた、バイタルサイン測定・身体計測方法が理解できる。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもの成長・発達段階に合わせたコミュニケーション技術（発達段階による特徴） 子どものアセスメントに必要な技術（身体計測、バイタルサイン、観察） <ol style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた測定時の工夫点・留意点 安全・安楽・正確な測定方法 測定数値の評価 <p>※事前学習の提示（演習までに各自学習して主体的に臨めるように説明）</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>第3回 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護① 入院中・外来における子どもと家族への看護</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 入院する子どもと家族の特徴を理解し、発達段階・治療過程に合わせた看護がわかる。 子どもの入院による生活への影響を理解し、子どもらしく生活するための看護支援がわかる。 子どもと家族が安心して療養生活を送れるために必要な外来看護がわかる。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもの入院環境の実際と安全安楽な生活に向けての支援 <ol style="list-style-type: none"> 小児科病棟の特徴 入院中の看護支援（生活・遊び・学習） 小児病棟における医療安全 治療経過に伴う子どもと家族への看護（入院時～退院へ向けて） 小児科外来の特徴と小児科看護師の役割 <ol style="list-style-type: none"> 小児科外来の環境（感染対策と安全対策） トリアージ 診療時の援助 育児支援 <p>【授業形態】講義（動画視聴）＋確認テストと解説（フィードバック）</p> <p>第4/5回 小児のフィジカルアセスメント（演習）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どものアセスメントに必要な技術を身につけることができる。 子どもの発達段階・状況に応じた、バイタルサイン測定・身体計測ができる。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもの成長・発達段階に合わせたコミュニケーション技術（発達段階による特徴） 子どものアセスメントに必要な技術（身体計測、バイタルサイン、観察）演習 <ol style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた測定時の工夫点・留意点 安全・安楽・正確な測定方法 測定数値の評価 <p>※必ず事前学習を行い演習に参加すること</p> <p>【授業形態】講義＋演習（事前課題を基にグループで実施）</p> <p>第4/5回 入院中の子どもと家族への安全安楽な日常生活援助（講義・演習）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもの成長発達段階に起こりやすい事故と事故特性がわかる。 入院中の子どもの発達段階に応じた起こりやすい事故・事故原因、事故予防策について考えること

	<p>が出来る。</p> <p>3. 入院中の子ども（事例）の個別性に合わせた看護援助を考えることが出来る。</p> <p>『学習内容』</p> <p>①成長発達段階に起こりやすい事故と事故特性 ②入院中の子どもに起こりやすい事故と事故特性</p> <p>③入院中の子どもの安全安楽を考えたを考えた個別性のある援助</p> <p>[授業形態] 講義+グループワーク</p>
第6回	<p>入院中の子どもに対する安全安楽な援助（グループワーク発表・講義）</p> <p>「到達目標」</p> <p>1. 入院中の子どもの発達段階に応じた事故と事故原因、予防策が理解できる。</p> <p>3. 入院中の子ども（事例）の個別性に合わせた看護援助がわかる。</p> <p>『学習内容』</p> <p>入院中の子どもに起こりやすい事故と事故予防対策（環境整備・家族への指導）</p> <p>③入院中の子どもの安全安楽を考えたを考えた個別性のある援助（学習・遊び・環境調整）</p> <p>[授業形態] 講義+グループワーク+学習確認テストと解説（フィードバック）</p>
第7回	<p>子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護② 在宅療養中・災害時における子どもと家族への看護</p> <p>「到達目標」</p> <p>1. 在宅療養中の子ども（医療的ケア児）と家族が地域で安全・安楽に生活出来る為の看護を理解する</p> <p>2. 災害時の子どもと家族の特徴を理解し、被災した子どもと家族に必要なケアがわかる。</p> <p>『学習内容』</p> <p>1. 在宅療養中の子ども（医療的ケア児）と家族の特徴と、成長・発達支援に必要な看護</p> <p>2. 在宅療養中の子どもと家族に対する地域における生活支援（社会資源・他職種連携）</p> <p>3. 被災による子どもと家族への影響（被災後の子どもの言動と反応）と支援</p> <p>[授業形態] 講義+グループ討議</p>
第8回	<p>検査・処置を受ける子どもの看護（講義）</p> <p>「到達目標」</p> <p>1. 講義・演習を通して、検査・処置・治療による子どもの心身への影響がわかる。</p> <p>2. 小児看護技術を安全・安楽に実施するために必要な知識と技術を学ぶ。</p> <p>3. 検査・処置時に子どもの安全の確保と苦痛を最小限にするための工夫を学ぶ。</p> <p>『学習内容』</p> <p>1. 検査・処置時の子どもの心身への影響とプレパレーションの必要性</p> <p>2. 主な検査・処置時の看護</p> <p>①輸液管理（薬物動態） ②検体採取（採尿パック） ③吸入 ④吸引 ⑤腰椎穿刺</p> <p>※事前学習を行い主体的に演習に臨めるように学習内容を説明</p> <p>[授業形態] 講義</p>
第9回/10回	<p>検査・処置を受ける子どもの看護（演習）</p> <p>「到達目標」</p> <p>1. 講義・演習を通して、検査・処置・治療による子どもの心身への影響がわかる。</p> <p>2. 小児看護技術を安全・安楽に実施するために必要な知識と技術を学ぶ。</p> <p>3. 検査・処置時に子どもの安全の確保と苦痛を最小限にするための工夫を学ぶ。</p> <p>『学習内容』</p> <p>1. 検査・処置時の子どもの心身への影響とプレパレーションの必要性</p> <p>2. 主な検査・処置時の看護</p> <p>①輸液管理（薬物動態） ②検体採取（採尿パック） ③吸入 ④吸引 ⑤腰椎穿刺</p> <p>※事前学習の提示（必ず学習を行い演習に主体的に参加すること）</p> <p>[授業形態] 演習（グループ学習）</p>
第9/10回	<p>子どもの疾病の経過と看護①-1 急性期症状を示す子どもと家族への看護</p> <p>「到達目標」</p> <p>1. 急性状態が子どもと家族の心身に及ぼす影響が理解できる。</p> <p>2. 子どもの発達段階の特徴をふまえた症状のアセスメントの視点がわかる。</p> <p>3. 急性症状を示す子どもと家族の特徴と必要な看護がわかる。</p> <p>『学習内容』</p> <p>1. 急性期にある子どもと家族の反応（子どもの観察の視点）</p> <p>2. 小児特有の主な症状とアセスメントの視点</p> <p>①痛み ②発熱、③脱水（嘔吐、下痢）</p> <p>3. 主な症状に対する看護の視点</p> <p>[授業形態] 講義</p>
第11/回	<p>子どもの疾病の経過と看護①-2 急性期症状を示す子どもと家族への看護</p> <p>「到達目標」</p> <p>1. 急性状態が子どもと家族の心身に及ぼす影響が理解できる。</p> <p>2. 子どもの発達段階の特徴をふまえた症状のアセスメントの視点がわかる。</p> <p>3. 急性症状を示す子どもと家族の特徴と必要な看護がわかる。</p> <p>『学習内容』</p> <p>1. 急性期にある子どもと家族の反応（子どもの観察の視点）</p> <p>2. 小児特有の主な症状とアセスメントの視点</p> <p>①痙攣 ②呼吸困難</p> <p>3. 主な症状に対する看護の視点</p> <p>[授業形態] 講義+学習確認テストと解説（フィードバック）</p>
第12・13回	<p>子どもの疾病の経過と看護② 慢性期・周手術期・終末期にある子どもと家族への看護</p> <p>「到達目標」</p> <p>1. 慢性状態にある子どもと家族の特徴を学び、成長・発達段階に合わせた看護が理解できる。</p> <p>2. 子どもの手術の特徴と、周手術期にある子どもと家族への看護が理解できる。</p> <p>3. 子どもの成長発達段階に応じた死の概念がわかる。</p> <p>4. 終末期にある子どもと家族の特徴と必要な看護が理解できる。</p> <p>『学習内容』</p> <p>①慢性状態が子どもと家族へ及ぼす影響</p> <p>②発達段階に合わせたセルフケア支援と成人期への移行を目指した支援（社会資源の活用）</p> <p>④小児期の手術の特徴と発達段階に応じた子どもと家族の反応</p>

	<p>⑤術前・術中・術後の子どもと家族への看護（全身管理、プレパレーション、安全対策） ⑥子どもの死の概念と子どもと家族の心理 ⑦終末期にある子どもと家族への看護（苦痛緩和、子どもの意思決定への支援） 〔授業形態〕 講義＋グループ討議</p> <p>第14回 被虐待児と家族への看護 「到達目標」 1. 現代における児童虐待の現状と対策が理解できる。 2. 児童虐待を受けた子どもと家族への支援がわかる。 『学習内容』 1. 児童虐待の現状 2. 児童虐待を受けた子どもと家族の特徴 3. 虐待を受けた子どもと家族を支える社会資源 〔授業形態〕 講義＋グループ討議＋学習確認テストと解説（フィードバック）</p> <p>第15回 終講試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>（予習・復習の徹底） 予習：予定講義範囲の教科書を読んで授業に臨む（30分の予習）。解らない言葉は事前に調べて言葉の理解をしておく。演習前は、事前学習を行い主体的に臨むこと。 復習：授業後は、学習内容を教科書やプリントを基に復習し、学習確認テストに臨む。またテスト後も見直しを行い理解を深めること（60分程度）。</p>
教科書	<p>ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護（MCメディカ出版） ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 小児看護学②（MCメディカ出版）</p>
参考書	適宜紹介
成績評価	筆記試験 80点、演習レポート点10点、学習確認テスト10点 授講参加度を合わせて総合的に評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岩本美由紀 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : m_iwamoto@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>以下の臨床経験も踏まえて講義を行う 岩本美由紀：総合病院での小児看護経験</p> <p>この授業のDPとの関連 「◎-2」 「○-1・3」</p> <p>科目ナンバー：kk-2-NSc21-RS-S-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
岩本 美由紀			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義 演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【学習概要】 様々な健康障害をもつ子どもと家族を総合的に理解し、看護実践するための能力を身につける。</p> <p>【授業目標】 1. 健康障害のある子どもと家族への影響を理解し、子どもの療養上の課題が理解できる。 2. 健康障害のある子どもと家族への発達段階に応じた支援が理解できる。 3. 健康障害のある子どもと家族の療養生活を支援するための、継続看護と他職種連携を理解できる。 4. 事例を通して、健康障害をもつ子どもと家族への看護展開ができる。</p>
授業計画	<p>第1回 染色体異常・胎内環境より発生する先天異常、新生児と家族への看護</p> <p>【授業概要】 ※常染色体異常・性染色体異常のある子どもの成長・発達に合わせた長期にわたる看護を学ぶ</p> <p>【到達目標】 1. ハイリスク新生児の成長・発達を支え、健康状態を整えるための看護がわかる。 2. ダウン症候群の子どもの各成長・発達に合わせた看護が理解できる。 3. 先天異常のある子ども疾患の受容と療養生活を支える家族への看護を理解する。 4. 低出生体重児の胎外への適応を支える、成長・発達を支える看護について理解する。</p> <p>[授業形態] 講義+動画視聴+グループ討議</p> <p>第2・3回 代謝性疾患をもつ子どもと家族への看護</p> <p>【授業概要】 ※代謝性疾患をもつ子どもと家族に対し、成長・発達段階に合わせた適切な健康管理と療養生活に向けての支援を学ぶ</p> <p>【到達目標】 1. I型糖尿病をもつ子どもと家族の経過別（急性期～退院後の療養生活に向けて）の看護を理解する。 2. I型糖尿病をもつ子どもと家族の成長・発達過程に合わせたセルフケア支援を理解する。</p> <p>[授業形態] 講義+動画視聴</p> <p>第4回 アレルギー疾患・呼吸疾患をもつ子どもと家族への看護</p> <p>【学習概要】 ※アレルギー疾患をもつ子どもと家族のQOLを尊重し、発達段階に合わせたセルフケアを確立できる</p> <p>【到達目標】 1. アレルギー疾患をもつ子どもの成長発達への影響を理解し、健康管理とアドヒアランスの向上に向けた看護を理解する。 2. 気管支喘息の子どもの急性発作時と長期管理に向けた、子どもと家族への看護を理解する。</p> <p>[授業形態] [授業形態] 講義+動画視聴</p> <p>第5回 循環器疾患をもつ子どもと家族への看護</p> <p>【授業概要】 ※循環器疾患をもつ子どもと家族への経過別の看護と、療養生活を支えるための支援を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1. ファロー四徴症の子どもの術前・術後の看護の視点を理解する。 2. 川崎病をもつ子どもの経過（急性期～回復期）に合わせた看護を理解する。 3. 先天性心疾患の子どもをもつ家族の心理面への影響を理解し、療養生活に向けての支援がわかる。</p> <p>[授業形態] [授業形態] 講義+動画視聴+確認テストと解説(フィードバック)</p> <p>第6回 消化器疾患をもつ子どもと家族への看護</p> <p>【授業概要】 ※消化器疾患をもつ子どもの成長・発達への影響を考え、子どもと家族への長期的な療養生活支援を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1. 形態異常（唇裂・口蓋裂、幽門狭窄症、鎖肛）のある子どもの術前・術後の看護を理解する。 2. 形態異常の子どもの身体面・心理面・社会面・生活面への影響を理解し子どもと家族を支えるための必要な看護を理解する。 3. 急性胃腸炎の子どもの観察とアセスメントの視点と看護が理解できる。</p> <p>[授業形態] 講義+動画視聴</p> <p>第7回 血液疾患・悪性新生物をもつ子どもと家族への看護</p> <p>【授業概要】 ※血液疾患・悪性新生物による病態と治療による子どもへの影響を理解し、成長発達や生活への影響を最小限にし、子どもと家族らしく生活出来る為の支援を学ぶ。</p>

第 8 回	<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性骨髄性白血病による疾患と治療による子どもと家族への影響が理解できる。 急性骨髄性白血病の子どもと家族への経過別（入院～化学療法～退院）の看護が理解できる。 <p>[授業形態] 講義+動画視聴</p> <p>神経疾患・精神疾患をもつ子どもと家族への看護</p> <p>【授業概要】 ※神経疾患・精神疾患をもつ子どもが、成長・発達の可能性を最大限にのばし、家族のニーズを尊重した看護を学ぶ。 神経・精神疾患をもつ子どもと家族を支援するための他職種連携と社会資源がわかる。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 先天異常（二分脊椎症）による子どもと家族への影響を理解し、子どもと家族らしく生活でき、成長発達を促進するための看護を理解する。 けいれん性疾患（熱性けいれん・てんかん）をもつ子どもと家族への療育支援が理解できる。 脳性麻痺の子どもの健康維持・増進と発達を促すための他職種連携と社会資源の活用がわかる。 神経疾患・精神疾患の子どもをもつ家族の受容過程に合わせた支援が理解できる。 <p>[授業形態] 講義+学習確認テストと解説（フィードバック）</p>
第9回	<p>運動器疾患をもつ子どもと家族への看護/感染症の子どもと家族への看護</p> <p>【授業概要】 ※運動器疾患による子どもの身体・精神・社会的側面と成長発達への影響を理解し、障害の最小化が図れるような看護を学ぶ。 感染症をもつ子どもの病期別看護と感染防止に向けての看護を理解する。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 先天性股関節脱臼をもつ子どもと家族への影響を考え、成長発達を促進する為に必要な看護が理解できる。 骨折した子どもの成長・発達や生活への影響を考え、順調な回復に向けた看護が理解できる。 ウイルス感染症（麻疹・水痘等）の子どもの観察と病期に応じた看護が理解できる。 <p>[授業形態] 講義</p>
第10回	<p>重症心身障害児・者と看護（南京都病院講師）</p> <p>【授業概要】 ※南京都病院の講師による講義をうける。また、病棟の実際を動画にて視聴し、重心障害児・者施設の環境と看護の実際を学ぶ。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 重症心身障害児・者について理解する。 重症心身障害児・者の健康と管理について理解する。 重症心身障害児・者のケアの実際について理解する。 <p>[授業形態] 講義+動画視聴</p>
第 11回	<p>子どもの事故と看護/看護過程学習の導入（ネフローゼ症候群の事例）</p> <p>【授業概要】 ※発達段階と事故の要因を理解し、事故防止に向けた安全教育の必要性を学ぶ。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階別におこりやすい事故の特徴とその要因について理解する。 事故・外傷時の子どもと家族への看護について理解する。 <p>※講義は60分とし、40分間は次回から開始する看護過程の導入を行います。 看護過程の展開の進め方、事例紹介と事前課題の活用方法、ルーブリック評価表の説明を行い主体的な学習が進められるよう支援します。</p>
第12～14回	<p>[授業形態] 講義形式+学習確認テスト（フィードバック）</p> <p>ネフローゼ症候群の事例を基にした看護展開</p> <p>【授業概要】 ※ネフローゼ症候群の事例にて看護展開を行う。疾患や治療による子どもの身体面・精神面・社会面や発達への影響、また家族への影響についてアセスメントし、関連図にて整理し、必要な看護を見出します。小児看護学実習で用いる記録用紙を用いて、実習での看護展開へ生かしていけるようにします。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ネフローゼ症候群の病態を理解し、患児に必要な情報収集・アセスメントができる。 発達段階を考慮した情報収集・アセスメントができる。 患児の入院による家族全体への影響がアセスメントできる。 事例の患児の4側面の情報を、関連図で整理・統合し、看護上の問題点が抽出できる。 <p>※下記の流れで行います。講義以外の時間も活用した学習が必要です。 12回目⇒情報の整理 13回目⇒アセスメント 14回目⇒関連図</p> <p>[授業形態] 講義（事例についての情報の整理の仕方、アセスメントの視点を具体的に説明） 講義に基づいた演習 ※講義時間外でも質問などの個別対応を行います。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>（予習復習の徹底）</p> <ol style="list-style-type: none"> 予定されている授業の内容についてテキストを事前に読んで授業に臨んでください。予習（30分以上） 適宜学習確認テストを行います。学習内容を理解するために、必ず復習（60分以上）を行ってください。 事前学習として、これまでに小児看護学概論で学んだ小児の発達について復習しておいてください。 看護過程のレポートは、文献や教科書を活用しながら積極的に臨んでください。

教科書	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (MCメディカ出版) 系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院)
参考書	適宜紹介
成績評価	筆筆記試験 70点、看護過程レポート点20点 (ルーブリック評価に基づく) 学習確認テスト10点 授講参加度を合わせて総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岩本美由紀 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : m_iwamoto@meiji-u.ac.jp
備考	臨床経験を踏まえて教育を行う 岩本美由紀: 総合病院での小児看護経験
	この授業のDPとの関連 「◎-1」「○-2・3」
	科目ナンバー:KK-2-NSc22-RS-S-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
坪倉 浩美、伊藤 三紀子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義(対面) グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要></p> <p>1. 周産期女性の身体的・心理的・社会的特徴や胎児・新生児の成長過程や、その女性を取り巻く家族を含めた看護や保健指導について学習する</p> <p>2. 妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児・家族の健康上の諸課題への理解を深め、看護実践に活用できる知識を修得する。</p> <p><授業目標></p> <p>1. マタニティサイクルにおける特有な生理的变化を学び、それらに対する看護援助方法について理解できる。</p> <p>2. 周産期における諸問題について病態、臨床症状、看護援助方法について理解できる。</p> <p>2. 夫（パートナー）・家族の健康課題を理解し、看護援助方法について理解できる。</p>
授業計画	<p>第1回 妊娠の生理 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第2回 妊婦と家族のアセスメントと援助方法 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 妊婦と家族のアセスメントとその援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第3回 ハイリスク妊娠とその援助方法 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 ハイリスク妊娠について理解できる ハイリスク妊娠とその援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第4回 妊娠期の振り返り（小テスト） 出産の理解 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 出産のDVD視聴し、出産の理解を深める 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第5回 分娩期における看護産婦への看護 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 分娩の生理と分娩進行に伴う産婦・胎児の変化について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第6回 産婦とその家族のアセスメント 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 褥婦の身体的・心理的・社会的変化について理解できる。 産婦と家族のアセスメントと援助方法について理解できる。 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第7回 ハイリスク分娩 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 異常分娩とその援助方法について理解できる。 【授業形態】 中間試験60分 講義</p> <p>第8回 産褥期のアセスメント① 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 褥婦と家族のアセスメントについて理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第9回 産褥期のアセスメント② 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 褥婦と家族のアセスメントについて理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第10回 褥婦と家族の看護 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 褥婦と家族への援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第11回 産褥の異常 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 産褥の異常とその援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第12回 新生児の看護（1） 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 新生児の生理を理解することができる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第13回 新生児の看護（2） 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 新生児のアセスメントと援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第14回 新生児の看護（3） 担当者：坪倉 伊藤 【授業目標】 新生児の異常とその援助方法について理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第15回 母性看護援助論全体のまとめ 担当：坪倉 伊藤 【授業目標】 母性看護援助論全体のまとめを行い、学びを確認する。 【授業形態】 講義 試験60分</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書などで各講義のタイトルに関連する箇所の予習を行い(60分程度)、講義後は、教科書、配布プリントを精読し、不明部分は調べ学修した内容をまとめて(60分程度)、授業内容の理解が深められるようにして下さい。
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美ら著 医学書院 2. ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 編集横尾京子他 メディカ出版 3. 根拠がわかる 母性看護過程 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画 編集中村幸代 南江堂
参考書	1. 病気が見える⑩ 産科 メディックメディア 2. ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 太田躁編著 医歯薬出版 3. ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング 編集村本淳子他 NOUVELLE HIROKAWA
成績評価	定期試験(中間テスト含む)90%、レポート10% *中間試験の試験範囲(妊娠期・分娩期) 定期試験の試験範囲(産褥期・新生児期)
担当教員の基本情報	坪倉浩美 研究室:10号館8階研究室 メールアドレス:hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:随時(事前に連絡をください) 伊藤三紀子 研究室:10号館7階研究室 メールアドレス:mi_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:随時(事前に連絡をください)
備考	坪倉浩美 伊藤三紀子 病院で助産師として勤務。その実務経験をもとに「母性看護学援助論Ⅰについて授業を進める。 この授業のDPとの関連 ○-2、○-4・5 科目ナンバー:KK-3-NSc24-RS-S-1 グループワーク・演習によるアクティブラーニングを実施

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
坪倉 浩美、伊藤 三紀子、山田 智子、福田 セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義(対面) グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・褥婦・新生児に必要な基本的な母性看護援助技術を修得する。 2. 妊婦・褥婦・新生児の事例をもとに、ウェルネスの看護診断で看護過程を展開する。 <p><授業目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護を実践するために必要な知識と技術を修得することができる。 2. 事例をもとに対象者をウェルネスの視点でとらえ、看護過程を展開することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、妊娠期・産褥期の演習項目の説明 担当教員：坪倉 【授業目標】演習方法が理解できる 妊娠期・産褥期の演習項目の目的、目標、注意点、手順を理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第2回 妊娠期の技術演習 担当教員：母性教員全員 【授業目標】レオポルド触診法、腹囲・子宮底測定、NST装着に必要な技術が修得できる 【授業形態】演習</p> <p>第3回 産褥期の技術演習、新生児の演習項目の説明 担当教員：母性教員全員 【授業目標】子宮底、授乳方法、児の抱き方に必要な技術が修得できる 新生児期の演習項目の目的、目標、注意点、手順を理解することができる 【授業形態】演習</p> <p>第4回 新生児期の技術演習1 担当教員：母性教員全員 【授業目標】沐浴、ドライケアに必要な技術が修得できる 【授業形態】演習</p> <p>第5回 新生児期の技術演習2 担当教員：母性教員全員 【授業目標】寝衣・おむつ交換、バイタルサイン測定に必要な技術が修得できる 【授業形態】演習</p> <p>第6回 ウェルネスの看護過程の展開・妊娠期の看護過程の展開 担当教員：坪倉 【授業目標】ウェルネスの看護過程の展開について理解することができる 妊娠期の診断に必要な知識を学び、看護過程の展開を理解することができる 【授業形態】講義</p> <p>第7回 分娩期の看護過程の展開 担当教員：坪倉 【授業目標】分娩期の診断に必要な知識を学び、看護過程の展開を理解することができる 【授業形態】講義 GW発表</p> <p>第8回 産褥期の看護過程の展開 担当教員：坪倉 【授業目標】産褥期の診断に必要な知識を学び、看護過程の展開を理解することができる 【授業形態】講義</p> <p>第9回 新生児期の看護過程の展開 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】新生児期の診断に必要な知識を学び、看護過程の展開を理解することができる 【授業形態】講義</p> <p>第10回 ウェルネスの看護過程：実習記録への展開 【授業目標】事例を通して看護過程の展開を行うことができる 【授業形態】講義 個人ワーク 課題提出</p> <p>第11回 低出生体重児の看護 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】低出生体重児の看護看護を理解する。 保育器内における看護に実際に理解する。 【授業形態】講義</p> <p>第12回 低出生体重児の看護看護 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】低出生体重児のアセスメントと看護過程の展開が理解できる。 【授業形態】講義</p> <p>第13回 帝王切開を受けた褥婦の看護 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】帝王切開を受けた褥婦の看護を理解できる。 【授業形態】講義</p> <p>第14回 帝王切開を受けた褥婦の看護 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】帝王切開を受けた褥婦のアセスメントと看護過程の展開が理解できる。 【授業形態】講義</p> <p>第15回 分娩時異常出血の褥婦の看護：期末試験 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】分娩時に起こる異常について理解できる。</p>

	分娩時異常出血の褥婦の看護過程の展開の理解できる。 【授業形態】 講義 試験60分
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習(予習35分)し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい(復習35分)。
教科書	母性看護援助論Ⅰと同じ教科書 1. 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美他 医学書院
参考書	1. ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 太田操 医歯薬出版株式会社 2. 写真で分かる母性看護技術 平澤美恵子他 インターメディカ 3. 病気が見える vol.10 産科 メディックメディア出版 4. 母性看護実習プレブック 村本淳子・町浦美智子 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期筆記試験60% (演習時の態度等も含めて評価を行う) 課題提出: 40%
担当教員の基本情報	坪倉浩美 研究室: 10号館8階研究室 メールアドレス: hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時(事前に連絡をください) 伊藤三紀子 研究室: 10号館7階研究室 メールアドレス: mi_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時(事前に連絡をください) 山田智子 研究室: 10号館6階 メールアドレス: t_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時(事前に連絡をください) 福田セーニャ 研究室: 10号館6階研究室 メールアドレス: xe_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時(事前に連絡をください)
備考	坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ 病院で助産師として勤務。その実務経験をもとに「母性看護学援助論Ⅱ」について授業を進める。
	D Pとの関連 ◎-2 ○-4.5
	科目ナンバー: KK-3NSc25-RS-S-1
	グループワーク・演習によるアクティブラーニングを実施

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
坪倉 浩美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義(対面) グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 助産学の基盤となる知識や理論を学修し、助産師に期待される役割を理解・探求し、考察する。</p> <p><授業目標> 1. 助産学に基本概念を理解し、助産師の役割と責務を遂行するための知識を修得する。 2. 助産の歴史の変遷、国内外の社会動向や可譜代について学習し、助産師としての将来展望を考察できる。 3. 助産師としての自己のあり方を考え、助産観を深めることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 助産の概念、助産の歴史 担当教員：坪倉 【授業目標】 助産の概念、助産の歴史と文化が理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第2回 助産師の定義と業務、助産学を構成する理論、助産師と倫理 担当教員：坪倉 【授業目標】 助産師の定義・業務・責務・今後の展望が理解できる 助産学を構成する理論、倫理が理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第3回 母子保健の動向、助産の歴史と文化 担当教員：坪倉 【授業目標】 母子保健の歴史、動向と諸制度が理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第4回 リプロダクションに関する解剖・生理 担当教員：坪倉 【授業目標】 母性の身体的特徴が理解できる 生殖生理に関する機能・機序・生理が理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第5回 性行動と機能、遺伝と遺伝性疾患、生殖補助医療 担当教員：坪倉 【授業目標】 性の行動と機能が理解できる 遺伝性疾患が理解できる 生殖補助医療の実際、問題点が理解できる 【授業形態】 グループワーク</p> <p>第6回 母子と免疫、母子と感染 担当教員：坪倉 【授業目標】 母体・胎児・新生児の免疫学的特性が理解できる 母子感染が理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第7回 性感染症と健康教育 担当教員：坪倉 【授業目標】 性感染症（ウイルス感染症・クラミジア感染症・淋菌感染症・梅毒・真菌症・原虫症・寄生虫症）が理解できる 健康教育の定義、展開が理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第8回 ライフサイクル各期における主な疾患、リプロダクションに関する検査 担当教員：坪倉 【授業目標】 小児期・思春期・成熟期・更年期・老年期における主な疾患が理解できる リプロダクションに関する検査が理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第9回 指導案の作成方法 母子と栄養 担当教員：伊藤 【授業目標】 課題；妊娠期と授乳期の栄養指導案 【授業形態】 講義</p> <p>第10回 栄養指導実施 担当教員：伊藤 【授業目標】 立案した計画に基づいて栄養指導が実施できる 【授業形態】 演習</p> <p>第11回 指導案の作成方法 家族計画 担当教員：坪倉 【授業目標】 課題；家族計画指導案 【授業形態】 講義</p> <p>第12回 家族計画指導実施 担当教員：坪倉 【授業目標】 立案した計画に基づいて家族計画指導が実施できる 【授業形態】 演習</p> <p>第13回 ライフサイクルとメンタルヘルス、親子関係、家族と社会 担当教員：坪倉 【授業目標】 思春期・青年期・成人期・老年期のメンタルヘルスが理解できる 親子関係をめぐる問題が理解できる 家族と社会について理解できる 【授業形態】 講義</p> <p>第14回 リプロダクティブライツの課題、地域子育て支援・在日外国人の母子保健、助産師の役割を統合 担当教員：坪倉 【授業目標】 リプロダクティブライツの課題が理解できる 地域子育て支援・在日外国人の母子保健が理解できる 助産師の役割を統合できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p>

	第15回 期末試験 授業の振り返り
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習(60分程度)し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい(60分程度)。
教科書	資料配布
参考書	助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 医学書院 助産学講座2 基礎助産学2 母子の基礎科学 医学書院 助産学講座3 基礎助産学3 母子の健康科学 医学書院 助産学講座4 基礎助産学4 母子の心理・社会学 医学書院 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院
成績評価	定期試験70% レポート30%
担当教員の基本情報	坪倉浩美 研究室：10号館8階 メールアドレス hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(事前に連絡をください) 伊藤三紀子 研究室：10号館7階 メールアドレス mi_ito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(事前に連絡をください)
備考	坪倉浩美 伊藤三紀子 助産師として病院に勤務。その実務経験をもとに「基礎助産学」について授業を進める。
	D Pとの関連 ◎-1 ○-3.4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
小西 奈美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	精神疾患がもたらす様々な症状や生活上の困難について学び、精神に「障害」を持つ人への援助のあり方について学ぶことができる。
授業計画	<p>1回目 「精神疾患」という経験 [到達目標] 「精神疾患」を持つ人の生活体験について学習し、説明することができる。</p> <p>2回目 精神機能・精神症状の理解 [到達目標] 精神機能について学習し、精神症状が及ぼす影響について考えを述べる事が出来る。</p> <p>3回目 精神症状の理解と看護 [到達目標] 精神機能の障害について学習し、必要となる看護について考えを述べる事が出来る。</p> <p>4回目 統合失調症の理解と看護 [到達目標] 統合失調症の病理性について述べる事が出来る。 統合失調症を抱えて生活する個人の思いに焦点をあてて考える事が出来る。 統合失調症患者に必要ななかかわりについて、考えを述べる事が出来る。</p> <p>5回目 気分障害の理解と看護 [到達目標] 気分障害の病理性について述べる事が出来る。 気分障害を抱えて生活する個人の思いに焦点をあてて考える事が出来る。 気分障害のある患者に必要ななかかわりについて、考えを述べる事が出来る。</p> <p>6回目 習慣および衝動の障害の理解と看護 [到達目標] 習慣および衝動の障害の病理性について述べる事が出来る。 習慣および衝動の障害を抱えて生活する個人の思いに焦点をあてて考える事が出来る。 習慣および衝動の障害のある患者に必要ななかかわりについて、考えを述べる事が出来る。</p> <p>7回目 精神疾患の理解と看護 [到達目標] 精神に障害を持つ人への援助のあり方について考えを述べる事が出来る。</p> <p>8回目 試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	①教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、講義で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。 ②自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。 (各講義で提示する)
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題によって評価する。 (定期試験70%, レポート・小テスト30%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小西奈美 研究室 : 10号館8階808研究室 メールアドレス : n_konishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)
備考	小西教員：精神看護学領域臨床・教育経験をもとに精神科看護および精神看護についての講義を行う。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎ー2 (思考・判断) ○ー1 (知識・理解)
	科目ナンバー：KK-2-NSc32-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
小西 奈美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	精神障がい者に必要な援助とその技術の特徴を見出すことができる。 精神科看護における看護師の役割について具体的に述べることができる。 精神看護における治療的関係について講義を通じて理解し、学生自身の考えを具体的に述べることができる。
授業計画	<p>1回目 精神科ケアの前提と原則 [到達目標] 精神科ケアの前提・原則について学習し、精神科看護の重要性について説明することができる。</p> <p>2回目 治療的な関係について [到達目標] 精神科看護における治療的関係について理解する。 治療的関係を促進する関わり方のポイントを理解する。 治療的関係を深める一つの方法として、コミュニケーション技法の一部を理解する。</p> <p>3回目 治療的な環境と自己理解の重要性について [到達目標] 物理的環境と人的環境がヒトにもたらす影響について学習し、理解することができる。 精神科病棟の特徴について学習し、治療との関係性について説明する コミュニケーションに必要な「自分を知ること」の重要性について述べるすることができる。</p> <p>4回目 コミュニケーション技法について [到達目標] 精神科看護におけるコミュニケーションの重要性について学習し、説明することができる。 患者-看護師関係にコミュニケーションがどのような効果をもたらすのか、学生自身の意見を述べる ことができる。</p> <p>5回目 患者-看護師関係のアセスメント プロセスレコードの理解 [到達目標] プロセスレコードを書く目的と必要性について説明することができる。 プロセスレコードを通して、学生自身の傾向について気づくことができる。</p> <p>6回目 精神科における疾患・症状の理解（統合失調症） [到達目標] 統合失調症における基本的な症状について理解できる。 精神疾患による症状が日常生活にもたらす影響を患者の立場に立ち考えることができる。</p> <p>7回目 精神科における疾患・症状の理解（気分（感情）障害） [到達目標] 気分（感情）障害における基本的な症状について理解できる。 精神疾患による症状が日常生活にもたらす影響を患者の立場に立ち考えることができる。</p> <p>8回目 身体のケア・薬物療法 [到達目標] 精神科における身体ケア（薬物の副作用や身体合併などのケア）にはどのようなものがあるのかを学習し、具体的に説明することができる。</p> <p>9回目 精神科におけるリハビリテーション [到達目標] 精神科におけるリハビリテーションの目的と意義について理解することができる。 リハビリテーションの種類と、それぞれの目的について説明することができる。</p> <p>10回目 セルフケア理論について [到達目標] セルフケアの定義と、精神科におけるオレム-アンダーウッド理論の必要性を理解することができる。 精神科看護において、セルフケアに着目する重要性について学生自身の言葉で述べる ことができる。</p> <p>11回目 統合失調症患者の看護展開演習（1）事例展開①-1（情報分類） [到達目標] 臨床事例に基づいたペーパーペーシエントをもとに、SOAP形式で情報を整理することができる。 臨床事例に基づいたペーパーペーシエントをもとに、学生が疑問や関心をもった情報を引き出す ことができる。</p> <p>12回目 統合失調症患者の看護展開演習（1）事例展開①-2（グループワーク） [到達目標] 臨床事例に基づいたペーパーペーシエントをもとに、グループワークを通して互いの意見を共有 する。 学生間から出てきた情報をもとにして、身体的・心理的・社会的な視点からも患者を捉えること ができる。</p> <p>13回目 統合失調症患者の看護展開演習（2）患者展開②（セルフケアの視点も含めて検討するケア プラン） 学生間から出てきた情報をもとにして、必要であると考えられる関わりを見出すことができる。</p>

	<p>14回目 統合失調症患者の看護展開演習(3) 行動制限・身体拘束について [到達目標] 精神科病院における行動制限について理解することができる。 行動制限をうける患者に対する援助者としてのかかわりの理解を深めることができる。 精神科におけるリスクマネジメントについての理解を深めることができる。</p> <p>15回目 試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習35分)し、講義で学修した内容をまとめ(復習35分)てください。
教科書	系統看護学講座「精神看護の基礎」 精神看護学①(医学書院) 系統看護学講座「精神看護の展開」 精神看護学②(医学書院) 「精神看護学」 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著(医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題によって評価する。 (定期試験70%, レポート・小テスト30%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小西奈美 研究室 : 10号館8階808研究室 メールアドレス : n_konishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(精神看護学実習のため病院出張以外)
備考	精神看護学領域での臨床・教育経験をもとに精神科看護および精神看護についての講義を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床事例に基づいたペーパーペーシェントを活用して、患者像を明確にするアセスメント能力を養う。 ・個人で作成したアセスメント情報を、グループとして情報を共有し、情報交換とケアプラン作成の意見交換を実施する。 ・ホワイトボードや映写機を使用してグループ毎に発表を行い、学生全体が様々な視点からアセスメントの在り様を知ることが出来るようにする。 ・また、グループ毎のケアプランおよびその根拠の発表を行い、多角的な視点から看護援助を考えることが出来るように指導する。
	<p>ディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎ー2(思考・判断)</p> <p>○ー5(技能・表現)</p>
	科目ナンバー : KK-3-NSc33-RS-S-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
森岡 朋子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>地域・在宅看護の対象者は、小児から高齢者まで幅広く、疾病により健康状態が悪化した人々とその家族、疾病の予防をする必要がある人々が含まれる。</p> <p>本科目は、ICFの視点から地域で暮らす療養者を全人的に捉え、療養者及び家族の看護を理解することを目的とし、在宅療養に必要な基本的なアセスメント、援助技術を学び、継続看護や療養者に関係する制度及び社会資源を理解する。</p> <p>本科目では、在宅栄養療法を行う患者、皮膚ケアを必要とする療養者、慢性呼吸器疾患のある療養者、認知症ケアと高齢者虐待・多職種協働、エンド・オブ・ライフ、災害時のそれぞれの看護について、地域・在宅看護実践について理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす療養者をICFの視点から全人的に捉えることができる ・地域・在宅看護の療養者の特性とその支援の基本を理解できる。 ・在宅ケアを支える制度や社会資源（フォーマルサービス・インフォーマルサービス）を理解できる。 ・認知症者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、認知症ケアを理解できる ・在宅ケアにおける多職種協働・多職種連携を理解できる。 ・対象者とその家族に向けた訪問看護過程ならびにケアマネジメントを理解できる。
授業計画	<p>第1回 在宅療養におけるICFの活用方法:生活者としての療養者を全人的に捉えるために 学修目標 1. ICFを理解し、説明できる 2. ICFを活用して全人的に捉える必要性が説明できる</p> <p>アクティブターニング：グループワーク</p> <p>第2回 在宅療養者の社会資源 学修目標 1. 社会資源を理解し説明できる 2. ICFの構成要素から社会資源の必要性が理解し、説明できる</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第3回 在宅療養を支える制度 学修目標 1. 介護保険の経緯を理解し、説明できる 2. 看護職が制度の運用を理解する必要性が説明できる</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第4回 地域で生活する重症心身障害児と難病療養者の看護 学修目標 1. 地域で生活する重症心身障害者の生活支援を理解し、説明できる 2. 難病を持つ在宅療養者の生活支援を理解し、説明できる</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第5回 訪問看護の実際 学修目標 1. 「生活者」としての療養者を支える訪問看護師の役割を理解し、説明できる 2. 継続看護の必要性を理解し、説明できる</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第6回 在宅栄養療法を行う患者の看護：中心静脈栄養，胃ろう 学修目標 1. 在宅療養者における「食生活」「フレイル」「QOL」の関連を理解し、説明できる 2. 在宅における経管栄養法を理解し、説明できる 3. 胃瘻のしくみ、合併症、トラブル時の対処の仕方を理解し、説明できる</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第7回 皮膚ケアを必要とする療養者の看護：（ストーマケア，褥瘡ケアを中心に） 学修目標 1. 在宅療養者における排泄の看護を理解し、おむつを装着した人の皮膚トラブルの発生機序が説明できる。 2. 褥瘡の処置の手順を理解し、説明できる 3. ストーマの種類と特徴、必要な処置を理解し、説明できる</p> <p>第8回 慢性呼吸器疾患のある療養者の看護：在宅酸素療法，在宅人工呼吸療法を中心に 学修目標 1. 在宅酸素療法の概要と日常生活における留意点を理解し、説明できる 2. 在宅人工呼吸療法（HMV）を行う療養者の管理と看護のポイントを理解し、説明できる</p>

	<p>第9回 認知症ケアと高齢者虐待 1. 高齢者虐待の対応について理解できる 2. 在宅の認知症高齢者虐待事例から看護師の役割を考察し、説明できる</p> <p>第10回 認知症ケアと多職種協働 学修目標 1. 多職種の視点合わせの必要性を理解し、説明できる 2. 認知症の早期診断・早期対応の意義を理解し、説明できる 3. 在宅の認知症高齢者虐待事例から看護師の役割を考察し、説明できる</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第11回 アクティブラーニング：グループワーク 在宅で過ごすターミナル期のがん療養者の看護 学修目標 1. ガン末期の療養者と家族への支援を理解する 2. 療養者の尊厳を遵守し、看護を提供する意義を理解する</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第12回 災害時の訪問看護 学修目標 1. ガン末期の療養者と家族への支援を理解する 2. 療養者の尊厳を遵守し、看護を提供する意義を理解する</p> <p>第13回 在宅療養者における看護過程展開① 学修目標 1. PDCAサイクルを理解し、説明できる 2. 訪問看護で必要な情報収集の項目とアセスメントのポイントが説明できる</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第14回 在宅療養者における看護過程展開② 学修目標 1. ICFの概念を踏まえ、事例を展開する 2. 実習記録の書き方が理解できる</p> <p>アクティブラーニング：グループワーク</p> <p>第15回 まとめ 学修目標 1. テスト 2. 第1回～第14回まで振り返り、自らの課題を見出し、振り返りを行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習はテキストの該当頁を熟読しておくこと。復習はテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること。
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア (第7版) メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (第2版) メディカ出版
参考書	授業中に適宜紹介する
成績評価	筆記試験80%、授業の取り組み度20%を総合的に評価する
担当教員の基本情報	森岡朋子：10号館7階704研究室 t_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー随時（メールにてアポイントメントが必要） 研究テーマは、認知症、多職種協働、レジリエンス。看護師、社会福祉士、介護支援専門員の資格を有し、社会福祉協議会に所属し、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの立ち上げを行った。
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎ー2、○ー4 ナンバリング：KK-2-NSc-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
玉井 公子、大倉 和子、佐藤裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義およびグループワーク	
添付ファイル			

授業目標	(1)公衆衛生看護の理念、目標、歴史、倫理を理解し、その対象となる個人、家族、グループ、組織、地域全体の特徴とそのアプローチの方法について説明できる。 (2)社会環境の変化に伴う健康課題及び人々の健康に影響する背景とその要因について考えることができる。 (3)地域診断に基づいた公衆衛生看護活動の計画、実践、評価、計画策定と施策化について考えることができる。
授業計画	<p>第1回 公衆衛生看護の理念 [到達目標] 公衆衛生看護の定義と基本概念について理解し、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指すこと、対象者の健康課題を構造的に考えることができる。 [授業形態]講義、グループディスカッション</p> <p>第2回 公衆衛生看護の基盤となる概念 [到達目標] 公衆衛生看護は住民の暮らしと健康を守る公共的な活動であり、公衆衛生看護を支える概念として、基本的人権、権利擁護、エンパワメントが重要であることを説明できる。 [授業形態]講義、グループディスカッション</p> <p>第3回 公衆衛生看護の対象の特徴 [到達目標] 公衆衛生看護の対象としての個人の特徴、ケアの最小単位の家族及び集団の機能、セルフヘルプグループ、地区組織活動について考えることができる。 [授業形態]講義、グループディスカッション</p> <p>第4回 公衆衛生看護の場 [到達目標] 行政・施設、在宅における保健師の活動を考えることができる。 産業保健及び学校保健における保健師の活動を考えることができる。 [授業形態]講義、グループディスカッション</p> <p>第5回 社会情勢の変化と健康問題（1） [到達目標] 健康の社会的決定要因、健康格差など社会環境や生活環境の変化による健康問題との関連について理解する。 [授業形態]講義、ディスカッション</p> <p>第6回 社会情勢の変化と健康問題（2） [到達目標] 健康の社会的決定要因、健康課題解決の資源について学習する。 健康の社会的決定要因、生活構造について理解する。 [授業形態]講義、ディスカッション</p> <p>第7回 住民への相談活動の実際 [到達目標] 様々な健康問題に対する相談活動について考えることができる。認知症予防活動、介護予防、支援者に対する支援ネットワークについて考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション</p> <p>第8回 公衆衛生看護活動の展開（1） [到達目標] 医療モデルと生活モデル、予防、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ等公衆衛生看護の理論について説明できる。保健師の行う個別・家族・集団へのアプローチ方法について説明できる。 個別の健康課題の解決のみならず、事業化・施策化により地域の健康課題を解決する公衆衛生看護活動を理解する。 [授業形態]講義、ディスカッション</p> <p>第9回 公衆衛生看護活動の展開（2）【結核対策を中心に】 [到達目標] 地域を対象として看護活動を展開する保健師の視点、健康課題の把握、実践、住民との関係や協働、評価の一連の活動をPDCAサイクルに沿って展開していることを実際の結核対策の事例から学び考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション</p> <p>第10回 公衆衛生看護活動の展開（3）【精神保健対策を中心に】 [到達目標] 地域を対象として看護活動を展開する保健師の視点、健康課題の把握、実践、住民との関係や協働、評価の一連の活動をPDCAサイクルに沿って展開していることを実際の精神保健対策の事例から学び考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション</p> <p>第11回 健康危機管理 [到達目標]</p>

	<p>災害時やパンデミック発生時の保健師の役割について学び、看護職と多職種連携について理解する。 [授業形態]講義、ディスカッション 公衆衛生看護管理 [到達目標] 公衆衛生看護管理の目的、組織と管理、人材育成の仕組みを学習する。基本的人権を踏まえ、マイノリティへの支援及び自己決定への支援、保健師の責務について考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション 公衆衛生看護におけるケアシステムの構築 [到達目標] 公衆衛生看護における事業化、施策化の意義、ケアシステムの構築について考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション 公衆衛生看護活動の歴史 [到達目標] 日本における公衆衛生看護の歴史について考えることができる。 [授業形態]講義 公衆衛生看護について [到達目標] 公衆衛生看護の理念、目標、歴史、倫理を理解できる。 個別の健康課題の解決のみならず、事業化・施策化により地域の健康課題を解決する公衆衛生看護活動を理解する。 [授業形態]講義、期末テスト</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業内容を確認するために出された課題をまとめて、期限までに提出する。毎回ではないが、授業開始時に確認テストを行う（10分か15分程度）。次回の学習内容について事前に調べる等、必要に応じて授業内でインフォメーションする。事前課題、実習評価の内容、実習記録、実習への取り組み態度など総合的に評価する。 【予習・復習・課題を含めて15時間の学習を要する】</p>
教科書	<p>標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 他（医学書院）</p>
参考書	<p>「国民衛生の動向2023/2024」（財団法人 厚生統計協会編集・発行）</p>
成績評価	<p>出席状況、授業態度、課題・確認テスト30%、筆記試験（中間・期末）70%により総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 玉井公子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員 : 大倉 和子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_ohkura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>非常勤講師：佐藤裕見子 ゲストスピーカー：有馬和代、平田浩二</p>
備考	<p>行政機関における実務経験を授業に活かしつつ、市町村等行政機関における実際の保健医療福祉の現状を学生が主体的に調べディスカッションすることで、保健医療福祉行政の目的や保健師の役割を実践的に理解できる教育を目指します。「アクティブラーニング」</p>
	<p>「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-①、○-②、○-③ 科目ナンバー：「KK-2-NSc38-RS-L-1」</p>
	<p>Classroomを活用</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
大山 由紀子、扇田 千代、西野入 則江、			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護の対象を理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を養う</p> <p>【到達目標】 1) 指導のもとに受け持ち患者を総合的に理解し、看護過程の展開ができる 2) 患者と患者をとりまく人々と良い関係を築き、看護学生としてふさわしい行動をとることができる 3) 実習経験を通して看護について考え、看護専門職者をめざす自己の課題を明確にできる</p>
授業計画	<p>1日目 病院・病棟オリエンテーション、受持ち患者把握（アセスメント） 【到達目標】 1) 病院オリエンテーション、病棟オリエンテーションを受け、施設の概要が把握できる。 2) 受け持ち患者の情報収集ができる 3) 援助場面の見学ができる 【授業形態】実習</p> <p>2日目 受持ち患者把握（アセスメント） 【到達目標】 1) 受け持ち患者の情報収集／分析・解釈ができる 2) 援助場面の見学ができる 【授業形態】実習</p> <p>3日目 受持ち患者把握（アセスメント） 【到達目標】 1) 患者を多方面から把握し、アセスメントができる 2) 援助場面の見学・実施ができる 【授業形態】実習</p> <p>4日目 学内実習 【到達目標】 1) 全体像把握ができる 2) アセスメント（情報収集／分析・解釈）の関連を全体像にまとめることができる 3) 看護上の問題点の抽出ができる 【授業形態】学内実習</p> <p>5日目 受持ち患者把握（アセスメント）／中間カンファレンス 【到達目標】 1) 関連図をもとに看護上の問題およびその原因を明確化することができる 3) 問題点の中から日常生活の援助を視点においた看護計画を立案することができる 4) 中間評価をもとに、後半の課題がわかる 【授業形態】実習</p> <p>6日目 看護計画の確認と実施 【到達目標】 1) 看護計画の確認と実施／評価ができる 2) 立案した計画が実現可能かを指導者に確認・助言・指導を受け、計画を修正することができる 3) 立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施し評価することができる 【授業形態】実習</p> <p>7日目 看護計画の実施・評価・修正 【到達目標】 1) 看護計画の確認と実施／評価ができる 2) 必要時計画を修正しながら立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施し評価することができる 【授業形態】実習</p> <p>8日目 看護計画の実施・評価・修正 【到達目標】 1) 看護計画の確認と実施／評価ができる 2) 必要時計画を修正しながら立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施し評価することができる 【授業形態】実習</p> <p>9日目 看護計画の実施・評価・修正／最終カンファレンス 【到達目標】 1) 看護計画の確認と実施／評価ができる 2) 必要時計画を修正しながら立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施し評価することができる 3) 基礎看護学実習Ⅱで学んだことについてまとめる 4) 個別指導を受け、自己の課題が明確化できる 【授業形態】実習</p>

	10日目 学内でのまとめ 【到達目標】 基礎看護学実習Ⅱでの学びを発表することができる 【授業形態】学内実習
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1, 2年生での学習内容をすべて復習して実習に臨む 日常生活の援助技術は確実に実践できるよう技術習得して臨む
教科書	「看護学生のための臨地実習ナビ」照林社 実習オリエンテーションで実習要項を配布する
参考書	1) 「看護学概論」「看護基礎理論」「基礎看護援助論Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」「ヘルスアセスメントⅠ, Ⅱ, Ⅲ」 「看護過程論」で学習したテキスト・資料、および紹介した文献 2) 「看護学生クイックノート」照林社
成績評価	1) 実習時間の5分の4以上の出席がなければ評価の対象とはならない 2) 実習目標達成度を実習評価表, 実習記録により総合的に評価する 3) 実習まとめの発表会への参加及びレポート提出も評価対象とする
担当教員の基本情報	担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館 7階 711研究室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :
備考	実習オリエンテーション, 実習期間については教育日程を参照のこと。 各教員が、各々の病院での臨床経験をもとに実習指導を行う
	[実習病院] 綾部市立病院 京都市立病院 明治国際医療大学附属病院 市立大津市民病院 京都岡本記念病院 京丹後市立弥栄病院 京都田辺記念病院 京都桂病院
	[実習方法] 成人期～老年期にある患者を1名受け持ち, 看護師・教員の指導のもとに看護過程を展開する。
	授業とDPとの関連 : 「◎-4」「○-5」 科目ナンバー : KK-2-NSc46-RS-P-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田中小百合、坪倉浩美、玉井公子（講義順）			
看護学科	15時間	講義（対面）	アクティブラーニングあり
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 家族内に健康問題が発生したとき、家族員が交互にどのように影響し合うのかを理解し、家族内の健康問題に対処する力を引き出し、支援するのに必要な家族看護学の理論と方法論を学習する。</p> <p>【授業目標】 ・家族の発達・健康問題に応じた援助および家族看護に関する諸理論が理解できる ・健康な家族についての考え方がわかる ・家族を形成する家族形態は時代とともに変化していることが理解できる ・事例を通して家族への支援の仕方が理解できる</p>
授業計画	<p>1～2回目 家族とは / 家族看護学における対象を理解する方法 【到達目標】 ・家族の定義、さまざまな家族の見方がわかる ・家族周期論的アプローチ、家族システム論的アプローチが理解できる ・ジェノグラムとエコマップが書くことができる（アクティブラーニング） ・看護の対象としての家族を捉えることができる</p> <p>3～4回目 健康な家族についての考え方 【到達目標】 ・健康な家族は、どのようにストレスに対処するのかを理解する ・健康な家族は、どのように機能しているのかを理解する ・家族の価値体系、役割、勢力、家族コミュニケーションの構造を理解する</p> <p>5回目 家族を取り巻く社会的・文化的背景 / 家族看護過程の展開 【到達目標】 ・これまでの家族の変遷と現代日本の家族の現状が説明できる ・家族看護過程の展開のポイントがわかる</p> <p>6回目 事例展開1（坪倉先生） 【到達目標】 ・母子事例を通して支援の仕方が理解できる</p> <p>7回目 事例展開2（玉井先生） 【到達目標】 ・認知症や難病などの事例を通して支援の仕方が理解できる</p> <p>8回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1～5回目：知識の整理のために教科書のページ番号を記載し、空欄を設けたレジメを配布する。それを活用しながら予習、復習を行うこと。 6～7回目：担当教員の指示に従うこと。</p>
教科書	家族看護学 山崎あけみ他編（南江堂）
参考書	特に指定しない
成績評価	試験
担当教員の基本情報	田中小百合：10号館810研究室 sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 坪倉 浩美：10号館802研究室 hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 玉井 公子：10号館707研究室 k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	田中小百合：病院での実務経験をもとに「家族看護」について授業をすすめる。 坪倉 浩美：助産師の実務経験をもとに「家族看護」について授業をすすめる。 玉井 公子：保健師の実務経験をもとに「家族看護」について授業をすすめる。
	不明なことはmellyで対応します。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2 科目ナンバー：KK-3-NSc61-RS-L-1

講義科目名称： 看護に生かす補完代替療法論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
栗山 真由美、佐藤裕見子 和辻 直、玉井 公子			
看護学科	15時間	講義および演習	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	補完代替療法から統合医療についての医療体系の変化のなかで、看護学の果たす役割と、新たに必要とされる専門的な知識・技術・態度について考察する。より統合的なケアの在り方（ホリスティック・ナーシング）、看護の対象となる人々に対する安心・安楽の看護援助において、社会のニーズの変化と新たな看護技法の開発について探索する。
授業計画	<p>1回(佐藤) 看護における補完代替療法（ホリスティック・ナーシング）の意味について</p> <p>終末期や治らない病気を持つ人への安楽なケアとは何か、寄り添うことの意味について考え、補完代替療法（ホリスティック・ナーシング）の意義について自分の意見を書き出すことができる。 [授業形態]講義およびグループディスカッション</p> <p>2回(和辻) 補完代替療法から統合医療への流れ（現代医学から伝統医療を見直す）</p> <p>統合医療とは何かを理解し、日本における伝統学統と近代医学、東洋医学と西洋医学の統合について考えることができる。</p> <p>「オンデマンドによる講義」 セルフケアを支援するリラクゼーション法・筋弛緩法の実践</p> <p>健康を自分でコントロールするということ、その自己責任について考えをまとめる。 [授業形態]講義およびグループディスカッション</p> <p>3回(玉井) 看護実践に生かす補完代替療法</p> <p>補完代替療法が高齢期や認知症の人々にどのように適用されるのか、その意義について考え述べることができる。</p> <p>補完代替療法が高齢期や認知症の人々にどのように適用されているのか、その意義について考え、述べることができる。 [授業形態]講義およびグループディスカッション</p> <p>4回(栗山) タクテールケアの実技</p> <p>タクテールケアの概念を捉え、看護実践におかる身体・心理・認知面との関連について説明できる。 [授業形態]講義およびグループディスカッション（一部演習）</p> <p>5回(佐藤) 看護介入としての可能性を探求する</p> <p>寄り添う看護とは何かを考察し、補完代替療法を看護実践に取り入れる意義を説明することができる。 [授業形態]講義およびグループディスカッション</p> <p>6回(栗山) 高齢者の看護実践を高めるためのパーソンセンタードケア</p> <p>パーソンセンタードケアの理念を活用したケアの実際について学び、実技ができるようになる。 [授業形態：講義・実技指導]</p> <p>7回(栗山) まとめ</p> <p>全体の学びを振り返り、看護における補完代替療法が対象となる人々にどのような安心・安楽をもたらすのか、また看護の実践者として取り入れていく意義について考える。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	1年次に習得した基礎学概論、基礎看護援助論、基礎看護学実習Ⅰなど看護の基礎となる看護論及び看護技術について復習し、さらに看護の対象となる人々に対する安心・安楽の看護援助について深めていくための東洋医学的な理論について復習しておく。（4.5時間以上の予習・復習を目安として行うこと）
教科書	資料などGoogle classroomへ提示
参考書	「ケアの中の癒し」看護の科学社 「リラクゼーション法入門」小坂橋喜久代 荒川 唱子 「ナーシングマッサージ入門」小坂橋喜久代 河内香久子他 看護のための最新医学講座（第33巻）中山書店

	自分を守る患者学 渥美和彦 PHP出版 補完代替医療入門 上野恵一 岩波アクティブライブラリー
成績評価	出席状況・参加態度（5割）、レポート(5割)により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 栗山真由美（看護学部）10号館8階 メールアドレス：ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp 担当教員：和辻直（鍼灸学部） メールアドレス：t_watsuji@meiji-u.ac.jp 玉井公子（10号館7階） メールアドレス：k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義実施日、メールで相談
備考	実務経験豊かな教員のオムニバスにより、補完代替療法の理論と各療法を看護実践に活かせる具体的な内容で指導方法を伝授する。デプロマポリシー ◎-⑤ ○-② KK-2-NSc75-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
岸田 聡子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>補完・代替医療の一つであり、医療分野で広く取り入れられてきているメディカル・アロマセラピーの基礎を理解する。アロマセラピーの概念、歴史、現状と課題、エッセンシャルオイルの性質、禁忌、作用機序などについて学習し、実践に必要とされるメディカル・アロマセラピーの基礎を身に着ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディカル・アロマセラピーの概念を理解すること ・メディカル・アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの基本、注意事項、薬理作用などを理解すること ・メディカル・アロマセラピーの実践方法について学習すること ・メディカル・アロマセラピーの役割について考えること。
授業計画	<p>1回目 メディカル・アロマセラピー概論 [到達目標] アロマセラピーの定義、利用方法、現状などを把握すること [備考]</p> <p>2回目 メディカル・アロマセラピー総論 1-① [到達目標] アロマセラピーの定義、歴史、芳香植物の分類と性状を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第1章</p> <p>3回目 メディカル・アロマセラピー総論 1-② [到達目標] アロマセラピーの定義、歴史、芳香植物の分類と性状を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第1章</p> <p>4回目 メディカル・アロマセラピー総論 2-① [到達目標] エッセンシャルオイルの抽出、禁忌、品質管理などについて理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章</p> <p>5回目 メディカル・アロマセラピー総論 2-② [到達目標] エッセンシャルオイルの成分、分析について理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章</p> <p>6回目 メディカル・アロマセラピー総論 2-③ [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章</p> <p>7回目 メディカル・アロマセラピー総論 2-④ [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章</p> <p>8回目 メディカル・アロマセラピー総論 2-⑤ [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編第2章</p> <p>9回目 メディカル・アロマセラピー総論 2-⑥ [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章</p> <p>10回目 メディカル・アロマセラピー総論 2-⑦ [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章</p> <p>11回目 メディカル・アロマセラピー総論 3 [到達目標] 各キャリアオイルの特徴、性質を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第3章</p>

	<p>12回目 メディカル・アロマセラピー総論 4 [到達目標] エッセンシャルオイルの薬理作用を理解する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第4章</p> <p>13回目 メディカル・アロマセラピー総論 5 [到達目標] アロマセラピーの実践方法を学習し、実際に行える知識を身に着ける [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第5章</p> <p>14回目 まとめ [到達目標] 基本的なアロマセラピーの知識が習得できたことを確認する [備考]</p> <p>15回目 まとめ（評価含む）、香りについての講義 [到達目標] 知識習得の確認 [備考]</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	<p>あらかじめシラバスに沿って、教科書を読んでおくこと。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。</p>
教科書	<p>補完・代替医療 メディカル・アロマセラピー（改訂第三版） 著者：今西二郎， 出版社：金芳堂</p>
参考書	<p>「アロマセラピー入門第2版」今西二郎、荒川唱子編（日本看護協会出版会）</p>
成績評価	<p>筆記試験80%、授業内演習20%</p>
担当教員の基本情 報	<p>担当教員名 : 岸田 聡子 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業時間の前後</p>
備考	<p>毎回、症例提示を基にした、課題解決型学習やディベートなどを取り入れ、アクティブラーニングを行うことにより、講義内容の深化を図る。</p>
	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-5，○-2・4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	陸上競技は「走る・跳ぶ・投げる」が基礎となっている運動です。短距離種目、跳躍種目、投てき種目の知識と技術を体験習得して計測につなげる。		
授業計画	1	ガイダンス [到達目標] 健康スポーツ実習Ⅲの狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。 予習：シラバスに目を通しておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	2	ウォーミングアップ・短距離走 [到達目標] ウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョグからの短距離走の基本(スタート・中間疾走)を理解させる。 予習：ウォーミングアップについて調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	3	短距離走計測 [到達目標] 100m走の計測、。 予習：短距離走について調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	4	跳躍1 [到達目標] 色々な跳躍動作を説明し実践・体験させる。 予習：立幅跳び、走り幅跳び、各種バウンディングについて、調べておく。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	5	跳躍計測 [到達目標] 立ち幅跳び、走り幅跳びの計測。 予習：走り幅跳びについて調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	6	ハードル走 [到達目標] フレキハードル使用でハードルの基本を体験理解する。 予習：ハードル競技について調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	7	投てき競技 砲丸投げ [到達目標] 砲丸投げの基本について男子2kg女子1kgのメディシンボールを使用して砲丸投げを体験理解する。 予習：砲丸投げについて調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	8	投てき競技 砲丸投げ(計測) [到達目標] 男子2kg女子1kgのメディシンボールを使用して砲丸投げの計測を体験理解する。 予習：砲丸投げの計測方法について調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	9	投てき競技 円盤投げ [到達目標] ひも型メディシンを使用して円盤投げの立ち投げと回転投げを体験理解する。 予習：円盤投げについて調べておく。 復習：授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無：あり	
	10	投てき競技 円盤投げ(計測) [到達目標] ひも型メディシンを使用して立ち投げの計測を体験理解する。 予習：円盤投げの計測方法について調べておく。	

	<p>11 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり 投てき競技 やり投げ [到達目標] ターボジャブを使用してやり投げの基本を体験理解する。 予習:やり投げについて調べておく。 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>12 投てき競技 やり投げ(計測) [到達目標] ターボジャブを使用して計測を体験理解する。 予習:やり投げの計測方法について調べておく。 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>13 投てき競技 ハンマー投げ [到達目標] メデイションハンマーを使用してハンマー投げを体験理解する。 予習:ハンマー投げについて調べておく。 復習: 授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>14 投てき競技 ハンマー投げ(計測) [到達目標] 男女4kgのハンマーを使用してスウィング投げ計測を体験理解する。 予習:ハンマー投げの計測方法について調べておく。 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>15 陸上競技全般の理解 [到達目標] 走る・跳ぶ・投げる陸上競技全般の相互理解ができる。 予習:陸上競技全般について調べておく。 復習:授業で経験したことポイントを書いておく。 アクティブラーニングの有無:あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	予習としてタイトルの種目のルールや規則を熟知する事(70分)。復習として授業で習得したこと、ポイント を書いておく。(70分) 授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	出席状況50% 授業の取り組み姿勢30% 実技の評価20% 以上を総合評価します。
担当教員の基本情 報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	◎-4、○-5 KK-9-HA4-ES-P-1

講義科目名称： 疫学

授業コード： 4K304

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期～前期	3-4	2	選択
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
桂 敏樹			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>公衆衛生学は、地域社会における集団と個人の健康に焦点を当てながら地域住民の健康の維持増進に必要な十分な社会制度などにより、疾病予防、生命延長、身体的および精神健康を図る科学と技術である。このような公衆衛生学を体系的に学習する。</p> <p>「国民衛生の動向」最新版を用い、国家試験対策の一部として、我が国や世界の公衆衛生に関連する動向について学習を深める</p>
授業計画	<p>第1回 桂 公衆衛生を学にあたって、公衆衛生とは何か 【到達目標】 看護学生がなぜ公衆衛生を学ぶ必要があるのか理解する。公衆衛生とは何かを理解する。</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第2回 桂 公衆衛生の活動対象、公衆衛生の仕組み 【到達目標】 看護職が公衆衛生を学ぶ意義と公的責任、社会集団と個人のQOLのかかわり、社会集団の味方について理解する。公衆衛生の仕組み、法律、政策を学ぶ。</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第3回 桂 集団の健康をとらえるための手法、疫学 公衆衛生における感染症予防の基本を理解する。 循環器疾患の予防</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第4回 桂 人口統計 【到達目標】 人口静態統計と人口動態統計について理解する。</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第5回 桂 地域保健 【到達目標】 母子保健と成人保険、高齢者保健を理解する。</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第6回 桂 難病、感染症対策 【到達目標】 難病の支援システム、感染症対策を理解する。</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第7回 桂 学校保健、職場における健康、環境保健 【到達目標】 学校における健康、職場における健康について理解する。</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第8回 桂 まとめ 全体を通したまとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>(1) 各自教科書等を予め読んでおくこと</p> <p>(2) 講義で配布した資料を復習すること 資料各章にはLessonがあります 復習やリフレクションに利用ください</p> <p>(3) 教科書の内容は国家試験に出題される内容です しっかりと学びましょう</p>
教科書	国民衛生の動向2023 - 2024
参考書	参考書は指定しない 学修のための資料を提供する
成績評価	試験により評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 桂 敏樹</p> <p>研究室 : 10号館8階</p> <p>メールアドレス : t_katsura@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>公衆衛生学の観点から我が国や世界各国の健康事象や健康政策の現状を学生が主体的に調べディスカッションすることで、公衆衛生の概要を理解できる教育を目指します。デプロマポリシーとの関連： ◎ー① ○ー②③</p>

	科目コード KK-2-MM20-RS-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
東 孝至			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>社会保障や社会福祉の各制度は、年金、医療、福祉と制度別に分かれ、医療、福祉のサービスは、相互に連携する必要性に迫られている。各サービスを担う専門職の側が一方的に範囲を決めるのではなく、一人の人間という存在である利用者のためにそれぞれの専門職が連携する世になった。そうしたなかで、人間の健康に関わる看護師にとって、社会保障、社会福祉の制度に関する知識、素養は、今後ますます求められるようになる。そのため、本講座は看護師に関わりのある社会保障に纏わる各諸制度について、看護師が身に付けておくべき素養を涵養していく。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・社会保障制度とは？ 【到達目標】 1) 社会保障は、国民の生活の安定を図り、最低水準の生活を保障する公的な制度であることを理解し、その概要を体系的に説明できる。 2) 社会保障の制度やそれを担う体制を知ること、臨床現場で必要とされる他職種連携を説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>第2回 現代社会の変化と社会保障の動向 【到達目標】 1) 現代社会において国民の直面する諸問題に対応する社会的な仕組みを説明できる。 2) 我が国における基本的な社会保障の動向を説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>第3回 医療保障 【到達目標】 1) 我が国の医療保障を理解し、経緯や沿革を知ること、今後の動向を説明することができる。 2) 我が国の医療保障制度の基盤となる医療保険制度と保険診療の仕組みについて説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>第4回 介護保障 【到達目標】 1) 介護保険制度成立の経緯や現在の制度の概要に加え、今後の課題と展望を説明できる。 2) 介護保険制度以前の老人福祉を知り、制度の本質を説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>第5回 所得保障 【到達目標】 1) 国民の生活を支える所得保障を知り、患者の生活背景を説明できる。 2) 所得保障制度全体を概観し、年金保険、社会手当、労働災害保険を説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>第6回 公的扶助 【到達目標】 1) 現代のセーフティネットである生活保護制度を説明できる。 2) 制度内容と変遷を理解し、制度適用の実態と動向について説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>第7回 福祉サービス 【到達目標】 1) 高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉の各分野について説明できる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>第8回 講義のまとめと試験 【到達目標】 1) 現在日本の社会保障を概観し、説明することができる。 2) 授業内試験を行う。 【授業形態：講義とディスカッション】</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>私たちは、個人の努力だけでは対応が難しい様々な困難に直面します。そうした困難に対して、生活の安定を図るとともに最低生活保障といった公的な制度について学びます。本講座は座学を中心として展開されますが、さまざまな生活保障は多岐にわたりますので、そうした問題についての予習復習及び課題作成には4.5時間の学習を行い、補填しつつ授業を受けるようにしてください。</p>
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3」 医学書院
参考書	『系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3』医学書院2023
成績評価	出席状況や授業への参加度（課題の提出、その評価）を考慮し、授業最終日に筆記試験を行います。
担当教員の基本情報	地域包括支援センターでの相談支援業務での経験から、社会問題について看護学生とともに議論し、将来の社会福祉・社会保障の在り方について目指す方向について共有します。
備考	②-◎、③-○ 科目ナンバリング：KK-2-MM21-RS-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
東 孝至			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉の基礎的な知識と理念について学びます。そのなかで現代社会における社会福祉問題をとらえながら社会福祉を理解していきます。 社会福祉サービス考え方を学び、社会福祉各分野における協働の重要性について理解していきます。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・社会福祉の法制度 [到達目標] 1) 社会福祉を支える法制度について、現在の社会福祉制度の背景を理解し、社会福祉を実際に担う組織や従事者について理解する。 2) 社会福祉体制を理解することで、臨床現場で必要とされる多職種との連携に役立てることができる。 【授業形態：講義とディスカッション】</p> <p>2回目 様々な社会問題①児童家庭福祉 [到達目標] 1) 現代社会において、少子化に伴い子どもの育ちの環境としての過程は変化してきている。そこで児童に関わる法施策を概観し、少子化の課題と家族問題をグループで検討する。 【授業形態：講義とグループディスカッション】</p> <p>3回目 様々な社会問題②人生会議を検討する [到達目標] 1) 厚生労働省が推し進めている「ACP：アドバンス・ケア・プランニング」について概観し、自らが望む、人生会議」の最終段階の医療・ケアについてグループでディスカッションを行い理解を深めることができる。 【授業形態：講義とグループディスカッション】</p> <p>4回目 社会福祉実践と医療・看護 [到達目標] 1) 医療現場、地域社会などの多様な現場で展開される社会福祉実践の共通基盤としての援助の必要性と援助方法について理解できる。 2) 多職種連携の重要性を理解し、看護実践でそれぞれの役割を活かした援助ができる。 【授業形態：講義とグループディスカッション】</p> <p>5回目 様々な社会問題③地域包括支援センター 1) 地域包括支援センターにおける事例をグループで検討し、地域社会における高齢者福祉の問題点を理解できる。 【授業形態：グループディスカッション】</p> <p>6回目 社会福祉援助場面を検討する①コンフリクトを知る [到達目標] 1) 事例をもとにグループで各役割を理解し、生活困難状況を理解できる。 ※次回授業までにストラテジーシートを作成してくる 【授業形態：グループディスカッション】</p> <p>7回目 社会福祉援助場面を検討する②グループ発表 [到達目標] 1) 各グループでの役割を発表し、実際の社会福祉援助場面を理解できる。 2) 各グループでの学びを総括し、生活支障の改善を検討できる。 【授業形態：講義とグループディベート】</p> <p>8回目 講義のまとめと試験 [到達目標] 1) 授業内試験を行う。 【授業形態：講義と終講試験】</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	近年のグローバル経済の進展のなかでさまざまな社会問題、特に社会的サポートを必要とする人々のニーズは多岐にわたり社会福祉への期待が高まっています。本講座はその生活問題を抱えた人々へ如何にアプローチするかを命題としています。そのため授業は座学だけではなくグループワークやディスカッションを主体とすることで、いかなる職種とも協働できる力を身につけることができるように期待します。予習復習及び課題作成には4.5時間の学習を行う。※ストラテジーシート作成のため、課題作成時間として45分を使用する。
教科書	授業毎に資料を配布します。
参考書	『よくわかる社会福祉【第11版】』山縣文治編（2016年、ミネルヴァ書房） 『初めての社会福祉論』三好禎之編（2015年、法律文化社）
成績評価	出席状況や授業への参加度（課題の提出、その評価）を考慮し、授業最終日に筆記試験を行います。 出席・授業への参加度：40% 筆記試験：60%
担当教員の基本情報	担当教員名：東 孝至 研究室：10号館7階7階研究室 メールアドレス：t_azuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：
備考	地域包括支援センターでの相談支援業務での経験から、社会問題について看護学生とともに議論し、将来の社会福祉・社会保障の在り方について目指す方向について共有します。

	②-◎、③-○ 科目ナンバリング : KK-3-MM22-ES-L-Ns/PHN

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
大倉 和子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	地域住民の生活に関わる保健・医療・福祉行政・制度の変遷を学ぶことにより、現代社会の課題と今後の展望について理解できる。また、保健・医療・福祉のケアシステムの計画・実施・評価に関する概要及び生活の場で活かされる行政活動の実際を理解できる。 母子保健・老人保健・精神保健などの保健行政の変遷と今後の動向を考え、地域住民の生活に関わる総合的ケア活動について理解できる。		
授業計画	1 回	保健医療福祉行政が目指すもの、学ぶ上で根拠や公衆衛生の定義について [到達目標] 保健医療福祉行政を学ぶ上で基盤となる根拠や公衆衛生の定義及び世界の公衆衛生のトレンドを学び、保健医療福祉行政の目指すものを理解する。 [授業形態：講義形式]	
	2 回	保健医療福祉制度の変遷とその時々の健康課題について [到達目標] 公衆衛生の歴史を通じて公衆衛生の本質を理解する。先人の公衆衛生に対する考え方を知り、その理念を理解する。第二次大戦後の公衆衛生施策の発展を学び、現在の施策との連続性を理解し具体的に述べる。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]	
	3 回	地域保健の基盤となる法律や制度と保健・医療・福祉の個別政策の具体的内容と経緯について [到達目標] 地域保健の基盤となる法律や制度及び日本の保健・医療・福祉に関する個別政策の具体的内容と経緯を理解し、少子高齢化社会における日本の保健・医療・福祉政策を相互に関連付けて理解し説明できる。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]	
	4 回	国、都道府県、市区町村の財政の仕組みと役割について [到達目標] 国、都道府県、市区町村の財政の仕組みについて理解できる。 [授業形態：講義形式] (小テスト)	
	5 回	予算編成と決算の意義、社会保障制度の理念と仕組みについて [到達目標] 予算編成と決算の意義を理解し、社会保障の給付と財源について理解できる。さらに、社会保障制度の概念・目的・制度体系について理解できる。 [授業形態：講義形式]	
	6 回	医療制度と政策 [到達目標]医療制度と医療保険のしくみを学びし、医療供給体制、医療計画について理解する。社会保障制度改革として推進されている、医療介護の提供体制について理解する [授業形態：講義形式] 課題：ノートづくり 【45分】医療施設・在宅医療について	
	7 回	国、都道府県、市区町村の行政の仕組みと役割、地域における保健師の役割と活動について [到達目標] 地域保健における都道府県と市町村の役割分担を理解し、保健所及び市町村保健センターの業務を学ぶ。都道府県、保健所の広域的専門的な役割を理解し、事業の企画立案、施策化について理解する。 [授業形態：講義形式]	
	8 回	地域保健行政と保健師活動について 地域保健における都道府県と市町村の役割分担を理解し、保健所及び市町村保健センターの業務を学ぶ。また、市町村保健センターは住民のライフステージごとの関係機関と連携して活動していること、事業の企画立案について理解できる。	
	9 回	国際保健について [到達目標] 近年の国際保健について、保健医療分野の国際協力のしくみについて理解する。国際保健に関する主な国際機関の役割とその活動について理解する。 [授業形態：講義、小テスト]	
	1 0 回	保健福祉計画の策定について [到達目標]保健福祉計画策定された時期の背景を理解し、国、都道府県、市町村の役割を理解する。基本構想（総合計画）との相互の整合が図られていることを里香資する。また、各分野の計画策定・推進するには、行政内の関連部局と調整し、行政外の関係機関必要性和その内容を知る	
	1 1 回	保健福祉計画策定のプロセス [到達目標] 保健福祉計画策定のプロセスを理解する。計画策定への住民参加の意味、形態を理解する。また、保健計画策定におけるエンパワメントについて理解する。 [授業形態：講義形式]	
	1 2 回	各市町村の保健福祉計画を調べる	

	<p>[到達目標] 自分の住んでいる市町村の保健医療福祉計画について調べ、グループ毎にディカッションすることで、法的根拠とつなげて理解する。また、市町村ごとに共通する内容と違いについて理開始、地域特性について説明する。 [授業形態：講義、グループディスカッション形式]</p> <p>1 3回 保健事業の立案プロセスと情報収集・分析、優先順位について [到達目標] 事例を用いて保健事業の立案について、情報収集・課題分析・優先順位・事業の企画をグループ演習を行い、発表する。 [授業形態：講義、グループディスカッション形式]</p> <p>1 4回 保健事業の推進と評価について [到達目標] 保健計画推進のポイントを学ぶ。 保健計画の立案プロセスを学び評価について学ぶ。 [授業形態：講義、課題発表]</p> <p>1 5回 地域保健の課題解決のためのプロセスと保健医療福祉行政における保健師の役割について [到達目標] 日本国憲法及びWHO健康の定義に基き保健医療福祉行政がめざすものを確認し、人々の健康課題を解決するための保健師の役割をグループディスカッションを通して明らかにする。 [授業形態：講義 期末テスト]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>保健医療福祉行政論は、保健師活動の基本となる学問のため、授業には関心を持ち積極的に参加する社会で起きている健康・医療・福祉問題に関心を持ち、情報収する</p> <p>【予習・復習・課題を含めて1コマ70分の学習を要する】</p>
教科書	保健医療福祉行政論 (医学書院) 公衆衛生が見える第5版 (メディック・メディカ)
参考書	国民衛生の動向2022/2023 (厚生労働省統計協会)
成績評価	中間試験/期末試験/小テスト60%、ディスカッション/レポート40%
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 大倉和子 研究室 : 10号館7階研究室 メールアドレス : k_ohkura@meiji-ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	行政機関の実務経験豊富な教員として、経験を授業に活かしつつ、市町村等行政機関における実際の保健医療福祉の現状を学生が主体的に調べ、ディスカッションを行うことで、保健医療福祉行政の目的や保健師の役割を実践的に理解できる教育を目指す。アクティブラーニングにより、互いに意見交流し理解を深める。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-②、○-①③ 「科目ナンバー」KK-3-MM25-ES-L-PHN

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
今井 理香			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：演習（グループワーク）	2日間（4コマ×2）の集中講義
添付ファイル			

授業目標	今までの講義・演習で獲得した知識及び、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱでの基礎実践能力を基盤に、領域実習にむけてより実践的な臨床判断の習得を目的とする。 1) 「臨床判断」の概念、「臨床判断モデル」について理解することができる。 2) 提示された事例の場面から、気づきを導き出し、その根拠を述べることができる。 3) 自身が体験した援助場面を振り返り、省察を行うことができる。
授業計画	<p>第1回 導入/事例から気づくトレーニング①</p> <p>第2回 [到達目標]「術後患者の観察ポイント」のDVD事例を視聴し、場面から気づきを得て援助の視点を導き出すことができる。 [授業形態]グループワーク [備考]グループワークの成果は講義内で発表し、全体でディスカッションを行う。提示された課題はグループワークの成果に基づき、各個人で完成させ、指定された期日に提出する。</p> <p>第3回 事例から気づくトレーニング②</p> <p>第4回 [到達目標]「患者の循環動態変動・疼痛増強」のDVD事例を視聴し、場面から気づきを得て援助の視点を導き出すことができる。 [授業形態]グループワーク [備考]グループワークの成果は講義内で発表し、全体でディスカッションを行う。提示された課題はグループワークの成果に基づき、各個人で完成させ、指定された期日に提出する。</p> <p>第5回 事例から気づくトレーニング③</p> <p>第6回 [到達目標]「患者の学習レディネス」のDVD事例を視聴し、場面から気づきを得て援助の視点を導き出すことができる。 [授業形態]グループワーク [備考]グループワークの成果は講義内で発表し、全体でディスカッションを行う。提示された課題はグループワークの成果に基づき、各個人で完成させ、指定された期日に提出する。</p> <p>第7回 臨床判断モデルに基づく省察</p> <p>第8回 [到達目標]基礎看護学実習Ⅱで経験した場面について振り返りを行い、グループディスカッションを通して省察を行うことができる。 [授業形態]グループワーク [備考]グループワークの成果は講義内で発表し、全体でディスカッションを行う。提示された課題はグループワークの成果に基づき、各個人で完成させ、指定された期日に提出する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	4回実施する演習で提示される課題を提出日までに完成させる。提出日は適宜指示する。
教科書	各援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書全般
参考書	講義前に提示
成績評価	各講義内での課題を25点満点とし、総合的に評価する。 課題の提出状況、授業態度、グループワークへの参加状況に体する評価は10%を上限とし、減点方式で行う。
担当教員の基本情報	<p>科目責任者：今井理香</p> <p>研究室：10号館8階 研究室805</p> <p>メールアドレス：r_imai@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：特に指定はしない。質問等がある場合は、あらかじめメール等にて連絡し時間調整を行うこと。</p> <p>その他：急性期病院にて勤務（外科系；脳神経外科、デイサージャリー診療部、内科系；血液内科、消化器内科）</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2，○-4</p> <p>科目ナンバ：KK-2NSc10-RS-S-1</p> <p>本講義は、提示事例に基づきグループワークを中心としたアクティブラーニングを行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	4	選択
担当教員			
坪倉 浩美、伊藤 三紀子、山田 智子			
配当学科：看護学科	時間数：60時間	授業形態：講義・演習	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 助産診断の基礎となる理論と技術を用いて、対象理解に必要な実践方法を学ぶ。 マタニティサイクルの助産診断に必要な基礎知識および科学的根拠に基づいた助産技術と助産援助について学ぶ。 マタニティサイクル各期において、正常な経過をたどるための保健指導および健康教育の基礎的知識・技術を学ぶとともに、プライマリ・ヘルスの観点から助産過程を展開し、その役割と責任遂行の基礎能力を養う。</p> <p><授業目標> 1. マタニティサイクルの助産実践に必要な知識と技術が修得できる。 2. 助産過程の概要を理解し事例を用いて助産過程の展開ができる。 3. 周産期のハイリスク状態にある対象の診断と援助が理解できる。 4. 対象の主体性を尊重し、継続に支援する助産師としての基本姿勢が修得できる。</p>
授業計画	<p>第1回 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動① 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】 ライフサイクル各期の特徴と健康問題・支援について学ぶ 【授業形態】 講義 グループワーク</p> <p>第2回 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動② 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】 ライフサイクルの各期の特徴を踏まえ、各々で発表を行い学びを深める 【授業形態】 各々が担当する部分についてプレゼンテーション、意見交換を行う</p> <p>第3回 健康教育 担当教員：山田 【授業目標】 健康教育の目的、方法を学び、教育活動の企画書の作成を学ぶ 【授業形態】 講義</p> <p>第4回 健康教育 家族計画 担当教員：山田 【授業目標】 避妊法・受胎調節法を含め、家族計画の捉え方を学ぶ 【授業形態】 講義 DVD視聴 グループワーク</p> <p>第5回 健康教育 家族計画計画案作成 担当教員：山田 【授業目標】 講義の内容から、実際の受胎方法の在り方について調べ理解を深める 【授業形態】 各々が担当する部分についてプレゼンテーション、意見交換を行う</p> <p>第6回 保健指導 沐浴指導 案作成担当教員：伊藤 山田 【授業目標】 沐浴指導の指導計画を作成し、それをもとに沐浴指導を実践する 【授業形態】 演習 グループワーク</p> <p>第7回 NCPR① 担当教員：山田 【授業目標】 NCPRについて、その必要性を学び、実際の手技について学ぶ 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第8回 NCPR② 担当教員：山田 【授業目標】 NCPRについて、その必要性を学び、実際の手技について学ぶ 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第9回 分娩介助法 担当教員：坪倉 【授業目標】 分娩介助の目標と準備、正常分娩介助法の実践を学ぶ。胎児付属物の計測方法を学ぶ。 【授業形態】 講義 DVD視聴 演習</p> <p>第10回 分娩介助フリースタイル 各スタイルのまとめ 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】 フリースタイル分娩介助方法を学ぶ。各介助法についてまとめ各々で発表する 【授業形態】 講義 グループワーク 発表</p> <p>第11回 分娩介助手順作成 担当教員：坪倉 【授業目標】 正常分娩の介助法の介助にかかる手順作成を行い、介助方法の理解を深める 【授業形態】 演習</p> <p>第12回 分娩介助手順作成 担当教員：坪倉 【授業目標】 正常分娩の介助法の介助にかかる手順作成を行い、介助方法の理解を深める 【授業形態】 演習</p> <p>第13回 分娩介助手順作成 担当教員：坪倉 【授業目標】 正常分娩の介助法の介助にかかる手順作成を行い、介助方法の理解を深める</p>

	<p>【授業形態】 演習 第14回 分娩シナリオ作成 担当教員：坪倉</p> <p>【授業目標】 事例をもとに分娩期経過のシナリオを作成する 【授業形態】 演習 第15回 分娩シナリオ作成 担当教員：坪倉</p> <p>【授業目標】 事例をもとに分娩期経過のシナリオを作成する 【授業形態】 演習 第16回 分娩期初期診断① 担当教員：坪倉</p> <p>【授業目標】 事例をもとに分娩期の初期診断を行う。 【授業形態】 演習 第17回 分娩期初期診断② 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例をもとに分娩期の初期診断を行う。 【授業形態】 演習 第18回 分娩期経過記録の仕方① 担当教員：坪倉</p> <p>【授業目標】 助産録・パルトグラムの記載を行う。 【授業形態】 演習 第19回 分娩期経過記録の仕方② 担当教員：坪倉</p> <p>【授業目標】 助産録・パルトグラムの記載を行う。 【授業形態】 演習 第20回 分娩介助演習① 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演 第21回 分娩介助演習② 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演 第22回 分娩介助演習③ 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演 第23回 分娩介助演習④ 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演習 第24回 分娩介助演習⑤ 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演習 第25回 分娩介助実技試験：1回目 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演習 第26回 分娩介助実技試験：1回目 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演習 第27回 分娩介助演習⑥ 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演習 第28回 分娩介助演習⑦ 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演習 第29回 分娩介助実技試験：2回目 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演習 第30回 分娩介助実技試験：2回目 担当教員：全員</p> <p>【授業目標】 事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる 【授業形態】 演習</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習（予習120分）し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい（復習120分）。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 堀内成子編 医学書院 2. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 3. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 4. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 横尾京子編 5. 新生児蘇生法テキスト 第3版 細野茂春監修 メディカルビュー社 7. 図説 CTGテキスト 助産実践能力習熟段階〈クリニカルラダー〉レベル3 認証必須研修CTG対応テキスト 中井章人 メディカルビュー社 8. 実践 マタニティ診断 日本助産診断・実践研究会編 9. よくわかる母乳育児 編著：水野 克己他 へるす出版
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第3版 北川真理子・内山和美編集 南江堂 2. 新生児学入門 第5版 仁志田 博司（編集） 医学書院 3. 母乳育児支援スタンダード 第2版 ラクテーションコンサルタント協会編集 医学書院 4. 母性の心理社会的側面と看護ケア 新道 幸恵他 医学書院 5. 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断のケア 町浦 美智子 日本看護協会出版会 6. マタニティ診断ガイドブック 第5版 日本助産診断・実践研究会編 7. 写真で分かる助産技術 平澤美恵子・村上睦子編 インターメディカ 8. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 我部山キヨ子編 医学書院 9. 助産学実習プレブック第2版 助産過程の思考プロセス

成績評価	定期試験70% 実技試験30%
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>伊藤三紀子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：mi_ito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：xe_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p>
備考	<p>坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ 助産師として病院で勤務。その実務経験をもとに「助産診断・技術学 I」について授業を進める。</p> <p>DPとの関連 ◎-2 ○-3.5</p> <p>科目ナンバー：KK-3-NSc27-ES-L-MW</p> <p>演習・グループワークなどのアクティブラーニング</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	5	選択
担当教員			
坪倉 浩美、伊藤 三紀子、山田 智子、福田 セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：75時間	授業形態：講義(対面) グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 助産診断の基礎となる理論と技術を用いて、対象理解に必要な実践方法を学ぶ。 マタニティサイクルの助産診断に必要な基礎知識および科学的根拠に基づいた助産技術と助産援助について学ぶ。 マタニティサイクル各期において、正常な経過をたどるための保健指導および健康教育の基礎的知識・技術を学ぶとともに、プライマリ・ヘルスの観点から助産過程を展開し、その役割と責任遂行の基礎能力を養う。</p> <p><授業目標> 1. マタニティサイクルの助産実践に必要な知識と技術が修得できる。 2. 助産過程の概要を理解し事例を用いて助産過程の展開ができる。 3. 周産期のハイリスク状態にある対象の診断と援助が理解できる。 4. 対象の主体性を尊重し、継続に支援する助産師としての基本姿勢が修得できる。</p>
授業計画	<p>第1回 助産診断・技術学の概要と助産診断 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】助産診断学の概要 理論構築について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第2回 妊娠の生理 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】妊娠とそれに伴う母体の変化、胎児の発育と胎児付属物について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第3回 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】妊娠期の異常、ハイリスク妊娠について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第4回 ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦へのアセスメントと支援 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】ハイリスク・異常分娩時のアセスメント、支援が理解できる 【授業形態】講義</p> <p>第5回 妊娠期の助産診断 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】妊娠期の助産診断の特徴、フィジカルアセスメント、日常生活行動の診断、妊婦家族の心理・社会低側面の診断を学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第6回 周産期に用いられる検査、妊娠期に使用する薬剤、妊娠期に行われる産科手術 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】周産期における検査法、用いる薬物、参加手術について理解を深める 【授業形態】講義</p> <p>第7回 妊婦への支援 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】事例に沿った健康生活の診断と保健指導を学ぶ 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第8回 妊娠期のまとめ：GW 小テスト 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】妊娠期で学んだ知識の理解を深める 【授業形態】GW 小テスト</p> <p>第9回 分娩とは 分娩の3要素 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】分娩に関する定義、分娩の3要素、分娩が母体・胎児に及ぼす影響について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第10回 分娩期の助産診断 分娩期の心理・社会的変化 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】分娩期の助産診断の特徴、フィジカルアセスメント、分娩期の心理・社会的変化について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第11回 分娩介助法 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】正常分娩法の実際を学ぶ 【授業形態】講義 DVD視聴 演習</p> <p>第12回 産婦への支援 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】分娩経過にそったケアについて学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第13回 分娩期の異常・偶発疾患 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】分娩3要素の異常、分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第14回 ハイリスク妊娠・異常分娩時のアセスメントと支援 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】ハイリスク妊娠・異常分娩時、合併症を持つ妊婦のアセスメントと支援について学ぶ 【授業形態】講義</p>

	<p>第15回 分娩期の産科手術及び産科的医療処置 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】産科手術の準備、処置の実際について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第16回 救急処置 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】救急処置の実際、母体搬送における周産期の医療連携について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第17回 分娩期のまとめ：GW 小テスト 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】分娩期で学んだ知識の理解を進める 【授業形態】GW 小テスト</p> <p>第18回 産褥の生理 産褥期の助産診断 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】産褥期の助産診断の特徴、フィジカルアセスメント、産褥期の心理・社会的変化について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第19回 褥婦への支援 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】事例に合わせて退行性変化の促進の支援を学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第20回 産褥期の異常・偶発的疾患 ハイリスク・異常時褥婦へのアセスメントと支援 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】産褥期におこる身体的・精神的な問題について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第21回 乳房管理 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】母乳育児の推進と乳房管理のアセスメントについて学ぶ 【授業形態】講義 演習</p> <p>第22回 新生児・乳幼児ケアの基本 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】助産ケアにおける新生児・乳幼児の位置づけについて学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第23回 新生児のアセスメントとケア 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】新生児の適応生理と成長・発達を理解し、アセスメントについて学ぶ 【授業形態】講義 DVD視聴</p> <p>第24回 新生児の主な疾患とケア 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】新生児の主な疾患について治療と治療を受ける新生児のケアについて学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第25回 低出生体重児・早産児のケア 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】疾患とアセスメントとケアについて学ぶ 【授業形態】講義 DVD視聴</p> <p>第26回 乳幼児のアセスメントとケア 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】乳幼児の成長・発達を理解し、必要なアセスメントとケアについて学ぶ 【授業形態】講義 DVD視聴</p> <p>第27回 乳幼児の主な疾患とケア 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】乳幼児の主な疾患病態・診断・治療について学ぶ 【授業形態】講義</p> <p>第28回 産褥期・新生児・乳幼児期のまとめ：GW 小テスト 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】産褥期・新生児期で学んだ知識の理解を深める 【授業形態】GW 小テスト</p> <p>第29・30回 助産診断の実際・記録①② 担当教員：坪倉 伊藤</p> <p>【受業目標】事例をもとに、助産診断を行い、実習記録用紙に展開する。 【授業形態】講義・GW</p> <p>第31～38回 分娩介助演習 教員教員：全員</p> <p>【受業目標】事例に応じたアセスメントをもとに、手順に沿った分娩介助ができる。 【授業形態】演習</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習(予習60分程度)し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい(復習60分程度)。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 堀内成子編 医学書院 2. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 3. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 4. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 横尾京子編 5. 新生児蘇生法テキスト 第3版 細野茂春監修 メディカルビュー社 7. 図説 CTGテキスト 助産実践能力習熟段階〈クリニカルラダー〉レベル3 認証必須研修CTG対応テキスト 中井章人 メディカルビュー社 8. 実践 マタニティ診断 日本助産診断・実践研究会編 9. よくわかる母乳育児 編著：水野 克己他 へるす出版
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第3版 北川真理子・内山和美編集 南江堂 2. 新生児学入門 第5版 仁志田 博司(編集) 医学書院 3. 母乳育児支援スタンダード 第2版 ラクテーションコンサルタント協会編集 医学書院 4. 母性の心理社会的側面と看護ケア 新道 幸恵他 医学書院 5. 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断のケア 町浦 美智子 日本看護協会出版会 6. マタニティ診断ガイドブック 第5版 日本助産診断・実践研究会編 7. 写真で分かる助産技術 平澤美恵子・村上睦子編 インターメディカ 8. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 我部山キヨ子編 医学書院

	9. 助産学実習プレブック第2版 助産過程の思考プロセス 町浦美智子・山田加奈子編集 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験80% レポート20% グループワークでの参加状況も含めて評価を行う
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>伊藤三紀子 研究室：10号館7階 メールアドレス：mi_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：xe_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p>
備考	坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ 助産師として病院に勤務。その実務経験をもとに「助産診断・技術学Ⅱ」について授業を進める。
	D Pとの関連 ◎-2 ○-3.5
	科目ナンバー：KK-3-NSc-28-ES-L-MW
	演習・グループワークによるアクティブラーニングを実施

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
田中 小百合			
看護学科	60時間	講義（対面）・演習	アクティブラーニングあり
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 グループメンバーとともに、地域の統計資料などを情報収集・分析し、地域を歩いて得た（地区踏査）情報と統合していくことで、地域アセスメントの必要性と方法を学習する。</p> <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域アセスメントの必要性を理解できる。 ・地域・在宅看護の対象である個人と家族の健康と暮らしを支援するために、生活の基盤である地域を理解することができる。 ・グループメンバーとともに、地域を歩き、資料と統合して地域特性を抽出することができる。
授業計画	<p>1～3回目 地域アセスメントとは</p> <p>【到達目標】</p> <p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ地域アセスメント演習をしないといけないか理解できる ・概論復習 ・「地域を見る」とはどういうことかわかる <p>【オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流れの説明 ・グループメンバーの割り振り ・グループリーダー、サブリーダー、役割の決定 ・地域の決定 <p>4～26回目 フィールドワーク&グループワーク（アクティブラーニング）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークのすすめ方（計画）を学生間で話し合うことができ、計画立案できる。 ・高齢者に関連した地域の情報を集めることができる。 ・地区踏査することができる ・地区踏査で得た情報とデータ資料を統合して、地域特性が抽出できる ・パワーポイントに発表内容をまとめることができる <p>27～28回目 グループ発表</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでまとめた内容を発表できる ・他グループの発表を聞き、地域アセスメントの成果を確認することができる。 <p>29～30回目 まとめ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのグループワーク（地区踏査を含む）を通して、また他のグループ発表を通して学んだことをレポートにまとめることができる
授業時間外の学習（準備学習等）について	この授業はグループ作業が中心である。各自協力して行うこと。
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第7版）
参考書	オリエンテーション時に別途指示する
成績評価	授業出席15%、グループ内での協力度10%、グループ内の役割遂行度10%、レポート15%、発表内容とスライド内容50%
担当教員の基本情報	田中小百合：10号館810研究室 sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	期日指定である。不明なことはmelyで対応します。
	地域看護学・地域看護学実習の指導経験をもとに授業をすすめる
	この授業のDPとの関連： ◎—2、○—5
	科目ナンバー：KK-3-NSc37-RS-S-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
玉井 公子、大倉 和子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防・発生・回復、改善の過程のアセスメントおよび健康課題の明確化について理解できる。</p> <p>個人・家族が主体的に問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な支援技術の選択および支援方法について理解できる。</p>		
授業計画	1	公衆衛生看護の対象の理解について	[到達目標]公衆衛生看護の基本的な概念を理解し、人々の健康に影響する背景・要因と健康課題について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	2	対象の理解とアセスメントに基づく支援について①	[到達目標]対象の理解とアセスメントに基づく健康支援、対象となる個人の健康と生活および社会と関連付けてアセスメントし、健康課題への支援について説明できる。 また、家族、グループや組織に対してはアセスメントにより、発達段階を判断して支援する方法を理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	3	対象の理解とアセスメントに基づく支援について②	[到達目標]対象の理解とアセスメントに基づく健康支援、対象となる個人の健康と生活および社会と関連付けてアセスメントし、健康課題への支援について説明できる。 また、家族、グループや組織に対してはアセスメントにより、発達段階を判断して支援する方法を理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	4	保健行動の理解とアセスメントに基づく支援について	[到達目標]行動変容を促すための保健行動の基本を理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	5	生活習慣にかかる社会的背景と健康問題との関連性について	[到達目標]生活習慣にかかる社会的背景を探り健康問題との関連性について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	6	公衆衛生看護活動における対人支援の基本について	[到達目標]対人支援の目的、支援過程の特徴および技術について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	7	公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法（ケースマネジメント）	[到達目標]ケースマネジメントの特徴・方法について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	8	公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法（家庭訪問①）	[到達目標]家庭訪問における保健指導の目的、機能、支援の実際を説明できる。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	9	公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法（家庭訪問②）	[到達目標]対象者の生活実態や生活環境を把握することに加えて、家族の気持ちを聴いて問題をアセスメントし対応することができる。また、家庭訪問を通して地域ケアの課題を見出し、問題提起を行う保健師の役割を理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	10	公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法（健康診査）	[到達目標]健康診査の特徴・方法について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	11	公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法（健康相談）	[到達目標]健康相談の特徴・方法について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	12	公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法（グループ支援）	[到達目標]グループ支援の特徴・方法について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	13	公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法（健康教育①）	[到達目標]健康教育の特徴・方法について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	14	公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法（健康教育②）	[到達目標]健康教育の特徴・方法について理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション
	15	総括、第1回～第14回のまとめ	[到達目標]公衆衛生看護活動の基本的な内容を理解する。 [授業形態]講義およびグループディスカッション【定期試験】

授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書および参考書を用いて授業に関連する内容を予習を行うこと。指示された課題について期限内に提出する。 【予習・復習および課題作成には4.5時間以上をとり組むことを目安とする】
教科書	標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」 標美奈子他 (医学書院) 標準保健師講座2「公衆衛生看護技術」 中村裕美子他 (医学書院)
参考書	「国民衛生の動向2023/2024」 (財団法人 厚生統計協会編集・発行) 「公衆衛生が見える」 (メディック・メディカ)
成績評価	出席状況、授業態度および課題提出50%、筆記試験50%により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員 : 玉井 公子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員 : 大倉 和子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_ohkura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	行政における実務経験を有する教員が、公衆衛生看護活動の豊富な実践経験をもとに具体的な事例消化等を行いつつ教授する。「アクティブラーニング」 「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-②、○-③、○-④ 科目ナンバー: 「KK-3NSc39-ES-S-PHN」
	Classroomを活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
玉井 公子、大倉 和子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>地域アセスメント（地域診断）に基き地域の健康課題を明確にする方法について理解ができる。 地区活動における地域組織の育成・支援にかかわる活動の展開方法について理解できる。 保健医療福祉における施策化と事業の計画、実践、評価の一連の地域保健活動過程を理解できる。 保健医療福祉におけるケアシステムの構築について理解できる。</p>		
授業計画	1回	<p>地域保健活動の意義及び地区活動の定義について [到達目標] 地域保健活動は、地域への責任と公平性、健康なまちづくり、予防活動を理念としており、地域住民・組織の自立支援と行政との協働により支援していくことを理解できる。地区の定義について理解できる。 [授業形態]：講義形式、グループディスカッション</p>	
	2回	<p>地域診断の目的及びプロセスを理解できる [到達目標] 地域診断の理論として、「コミュニティー・アズ・パートモデル」を用いて、計画・実施・評価について理解できる。 [授業形態]：講義形式、グループディスカッション</p>	
	3回	<p>地域保健活動・地区活動の目的と過程について [到達目標] 地域保健活動・地区活動の目的と過程が理解できる。 [授業形態]：講義形式、グループディスカッション</p>	
	4回	<p>地域診断における情報収集の具体的方法が理解できる [到達目標] ①地域診断における地域の情報収集の具体的方法を理解できる。 ②地域の情報についてアセスメントができる。 [授業形態]：講義形式、グループディスカッション</p>	
	5回	<p>事業化及び施策化の目的と過程について [到達目標] 事業計画の立案と実践・評価・（事業化）施策化について理解できる。 [授業形態]：講義形式、グループディスカッション</p>	
	6回	<p>地域診断（演習）① [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態]：グループディスカッション</p>	
	7回	<p>地域診断（演習）② [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態]：グループディスカッション</p>	
	8回	<p>地域診断（演習）③ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態]：グループディスカッション</p>	
	9回	<p>地域診断（演習）④ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態]：グループディスカッション</p>	
	10回	<p>地域診断（演習）⑤ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態]：グループディスカッション</p>	
	11回	<p>地域診断（演習）⑥ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態]：グループディスカッション</p>	
	12回	<p>地域診断（演習）⑦ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態]：グループディスカッション</p>	
	13回	<p>地域診断（演習）⑧ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態]：グループディスカッション</p>	

	<p>14回 地域ケアシステムの構築について [到達目標] 地域ケアシステムの概念、発展過程、ケアの連続性と継続性、共通認識・合意形成、連携する関係者の役割が理解できあがる。ネットワークの形成及びケアコーディネーションについて理解できる。 [授業形態]：講義形式、グループディスカッション</p> <p>15回 地域包括ケアシステムについて [到達目標] 地域包括ケアは、各地域で住まい・生活支援・介護予防・医療を総合的に整備して、誰もが最期まで安全・安心に暮らせるシステムであることを理解できる。 地域包括ケアにおける保健師活動を理解できる。 [授業形態]：講義形式、グループディスカッション 【定期試験】</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	公衆衛生看護活動論Ⅱは、保健師活動の基本となる学問のため、授業には関心を持ち積極的に参加する。 【予習・復習・課題を含めて1コマ70分の学習を要する】
教科書	標準保健師講座1 「公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表 (医学書院) 標準保健師講座2 「公衆衛生看護技術」 中村裕美子 編 (医学書院)
参考書	「国民衛生の動向2023/2024」 (財団法人 厚生労働統計協会編集・発行) 「公衆衛生が見える」 (メディック・メディカ)
成績評価	出席状況、グループディスカッションへの積極性10%、提出課題・地域診断シート40%、期末試験50%等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 玉井公子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大倉和子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_ohkura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>ゲストスピーカー : 村田浩子</p>
備考	行政における実務経験を有する教員が、公衆衛生看護活動の豊富な実践経験をもとに、具体的な事例紹介等を行いつつ教授する。 「アクティブラーニング」
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-②、○-③、○-④ 科目ナンバー：「KK-3NSc4-ES-S-PHN」
	Classroomを活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
大倉 和子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	ライフサイクルの発展段階別、健康障害対象別の地域看護活動を理解し、個人及び家族、集団に対する支援の方法を具体的に説明することができる。
授業計画	<p>1. 公衆衛生看護学の方法論の概要、母子保健活動について（1） [到達目標] ガイダンス・母子保健の動向、母性各期の健康課題、乳幼児期の健康課題について理解する。母子保健施策と地域の支援体制づくりを理解する。 ① 健やか親子21に基づき思春期から乳幼児期の一貫した母子保健活動を説明することができる。 ② 乳幼児健診やその他の事業内容を具体的に述べるができる。 宿題：児童虐待の新聞記事を読みその背景と課題を考える。（次回の授業日に提出）</p> <p>2. 母子保健福祉活動について（2） [到達目標] 母子保健福祉活動における児童虐待の防止と支援について理解する。 ③ 支援ニーズの高い親子の健康課題、児童虐待の予防について理解し、支援システムを具体的に説明することができる。 [授業形式] 講義 [授業形式] グループワークにより乳幼児健康診査等の機会にどのような支援をすることが子育て支援及び児童虐待予防につながるかを考える。</p> <p>3. 成人保健活動について [到達目標] 成人及保健福祉活動の動向、ライフサイクルに応じた保健活動を理解し、個人及び集団への支援方法を理解する。「国民衛生の動向」を活用して疾病構造を把握し、生活習慣病対策及び特定健康診査・特定保健指導の意義、関連する制度及び保健活動について説明することができる。歯科保健活動についても考えることができる。 [授業形式] グループワークにより事例を通して集団を対象とする保健活動の展開方法と課題を話し合う。</p> <p>4. 高齢者保健活動について [到達目標] 高齢者保健福祉活動の動向、及び高齢社会の健康課題、高齢者の特徴に応じた支援活動を理解する。 「国民衛生の動向」を活用して高齢者の健康課題を把握し、高齢者への保健活動の具体的な方法について述べるができる。 [授業形式] グループワークにより事例を通して支援を検討する。 宿題：地域包括ケアとはどのようなものか、背景、目指す方向、地域包括支援センターの役割についてテキストを熟読しノートにまとめておく。</p> <p>5. 地域包括ケアに関する施策・事業について [到達目標] 介護予防及び地域包括ケアの施策や事業について具体的に説明することができる。地域包括支援センターにおける保健師の役割と活動の展開について具体的に述べることができる。 [授業形式] グループワークにより介護予防事業の事例から、包括支援センターの機能を確認する。 宿題：わが町の認知症支援対策についてをレポートにまとめる。（45分） 予習：難病の定義、医療費助成制度の対象疾患とその主な助成内容を調べておく。（45分）</p> <p>6. 難病の保健福祉活動について [到達目標] 難病施策の理念、難病対策の制度・事業を理解し、地域で生活する難病患者及び家族保健指導の方法を理解する。地域ケアシステムの構築に関連付けて考えることができる。 [授業形式] グループワークにより事例を通して、地域における難病患者と家族、地域への支援策を考察する。 予習：学校保健に係る法の概要、学校保健に携わる職種とその役割をまとめておく。（45分）</p> <p>7. 学校保健活動について（1） [到達目標] 学校保健・学校看護の定義、学校保健における法制度とシステムについて理解する。学校保健の各発達段階別の健康課題を把握し支援方法を理解する。</p> <p>8. 学校保健活動について（2） [到達目標] 学校保健、学校安全の組織の概要、学校保健活動における養護教諭の職務内容及び役割、連携について具体的に述べることができる。 予習：障害者総合支援法、保健福祉活動の概要について主な内容をまとめておく。</p> <p>9. 障害者（児）の保健福祉活動について [到達目標] 障害者（児）保健福祉活動の変遷、法制度・施策や事業の体系を理解する。障害者保健の理念、関係法令に基づく支援システムについて、具体的に説明することができる。</p> <p>10. 精神保健福祉活動について [到達目標] 精神保健の動向、精神保健福祉活動の理念及び施策・制度の概要、精神障害者のための施策を生活支援に活用する具体的な方法を理解する。 [授業形式] グループワークにより事例を通して、精神障害者の就労支援に関連する課題について話し合う。予習：感染症対策・集団発生時の保健活動について</p> <p>11. 健康危機管理（1）感染症発生時の保健活動について</p>

	<p>12. [到達目標] 感染症調査の基本、事前対策、発生時の対応、感染拡大防止について理解できる。 [授業形態]：講義形式、グループディスカッション 健康危機管理（2）感染症集団発生時の保健活動 [到達目標] 感染源や感染経路にいたる情報は患者や関係者が持っており、患者などとの信頼関係の構築が調査の基盤である。集団発生事例への対策の過程で、患者や関係者への周囲の差別や偏見が引き起こされないように十分配慮する。日常活動での地域情報の蓄積や関係機関のネットワークは、集団発生時の探知や迅速な調査につながる。</p> <p>13. [授業形態：講義及びグループディスカッション] 予習：災害時の保健活動について 健康危機管理（3） [到達目標] 健康危機管理の概念とおもな要因について理解する。リスクアセスメント、事業継続計画、リスクコミュニケーションの概念について理解する。体制整備や情報集など健康危機管理の要素について、概略を理解する。</p> <p>14. 健康危機管理（4）災害発生時の保健活動 [到達目標] 災害発生時の地域保健活動の実際、避難所や家庭訪問活動における健康相談活動について理解する。災害発生フェーズ毎の活動内容、行政保健師としての役割・活動の実際について理解する。</p> <p>15. 公衆衛生看護学の展開方法についての総括 [到達目標] ライフサイクル及び対象別の健康課題を理解し、公衆衛生看護活動の展開方法を理解する。 [授業形式] 講義、期末テスト</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読すること。 予習、復習、課題作成には4.5時間以上取り組むことを目安とする。
教科書	「標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動3」中谷芳美他著（医学書院）2021年改訂版 公衆衛生が見える4版（メディック・メディカ）
参考書	「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）2023/2024年版
成績評価	出席状況・参加態度・ミニテスト(40%)、レポート・筆記試験(60%)等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員：大倉和子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：k_ohkura@meiji-ac.jp オフィスアワー：随時
備考	行政機関における実務経験を授業に活かしつつ、対象別公衆衛生看護活動を実際に進めていく上での、対人援助やその背景の施策等について学びを深め、保健師の活動や役割を深く理解できるよう教授する。アクティブラーニングにより、互いに意見交流し理解を深める。
	デプロマポリシーとの関連：◎ー①、○ー③④ 科目ナンバー：KK-3-NSc41-ES-L-PHN

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	3	必修
担当教員			
今井 理香、篠村安武			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	授業形態：実習（アクティブラーニング）	
添付ファイル			

授業目標	<p>既習の知識、技術を基盤に、主として周手術期にある対象を総合的に理解し、手術後の順調な回復過程をたどるために必要な看護援助を実践するための基礎的能力を習得することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術を受ける対象の特徴および手術前、中、後の3つの医療環境を理解した上で、対象を総合的に捉えることができる。 2) 対象の手術後の回復状態に応じ、退院後の生活背景をふまえ、回復過程促進に向けた看護計画の立案ができる。 3) 対象の退院後の生活をふまえ、手術後の回復過程促進のための援助の実践し、評価することができる。 4) 対象が治療に伴う機能障害や形態の変化を受容し、適応に向かうための援助を考えることができる。 5) 医療チームメンバー間の連携について理解し、看護師の役割について考えることができる。 6) 危機的な状況にある対象および家族または重要他者への援助方法について考えることができる。 7) 実習に関する全ての期間において、看護専門職としてふさわしい態度で取り組むことができる。
授業計画	<p>実習目標1 手術を受ける対象の特徴および手術前、中、後の3つの医療環境を理解した上で、対象を総合的に捉えることができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象が障害されている臓器の構造・機能および病態生理について説明できる。 2) 手術を受ける対象および家族の心理的・社会的準備状況について説明できる。 3) 対象が受けている検査・治療について説明できる。 4) 対象が受けた麻酔・手術による侵襲とそれに伴う生体反応について説明できる。 5) 対象に予測される術後合併症のリスクについて説明できる。 6) 対象に必要な術後の観察項目を挙げることができる。 7) 対象に必要な術後の治療環境について説明できる。 8) 手術を受ける対象の全体像を記述することができる。 <p>実習目標2 対象の手術後の回復状態に応じ、退院後の生活背景をふまえ、回復過程促進に向けた看護計画の立案ができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の回復過程に応じ、看護問題を特定し、適した看護診断を行うことができる。 2) 対象の退院後の生活背景をふまえ、個別性を考慮した看護目標を記述することができる。 3) 看護目標達成のために、具体的で実践可能な看護計画を立案することができる。 4) 対象の回復の状態に応じ、看護問題の優先度を検討することができる。 <p>実習目標3 対象の退院後の生活背景をふまえ、手術後の回復過程促進のための援助の実践し、評価することができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後合併症を予防するために援助の実践ができる。 2) 対象の安全、安楽、及び意向に配慮した援助の実践ができる。 3) 対象の回復の状態に応じ、セルフケア自立に向けての援助の実践ができる。 4) 実践した援助に対する対象の状態や反応を客観的に記述し、アセスメントすることができる。 5) 実践した援助のアセスメントから、看護計画を適宜追加・修正することができる。 <p>実習目標4 対象が治療に伴う機能障害や形態の変化を受容し、適応に向かうための援助を考えることができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 治療に伴う機能・形態の変化による対象と家族の思いを理解し、必要に応じた援助を考えることができる。 <p>実習目標5 医療チームメンバー間の連携について理解し、看護師の役割について考えることができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療チームメンバーとその機能について理解し、医療チーム連携における看護師の役割について考えることができる。 <p>実習目標6 危機的な状況にある対象および家族または重要他者への援助方法について考えることができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術室の治療環境を理解したうえで、手術室看護の目的・役割について考えることができる。 2) ICU・ERの治療環境を理解したうえで、ICU・ERにおける看護の目的・役割について考えることができる。 3) 危機的な状況にある対象の家族や重要他者への援助方法について考えることができる。 <p>実習目標7 実習に関する全ての期間において、看護専門職としてふさわしい態度で取り組むことができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前学習課題を実習前の準備学習であることを自覚して、実習の一部として計画的に取り組むことができる。 2) 指示され期間、看護学生として責任をもって健康および生活管理を行い、問題が生じた場合は適切な行動をとることができる。 3) 守秘義務を遵守し、自己の行動に責任をもって、実習中に知り得た個人情報を保護することができる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習開始までに、事前課題に取り組み、周手術期の対象を受け持つために必要な基礎的知識についてまとめる。 ・実習開始前の金曜日に受け持ち予定対象の基礎的情報（疾患・術式）が提示されるため、実習初日（学内）

	までに、対象の情報から疾患の病態生理、予定術式の特徴、回復支援のために必要な看護について整理する（「疾患の理解」を完成させる）。
教科書	急性期看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書全般。
参考書	適宜提示する。
成績評価	急性期看護学実習ルーブリック評価表をもとに、中間学内日、最終学内日の学生、実習担当教員、科目責任者との面接内容と、学生の自己評価も踏まえ、実習担当教員が点数化し、大学規定の4段階評価で行う。
担当教員の基本情報	科目責任者 : 今井理香 研究室 : 10号館8階 研究室805 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定しないが、事前にメールにて確認を行うこと。 担当教員名 : 篠村安武 研究室 : 未定 メールアドレス : 未定 オフィスアワー : 実習中に提示
備考	今井理香 : 急性期病棟（脳神経外科、デイサージャリー診療部、血液内科、消化器内科）の勤務実績あり。 篠村安武 : 急性期病棟での実務経験あり。
	この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-4, ○-2, 5 科目ナンバー : KK-4-NSc47-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	3	必修
担当教員			
今井 理香、中谷 弘美			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>既習の知識、技術を基板に慢性的な臓器障害を持ち、病と共に生きる対象およびその家族を全人的に理解し、複合的な問題を解決するために必要な看護援助を実践するための基礎的能力を習得することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性的な健康障害をもち病と共に生きる対象、およびその家族を、身体・心理・社会的な側面から総合的に捉えることができる。 2) 病と共に生き、生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象を理解し、対象がセルフケア能力の獲得や健康問題に適応するために必要な援助計画の立案ができる。 3) 対象の退院後の生活背景をふまえ、対象がセルフケア能力獲得や健康問題に適応するために必要な援助の実践ができる。 4) 病と共に生きる対象およびその家族への支援のためのチーム医療について理解し、その中における看護師の役割について考えることができる。 5) 実習に関する全ての期間にうおいて、専門職者を志す者としてふさわしい態度で取り組むことができ、自己の行動を振り返り課題を明確にすることができる。
授業計画	<p>到達目標1 慢性的な健康障害をもち病と共に生きる対象、およびその家族を、身体・心理・社会的な側面から総合的に捉えることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の障害を受けている臓器・器官の機能および病態生理について説明できる。 2) 慢性的な健康障害を有し、病と共に生きている対象のライフサイクルと生活環境を理解し、その人らしい生活のあり方をふまえて、対象および家族に必要な看護について説明することができる。 3) 治療や看護を受けることに対する対象の思いを受け止め、意思決定を尊重した支援について説明することができる。 4) 疾患に伴う機能障害や疾患のコントロールのための治療や処置が、対象の生活にどのような影響を与えているかについて説明することができる。 5) 慢性的な健康障害を有し、病と共に生きる対象の全体像を記述することができる。 <p>到達目標2 生涯にわたり疾病のコントロールを必要とし、病と共にいきている対象を理解し、セルフケア能力の獲得や、健康問題に適応するための援助を計画することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の健康状態に応じ、看護問題を特定し、適した看護診断を行うことができる。 2) 対象の生活背景をふまえ、個別性を考慮した達成可能な看護目標を記述することができる。 3) 看護目標達成のために、具体的に実践可能な看護計画を立案することができる。 4) 対象の健康状態に応じ、眷顧問題の優先度を適宜検討することができる。 <p>到達目標3 対象の退院後の生活背景をふまえ、セルフケア能力の獲得や県黄門に適応するための援助の実践ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象のセルフケア能力を評価し、能力向上のための支援方法について説明できる。 2) 対象の自己概念、セクシュアリティ、役割などの身体・精神・社会的側面が、慢性の病と共にあることと、どのように影響しているかについて説明することができる。 3) 対象の健康問題やQOLについて、対象とその家族の立場から捉え、説明することができる。 <p>到達目標4 病とともに生きる対象およびその家族への援助の視点から、チーム医療における看護の役割を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性疾患患者の療養生活のための社会保障制度および、社会資源の活用について説明できる。 2) 病と共に生きる対象の検査・治療の実際を学び、看護の専門的役割について説明することができる。 3) チーム医療における関連部門・関連職業間の連携について説明することができる。 4) 対象の健康生活を支援するチーム医療の実際と、その中での看護の役割について説明することができる。 <p>到達目標5 実習に関する全ての期間に於いて、専門職者としてふさわしい態度で取り組むことができ、自己の行動を振り返り課題を明確にすることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学生として、責任をもって健康および生活管理を行い、問題が生じた場合は担当教員に適切に報告することができ、指示のもと適切な行動をとることができる。 2) 守秘義務を遵守し、自己の行動に責任をもって、実習中に知り得た個人情報を保護することができる。 3) 自己の看護実践を、カンファレンスや看護記録を通して客観的に振り返り、看護者としてのあり方や、自己の課題を明確にすることができる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習までに、事前課題に取り組み、慢性期の経過にある対象を受け持つための基礎的知識についてまとめる。 ・原則として、実習開始前の金曜日に受け持ち予定対象の基礎的情報（疾患、年齢、性別、その他）が提示されるため、実習初日までに対象の情報について基礎的知識、看護について整理しておく。
教科書	慢性期看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書全般
参考書	適宜指示する
成績評価	慢性期看護学実習ルーブリック評価表をもとに、中間学内日、最終学内日に、学生、実習担当教員、科目責任者との面接内容と学生の自己評価をふまえ、実習担当教員が点数化し、大学規定の4段階評価で行う。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館(看護学部棟)8階 805研究室 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 中谷 弘美 研究室 : 10号館(看護学部棟)6階 781共同研究室 メールアドレス : h_nakaya@meiji-u.ac.jp
備考	この授業のディプロマポリシーとの関連 : ◎-4, ○-2, 5 科目ナンバー : KK-4-NSc48-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	3	必修
担当教員			
栗山 真由美、東 孝至、工藤大祐、小高 真理子			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	授業形態：実習 アクティブ ラーニング	
添付ファイル			
授業目標	高齢者の看護を行っている施設において要介護状態にある高齢者を受け持ち、回復期看護援助論Ⅰ・Ⅱで学んだ高齢者の全体像の把握と日常生活の援助を必要とする機能のアセスメントと評価を行い、望ましい日常生活への援助するための看護計画を立案し実践する。また、高齢者に対するさまざまな社会資源の活用などについても実習(アクティブラーニング)を通して学びを深める。 介護保険制度の施設で働く看護師の役割や多職種連携についても理解を深める。 また、入院前から退院(退所)に向けて必要な地域連携について、事例を通して学ぶ。		
授業計画	詳細は、成人看護学実習Ⅲ(回復期看護実習)要項を参照のこと。		
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義で使用した教科書および資料、事前学習課題に積極的に取り組み、実習に臨むこと。 教員や指導者から指導された課題や毎日の実習記録は遅れず提出すること。 受け持ち利用者を通して実施されているケアや治療については調べ、記録し理解すること。		
教科書	「ナーシンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践」堀内ふき他著(メディカ出版) 「ナーシンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀内ふき他著(メディカ出版) 「老年看護ぜんぶガイド」八島妙子編著(照林社)		
参考書	「ウエルネスの視点にもとづく老年看護過程 第2版」奥宮暁子編著(医歯薬出版) 適時紹介する。		
成績評価	出席状況、実習への積極的姿勢 レポート(実習記録含む)の提出を総合的に評価する。 最終日にルーブリック評価表に即し、評価面接を行う。 詳細は、成人看護学実習Ⅲ(回復期看護実習)要項を参照のこと。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること) 担当教員名 : 東孝至 研究室 : 10号館7階709研究室 メールアドレス : t_azuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)		
備考	老年看護学概論・回復期看護概論・回復期看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した講義資料および課題レポートも活用する。事前にルーパーファイルにてまとめて準備しておく ©-4 ○-2.5 科目ナンバリング「kk-4-NSc49-RS-P-1」		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
岩本 美由紀			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	アクティブ・ラーニング
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 子どもとその家族を尊重し、子どもの成長・発達段階に応じた良好な人間関係を築くことができる。 健康障害及び入院生活が、子どもと家族へ及ぼす影響を理解し、子どもの個別性に応じた看護展開ができる。 子どもの成長・発達段階や健康状態に合わせた援助技術が実践できる。 保健・医療・福祉チームの連携と小児看護師の役割を理解し、チームの一員として責任ある行動がとれる。
授業計画	<p>実習90時間 小児看護学実習</p> <p>I. 実習目的 成長・発達過程にある子どもとその家族を総合的に理解し、小児各期の成長・発達や健康レベルに応じた看護実践能力を修得する。</p> <p>II. 実習目標</p> <p>【病院実習】 ※病院実習を通して、健康障害をもつ子どもと家族を総合的に理解し、成長・発達段階に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもとその家族を尊重し、子どもの成長・発達段階に応じた良好な人間関係を築くことができる。 健康障害及び入院生活が、子どもと家族へ及ぼす影響を理解し、子どもの個別性に応じた看護展開ができる。 子どもの成長・発達段階や健康状態に合わせた援助技術が実践できる。 保健・医療・福祉チームの連携と小児看護師の役割を理解し、チームの一員として責任ある行動がとれる。 <p>【保育園実習】 ※地域で生活する乳幼児の成長・発達を理解し、保育園における関わりを通じて、子どもの成長・発達や生活を支援するための基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 乳幼児の成長・発達とコミュニケーションの特徴を理解し、乳幼児との関係性を構築する方法を、習得する。 保育活動の実際に参加し、乳幼児の成長・発達を促すための 日常生活援助を習得する。 保育環境の実際より、乳幼児の成長・発達および安全を保障する環境を理解する。 <p>【実習展開】 実習展開は2日間の保育園実習の後、病院実習を行います。保育園実習では、健康な子どもと関わり各成長・発達段階の特徴と生活の実際を学びます。また、保育の実際より、個別性に応じたコミュニケーションのとり方や子どもの安全を守るための援助の必要性を理解します。病院実習は、保育園の学びと事前課題を活かして、健康障害をもつ子どもと家族に対し看護実践を行います。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 事前課題については、計画的に学習し、期限までに提出すること。 期限まで提出できていない、もしくは課題内容が不足している場合は実習へ参加できません。但し病気等の特別な理由がある場合は診断書を添えて申し出ること。 実習中も、主体的に学習し、必要な学習の追加を行うこと。 小児看護概論・小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの復習をし、各発達段階における成長・発達の特徴と代表的な小児の疾患について、理解しておくこと。 ルーブリック評価に基づき、主体的に学習準備をすること。
教科書	小児看護概論・小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書
参考書	発達段階からみた小児看護過程：医学書院 子どもの病気の地図帳：講談社 エビデンスに基づく小児看護ケア関連図：中央法規
成績評価	<p>※病院実習、保育園実習の各ルーブリック評価表に基づき評価する。</p> <p>【留意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 出席日数不足の場合は評価対象外とする。（ただし特別な理由がある場合は、不足日数の実習を課す） 実習中だけでなく、最終面接で実習目標に到達していないと判断した場合は、単位習得は得られない
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：岩本美由紀</p> <p>研究室：10号館8階</p> <p>メールアドレス：m_iwamoto@meiji-u.ac.jp</p>

備考	臨床経験を踏まえて教育を行う 岩本美由紀：総合病院での小児看護経験を基に指導を行う。
	DPとの関連 DPとの関連 ◎-2 ○-3.5 科目ナンバー：KK-4-NSc50-RS-P-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
坪倉 浩美、伊藤 三紀子、山田 智子、福田 セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 母性看護学では、出生後から思春期、成熟期、更年期、老年期の女性を対象に、発達課題の全般にわたって性と生殖に関する健康問題への援助を行うが、母性看護学実習では、特に周産期における妊婦・産婦・褥婦・新生児を対象とし、母性看護に特徴的な看護過程の展開と母性看護に特有の看護技術を実践（一部は見学）する。 また、実習を母性・父性、親性の概念や生命倫理に関して洞察する機会とし、理解を深める。</p> <p><授業目標> 1. 周産期にある対象の正常経過を理解し、個々に応じた看護を行う事ができる 2. 周産期における看護過程の展開ができる 3. 安全で安楽な看護技術が提供できる 4. 受け持ちの妊産褥婦と信頼関係を築くためのコミュニケーションをとることができる 5. 母子を取り巻く医療・保健・福祉サービスについて説明できる 6. 新しい生命の誕生を通して生命の神秘・尊厳や自己の存在について考え、自己の母性・父性観を育てることができる</p>
授業計画	<p>妊婦の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親（母親）学級、妊婦健康診査の見学 両親（母親）学級、妊婦健康診査を受ける妊婦を通して、妊娠期の身体・心理・社会的特徴、胎児の発育、健康診査と保健指導の必要性、診察介助の方法について学ぶ <p>産婦の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩第Ⅰ期から第Ⅳ期の産婦に必要な看護 ・出生直後の新生児に必要な看護 <p>褥婦・新生児の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥婦の身体的・心理的・社会的な視点から健康を促進できる援助 ・ウェルネスの看護過程の展開 ・母子愛着形成と母乳栄養確立への看護 ・新生児胎外生活適応への看護
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習オリエンテーション時に課題は提示する。 女性のライフサイクルと健康、および周産期の看護（妊娠期・分娩期・産褥・新生児）について知識と技術を復習しておいて下さい。
教科書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書
参考書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」授業で紹介された文献および資料
成績評価	母性看護学実習ループリック評価表をもとに最終面接を行い評価する。 実習態度、実習記録、事前課題等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>伊藤三紀子 研究室：10号館7階 オフィスアワー：随時（事前に連絡をください） メールアドレス：mi_itoh@meiji-u.ac.jp</p> <p>山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：xe_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p>
備考	坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ 助産師として病院に勤務。 その実務経験をもとに「母性看護学実習」において実習指導を行う。

	DPとの関連 ◎-4 ○-2・5
	科目ナンバー：4k3260
	アクティブラーニング

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
小西 奈美			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	精神に障害を持つ人を理解し、精神看護に必要な知識および技術を養う。 1. 精神に障害を持つ人を生活する人として理解できる。 2. 精神に障害を持つ人とのかかわりを通して、自分の対人関係のあり方について説明することができる。 3. 効果的なコミュニケーション技術について理解できる。 4. 精神に障害を持つ人を取り巻く環境における看護師の役割について考えることができる。 5. 保健・医療・福祉それぞれとの連携における看護師の役割について考えることができる。
授業計画	詳しくは実習要項を参照してください。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	・講義で学んだことをしっかりと復習しておく。 ・実習中に分からなかったこと、疑問に思ったことは、必ず担当教員に質問し、また文献等で確認して解決すること。
教科書	系統看護学講座「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座「精神看護の展開」 精神看護学② (医学書院) 「精神看護学」 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	実習記録・カンファレンス参加状況・出席・実習に取り組む姿勢などを総合的に、ルーブリック評価表の内容に基づいて実習終了後に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小西奈美 研究室 : 10号館8階808研究室 メールアドレス : n_konishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。
備考	小西教員：精神科領域での臨床・教育経験をもとに「精神看護学実習」の指導にあたる。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎-4、○-2、○-5
	科目ナンバー：KK-4-NSc52-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
森岡 朋子、田中 小百合			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習：アクティブ ラーニング	
添付ファイル			

授業目標	<p>I. 実習目的 在宅療養者とその家族の健康上の問題を理解し、生活の場に応じた看護の役割について学ぶ。また、地域看護における訪問看護ステーション及び重症心身障害児者施設の役割を理解する。</p> <p>II. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族を対象に健康状態や生活状況を理解し、両者に対する援助の実際を学ぶ（看護過程の展開ができる）。 2. 在宅療養者とその家族を「生活者」としてとらえ、価値観や自己決定を尊重した看護の実際を学ぶ。 3. 継続看護における訪問看護ステーションの役割を理解する。 4. 対象者の健康問題の解決のために必要な社会資源の活用方法と連携・調整を理解する。 5. 重症心身障害児者施設の役割を理解し、施設を利用する医療的ケアが必要な対象者に対する看護の実際を学ぶ。
授業計画	実習要綱参照
授業時間外の学習 (準備学習等)について	実習準備として事前学習を提示する（詳細は3年次3月3日に配布済） 在宅看護の療養者は、高齢者、認知症、難病、ターミナルケア、障がい、医療的ケアが必要な子どもを対象としていることが多い。年齢、疾患、背景、環境など個別性が高い。これまで学習してきた疾患、基礎看護、小児看護、成人看護、老年看護、精神看護、リハビリ看護、保健医療福祉制度や福祉サービスの復習を行っておくこと。
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第7版）メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術（第2版）メディカ出版 その他関連領域の教科書以外に、必要な専門書を使用すること。
参考書	特に指定しないが、疾患等で必要な図書は図書館で借りる等して準備すること
成績評価	ルーブリック評価項目に基づき、実習目標の到達状況（60点）、実習生としての態度（30点）、記録物の表記内容（10点）で判定する。尚、ルーブリック評価項目は別途配布する。
担当教員の基本情報	森岡朋子：10号館7階704 研究室、メールアドレス：t_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日 田中小百合：10号館8階研究室 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日
備考	森岡朋子：病院の実務経験後、社会福祉協議会に入職し、地域をフィールドに先駆けてコミュニティナースを 実践。 田中小百合：病院での実務経験をもとに「訪問看護」について実習をすすめる。
	ナンバリング：KK-3-NSc-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
桂 敏樹			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	看護研究とは何か、および看護研究の方法について学ぶ。		
授業計画	1回 桂	看護研究とはなんだろう／授業ガイダンス [授業概要] ① 授業ガイダンス (進め方の説明, 注意事項, 評価について) ② 看護研究とは何か (研究はおもしろい) ③ 看護研究の意義について考える (なぜ研究が大切なのか) ④ リサーチクエスチョンを立てる (リサーチクエスチョンってなんだろう) [授業形態] 講義 [備考] 【予習課題】 予め教科書を読む。 【復習課題】 教科書 p 43のワークを行う。	
	2回 桂	看護研究における文献検討 [授業概要] ① 情報の検索の方法 ② 文献レビューとその目的 ③ 文献の読み方 (1文献を選択しクリティークする視点で文献を読み、文献の概要を説明する) [授業形態] 講義 [備考] 【予習課題】 教科書を読む。 【復習課題】 文献 (原著論文) を1つプリントアウトしてクリティークし、次回の講義時に持ってくる。	
	3回 桂	研究における倫理的配慮 [授業概要] ① 倫理的配慮の原則 [授業形態] 講義 [備考] 【予習課題】 教科書を読む。	
	4回 桂	研究デザイン [授業概要] ① 質的研究デザインと量的研究デザイン [授業形態] 講義 [備考] 【予習課題】 教科書を読む。	
	5回 桂	データの収集と分析 [授業概要] ① データの収集方法 ② データ分析の方法 [授業形態] 講義 [備考] 【予習課題】 教科書を読む。	
	6回 桂	研究計画書の作成 [授業概要] ① 研究計画書の書式と書き方 [授業形態] 講義 [備考]	

	<p>【予習課題】教科書を読む。</p> <p>【復習課題】 研究を伝える 〔授業概要〕① 論文の構成 ② 成果の発表の方法</p> <p>〔授業形態〕講義</p> <p>〔備考〕</p> <p>【予習課題】教科書を読む。</p> <p>【復習課題】</p> <p>【復習課題】 まとめ 全体を通したまとめ</p> <p>第9回 研究事例の紹介 基礎看護学 基礎看護学における研究事例の紹介 オンデマンド</p> <p>第10回 研究事例の紹介 急性期看護学 慢性期看護学 急性期・慢性期看護学における研究事例の紹介 オンデマンド</p> <p>第11回 研究事例の紹介 老年・回復期看護学 老年・回復期看護学における研究事例の紹介 オンデマンド</p> <p>第12回 研究事例の紹介 精神看護学 在宅看護学 精神看護学、在宅看護学における研究事例の紹介 オンデマンド</p> <p>第13回 研究事例の紹介 小児看護学 母性看護学 小児看護学、母性看護学における研究事例の紹介 オンデマンド</p> <p>第14回 研究事例の紹介 地域看護学 助産学 地域看護学、助産学における研究事例の紹介 オンデマンド</p> <p>第15回 試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>1) 研究に関心が少しでも持てるように一度研究論文を読んでみよう</p> <p>2) 文献を探す方法など、図書館の様々なツールを活用しておこう</p> <p>3) 指定された教科書を事前に読んでおくこと</p>
教科書	かんたん看護研究 (第2版) 南江堂 桂敏樹、星野明子編著
参考書	黒田裕子の看護研究 step by step 黒田裕子著 学研 質的研究の挑戦 舟島なをみ著 医学書院
成績評価	講義への参加状況と試験で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 桂 敏樹</p> <p>研究室 : 10号館 8階</p> <p>オフィスアワー : 火曜日 12:00~13:00</p> <p>メールアドレス : t_katsura@meijio-u.ac.jp</p>
備考	ディプロマポリシーとの関連: ◎-① ○-④
	科目コード KK-3-NSc58-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田中小百合、大倉和子、藤原先生、山田智子、福田セーニャ			
看護学科	時間数：30時間	講義・演習	アクティブラーニングあり
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 これまでに学んだ医療知識と看護の援助方法について知識と技術の確認を行う。</p> <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅱに向けて、不足している知識や未熟な技術について自己評価ができる ・領域別看護学実習に向けて、不足している知識や未熟な技術について自己評価ができる ・上記2点に対する追加学習を行い、実習の準備ができる
授業計画	<p>第1～2回 ガイダンス ①ガイダンス ②実習に向けて、「マナー」「身だしなみ」「指導者への報告・コミュニケーション」などの動画視聴（約15分間） ③グループワーク（※1の行動計画立案）</p> <p>3～6回 事例をもとに看護展開の演習 アクティブラーニング シナリオに事例のデータ設定予定、バイタルサイン測定</p> <p>7-9回 グループ毎の技術演習※1 アクティブラーニング 血圧測定、手浴、足浴、全身清拭など技術の復習をする</p> <p>10回 まとめ ループリック評価表の記載、提出</p> <p>第11～12回 領域別実習に向けての演習（成人看護学実習（急性・慢性・回復）） （未定） 詳細については各領域の担当者より説明されるので確認して臨むこと</p> <p>第13回（未定） 領域別実習に向けての演習（母性看護学） 詳細については各領域の担当者より説明されるので確認して臨むこと</p> <p>第14回（未定） 領域別実習に向けての演習（精神看護学） 詳細については各領域の担当者より説明されるので確認して臨むこと</p> <p>第15回（未定） 領域別実習に向けての演習（在宅看護） 詳細については各領域の担当者より説明されるので確認して臨むこと</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各領域のこれまでの演習資料・演習した資料・講義内容を復習して講義に臨む。苦手や理解が出来ていない点はしっかり理解を深めておく。さらに演習をしたいときは、領域の担当教員に申し込む。
教科書	各領域で使用している教科書
参考書	適宜紹介
成績評価	出席点15コマ×5点 + ループリック評価を踏まえた教員評価25点
担当教員の基本情報	<p>田中小百合：10号館810号室 sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 大倉 和子：10号館705号室 k_ohkura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 藤原 浩子：10号館710号室 h_fujiwara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 山田 智子：10号館6階 t_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 福田セーニャ：10号館6階 xe_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>成人看護学（今井先生）担当領域のシラバス参照 成人看護学（栗山先生）担当領域のシラバス参照 母性看護学（坪倉先生）担当領域のシラバス参照 精神看護学（小西先生）担当領域のシラバス参照 在宅看護（森岡先生）担当領域のシラバス参照</p>
備考	授業の順番や内容は変更することがある。日時は後日連絡する。
	不明なことはmellyで対応します
	DPとの関連 ◎-5 ○-1 科目ナンバー：KK-2-NSc72-RS-S-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	3	必修
担当教員			
今井理香			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	講義形態：実習（アクティブラーニング）	
添付ファイル			

授業目標	<p>既習の知識、技術を基盤に、主として周手術期にある対象を総合的に理解し、手術後の順調な回復過程をたどるために必要な看護援助を実践するための基礎的能力を習得することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術を受ける対象の特徴および手術前、中、後の3つの医療環境を理解した上で、対象を総合的に捉えることができる。 2) 対象の手術後の回復状態に応じ、退院後の生活背景をふまえ、回復過程促進に向けた看護計画の立案ができる。 3) 対象の退院後の生活をふまえ、手術後の回復過程促進のための援助の実践し、評価することができる。 4) 対象が治療に伴う機能障害や形態の変化を受容し、適応に向かうための援助を考えることができる。 5) 医療チームメンバー間の連携について理解し、看護師の役割について考えることができる。 6) 危機的な状況にある対象および家族または重要他者への援助方法について考えることができる。 7) 実習に関する全ての期間において、看護専門職としてふさわしい態度で取り組むことができる。
授業計画	<p>実習目標1 手術を受ける対象の特徴および手術前、中、後の3つの医療環境を理解した上で、対象を総合的に捉えることができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象が障害されている臓器の構造・機能および病態生理について説明できる。 2) 手術を受ける対象および家族の心理的・社会的準備状況について説明できる。 3) 対象が受けている検査・治療について説明できる。 4) 対象が受けた麻酔・手術による侵襲とそれに伴う生体反応について説明できる。 5) 対象に予測される術後合併症のリスクについて説明できる。 6) 対象に必要な術後の観察項目を挙げるができる。 7) 対象に必要な術後の治療環境について説明できる。 8) 手術を受ける対象の全体像を記述することができる。 <p>実習目標2 対象の手術後の回復状態に応じ、退院後の生活背景をふまえ、回復過程促進に向けた看護計画の立案ができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の回復過程に応じ、看護問題を特定し、適した看護診断を行うことができる。 2) 対象の退院後の生活背景をふまえ、個別性を考慮した看護目標を記述することができる。 3) 看護目標達成のために、具体的で実践可能な看護計画を立案することができる。 4) 対象の回復の状態に応じ、看護問題の優先度を検討することができる。 <p>実習目標3 対象の退院後の生活背景をふまえ、手術後の回復過程促進のための援助の実践し、評価することができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後合併症を予防するために援助の実践ができる。 2) 対象の安全、安楽、及び意向に配慮した援助の実践ができる。 3) 対象の回復の状態に応じ、セルフケア自立に向けての援助の実践ができる。 4) 実践した援助に対する対象の状態や反応を客観的に記述し、アセスメントすることができる。 5) 実践した援助のアセスメントから、看護計画を適宜追加・修正することができる。 <p>実習目標4 対象が治療に伴う機能障害や形態の変化を受容し、適応に向かうための援助を考えることができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 治療に伴う機能・形態の変化による対象と家族の思いを理解し、必要に応じた援助を考えることができる。 <p>実習目標5 医療チームメンバー間の連携について理解し、看護師の役割について考えることができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療チームメンバーとその機能について理解し、医療チーム連携における看護師の役割について考えることができる。 <p>実習目標6 危機的な状況にある対象および家族または重要他者への援助方法について考えることができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術室の治療環境を理解したうえで、手術室看護の目的・役割について考えることができる。 2) ICU・ERの治療環境を理解したうえで、ICU・ERにおける看護の目的・役割について考えることができる。 3) 危機的な状況にある対象の家族や重要他者への援助方法について考えることができる。 <p>実習目標7 実習に関する全ての期間において、看護専門職としてふさわしい態度で取り組むことができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前学習課題を実習前の準備学習であることを自覚して、実習の一部として計画的に取り組むことができる。 2) 指示され期間、看護学生として責任をもって健康および生活管理を行い、問題が生じた場合は適切な行動をとることができる。 3) 守秘義務を遵守し、自己の行動に責任をもって、実習中に知り得た個人情報を保護することができる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習開始までに、「事前課題」に取り組み、周手術期の対象を受け持つために必要な基礎的知識についてまとめる。 ・実習開始前の金曜日に受け持ち予定対象の基礎的情報（疾患・術式）が提示されるため、実習初日（学内）

	までに、対象の情報から疾患の病態生理、予定術式の特徴、回復支援のために必要な看護について整理する（「疾患の理解」を完成させる）。
教科書	急性期看護援助論Ⅰ・Ⅱでを使用した教科書全般。
参考書	適宜提示する。
成績評価	急性期看護学実習ルーブリック評価表をもとに、中間学内日、最終学内日の学生、実習担当教員、科目責任者との面接内容と、学生の自己評価も踏まえ、実習担当教員が点数化し、大学規定の4段階評価で行う。
担当教員の基本情報	科目責任者 : 今井理香 研究室 : 10号館8階 研究室805 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定しないが、事前にメールにて確認を行うこと。 担当教員名 : 篠村安武 メールアドレス : 未定 研究室 : 未定
備考	今井理香 : 急性期病棟（脳神経外科、デイサージャリー診療部、血液内科、消化器内科）の勤務実績あり。 篠村安武 : 急性期病棟での実務経験あり。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-4, ○-2, 5 科目ナンバー：KK-4-NSc47-RS-P-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	3	必修
担当教員			
今井 理香 中谷弘美			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	講義形態：実習（アクティブラーニング）	
添付ファイル			

授業目標	既習の知識、技術を基板に慢性的な臓器障害を持ち、病と共に生きる対象およびその家族を全人的に理解し、複合的な問題を解決するために必要な看護援助を実践するための基礎的能力を習得することを目的とする。 1) 慢性的な健康障害をもち病と共に生きる対象、およびその家族を、身体・心理・社会的な側面から総合的に捉えることができる。 2) 病と共に生き、生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象を理解し、対象がセルフケア能力の獲得や健康問題に適応するために必要な援助計画の立案ができる。 3) 対象の退院後の生活背景をふまえ、対象がセルフケア能力獲得や健康問題に適応するために必要な援助の実践ができる。 4) 病と共に生きる対象およびその家族への支援のためのチーム医療について理解し、その中における看護師の役割について考えることができる。 5) 実習に関する全ての期間にうおいて、専門職者を志す者としてふさわしい態度で取り組むことができ、自己の行動を振り返り課題を明確にすることができる。
授業計画	到達目標1 慢性的な健康障害をもち病と共に生きる対象、およびその家族を、身体・心理・社会的な側面から総合的に捉えることができる。 1) 対象の障害を受けている臓器・器官の機能および病態生理について説明できる。 2) 慢性的な健康障害を有し、病と共に生きている対象のライフサイクルと生活環境を理解し、その人らしい生活のあり方をふまえて、対象および家族に必要な看護について説明することができる。 3) 治療や看護を受けることに対する対象の思いを受け止め、意思決定を尊重した支援について説明することができる。 4) 疾患に伴う機能障害や疾患のコントロールのための治療や処置が、対象の生活にどのような影響を与えているかについて説明することができる。 5) 慢性的な健康障害を有し、病と共に生きる対象の全体像を記述することができる。 到達目標2 生涯にわたり疾病のコントロールを必要とし、病と共に生きている対象を理解し、セルフケア能力の獲得や、健康問題に適応するための援助を計画することができる。 1) 対象の健康状態に応じ、看護問題を特定し、適した看護診断を行うことができる。 2) 対象の生活背景をふまえ、個別性を考慮した達成可能な看護目標を記述することができる。 3) 看護目標達成のために、具体的で実践可能な看護計画を立案することができる。 4) 対象の健康状態に応じ、眷顧問題の優先度を適宜検討することができる。 到達目標3 対象の退院後の生活背景をふまえ、セルフケア能力の獲得や県黄門に適応するための援助の実践ができる。 1) 対象のセルフケア能力を評価し、能力向上のための支援方法について説明できる。 2) 対象の自己概念、セクシュアリティ、役割などの身体・精神・社会的側面が、慢性の病と共にあることと、どのように影響しているかについて説明することができる。 3) 対象の健康問題やQOLについて、対象とその家族の立場から捉え、説明することができる。 到達目標4 病とともに生きる対象およびその家族への援助の視点から、チーム医療における看護の役割を理解することができる。 1) 慢性疾患患者の療養生活のための社会保障制度および、社会資源の活用について説明できる。 2) 病と共に生きる対象の検査・治療の実際を学び、看護の専門的役割について説明することができる。 3) チーム医療における関連部門・関連職業間の連携について説明することができる。 4) 対象の健康生活を支援するチーム医療の実際と、その中での看護の役割について説明することができる。 到達目標5 実習に関する全ての期間にうおいて、専門職者としてふさわしい態度で取り組むことができ、自己の行動を振り返り課題を明確にすることができる。 1) 看護学生として、責任をもって健康および生活管理を行い、問題が生じた場合は担当教員に適切に報告することができ、指示のもと適切な行動をとることができる。 2) 守秘義務を遵守し、自己の行動に責任をもって、実習中に知り得た個人情報を保護することができる。 3) 自己の看護実践を、カンファレンスや看護記録を通して客観的に振り返り、看護者としてのあり方や、自己の課題を明確にすることができる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	・臨地実習までに、事前課題に取り組み、慢性期の経過にある対象を受け持つための基礎的知識についてまとめる。 ・原則として、実習開始前の金曜日に受け持ち予定対象の基礎的情報（疾患、年齢、性別、その他）が提示されるため、実習初日までに対象の情報について基礎的知識、看護について整理しておく。
教科書	慢性期看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書全般
参考書	適宜指示する
成績評価	慢性期看護学実習ルーブリック評価表をもとに、中間学内日、最終学内日に、学生、実習担当教員、科目責任者との面接内容と学生の自己評価をふまえ、実習担当教員が点数化し、大学規定の4段階評価で行う。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館(看護学部棟)8階 805研究室 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 中谷 弘美 研究室 : 10号館(看護学部棟)6階 781共同研究室 メールアドレス : h_nakaya@meiji-u.ac.jp
備考	今井理香 : 慢性期疾患患者への看護実践の経験あり(消化器内科, 血液内科) 中谷弘美 : 慢性期病棟での実務経験あり。
	この授業のディプロマポリシーとの関連 : ◎-4, ○-2, 5 科目ナンバー : KK-4-NSc48-RS-P-1

講義科目名称： 老年看護学実習

授業コード： 3K326

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後期	3-4	2	必修
担当教員			
栗山真由美 東孝至 工藤大祐 小高真理子			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習 アクティブ ラーニング	
添付ファイル			

授業目標	高齢者の看護を行っている施設において要介護状態にある高齢者を受け持ち、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱで学んだ高齢者の全体像の把握と日常生活の援助を必要とする機能のアセスメントと評価を行い、望ましい日常生活への援助するための看護計画を立案し実践する。また、高齢者に対するさまざまな社会資源の活用などについても実習(アクティブラーニング)を通して学びを深める。 介護保険制度の施設で働く看護師の役割や多職種連携についても理解を深める。
授業計画	詳細は、老年看護学実習要項を参照のこと。
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義で使用した教科書および資料、事前学習課題に積極的に取り組み、実習に臨むこと。 教員や指導者から指導された課題や毎日の実習記録は遅れず提出すること。 受け持ち利用者を通して実施されているケアや治療については調べ、記録し理解すること。
教科書	「ナースンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践」堀内ふき他著(メディカ出版) 「ナースンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀内ふき他著(メディカ出版) 「ウエルネスの視点にもとづく老年看護過程 第2版」奥宮暁子編著(医歯薬出版)
参考書	適時紹介する。
成績評価	出席状況、実習への積極的姿勢 レポート(実習記録含む)の提出を総合的に評価する。 最終日にルーブリック評価表に即し、評価面接を行う。 詳細は、老年看護学実習要項を参照のこと。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること) 担当教員名 : 東孝至 研究室 : 10号館7階709研究室 メールアドレス : t_azuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)
備考	老年看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した講義資料および課題レポートも活用する。事前にルーバーファイルにてまとめて準備しておく ◎-4 ○-2.5

講義科目名称： リハビリテーション看護学実習

授業コード： 3K327

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
栗山真由美 小高真理子			
看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	アクティブ ラーニング
添付ファイル			

授業目標	[実習目的] 既習の知識、技術を基盤に、リハビリテーションを必要とする対象を総合的に理解し、その人らしい生活の再自立あるいは再構築に向けた援助について学ぶ。
授業計画	[備考] 実習のすすめ方等、詳細については、『臨地実習要項』参照
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前課題あり：事前課題は、基準点に達しないと実習への参加は認めることはできない。 実習直前のオリエンテーション時で渡される患者情報に沿っての事前学習を実施（オリ時に詳しく説明あり）。 実習中に課題が到達できない場合は、実習後に記録の再提出やレポートを課す場合がある。
教科書	リハビリテーション看護学概論・援助論で使用したもの。
参考書	自分の受け持つ患者の疾患や状況に応じたものを自分で準備する。 全領域で使用した手元の教科書や参考書を使用したり、図書館などで必要資料は調達すること。
成績評価	事前課題、ルーブリック実習評価表の内容、実習記録、実習への取り組み姿勢などを総合的に評価する。 特に、実際の実習での患者への援助、それに関する学習内容の理解などを重要視する。
担当教員の基本情報	担当教員名：栗山真由美 研究室：10号館8階 研究室804 メールアドレス：ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：特に指定なし 事前にメールで連絡のこと 担当教員名：小高真理子
備考	担当教員3名、病院/地域等での看護師実務経験をもとにリハビリテーション看護について実習指導をすすめる。 この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-4、○-2、5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
岩本美由紀			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	アクティブ・ラーニング
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとその家族を尊重し、子どもの成長・発達段階に応じた良好な人間関係を築くことができる。 2. 健康障害及び入院生活が、子どもと家族へ及ぼす影響を理解し、子どもの個別性に応じた看護展開ができる。 3. 子どもの成長・発達段階や健康状態に合わせた援助技術が実践できる。 4. 保健・医療・福祉チームの連携と小児看護師の役割を理解し、チームの一員として責任ある行動がとれる。
授業計画	<p>実習90時間 小児看護学実習</p> <p>I. 実習目的 成長・発達過程にある子どもとその家族を総合的に理解し、小児各期の成長・発達や健康レベルに応じた看護実践能力を修得する。</p> <p>II. 実習目標</p> <p>【病院実習】 ※病院実習を通して、健康障害をもつ子どもと家族を総合的に理解し、成長・発達段階に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとその家族を尊重し、子どもの成長・発達段階に応じた良好な人間関係を築くことができる。 2. 健康障害及び入院生活が、子どもと家族へ及ぼす影響を理解し、子どもの個別性に応じた看護展開ができる。 3. 子どもの成長・発達段階や健康状態に合わせた援助技術が実践できる。 4. 保健・医療・福祉チームの連携と小児看護師の役割を理解し、チームの一員として責任ある行動がとれる。 <p>【保育園実習】 ※地域で生活する乳幼児の成長・発達を理解し、保育園における関わりを通じて、子どもの成長・発達や生活を支援するための基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の成長・発達とコミュニケーションの特徴を理解し、乳幼児との関係性を構築する方法を、習得する。 2. 保育活動の実際に参加し、乳幼児の成長・発達を促すための 日常生活援助を習得する。 3. 保育環境の実際より、乳幼児の成長・発達および安全を保障する環境を理解する。 <p>【実習展開】 実習展開は2日間の保育園実習の後、病院実習を行います。保育園実習では、健康な子どもと関わり各成長・発達段階の特徴と生活の実際を学びます。また、保育の実際より、個別性に応じたコミュニケーションのとり方や子どもの安全を守るための援助の必要性を理解します。病院実習は、保育園の学びと事前課題を活かして、健康障害をもつ子どもと家族に対し看護実践を行います。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前課題については、計画的に学習し、期限までに提出すること。 期限まで提出できていない、もしくは課題内容が不足している場合は実習へ参加できません。但し病気等の特別な理由がある場合は診断書を添えて申し出ること。 実習中も、主体的に学習し、必要な学習の追加を行うこと。 2. 小児看護概論・小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの復習をし、各発達段階における成長・発達の特徴と代表的な小児の疾患について、理解しておくこと。 3. ルーブリック評価に基づき、主体的に学習準備をすること。
教科書	小児看護概論・小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書
参考書	発達段階からみた小児看護過程：医学書院 子どもの病気の地図帳：講談社 エビデンスに基づく小児看護ケア関連図：中央法規
成績評価	<p>※病院実習、保育園実習の各ルーブリック評価表に基づき評価する。</p> <p>【留意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席日数不足の場合は評価対象外とする。（ただし特別な理由がある場合は、不足日数の実習を課す） 2. 実習中だけでなく、最終面接で実習目標に到達していないと判断した場合は、単位習得は得られない
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：岩本美由紀</p> <p>研究室：10号館8階</p> <p>メールアドレス：m_iwamoto@meiji-u.ac.jp</p>

備考	臨床経験を踏まえて教育を行う 岩本美由紀：総合病院での小児看護経験を基に指導を行う。
	D Pとの関連 ◎-2 ○-3.5 科目ナンバー：KK-4-NSc50-RS-P-1

講義科目名称： 母性看護学実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習 グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 母性看護学では、出生後から思春期、成熟期、更年期、老年期の女性を対象に、発達課題の全般にわたって性と生殖に関する健康問題への援助を行うが、母性看護学実習では、特に周産期における妊婦・産婦・褥婦・新生児を対象とし、母性看護に特徴的な看護過程の展開と母性看護に特有の看護技術を実践（一部は見学）する。 また、実習を母性・父性、親性の概念や生命倫理に関して洞察する機会とし、理解を深める。</p> <p><授業目標> 1. 周産期にある対象の正常経過を理解し、個々に応じた看護を行う事ができる 2. 周産期における看護過程の展開ができる 3. 安全で安楽な看護技術が提供できる 4. 受け持ちの妊産褥婦と信頼関係を築くためのコミュニケーションをとることができる 5. 母子を取り巻く医療・保健・福祉サービスについて説明できる 6. 新しい生命の誕生を通して生命の神秘・尊厳や自己の存在について考え、自己の母性・父性観を育てることができる</p>
授業計画	<p>妊婦の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親（母親）学級、妊婦健康診査の見学 両親（母親）学級、妊婦健康診査を受ける妊婦を通して、妊娠期の身体・心理・社会的特徴、胎児の発育、健康診査と保健指導の必要性、診察介助の方法について学ぶ <p>産婦の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩第Ⅰ期から第Ⅳ期の産婦に必要な看護 ・出生直後の新生児に必要な看護 <p>褥婦・新生児の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥婦の身体的・心理的・社会的な視点から健康を促進できる援助 ・ウェルネスの看護過程の展開 ・母子愛着形成と母乳栄養確立への看護 ・新生児胎外生活適応への看護
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>実習オリエンテーション時に課題は提示する。 女性のライフサイクルと健康、および周産期の看護（妊娠期・分娩期・産褥・新生児）について知識と技術を復習しておいて下さい。</p>
教科書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書
参考書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」授業で紹介された文献および資料
成績評価	母性看護学実習ルーブリック評価表をもとに最終面接を行い評価する。 実習態度、実習記録、事前課題等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>伊藤三紀子 研究室：10号館7階 オフィスアワー：随時（事前に連絡をください） メールアドレス：mi_itoh@meiji-u.ac.jp</p> <p>山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：xe_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p>
備考	坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ 助産師として病院に勤務。 その実務経験をもとに「母性看護学実習」において実習指導を行う。

	DPとの関連 ◎-4 ○-2・5
	科目ナンバー : KK-4-NSc51-RS-P-1
	アクティブラーニング

講義科目名称： 精神看護学実習

授業コード： 3K330

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
小西 奈美			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	アクティブ・ラーニング
添付ファイル			

授業目標	精神に障害を持つ人を理解し、精神看護に必要な知識および技術を養う。 1. 精神に障害を持つ人を生活する人として理解できる。 2. 精神に障害を持つ人とのかかわりを通して、自分の対人関係のあり方について説明することができる。 3. 効果的なコミュニケーション技術について理解できる。 4. 精神に障害を持つ人を取り巻く環境における看護師の役割について考えることができる。 5. 保健・医療・福祉それぞれとの連携における看護師の役割について考えることができる。
授業計画	詳しくは実習要項を参照してください。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	・講義で学んだことをしっかりと復習しておく。 ・実習中に分からなかったこと、疑問に思ったことは、必ず担当教員に質問し、また文献等で確認して解決すること。
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 「精神看護の展開」 精神看護学② (医学書院) 「精神看護学」 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	実習記録・カンファレンス参加状況・出席・実習に取り組む姿勢などを総合的に、ルーブリック評価表の内容に基づいて実習終了後に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小西奈美 研究室 : 10号館8階808研究室 メールアドレス : n_konishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。
備考	小西教員：精神科領域での臨床・教育経験をもとに「精神看護学実習」の指導にあたる。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎-4、○-2、○-5
	科目ナンバー：KK-4-NSc52-RS-P-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年後期-4年前期	3-4	2	必修
担当教員			
森岡朋子 田中小百合			
看護学科	90時間	実習:アクティブラーニング	
添付ファイル			

授業目標	<p>【実習目的】 在宅療養者とその家族の健康上の問題を理解し、生活の場に応じた看護の役割について学ぶ。また、地域看護における訪問看護ステーションおよび重症心身障害児者施設の役割を理解する。</p> <p>【実習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養者とその家族を対象に健康状態や生活状況を理解し、両者に対する援助の実際を学ぶ（看護過程の展開ができる）。 在宅療養者とその家族を「生活者」として捉え、価値観や自己決定を尊重した看護の実際を学ぶ。 継続看護における訪問看護ステーションの役割を理解する。 対象者の健康問題の解決のために必要な社会資源の活用方法と連携・調整を理解する。 <p>2. 重症心身障害児者施設の役割を理解し、施設を利用する医療的ケアが必要な小児の看護を学ぶ</p> <p>アクティブラーニングとして、グループワーク、ディスカッションを行う。積極的に参画すること</p>
授業計画	<p>1日目 学内実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習ガイダンスを通して、記録の書き方など実習の全体像が把握できる 明日の実習に対する目標、準備学習ができる 担当教員と顔合わせを行い、事前学習内容の評価を受け、明日以降の実習指導を受ける その他、必要物品等の準備ができる <p>2日目 施設実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションを通して、訪問看護ステーションの概要、管理・運営、活動状況、訪問看護の特徴、役割、心得が理解できる 同行訪問ができる 空き時間に、事例の情報収集ができる <p>3日目 学内実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前日の記録内容について指導をうけ、修正できる。 看護展開用の事例の情報整理ができる 援助技術の実施準備等ができる <p>4・5日目 施設実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同行訪問ができる 毎朝、実習記録を記入し提出ができる 空き時間に、事例の情報収集ができる <p>6日目 学内実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間カンファレンスにおいて、学びの共有や困りごと、疑問等の解決ができる 看護展開の実施と記録の整理、明日の目標の立案ができる 最終カンファレンス用のレジメが作成できる 重症心身障害児（者）施設の実習準備ができる <p>7・8日目 施設実習</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同行訪問ができる 最終カンファレンスにおいて、司会・書記役を遂行しながら、他学生と学びを共有でき、施設側に学びの報告ができる。 <p>9日目 重症心身障害児（者）施設見学・体験</p> <p>【到達目標】 *10日目と入れ替わることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身に重度の障害を持つ人々とその家族を対象に健康状態や生活状況を理解し、援助の実際を学ぶことができる。 在宅支援の観点から、重症心身障害児（者）施設が地域でどのような役割を担っているのかを理解できる。 <p>10日目 学内実習</p> <p>【到達目標】 *9日目と入れ替わることがある</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習のまとめとしてレポートが作成できる。 学生や教員との話し合いを通して学びを整理、深めることができる。 16：30までに記録物一式が提出できる 貸出物品の返却が全てできる
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>実習準備として事前学習を提示する（詳細は3年次3月3日に配布済）</p> <p>在宅看護の療養者は、高齢者、認知症、難病、ターミナルケア、障がい、医療的ケアが必要な子どもを対象としていることが多い。年齢、疾患、背景、環境など個別性が高い。これまで学習してきた疾患、基礎看護、小児看護、成人看護、老年看護、精神看護、リハビリ看護、保健医療福祉制度や福祉サービスの復習を行っておくこと。</p>

教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第7版）メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術（第2版）メディカ出版 その他関連領域の教科書以外に、必要な専門書を使用すること。
参考書	特に指定しないが、疾患等で必要な図書は図書館で借りる等して準備すること
成績評価	ルーブリック評価項目に基づき、実習目標の到達状況（60点）、実習生としての態度（30点）、記録物の表記内容（10点）で判定する。尚、ルーブリック評価項目は別途配布する。
担当教員の基本情報	森岡朋子：10号館7階704 研究室、メールアドレス：t_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日 田中小百合：10号館8階研究室 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日
備考	森岡朋子：病院の実務経験後、社会福祉協議会に入職し、地域をフィールドに先駆けてコミュニティナースを 実践。 田中小百合：病院での実務経験をもとに「訪問看護」について実習をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎ー5、○ー2、4
	詳細は実習要項に記載する。必ず実習要綱を熟読の上、取り組むこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	1	選択
担当教員			
玉井公子 大倉和子			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>産業保健実習を通して、従業員の健康の保持増進のための産業保健活動の実際と保健師の役割を学ぶ。地域包括支援センター実習を通して、地域で生活する高齢者に対してどのような包括的な介護支援を展開しているか理解し、保健師の役割を学ぶ。産業保健における保健活動の実際を見学し、従業員の健康を守り、向上させるための産業保健における保健師の役割を学ぶ。また、地域包括支援センターでは、地域で生活する高齢者に対してどのような支援を展開しているのかを学ぶ。</p> <p>【実習目標：産業保健実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健活動を支える安全衛生管理体制の実際を理解できる。 2. 就労者の健康課題を労働と職場環境などの特性と関連づけて理解できる。 3. 就労者の健康を増進し、働きやすくする快適職場づくりについて理解できる。 4. 産業保健師の専門的役割・他職種との連携について理解する。 <p>【実習目標：介護支援活動実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括支援センターにおける業務概要を理解する。 2. 他職種との連携協働について理解する。 3. 保健福祉分野における看護職の活動を理解する。
授業計画	実習要項参照
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>予習時間：8から15時間 事前学習として指示された課題をまとめて、期限までに提出する。実習終了後に学びのレポートを提出する。具体的な内容については、別途指示する</p>
教科書	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、対象別公衆衛生看護活動実習要項参照、公衆衛生看護技術
参考書	教科書のほか公衆衛生が見える第4版、国民衛生の動向2023/2024
成績評価	評価表に基づく実習目標の到達状況・事前課題・実習態度・レポート等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：玉井公子 研究室：10号館7階、 メールアドレス：k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：大倉和子 メールアドレス：k_ohkura@meiji-u.ac.jp 研究室：10号館7階 オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>行政機関における実務経験を実習指導に活かしつつ、産業保健領域および市町村及び地域包括支援センターにおける地域保健活動に参加し、実践的に学ぶことで学生がグループ活動において主体的にディスカッションし学びを深め、保健師の活動や役割を深く理解できるよう指導する。</p> <p>デプロマポリシーとの関連：◎-④、○-③、○-⑤ 科目ナンバー：「KK-4-NSc55-ES-P-PHN」</p> <p>Classroomに必要な資料等をアップする</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	4	必修
担当教員			
玉井公子 大倉和子			
配当学科：看護学科	時間数：180時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p><公衆衛生看護学実習Ⅱ-1> 【実習目標】 地域診断に必要な情報を収集し健康と地域の関わり、地域保健医療福祉系における保健所および市町村の役割・機能およびその組織体系を理解できる。健康危機管理の組織的な管理体制やシステムの構築の必要性を理解できる。</p> <p><公衆衛生看護学実習Ⅱ-2> 【実習目標】 地域診断により健康課題を明らかにし、課題解決のための効果的保健事業の企画、実施、評価の過程、施策化の根拠とプロセスを理解できる。家庭訪問、健康教育を实践できる。また、セルフヘルプグループの育成、ケアシステム作りを理解できる。健康危機管理の実際について理解できる。</p>
授業計画	実習要項参照
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>実習要項参照 事前学習として指示された課題をまとめて、期限までに提出する。実習終了後に学びのレポートを提出する。グループワークが中心なので、メンバーの意見や考えを尊重した上で建設的に話し合い、学びの促進に貢献すること</p>
教科書	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護技術2、対象別公衆衛生看護活動
参考書	<p>授業で使用した参考書及びプリント 国民衛生の動向2023/2024、公衆衛生が見える第3版(医学書院) 母子保健マニュアル第7版(南山堂)、乳幼児健診の神経学的チェック法(南山堂)、結核の知識(医学書院)、ハイリスク児のフォローアップマニュアル(MEDICAL view)</p>
成績評価	事前課題、実習評価の内容、実習記録、実習への取り組み態度、実習報告書、実習報告会など総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 玉井公子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大倉和子 研究室 : 10号館7階、 メールアドレス : k_ohkura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>行政機関の実務経験を実習指導に活かしつつ、市町村及び保健所等行政機関における地域保健活動を実践的に学ぶことで、学生がグループ活動において主体的にディスカッションすることで、学びを深め保健師の活動や役割を実践的に理解できるよう指導する。</p> <p>デプロマポリシーとの関連：◎-④、○-③、○-⑤ 科目ナンバー：「KK-4-NSc56-ES-P-PHN」</p>
	Classroomに必要な資料等をアップする

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択
担当教員			
坪倉浩美 伊藤三紀子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義(対面) グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 助産業務の管理・運用に必要な基本的概念、周産期システム、関係法規および母子保健施策について学び、助産業務に必要なマネジメント能力を身につける。また、母子保健衛生に関連する諸団体との連携や医療安全・インシデント・周産期医療訴訟などの事例を通したリスクマネジメントにより、安全で質の高い周産期ケアについて学修する。</p> <p><授業目標> 助産師の業務範囲と法的責任、助産業務管理に必要な知識と業務の基本が理解できる。 病産院や助産所における助産管理の実際を知り、保健医療チームにおける助産師の役割が理解できる。</p>
授業計画	<p>第1回 助産管理の基本 担当教員：坪倉 助産管理の概念、医療経済が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第2回 関係法規 担当教員：坪倉 医療に関する法律（保健師助産師看護師法、母子保健法、母体保護法他）が理解できる 【授業形態】講義 グループワーク コミュニケーションカードを使用</p> <p>第3回 周産期管理システムとリスクマネジメント1 担当教員：坪倉 周産期管理システムが理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第4回 周産期管理システムとリスクマネジメント2 担当教員：坪倉 周産期の医療事故とリスクマネジメントが理解できる 【授業形態】講義 グループワーク コミュニケーションカードを使用</p> <p>第5回 病産院における助産業務管理1 担当教員：伊藤 助産業務管理の過程、方法が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第6回 病産院における助産業務管理2 担当教員：伊藤 産科棟、外来の助産管理が理解できる 【授業形態】講義 グループワーク コミュニケーションカードを使用</p> <p>第7回 助産所における助産業務管理 担当教員：坪倉 助産所の管理に関する法規、管理・運営・経営が理解できる 【授業形態】講義 グループワーク コミュニケーションカードを使用</p> <p>第8回 助産管理に関するまとめ 助産師が働くすべての場面における管理について理解できる 【授業形態】講義 グループディスカッション</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習（予習60分）し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい（復習60分）。
教科書	「助産学講座全10巻」助産管理 我部山キヨ子・竹谷雄二編（医学書院）
参考書	看護者の基本的責務 手島恵監修 日本看護協会出版会
成績評価	助産管理について課題レポート提出、グループワークにおける発言・参加も含めて評価する。
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>伊藤三紀子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：mi_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p>
備考	グループワーク・演習などアクティブラーニングを実施
	坪倉浩美・伊藤三紀子 助産師として病院に勤務。その実務経験をもとに「助産管理」について授業を進める。
	DPとの関連性 ◎ー2 ○ー5・1
	科目ナンバー：KK-4-NSc-ES-L-MW

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
勝見泰和、岡田成賛、桂 敏樹、伊藤和憲、宮坂卓治、上久保敦			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義またはオンライン	
添付ファイル			

授業目標	大学の教育と研究について様々な分野の教員がオムニバスで講義等を行う		
授業計画	第1回	明治国際医療大学の建学の精神・教学の理念、沿革と教育の特徴 1. 建学の精神・教学の理念 2. 明治国際医療大学の歴史 3. 明治国際医療大学の教育の特徴	
	第2回	鍼灸学部鍼灸学科の教育 鍼灸学部鍼灸学科の教育概要と目指す医療人像 鍼灸師とは (各学部共通)	
	第3回	保健医療学部柔道整復学科の教育 保健医療学部柔道整復学科の教育概要と目指す医療人像 柔道整復師とは (各学部共通)	
	第4回	保健医療学部救急救命学科の教育 保健医療学部救急救命学科の教育概要と目指す医療人像 救急救命士とは (各学部共通)	
	第5回	看護学の現状と将来展望 看護学の現状を概説し、将来を展望し、未来の姿を探索し、看護学の可能性を考える内容にする。適宜必要に応じ情報を探索するアクティブラーニングで未来像を探索する。	
	第6回	看護師の現状と将来展望 看護師の現状を概説し、将来を展望し、医療職としての未来の姿を探索し、将来像や可能性を考える内容にする。適宜必要に応じ情報を探索するアクティブラーニングで未来像を探索する。	
	第7回	保健師の現状と将来展望 保健師の現状を概説し、将来を展望し、医療職としての未来の姿を探索し、将来像や可能性を考える内容にする。適宜必要に応じ情報を探索するアクティブラーニングで未来像を探索する。	
	第8回	助産師の現状と将来展望 看護学の現状を概説し、将来を展望し、医療職としての未来の姿を探索し、将来像や可能性を考える内容にする。適宜必要に応じ情報を探索するアクティブラーニングで未来像を探索する。	
授業時間外の学習(準備学習等)について	特になし		
教科書	講義等で資料を提示する		
参考書	特になし		
成績評価	レポート等によって評価する		
担当教員の基本情報	学長、基盤教育センター長、各学部長・学科長		
備考	科目コード KK-1-MS1-RS-L-1		

講義科目名称： 心理学

授業コード： 4K102

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
東 美苗子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	「心」とは定義の難しいものであるが、「心」のこもったケアを提供するためには「心」について知る必要があるのではないか。本講義では「心」を対象として、基礎心理学（認知心理学・感情心理学・発達心理学・社会心理学）に基づく人間理解のための基礎的な知識を理解する。加えて、心の健康や心理学的コミュニケーションなど臨床心理学についての基本的な考え方を学び、実践的な知識を養う。適切な医療的ケアを施すために、患者の心、そして自分自身の心にどう寄り添うかについて、基本的な考え方を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>第1講 インTRODクシヨン 看護と心理学 心理学がどのような学問か、心理学に関するトピックが日常にあふれていることを学ぶ</p> <p>第2講 人は世界をどう捉え、どう感じ、どう反応するか（知覚・認知心理学、感情心理学） 感情心理学、認知心理学に関するトピックの概要を学ぶ</p> <p>第3講 人はいかに経験し、学習していくか（学習心理学） 学習心理学に関するトピックの概要を学ぶ</p> <p>第4講 人はどう生涯を通じて変化していくのか（発達心理学） 発達心理学の概要を学ぶ</p> <p>第5講 他者がいることで人はどう反応するか（社会心理学） 社会心理学のトピックについて学ぶ</p> <p>第6講 心の健康 —自己理解と他者理解— 1～4回目までの人間理解のための心理学を基に心の健康について学ぶ</p> <p>第7講 心理学的コミュニケーション 心理学的な考えを取り入れたコミュニケーションについて学ぶ</p> <p>第8講 まとめ（評価含む） これまでの授業のまとめを行い、試験を通じて知識の定着を図る</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	心理学的事象は日常生活においても数多く見られる。講義内で学習したことを思い出しながら身近な出来事へと照らし合わせることで体験的理解へと深めること。また実践場面でどのように心理学が生かせるかを考える。
教科書	特になし。適宜、資料を配布する。
参考書	藤田主一ら（2009）『新 医療と看護のための心理学』福村出版 無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳（2009）『よくわかる心理学』ミネルヴァ書房 岩壁茂（2020）『よくわかる臨床心理学 完全カラー図解』ナツメ社
成績評価	毎回の授業態度・小レポート35%、期末試験65%として、総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名：東 美苗子 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス：minako.azuma@gmail.com オフィスアワー：授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
池田 正樹			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：	
添付ファイル			

授業目標	1) 新たな他者と接する状況で、良好な関係を構築する技術・理論を理解・使用できる 2) レポートなど、基本的な文章作成が行える 3) 対人関係上生じる可能性のある問題点を学び、それらに対して自分なりに理解・対応できる
授業計画	<p>第1講 アサーショントレーニング1 [到達目標] アサーションの基本を学ぶ</p> <p>[備考] 特に無し</p> <p>第2講 アサーショントレーニング2 [到達目標] アサーティブな自己表現の方法を学ぶ</p> <p>[備考] 特になし</p> <p>第3講 話の聞き方 [到達目標] 基本的な傾聴の方法について理解する</p> <p>[備考] 特になし</p> <p>第4講 しんどくなりすぎない受け取り方 [到達目標] 自分のものの見方の癖を知る</p> <p>[備考] 特になし</p> <p>第5講 身近な精神疾患について [到達目標] 身近に接する可能性のある精神疾患について、理解する</p> <p>[備考] オンデマンド講義 文章の書き方の基本 [到達目標] 基本的な長文の構成を理解し、自分で記述できるようになる。</p> <p>第6講 [備考] オンデマンド講義 レポートの書き方の基本 [到達目標] レポートの構造と記載内容の意味を理解し、自分でレポートを書くことができるようになる。</p> <p>第7講 [備考] オンデマンド講義 プレゼンテーションの基礎を学ぶ [到達目標] プレゼンテーションの基本的な構造を学び、実際に作成できる。</p> <p>第8講 [備考] オンデマンド講義</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	連続ものの内容もあるため、適時復習を行なってください。
教科書	適時紹介します。
参考書	適時紹介します。
成績評価	①評価方法 : レポート70%、平常点30% ②評価基準 : レポートは講義の内容を一つ、もしくは複数選んで書いてもらいます。自分なりにそのテーマを今後どの様に役立てていくかなどについて、論述してください。論述においては、講義中に説明したレポートの書き方やパラグラフライティングの方法を参考としてください

	い。 平常点は受講態度、出席の有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池田正樹 研究室 : 1号館2階こころの相談室・8号館4階講師室 メールアドレス : ms_ikeda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業開始終了前後
備考	対面：講義形式とグループワーク形式を適時切り替える予定です。 オンデマンド：講義＋課題の構成で行う予定です。
	基本的な文章作成スキルのほか、心理学の知見から会話や日々の生活の中で体験する精神的不調などについてお話ししようと思っています。

講義科目名称： 日本国憲法 I

授業コード： 4K104

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
山谷 真			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。
授業計画	<p>第1講 日本国憲法入門 [到達目標] 法律との違いを意識しながら憲法の意義を説明できる。</p> <p>第2講 基本的人権その1（平等権） [到達目標] 憲法第14条の意義を説明できる。憲法第14条に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第3講 基本的人権その2（社会権） [到達目標] 憲法25条や社会保障の意義を説明できる。憲法25条に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第4講 統治機構その1（国会） [到達目標] 国会の権能や衆議院と参議院の違いを説明できる。いわゆる衆議院の優越の意義や、それがどのような場合に認められるかを指摘できる。</p> <p>第5講 統治機構その2（内閣） [到達目標] 内閣の組織と権能に関して説明できる。</p> <p>第6講 統治機構等その3（地方自治） [到達目標] 「地方自治の本旨」や地方公共団体の仕組み（首長と議会の関係など）につき説明できる。</p> <p>第7講 医療をめぐる法律関係 [到達目標] 民事法・刑事法の基礎をふまえて、医療事故等が発生した場合の法律関係につき説明できる。</p> <p>第8講 これまでの内容の補充とまとめ [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	既習事項の確認を行う。
教科書	特になし
参考書	芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第八版』（岩波書店）
成績評価	試験 50%・毎回の提出物等 30%・授業態度など平常点 20点
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山谷 真 研究室 : 6号館1階非常勤講師 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
山本 直子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	説明的文章や文学的文章を正しく読み解き、理解するための基礎的な事項を身につけることができる。また、読解した内容や解釈したことを、文章で説明し、まとめることができる。さらに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、他者に伝える力や理解力、論理的思考力などを培い、コミュニケーション能力を身につけることができる。
授業計画	<p>第1講 インTRODククション [到達目標] 新聞を題材に、構成や文体を理解し、内容が読み取れるようになる。 [備考]</p> <p>第2講 論説文の読解① [到達目標] 文章表現や構造を理解したうえで、文章の意図や主題、書き手の考えを考察し、まとめることができる。 [備考]</p> <p>第3講 論説文の読解② [到達目標] 前時のまとめをグループワークを通して深め、自己の考えをまとめることができる。 [備考]</p> <p>第4講 小論文を書く [到達目標] 小論文の書き方の基本を習得し、論理的に書くことができる。 [備考]</p> <p>第5講 小説の読解① [到達目標] 小説を題材に、内容を読み取り、テーマを設定することができる。 [備考]</p> <p>第6講 小説の読解② [到達目標] 前時で設定したテーマに関連する資料や文献を参考に、自己の考えをまとめることができる。 [備考]</p> <p>第7講 プレゼンテーション [到達目標] 前時でまとめたことをスライドやPPを用いて、発表することができる。 [備考]</p> <p>第8講 まとめ（評価含む） [到達目標] 授業を振り返り、読解への理解を深め、思考力や表現力などを向上させる実践力を身につけることができる。 [備考] 第8講の後半で試験を実施します。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	次回使用する教材や準備物を授業中に提示または配付しますので、準備をしておいてください。事前学習が済んでいるものとして授業を進めます。
教科書	特に購入していただくものではありません。
参考書	特になし。
成績評価	①評価方法 : 試験評点60%、平常点40% ②評価基準 : 試験は授業の理解度や実践力（小論文1題）に関する問題を出題し、判定します。平常点は受講態度、出席状況、課題の取組、提出などで判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 直子 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業前及び授業終了後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
【1年アドバイザー】			
看護学科	15時間	演習 (対面+オンライン)	アクティブラーニングあり
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職を目指す看護大学生として、身近な課題である「感染対策」について、具体的な症例を通し、「深く関心を持つ」「具体的に調べる」「考えながら読む」「丁寧に書く」「しっかり理解する」「わかりやすく伝える」能力を鍛え、大学で主体的に学ぶ動機づけができる。 ・症例を通して、看護について自己の考えを述べるができる。
授業計画	<p>1回目 全体オリエンテーション</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全体オリエンテーション、担当教員紹介 2. 各グループに分かれ自己紹介、グループワークに関するオリエンテーション、症例の紹介等 <p>テーマ「症例をもとに看護大学生ができる感染対策を考える」</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミ I の目的と進め方がわかり、最終回の発表会に向けた準備（概略）ができる。 ・グループ内での役割を決めることができる。 ・学習技法でまとめたレポートをグループ内で各自が発表できる。 <p>2回目 グループワーク</p> <p>[到達目標] 学ぶために必要な「読む」「聴く」が理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が症例について集めた文献を読むことができる。 ・グループメンバーの文献内容を聴くことができる。 ・発表をもとにグループワークできる。 <p>3～4回目 グループワーク</p> <p>[到達目標] 学ぶために必要な「調べる」「整理する」が理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「症例」についてディスカッションできる。 ・疑問や不足部分について調べることができる。 ・自分の考えを発表し、整理できる。 <p>5～6回目 グループワーク</p> <p>[到達目標] 学ぶために必要な「書く」「まとめる」「考える」が理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「症例」について自分の考えたことを書くことができる。 ・発表会に向けた準備（パワーポイント資料と発表原稿の準備、予行演習と調整）ができる。 ・発表の仕方、役割分担について話し合い決定することができる。 <p>7～8回目 全体グループ発表（合同グループ発表会）</p> <p>[到達目標] 学ぶために必要な「表現する」「伝える」「考える」が理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミ I を通して考えたこと、学んだことを分かりやすく発表することができる。 ・基礎ゼミ I の成果を確かめることができる。 ・症例を通して、人を対象とする看護について、自己の考えをまとめることができる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が「学習技法」で学んだ授業資料や教科書を復習し、必ず関連する文献検索し読んでおくこと。 ・授業外での個人の学習およびグループでの学習時間として、資料収集20時間、まとめ10時間を使用し、その際の資料、まとめを授業に持参すること
教科書	なし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習技法と同様 ・インターネット、書籍、新聞、その他より情報を集める。
成績評価	<p>①レポート評価 60点</p> <p>②グループワーク参加状況・積極性を担当教員が評価する 20点</p> <p>③グループワークの成果及び発表を評価する 20点</p> <p>①+②+③=100点</p> <p>*欠席は特別な理由が無い限り認めない。</p> <p>*テストが無い教科のため、出席重視とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>梶川 拓馬：7階 t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>田中小百合：8階 sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜午後</p> <p>グループを担当する他教員の情報は、1回目に確認しておくこと。</p>
備考	内容等は初日オリエンテーションで説明する。
	この授業とDPとの関連：◎-4、○-5
	科目ナンバー：KK-1-MS7-RS-S-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
梅田 雅宏、坪倉浩美 工藤大祐 西野入則江 篠村安武			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義・対話・ハイブリッド	アクティブ・ラーニング
添付ファイル			

授業目標	1) 「読み」「書き」「考える」能力の基礎となる「国語」「数学」「生物」等の理解をすることができる。 2) 大学での学修を円滑に進めるために学力向上を図ることができる。 ※基礎学力の向上が授業目標の要である為、使用する教科書の講義内容の範囲は、受講する学生達の習熟状況や準備状況に応じて、臨機応変に対応する。
授業計画	1回 人体についての知識の確認 生命の維持・感覚と運動・体内環境の維持・体内環境をまもるしくみについて学習し、理解を深めることができる。 2回 国語力の確認① 医療用語に関連した熟語や単語を正しく読み解く力を修得することができる。 3回 国語力の確認② 文章読解に関連した、要点を正確に読み解く力や要点を完結にまとめる力など、「国語力」を習得することができる。 4回 数学についての知識の確認 基本の計算、数の表現、複数の値の関係について理解を深めることができる。 講義で使用する教科書にある数学の計算式や方法について理解することができる。 5回 物理についての知識の確認 様々な単位、数量関係について理解を深めることができる。 講義で使用する教科書にある物理学における力動について理解を深めることができる。 6回 化学についての知識の確認 気体組成と気体の分子、状態の変化、燃焼、イオン、pH(酸・アルカリ)について、講義で使用する教科書にある化学についての基本的な知識について理解することができる。 7回 課題提示 (オンデマンド) 講義内で使用しているテキスト内容に沿った動画を視聴した上で、課題に取り組むことが出来る。 8回 まとめ・試験
授業時間外の学習(準備学習等)について	教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、各自が不得意な項目を明確にしておくこと。また、講義で学修した内容をまとめる。合わせて1時間程度。
教科書	看護学生 スタートアップトレーニング メディカ出版
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験、小テストで総合的に評価する。 (試験70%、小テスト30%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坪倉浩美 研究室 : 10号館8階802研究室 メールアドレス : hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前にメールにてアポイントメントをとること) 担当教員名 : 工藤大祐 研究室 : 10号館7階712研究室 メールアドレス : d_kudo@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前にメールにてアポイントメントをとること) 担当教員名 : 西野入則江 研究室 : 10号館6階共同研究室 メールアドレス : n_nishinoiri@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前にメールにてアポイントメントをとること) 担当教員名 : 篠村安武 研究室 : 10号館6階共同研究室 メールアドレス : y_shinomura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前にメールにてアポイントメントをとること) 基礎ゼミⅡに関するホームページ (是非、活用して下さい) https://sites.google.com/mst.meiji-u.ac.jp/kisosemi2/
備考	梅田教員：数学・物理・化学について、高校教育の基礎的な知識に基づく講義を行う。 工藤教員：生物・国語の知識について、高校教育の基礎的な知識に基づく講義を行う。

	西野入教員：生物・国語の知識について、高校教育の基礎的な知識に基づく講義を行う。 篠村教員：生物・国語の知識について、高校教育の基礎的な知識に基づく講義を行う。
	◎-1 (知識・理解) ○-2 (思考・判断)
	科目ナンバー：KK-1-MS8-ES-S-1

講義科目名称： 生活と環境

授業コード： 4K108

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
前中 一晃			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。 [備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標] 大気の成分を変えたもの	
	4回目	地球環境を変えたもの② [到達目標] 地球の環境を破壊したもの	
	5回目	病んでる地球 [到達目標] 病んでる地球とはどういうことか	
	6回目	深刻な環境問題 [到達目標] 地球温暖化・ごみ問題	
	7回目	広がる環境問題 [到達目標] オゾン層の破壊・水問題	
	8回目	まとめ（レポート作成） レポート作成等	
授業時間外の学習（準備学習等）について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ下調べしておくように。 教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	特になし		
成績評価	出席点＋試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名：前中 一晃（非常勤講師） 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス：mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1，○-3		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド：ビデオ配信）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この授業では、大学での学びに対する真摯な態度やスキルを、さまざまな側面から考えていきます。そして、最終的にはあなた自身が、自立した学習者に成長するきっかけ（契機）をつかむことが、この授業の目標です。
授業計画	<p>1回目 大学ってどんなところ！？ 【到達目標】大学で求められる力や態度を判断できる。</p> <p>※課題1：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>2回目 学習スタイルとやり抜く力 【到達目標】自らの学習スタイルを知り、今後の学習方法を省察できる。</p> <p>※課題2：「やり抜く力」のアンケートに回答してください（期日までにGoogle formsへ）。</p> <p>3回目 考えるってどういうこと？ 【到達目標】学びのスキルや思考方法（批判的思考）を活用できる。</p> <p>※課題3：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>4回目 プロフェッショナルとコミュニケーションを考える 【到達目標】プロとしてのコミュニケーションの概要を説明できる。</p> <p>※課題4：ビデオの中で示される【課題①】【課題②】の2つを考えてください（各課題を200字程度で）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>5回目 ディプロマ・ポリシーとICEルーブリック 【到達目標】ディプロマ・ポリシーとICEルーブリックの作成を通して、自らの学びを考察できる。</p> <p>※課題5：あなた自身の「ICEルーブリック」を書いて提出してください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>6回目 1. 図式化に挑戦！ 2. NOLの紹介 【到達目標】選択した科目の重要ポイントを図式化により整理できる。</p> <p>※課題6：あなたが描く「図式化」の成果物を提出してください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>※課題7：NOLを読んで、あなた自身の「感想」を教えてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）</p> <p>7回目 短期記憶の実験 【到達目標】短期記憶の実験をとおして、自身の記憶の傾向性を認識する。</p> <p>※課題8：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>8回目 レポートの書き方 ※アクティブ・ラーニング（学びの振り返りと表出） 【到達目標】本授業で学んだ内容を踏まえ、適切なレポートを作成できる。</p> <p>※課題9：本授業を受講した上で、「今までの学びを振り返り、これからの4年間を展望してください（400字）」をレポートしてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1. 課題は、Google ClassroomへUPします。</p> <p>2. 本授業における時間外学習は、週4時間となります。</p>
教科書	授業テーマに応じた資料をGoogle ClassroomにUpします。
参考書	必要に応じて、授業テーマに即した図書などをGoogle Classroomで紹介します。
成績評価	<p>1. 課題の提出締切日：期日までにGoogle Classroomへ提出してください（厳守）。</p> <p>2. 課題点：①+②=100点 ※期日を過ぎると点数はありません。</p> <p>①「課題1～8」：10点×8課題=80点（提出点）</p> <p>②「課題9」：20点（配点基準は、Google ClassroomにUpするルーブリックを参照：後日）</p> <p>3. 60点以上が合格点です（単位認定）。</p> <p>4. 教員からの各課題へのコメントは、基本的には全体または個別で行います（Google ClassroomにUp）。</p>
担当教員の基本情報	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員名 : 河井正隆 ・研究室 : 学修支援センター別室（3号館内） ・メールアドレス : m_kawai@meiji-u.ac.jp ・オフィスアワー : 水曜日、午後4時30～午後6時

備考	<p>1. 本授業とディプロマ・ポリシーとの関連：思考・判断◎、関心・意欲○</p> <p>2. 本授業では、スマートフォンやノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。</p> <p>3. 授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、Google Classroomやメリーでお伝えします。</p>
	<p>実務経験：京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。</p>
	<p>科目ナンバー：KK-1-MS10-RS-L-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
森岡 朋子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	ワークあり
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 ボランティアについて理念および沿革、取り巻く社会状況を概観し、ボランティア全体のイメージを構築する。自分自身がよりよく生き、社会をよりよくしていくために何ができるのかを、この授業で学んだ知見を活かし、自ら考えボランティア活動を実践できるようになること。ひとりの人間として、また、市民のひとりとして社会と向き合い、どのような関わりが持てるのか理解して行動することができるよう、ボランティア活動に参加するための動機づけを目的とする。</p> <p>授業目標 ・ボランティア活動を行う上で基礎となるボランティアの理念、沿革、取り巻く社会状況を理解し、知識を習得する。 ・ひとりの人間として、市民のひとりとして社会貢献について考えることができる。 ・地域共生社会におけるボランティアを受け入れる現場、コーディネートする現場、実践経験者の声からボランティア活動を理解し、ボランティア実践への理解を深める。 ・自ら目標を考え、ボランティア活動に取り組む力をつける。</p>
授業計画	<p>第1回 授業の進め方のガイダンスおよび講義 ボランティア活動とは：地域とボランティア 【学修目標】 ボランティアの理念、沿革の知識を習得し、ボランティア活動について理解する。</p> <p>第2回 アクティブラーニング：グループワーク ボランティアの意義、ボランティア活動の原則について理解する。 【学修目標】 1. ボランティアの意義、ボランティア活動の原則について理解する。 2. グループワークで意見交換し、自らの学びを深めることができる。</p> <p>第3回 アクティブラーニング：グループワーク ボランティア活動の理解 【学修目標】 1. 日本におけるボランティア活動の普及・推進の歩み、歴史上の活動事例から、ボランティア活動を理解する 2. 日本における国際ボランティアの経緯と、国際社会の中の日本人ボランティアを考察する</p> <p>第4回 アクティブラーニング：グループワークとディスカッション 身近にあるボランティア活動の実際を概観する：ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター 【学修目標】 1. 身近にあるボランティア活動の実際を概観し、理解を深める 2. ボランティア活動支援とボランティアコーディネーターの役割を理解する</p> <p>第5回 アクティブラーニング：グループワーク 社会貢献とSDG s 【学修目標】 1 社会貢献の意義を理解し、説明する 2 SDG sを理解し、説明する</p> <p>第6回 アクティブラーニング：グループワーク 近な実践を考えるーボランティア計画作成ー 【学修目標】 1. 学生ボランティアの意義が理解できる 2. 自分の活動計画を作成できる</p> <p>第7回 アクティブラーニング：グループワーク SDG sプレゼンテーションに向けて 学生発表の準備 テーマは自由。ボランティアに関すること 例：日本のボランティア活動の紹介、SDGSの紹介、自分たちが計画したボランティア活動の紹介など</p> <p>第8回 発表と全体のまとめ 学生のプレゼンテーション アクティブラーニング：ディスカッション</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	1. 居住地域の社会福祉協議会やボランティアセンターについて、場所、活動内容、広報内容などを調べておくこと。 2. 世界各地で行われているボランティア活動に目を向け、インターネットでの検索、テレビのニュース視聴などを行い、自らのボランティアについての考えを深めること。
教科書	特に指定しない
参考書	参考図書 <ul style="list-style-type: none"> ・「学生のためのボランティア論」 岡本榮一、菅井直也、妻鹿ふみ子 編 社会福祉法人 大阪ボランティア協会 ・「SDGs時代の社会貢献活動 一人ひとりができることとは」 木村佐枝子、船木伸江、江田江里花、田中綾子、柴田真裕、前林明日香 昭和堂 ・「ボランティア論『広がり』から『深まり』へ」柴田謙治、原田正樹、名賀亨 (株) みらい
成績評価	①レポート40%、②プレゼンテーション30%、④授業への取り組み度30%
担当教員の基本情報	森岡朋子：10号館704研究室 t_morioka@meiji-u.ac.jp 大阪市社会福祉協議会で看護師、社会福祉士、介護支援専門員の資格を有したコミュニティワークを実践
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎ー3 ○ー5 ナンバリング：kk-1-NSc-ES-L-1
	「ボランティア論」を履修する人は、「ボランティア活動」も履修すると学びが深まります。「ボランティア論」と「ボランティア活動」はセットで履修します。ボランティアを楽しみながら充実した学生生活を送ってください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1~3	1	選択
担当教員			
森岡 朋子			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	授業形態：実習：アクティブ ラーニング	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 ボランティア論を履修した1年から3年次の看護学部生が対象である。ボランティア論での知見を活かし、自ら考えボランティア活動を計画して実践する。大学のボランティアから実践を始め、地域の保健医療福祉分野でボランティア活動する。 本学部生が自主的に行う一定期間のボランティア活動について、単位を認定することで、在学中及び卒業後に、ひとりの人間として、また、市民のひとりとして社会と向き合い、各々が地域社会でのボランティア活動を理解し、活動を継続していくことを目的とする</p> <p>【授業目標】 1. 自ら目標を考え、ボランティア活動に取り組むことができる 2. 社会人としての礼節を守り、ボランティア活動に取り組むことができる 3. 「自主性・主体性」「社会性・連帯性」「無償性・無給性」「創造性・開拓性・先駆性」について、自らの学びを深めることができる</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 ・ボランティア活動の目的、注意事項を理解し、自らの計画を立案する ・ボランティアワークブックを活用した一連の流れを理解する。</p> <p>随時 ボランティア計画を立てる 1. ワークブックにあるボランティア計画書に必要事項を記載する *保健・医療・看護・福祉・介護分野に限る 2. ボランティアに行く施設等に対し、自ら連絡して打ち合わせをする 3. 担当教員に計画書を提出し、必ず事前に確認印をもらう</p> <p>随時 ボランティア実施 ・ボランティアワークブックを持参することを忘れないこと。 ・ボランティア終了後、必ず「自分の学び」と感想を報告し、お礼を言うこと。 ・ボランティア活動証明欄に、受け入れ施設等の担当者欄にサイン（印鑑可）をもらうこと。</p> <p>随時 ボランティア活動報告書の記載 ・ボランティア報告書を記載し、担当教員の確認印をもらうこと</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	「ボランティアワークブック」の記載事項を遵守すること
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
成績評価	「ボランティアワークブック」の提出とボランティア活動への取り組み度を評価する
担当教員の基本情報	10号館7階704研究室、 メールアドレス：t_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー随時（アポイントメント必要） 看護師、社会福祉士、介護支援専門員の資格を有したコミュニティワークを実践
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-3、○-5 ナンバリング：KK-9-NS c-ES-P-1
	ボランティアの受け入れ施設側の感染対策に従うこと。 礼儀正しく、学ばせていただいているという学生らしい態度で活動すること
	<ul style="list-style-type: none"> ・合計活動時間が累積45時間以上にて1単位として認定する。 (例) 1日4時間の活動を10日行い、1日8時間の活動を1日行うなど組み合わせて45時間以上を確保すること。 ・保健、医療、看護、福祉分野を活動分野とする。 ・学生自身が施設を選定し、連絡調整を行うため、社会人として礼節を守ること。

	<p>・車で通う場合（施設側の許可を得ること）は、事故にあっても学生保険は適用されない。よって公共交通機関、自転車を使用すること。</p>
	<p>万一の事故に備え、「WILL（3以上）」もしくは「ボランティア保険」に加入すること。 （ボランティア論に関係なく、看護学生は学年通して隣地実習に行くため、いずれにしてもWILLに加入する必要があります）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔・オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な生物学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・「生物の原則」である細胞、分子、遺伝子の働きを説明できる。 ・DNAからRNAそしてタンパク質へと進む遺伝情報の伝達の仕組みを理解する。 ・物質代謝、自己複製の仕組みを理解する。 ・解剖学・生理学等を理解するのに必要な、「ヒトに関する基本」（ヒトの組織や器官の構造と働き、健康を維持するシステム、病気の原因）に関する基礎的な内容を説明できる。
授業計画	<p>第1回 生物とは何か、生物としてのヒト 【到達目標】： ・生物の条件を説明できる。 ・生物としてのヒトの特徴を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第2回 細胞、細胞小器官 【到達目標】：細胞と細胞小器官の構造と機能を説明できる 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第3回 生物を構成する物質 【到達目標】： ・生物を構成する元素と分子にはどのようなものがあるかを説明できる。 ・生物を構成する元素と分子の基本的な性質を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第4回 栄養と代謝 【到達目標】： ・ヒトが必要とする栄養にはどのようなものがあるかを説明できる。 ・基礎的な代謝の流れを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第5回 遺伝とDNA、遺伝情報の発現 【到達目標】： ・遺伝の仕組みについて説明ができる。 ・DNAからRNA、タンパク質への遺伝情報の伝達の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第6回 細胞の増殖、生殖、発生、分化 【到達目標】：基礎的な自己複製の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第7回 ヒトの生殖、発生、分化 【到達目標】：ヒトの自己複製の仕組みを説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>中間試験 中間試験 対面形式で行う。 日時は別途指定する。</p> <p>第8回 動物の組織 【到達目標】：動物組織の基礎的な構造や特徴について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第9回 動物の器官Ⅰ（消化器系・循環器系） 【到達目標】：動物の器官（消化器系・循環器系）の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第10回 動物の器官Ⅱ（呼吸器系・排出系・感覚器系） 【到達目標】：動物の器官（呼吸器系・排出系・感覚器系）の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第11回 ホルモンと生体調節 【到達目標】：ヒトの各内分泌器官から分泌されるホルモンとその作用について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。</p>

	<p>(正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第12回 神経系 【到達目標】：動物の神経系の基礎的な構造や機能について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第13回 免疫・微生物 【到達目標】： ・生体防御システムの基礎的な機能について説明できる。 ・病原微生物と感染症との関係について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第14回 がんと老化 【到達目標】： ・がん発生の仕組みについて説明できる。 ・細胞や個体の老化のプロセスについて説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第15回 バイオテクノロジーと医療・総括 【到達目標】： ・遺伝子組換え技術や再生医療などの基礎的な仕組みや意義を説明できる。 ・本講義を通じて学んだことを述べるができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>期末試験 期末試験 対面形式で行う。 日時は別途指定する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習45分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習45分)。
教科書	「医療・看護系のための生物学」 田村 隆明 著 (裳華房) ISBN978-4-7853-5233-2
参考書	「キャンベル生物学」 Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece著 池内昌彦、伊藤元己、箸本春樹、道上達男 監訳 (丸善出版) ISBN978-4-621-30276-7
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 中間試験(試験86%、課題14%)、期末試験(試験86%、課題14%)それぞれ6割以上を合格とし、中間試験(50%)と期末試験(50%)により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 13:00-13:50
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1、○-2 科目ナンバー: KK-1-NS1-RS-L-1
	講義の動画は該当週の月曜日9:25までに公開する。 動画視聴(40~50分程度)と課題(40~50分)で講義を行う。 講義内容に対する質問は、原則Mellyで行なってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 課題の解答は提出期限後にGoogleclassroom上に掲示する。
	出欠は課題の期限内での提出をもって行います。 課題への取り組みが不十分とみなされる場合には、課題点が付与されないことがあります。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療には物理学の知見が多く取り入れられている。本講義では、医学を深く学ぶ上で必要となる物理学の基礎知識を身に着けることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	単位と移動の基礎 到達目標： ・単位を説明できる。速度，加速度，移動距離を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	ニュートンの法則 到達目標： ・三角関数が理解できる。 ・ベクトルを計算できる。 ・ニュートンの法則を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	浮力 到達目標： ・密度を計算できる。 ・浮力を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	放物運動 到達目標： ・自由落下，投げ上げの速度，移動距離が計算できる。 ・放物運動を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	抵抗 到達目標： ・モノに働く抵抗を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	円運動と万有引力 到達目標： ・円運動，万有引力が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	電気の基本 到達目標： ・電気の基本が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	電気の特性 到達目標： ・電気の特性が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	波の基本特性 到達目標： ・縦波，横波，振幅，周期，周波数を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第10回	音における波の特性 到達目標： ・音の波の特性を説明できる。 ・ドップラー効果を説明できる。 ・耳からの伝わり方を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第11回	光における波の特性 到達目標： ・光の波の特性を説明できる ・サングラスの偏光を説明できる ・ヒトの映像の見え方を説明できる 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第12回	光の特殊な性質 到達目標： ・光の量子性について説明できる。 ・量子コンピュータの概要が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第13回	いろいろエネルギー 到達目標：	

	<p>・エネルギー保存の法則を説明できる。 ・モノのエネルギーが説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。 試験及びまとめ 到達目標：全体的な概要の説明ができる。 授業形態： 対面形式で行う。日時は別途指定する。 確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>総括 到達目標：講義全体を振り返り、自然現象を総合的に判断し説明することができる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	種々の物理の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習(130分)と講義内容の復習(130分)を行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	改訂版 センター試験 物理基礎の点数が面白いほどとれる本。 鈴木誠治(著) ISBN-10: 404600777X
成績評価	1回の試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 〇赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : Mellyを活用して連絡して下さい。
備考	この講義とディプロマポリシーとの関連「◎-1」, 「〇-2」 科目コード:KK-1-NS2-ES-L-1
	講義の動画は該当週の月曜日9:30までに公開する。 動画視聴(20~50分程度)と課題(30~80分程度)で講義を行う。 動画視聴に関する質問は、原則Mellyで行ってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 出欠は課題の期限内での提出をもって行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔・オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素、分子およびそれらの性質を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。 ・その他、生化学や生理学などを理解するために必要な化学の法則を説明できる。		
授業計画	第1回	元素記号・周期律・化学の基礎 【到達目標】 ：おもな元素記号を記述できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第2回	原子の構造、電子配置と原子軌道 【到達目標】 ：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第3回	イオン結合 【到達目標】 ：主要なイオン性物質の組成式を作ることができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第4回	分子の間に働く力、共有結合、金属結合 【到達目標】 ：分子軌道により共有結合を説明できる。 それぞれの化学結合の特徴を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第5回	原子量・分子量・式量 【到達目標】 ：原子量、分子量と式量を計算できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第6回	物質量 【到達目標】 ：粒子の数、質量、体積と物質量の関係を理解し算出できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第7回	溶液・コロイド 【到達目標】 ： ・溶液、コロイドの特徴について説明できる。 ・溶液の濃度、希釈、作成について計算できる。 【授業形態】 ：	
	第8回	化学反応式 【到達目標】 ：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第9回	酸と塩基 【到達目標】 ：酸と塩基の性質を説明できる。 水素イオン指数pHを説明、計算できる。 中和反応を説明、計算できる 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第10回	酸化還元反応 【到達目標】 ：酸化・還元反応の性質を説明できる。 電池・電気分解を説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第11回	熱化学 【到達目標】 ：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第12回	酵素反応と酸塩基平衡 【到達目標】 ：酵素反応のしくみを説明できる。 化学平衡と緩衝液について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。	

	<p>(正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第13回 有機化合物 【到達目標】：炭化水素と有機化合物の名称や分類について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第14回 生体を構成する物質 【到達目標】：糖質、脂質、タンパク質、核酸について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第15回 無機化合物・高分子化合物 【到達目標】：身近な化合物の性質を理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>期末試験 期末試験 対面式で行う。日時は別途指定する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習45分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習45分)
教科書	「生理学・生化学につながる ていねいな化学」 白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太著(羊土社) ISBN978-4-7581-2100-2
参考書	「よくわかる化学基礎+化学」 富田 功監修(Gakken) ISBN978-4-05-303852-4 「ブラウナー一般化学 I、II」 T. H. Brown 他著、荻野和子監訳(丸善出版) ISBN978-4-621-30010-7, -30011-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験(72%)と課題(28%)により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日 13:00-13:50
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1、○-2 科目ナンバー: KK-1-NS3-ES-L-1
	講義の動画は該当週の月曜日9:25までに公開する。 動画視聴(40~50分程度)と課題(40~50分)で講義を行う。 講義内容に対する質問は、原則Mellyで行なってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 課題の解答は提出期限後にGoogleclassroom上に掲示する。
	出欠は課題の期限内での提出をもって行います。 課題への取り組みが不十分とみなされる場合には、課題点が付与されないことがあります。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とします。また、デジタルデータを正確に取り扱い、コンピュータを用いてデータの記録と解析を達成できることを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習 [到達目標] キーボードショートカットを用いた操作を修得する 関数を使った計算を復習し、棒グラフを正確に作成することができる 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する [備考] 課題あり</p> <p>第2回 さまざまなグラフ① 度数分布 [到達目標] 度数の意味や使い方を理解する 関数を利用してさまざまなデータの度数を算出できる [備考] 課題あり</p> <p>第3回 さまざまなグラフ② ヒストグラム [到達目標] ヒストグラムの示すデータの意味を理解する 関数を利用した場合分けを実施できる 結果を予測して利用する関数を工夫できる データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる [備考] 課題あり</p> <p>第4回 さまざまなグラフ③ 散布図 [到達目標] 散布図を作成することができる 相関係数について説明できる 散布図や相関係数を使ってデータの特徴を表現できる [備考] 課題あり</p> <p>第5回 関数の応用と図表の読み取り [到達目標] 資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる 実用的な関数を使い、データ処理の省力化を体験する 関数を正しく活用することができる [備考] 課題あり</p> <p>第6回 復習と演習 [到達目標] 学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など必要に応じたグラフを選択し作成することができる [備考] 課題あり</p> <p>第7回 デジタルデータの取り扱いと工夫 [到達目標] 実験などで得られる実データの安全な取り扱い方と記録の意義について理解する データ処理の必要性およびデータを活用するためのスキルについて考察する 大規模なデータを取り扱うためのデータハンドリングについて知る [備考] 課題あり</p> <p>第8回 データの収集および解析の実践 [到達目標] データに対して適した解析方法を選択し、正確に処理できる グラフ等を用いてデータを視覚的表現できる データを読み解き結果を言葉で表現することによって、レポート等を作成できる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておきましょう（120分程度）。 ・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるように準備しておいて下さい。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めましょう（120分程度）。 ・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておい

	て下さい。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は試験90%、課題10%とします。 試験は選択式および記述式の問題により、データ処理能力および他者に対して説明する能力の到達度を総合的に評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1, ○-3 「科目ナンバー」 : KK-1-NS4-RS-L-1 講義資料および課題は授業専用のホームページにて提供します (別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。 アクティブラーニング形式の授業は実施しません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山本 奈美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、英単語や英文法の習得を中心に英語の基礎力を固め、将来医療従事者として活動する際に必要とされる、実践的な英語でのコミュニケーションの能力を身につけることを目的とします。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]授業の構成、目的、スケジュール、評価基準を理解する [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか説明します。	
	第2講	現在時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	代名詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	前置詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	名詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	疑問文 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	進行形 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	未来時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	完了時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	接続詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	動名詞・不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第14講	受動態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第15講	まとめ [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]定期テストを実施します。	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業は、教科書に沿って進めていきます。毎回、授業前課題を実施しますので、予習が必要です。また、授業ごとに英単語や英語表現の小テストも行います。次の授業で活かせるように復習も重要です。また本講義においては、TOEICやTOEFLなど学外英語検定に向けた英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していきます。
教科書	English Booster!, Robert Hickling and Yasuhiro Ichikawa, Kinseido(2021).
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	平常点 70% (授業への積極的な参加、課題と小テスト) 定期テスト 30%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 奈美 研究室 : 6号館1階 事務局内非常勤講師室 オフィスアワー : 木曜日
備考	この授業はGoogleClassroomを活用して実施します。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1、○-5 科目ナンバー : KK-0-LI1-ES-S-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山本 奈美			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、英単語や英文法の習得を中心に英語の基礎力を固め、将来医療従事者として活動する際に必要とされる、実践的な英語でのコミュニケーションの能力を身につけることを目的とします。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]授業の構成、目的、スケジュール、評価基準を理解する [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか説明します。	
	第2講	現在時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	代名詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	前置詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	名詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	疑問文 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	進行形 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	未来時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	完了時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	接続詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	動名詞・不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第14講	受動態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第15講	まとめ [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]定期テストを実施します。	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業は、教科書に沿って進めていきます。毎回、授業前課題を実施しますので、予習が必要です。また、授業ごとに英単語や英語表現の小テストも行います。次の授業で活かせるように復習も重要です。また本講義においては、TOEICやTOEFLなど学外英語検定に向けた英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していきます。
教科書	English Booster!, Robert Hickling and Yasuhiro Ichikawa, Kinseido(2021).
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	平常点 70% (授業への積極的な参加、課題と小テスト) 定期テスト 30%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 奈美 研究室 : 6号館1階 事務局内非常勤講師室 オフィスアワー : 木曜日
備考	この授業はGoogleClassroomを活用して実施します。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1、○-5 科目ナンバー : KK-0-LI1-ES-S-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修選択
担当教員			
Joanna Motoi			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>教科書を使った講座です。(This is a textbook course.) コースを受講するには、教科書を用意し、毎回の講義に教科書を持参する必要があります。 (You must have a textbook and bring your textbook to every lecture to follow the course.)</p> <p>The focus of this course is on building the students listening and speaking skills using simple, practical English for successful communication in the hospital setting. There will be many opportunities for practicing simple, useful English through role-plays, pair work and group work. Students will gain confidence in interacting with foreign patients.</p>
授業計画	<p>Week 1 Course Introduction / Meet the Teacher Pre-Unit A-E</p> <p>Week 2 Hospital Departments and Symptoms Unit 1</p> <p>Week 3 Hospital Departments and Symptoms Unit 1</p> <p>Week 4 Application Forms-Admissions Unit 2</p> <p>Week 5 Parts of the Body Unit 3</p> <p>Week 6 Parts of the Body Unit 3 / Instructions Unit 8</p> <p>Week 7 Mid-Term Exam (Oral and *Written) in class</p> <p>Week 8 Symptoms and Illnesses (Mid-Term Exam FEEDBACK) Unit 4</p> <p>Week 9 Symptoms and Illnesses Unit 4</p> <p>Week 1 0 Daily Routine / Vital Signs / Reading a Patient' s Schedule Unit 5</p> <p>Week 1 1 Hospital Objects / Speaking Test Unit 6</p> <p>Week 1 2 Chatting with a Patient Unit 10</p> <p>Week 1 3 Culture Awareness Unit 10</p> <p>Week 1 4 Review</p> <p>Week 1 5 Final Exam (Oral and *Written) in class.</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	Please read through each Unit before it is presented in class. Also, listen to the Unit dialogue numerous times. (a CD is provided with the text)
教科書	Vital Signs(Revised Edition) NAN' UN-DO ホスピタル・イングリッシュ<改訂版> 南雲堂 Printout 配布資料
参考書	Illustrated English Terms for Health Care Workers 病院で使える イラスト英単語 Haruko Hishida, Hiromi Oku &Kyoto Asazawa 2013 Tokyo : Medical View 株式会社メジカルビュー社

	ISBN978-4-7583-0435-1
成績評価	Mid-TermExam 30% (Written 10%, Oral 20%) Final Exam 30% (Written 10%, Oral 20%) Class Work 40% (20% attendance and active participation) (20% assignments and quizzes)
担当教員の基本情報	担当教員名 : Joanna Motoi 研究室 : 6号館非常勤講師室 (※授業日のみ) メールアドレス : meiji.mjoanna@gmail.com オフィスアワー : I am available 10 minutes following class time or you can email me with any
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
Joanna Motoi			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>教科書を使った講座です。(This is a textbook course.) コースを受講するには、教科書を用意し、毎回の講義に教科書を持参する必要があります。 (You must have a textbook and bring your textbook to every lecture to follow the course.)</p> <p>The focus of this course is on building the students listening and speaking skills using simple, practical English for successful communication in the hospital setting. There will be many opportunities for practicing simple, useful English through role-plays, pair work and group work. Students will gain confidence in interacting with foreign patients.</p>
授業計画	<p>Week 1 Course Introduction / Meet the Teacher Pre-Unit A-E</p> <p>Week 2 Hospital Departments and Symptoms Unit 1</p> <p>Week 3 Hospital Departments and Symptoms Unit 1</p> <p>Week 4 Application Forms-Admissions Unit 2</p> <p>Week 5 Parts of the Body Unit 3</p> <p>Week 6 Parts of the Body Unit 3 / Instructions Unit 8</p> <p>Week 7 Mid-Term Exam (Oral and *Written) in class</p> <p>Week 8 Symptoms and Illnesses (Mid-Term Exam FEEDBACK) Unit 4</p> <p>Week 9 Symptoms and Illnesses Unit 4</p> <p>Week 1 0 Daily Routine / Vital Signs / Reading a Patient' s Schedule Unit 5</p> <p>Week 1 1 Hospital Objects / Speaking Test Unit 6</p> <p>Week 1 2 Chatting with a Patient Unit 10</p> <p>Week 1 3 Culture Awareness Unit 10</p> <p>Week 1 4 Review</p> <p>Week 1 5 Final Exam (Oral and *Written) in class.</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	Please read through each Unit before it is presented in class. Also, listen to the Unit dialogue numerous times. (a CD is provided with the text)
教科書	Vital Signs(Revised Edition) NAN' UN-DO ホスピタル・イングリッシュ<改訂版> 南雲堂 Printout 配布資料
参考書	Illustrated English Terms for Health Care Workers 病院で使える イラスト英単語 Haruko Hishida, Hiromi Oku &Kyoto Asazawa 2013 Tokyo : Medical View 株式会社メジカルビュー社

	ISBN978-4-7583-0435-1
成績評価	Mid-TermExam 30% (Written 10%, Oral 20%) Final Exam 30% (Written 10%, Oral 20%) Class Work 40% (20% attendance and active participation) (20% assignments and quizzes)
担当教員の基本情報	担当教員名 : Joanna Motoi 研究室 : 6号館非常勤講師室 (※授業日のみ) メールアドレス : meiji.mjoanna@gmail.com オフィスアワー : I am available 10 minutes following class time or you can email me with any
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語を習得することが大切である。この講義では、日本人が特に苦手とするリスニングとスピーキングに重点を置き、医療現場における様々なシチュエーションの会話をパターンプラクティスで習得するとともに、映画やアニメのシナリオを通して実用的な英語に触れることを目指す。また、今後必要となる可能性のある医療用語についても学ぶ。		
授業計画	第1講	オリエンテーション、曜日・日付・時間の表現及び診療予約の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①曜日等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第2講	年や職業の表現及び初めて来院する患者への対応の英会話（日本人編）、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①年等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第3講	月や国名の表現及び初めて来院する患者への対応の英会話（外国人編）、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①月等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第4講	道案内の表現及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①道案内等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第5講	病院の各科の表現及び館内案内の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①病院の各科の表現を学習する②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第6講	身長と体重測定 of 表現及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身長等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第7講	血圧や脈拍の測定の表現及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①血圧等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第8講	身体チェックや患者を適切な姿勢にさせる表現及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身体チェック等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第9講	顔の部位確認、薬の服用の指示及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①顔の部位等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第10講	身体の部位確認、痛みの度合いの問診及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身体の部位等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第11講	痛みとケガの表現、患者の症状の問診及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①痛みとケガ等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第12講	薬の名称の表現、患者の症状の問診及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①薬の名称等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。	

	<p>第13講 ③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。 病名の表現、患者本人の既往歴等の問診及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①病名の等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第14講 家系図の確認、家族の既往歴等の問診及びその英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①家系図等の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第15講 第1講～第14講で未習の医療用語の確認及び総合的な英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①医療用語を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいれば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。
教科書	特になし (基本的にパワーポイントを使った授業になります。必要に応じてプリントをこちらから用意します。)
参考書	英和辞書もしくは電子辞書(高校で使用していたものでよい)
成績評価	「授業への参加度合い、積極性、各講義課題提出等」で評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
矢放 昭文			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標は初級中国語の基礎を身につけることである。中国語は発音が難しい。だが音声表示（ピンイン）の仕組みを理解し、継続して練習を重ねると身につくはず！練習方法は；①シャドーイングの反復、ライティングと意味の把握、文法的仕組みの理解を同時並行で繰り返すことである。また②グループ（ペア）ワーク（2人または4人）を通じて、入力（耳：input）・出力（口：output）と書写（ライティング）練習を繰り返し、定着度をお互いに確認しつつ教材の運用練習をすることも効果が高い。</p> <p>学習進度と習得度を踏まえつつ、看護・救急・救命・鍼灸などの現場で使われる中国語教材の表現練習を採り入れ、中国語の知識をゆたかにすることも授業目標の一つである。</p> <p>なお「継続は力なり」という言葉をいつも自分に言い聞かせるとういでしょう！</p>
授業計画	<p>第1講 中国語の音声（ピンイン）の仕組みを理解しよう [到達目標]①中国語の音声の仕組みを「中国語音節表」(p.74-75)に基づいて学ぶ。 教科書に基づいて授業の進め方を説明し、相互に確認する。また次回授業の準備(p11-16)を予習する。</p> <p>[備考]補助教材として、プリントを配布することがある。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>第2講 第1課「自己紹介」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]発音：単母音・声調・軽声・子音を学習する。さらに、ペアワークを通じて挨拶・自己紹介ができるようにする。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p.17-18「ドリル」を完成し、p.19-22を予習する。</p> <p>第3講 第2課「どうなさいましたか」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。 つぎに前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。また、発音：複母音・声調表記と「新出語句」(p.20)の発音練習・書取を行う。</p> <p>[備考] さらに、次回授業の準備：p.23-24「ドリル」を完成し、p.25-28を予習する。</p> <p>第4講 第3課「この薬はどう飲みますか」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：鼻母音と「新出語句」(p.26)の発音・書取を行う。</p> <p>第5講 第3課「この薬はどう飲みますか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで薬の飲み方を説明できるように練習し・定着を目指す。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p.29-30「ドリル」を完成し、p.31-35を予習する。</p> <p>第6講 第4課「病室はどこですか」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「声調の変調」「アール化音」「新出語句」(p.33)の練習・書取を行う。</p> <p>第7講 第4課「病室はどこですか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで場所を訊ねたり、教えたりできるように練習し・定着を目指す。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p.36-37「ドリル」を完成し、p.38-41を予習する。</p> <p>第8講 第5課「具合はいかがですか」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「新出語句(p.38)」「補足語句(p.40)」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>第9講 第5課「具合はいかがですか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「具合はいかがですか」と「問wèn・答dá」できるようにする。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p.42-43「ドリル」を完成し、p.44-46を予習する。</p> <p>第10講 第6課「心配いりません」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に病気の現状を説明できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「新出語句(p.44)」「補足語句(p.46)」と「表現」の練習・書取を</p>

	<p>第11講 行う。 第6課「心配いりません」の復習。 [到達目標]会話」の復習。ペアワークで、病気の現状説明と患者を落ち着かせる会話、の練習をする。</p> <p>第12講 [備考] 次回の授業：p. 47-48「ドリル」を完成し、p. 49-51を予習する。 第7課「退院おめでとう」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを言えるようにする。また、前回のドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認、補正する。</p> <p>第13講 [備考] さらに、発音：「新出語句 (p. 50)」「補足語句 (p. 51)」と「表現」の練習・書取を行う。 第7課「退院おめでとう」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを相互に言えるようにする。さらに「チャレンジ (p. 54)」をグループワークで行う。</p> <p>第14講 [備考] また、次回授業の準備：p. 52-53のドリルを完成する。 第1課～第7課の総復習と「自己紹介」の練習を行う。 [到達目標]第1課～第7課のまとめ (p. 55-60)を総括する。</p> <p>第15講 [備考] 「自己紹介文」について発音・音読練習をおこなう。 第1課～第7課で身につけた中国語をつかい「自己発表」を行う。 [到達目標] 自信をもって「自己紹介」できることが目標である。</p> <p>[備考] 評価と今後の学習のための助言を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>① 予習 (音声ファイルをダウンロードし、繰り返し聞くと効果は高い。日本語の発音と異なるの中国語音の微妙な違い、イントネーション (声調) に注意してシャドーイングを繰り返すと効果があります。</p> <p>② またシャドーイングと同時に書写 (ライティング) を習慣として行うと定着度は高いはずですが。「ドリル」を完成することも、頭に定着させるためには大切です。</p> <p>③ ピンイン、単語、例文などを音読しながら書写することにより定着度を高めることも出来ます。自分で時間の配分を考えながら実行することを習慣にすること、も高い効果を期待できます。「習慣」は人生を変えます!</p>
教科書	『協同学習で学ぶ医療系中国語会話』李偉・管虹共著、白帝社 (定価：2100円+税)
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	平常点 (50%) と期末試験 (50%)。なお平常点には小テスト (複数回) の成績も算入する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢放 昭文 (ヤハナシ アキフミ) 大阪外国語大学大学院外国語学研究科東アジア語学 (中国語専攻) 修了 大阪大学大学院人文学研究科招聘研究員 文学修士、京都産業大学名誉教授</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業時間の前後に随時受け付ける。</p>
備考	

講義科目名称： ドイツ語

授業コード： 4K123

英文科目名称： Deutsch für Anfänger

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
小島 奈名子、福田 セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> ドイツ語の基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。 学生は聞く・話す・読む・書く能力をバランスよく学習し、実践できることを目指す。</p> <p><授業目標> 1. ドイツ語の文法の特徴を理解し、簡単な文章を作ることができる。 2. 基本的な挨拶ができる。 3. 場面別に基本的なフレーズを使うことができる。</p>		
授業計画	第1回	ドイツ語はどんな言語ですか？発音の特徴に触れましょう 【授業目標】 学生がドイツ語に触れ、簡単な挨拶を通して発音の特徴を学習できる。 【授業形態】 講義、演習	
	第2回	ドイツ語の動詞はまるでカメレオン！動詞の現在形 【授業目標】 学生がドイツ語文中の動詞の活用形を概念を理解し、現在形を作ることができる。 【授業形態】 講義、演習	
	第3回	ワクワクする(?) ドイツ語文法：ワク構造 【授業目標】 学生がワク構造を理解し、ワク構造を使った文章を作ることができる。 【授業形態】 講義、演習	
	第4回	過去のことをいうときは現在完了形 【授業目標】 学生が動詞の現在完了形を使った文章を作ることができる。 【授業形態】 講義、演習	
	第5回	机は男性？名詞の性と格変化 【授業目標】 学生が名詞の格変化を理解し、性と格に応じた冠詞を使うことができる。 【授業形態】 講義、演習	
	第6回	不規則動詞、名詞の格変化(続き) 【授業目標】 学生が不規則動詞の種類を知り、定形・現在完了形を作ることができる。 【授業形態】 講義、演習	
	第7回	名詞の格変化(まとめ)、定冠詞と不定冠詞 【授業目標】 ・学生が定冠詞と不定冠詞の使い分けができる。 ・学生が名詞の格変化の概要を理解し、文章を作ることができる。 【授業形態】 講義、演習	
	第8回	前綴りは後ろへ：分離動詞の作り方 【授業目標】 学生が分離動詞の概念を理解し、文章を作ることができる。 【授業形態】 講義、演習	
	第9回	文章を修飾しましょう：形容詞 【授業目標】 学生がドイツ文中の形容詞の種類、活用方法を学習できる。 【授業形態】 講義、演習	
	第10回	長い文章を作りましょう：主文と副文 【授業目標】 学生が副文の特徴と作り方を学習できる。 【授業形態】 講義、演習	
	第11回	否定文 【授業目標】 学生が否定文を使うことができる。 【授業形態】 講義、演習	
	第12回	【復習】 ドイツ語の動詞の活用形 【授業目標】 学生が動詞の活用を復習できる。 【授業形態】 講義、演習	
	第13回	【復習】 今まで習った単語 【授業目標】 学生は1回目～12回目講義の内容で習った単語を会話で使い、復習できる。 【授業形態】 講義、演習	
	第14回	【復習】 名詞の格変化、期末試験の内容確認 【授業目標】 ・学生は名詞の格変化を復習できる。 ・チェックリストを用いて、筆記試験の内容が確認できる。 【授業形態】 講義、演習	
	第15回	演習(40分)、筆記試験(60分) 【授業目標】 筆記試験において60点以上に達する。 【授業形態】 演習、筆記試験	
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で必ず復習してください(授業90分あたり90分程度) ・語学アプリMemriseをインストールし、通学時等に学習する。 		
教科書	宍戸里佳：はじめてのドイツ語、ナツメ社、2021.		

参考書	宍戸里佳：大学1・2年生のためのすぐわかるドイツ語、東京図書、2021. 宍戸里佳：はじめてのドイツ語文法
成績評価	出席10%、授業の参加態度30%、期末試験60%
担当教員の基本情報	担当教員名：福田セーニャ 研究室：10号館6階共同研究室 メールアドレス：xe_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：事前にメールください
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実務経験の有無：教員の母国語はドイツ語、京都府立林業大学校、DZGOドイツ語教室、Deutsche Samstagsschule Kyotoでドイツ語講師の経験あり。 ・この授業のDPとの関連「◎-5」「○-4」 ・科目ナンバー：KK-1-LI7-ES-S-1
	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの有無：有 ・フィードバック方法：授業内容について質問等があれば教員に直接聞いてください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを利用した課題の遂行を通じ、様々なアプリケーションの使い分けに加えてデータサイエンスの基盤となるデータ整理のスキル獲得を目的とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の修得し、具体的に対処する方法について学びます。4年間の大学生活を送るに当たり必要なコンピュータスキルと犯罪に巻き込まれないための知識を修得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のシステムおよびメール等の学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCの基本操作、学内システムへのアクセス法</p> <p>[到達目標] 本学でのコンピュータ利用方法を知る コンピュータからメールが送受信できる 学修支援システムとmellyを利用できる 大学内で印刷を行う具体的な方法を理解する</p> <p>[備考] 入学時ガイダンスでの配布物（パスワードが記載された用紙）を必ず持参すること</p>	
	第2講	<p>基本操作の修得</p> <p>[到達目標] 電子レポートを提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる USBフラッシュメモリ等の外部デバイスの利用に対する注意点を理解する</p> <p>[備考] 必要に応じてUSBメモリーを持参すること（任意）</p>	
	第3講	<p>表計算①：関数の使い方と表計算ソフトの便利な機能</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトが使い、必要に応じてレイアウトを整えることができる 表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる キーボードショートカットを活用できる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第4講	<p>表計算②：さまざまなグラフと表・数値の読み方</p> <p>[到達目標] グラフの特徴を理解し、活用することができる 種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる データに対して適切なグラフを作成することができる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第5講	<p>表計算③：さまざまな関数の利用</p> <p>[到達目標] 引数の概念を理解する “条件分け”の関数を適用することができる “抽出”の関数を適用することができる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第6講	<p>表計算④：復習と演習</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを利用し学修した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考] 課題あり</p>	
	第7講	<p>表計算⑤：表計算を用いたデータ整理と表示法のテストおよび解説</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考] 表計算ソフトを用いたテストを実施する</p>	
	第8講	<p>情報倫理とネットセキュリティ</p> <p>[到達目標] ITリテラシーおよび情報倫理として適切な事柄を示すことができる ネットのビジネスマナー、アカウントとパスワードの意味、悪意のあるプログラムとその対策について知識を修得する</p> <p>[備考] 講義時間内に情報倫理に関するwebテストを実施 NOA出版の教科書にて事前に学修しておくこと</p>	
	第9講	<p>文書表現の実践：文章表現の実践とルーブリックによる自己評価</p>	

	<p>[到達目標] Word等の文書作成ソフトを利用し、自力でレポート課題に取り組むことができる 指定された条件をレポートに適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第10講 ビジュアル表現の実践：プレゼンテーションの実践とルーブリックによる自己評価</p> <p>[到達目標] PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを利用し、自力でプレゼン資料を作成できる 指定された条件を適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第11講 デジタル環境を利用したレポート相互評価の実践</p> <p>[到達目標] 客観的視点をもって他者の文章を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の利点と欠点について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第12講 デジタル環境を利用したプレゼン資料相互評価の実践</p> <p>[到達目標] 客観的視点をもって他者の資料を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の集約と共有の方法について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第13講 記録とデータ</p> <p>[到達目標] 記録の必要性を理解する データの種類を理解する cloud環境で利用できる仕組みを活用してポートフォリオ作成を体験する [備考] 課題あり</p> <p>第14講 データベースとその意義</p> <p>[到達目標] データベースとは何かを説明できる 情報を活用するためのデータ取得について考える プログラミングとは何かを知る スクリプトを用いてデジタル処理の動作を体験する [備考] 課題あり</p> <p>第15講 機械学習の基本</p> <p>[到達目標] 機械学習とは何かを説明できる 社会の中で機械学習がどのように活用されているかを知る [備考] 課題あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義で必要となる用語や操作手順を事前に調べ、まとめておいて下さい(30分程度)。必要に応じて復習を行い、コンピュータスキルの獲得に努めて下さい(30分程度)。第10講では情報倫理に関する小テストを実施しますので、「情報倫理ハンドブック」を事前に熟読し、理解を深めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック」(noa出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は授業内課題40%、情報倫理に関するwebテスト10%、表計算テスト50%とします。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」:◎-1, ○-2 「科目ナンバー」:KK-1-LI9-RS-S-1 講義資料および課題は授業専用のホームページにて提供します(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
伊藤 博康			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療の担い手としての医療従事者（看護師）には、高度な医療・看護の技術だけでなく、患者様の心と向き合い、その尊厳を保障するために高い人権意識と倫理観が求められる。看護師を目指す学生に分かりやすく講義をする。		
授業計画	第1講	生命倫理の流れ 看護の倫理 現代の医療倫理 [到達目標]生命倫理の流れを理解し、説明できる。 [備考] 教科書1ページから12ページ	
	第2講	人工妊娠中絶 選別出産と減数手術 [到達目標]生命を絶つことを理解し、説明できる。 [備考] 教科書47ページから63ページ	
	第3講	脳死と臓器移植 [到達目標]死と生について理解し、説明できる。 [備考] 教科書78ページから97ページ	
	第4講	安楽死と尊厳死 [到達目標]安楽死と尊厳死について理解し、説明できる。 [備考] 教科書78ページから97ページ	
	第5講	医療と宗教 [到達目標]医療と宗教について理解し、説明できる。 [備考] 教科書98ページから106ページ	
	第6講	ターミナルケアからエンド・オブ・ライフケアへと死の臨床 [到達目標]生と死のケアについて理解し、説明できる。 [備考] 教科書117ページから137ページ	
	第7講	インフォームド・コンセント [到達目標]インフォームド・コンセントについて理解し、説明できる。 [備考] 教科書139ページから163ページ	
	第8講	医療と法と倫理そして医療倫理の今後・まとめ [到達目標]守秘義務と医療事故について理解し、説明できる。 [備考] 教科書165ページから183ページ	
授業時間外の学習（準備学習等）について	・ 授業計画の備考に記載している教科書の指定ページの予習と復習（各2時間以内）をすること。 ・ 保健・医療・福祉に関するニュースに注視し、特に関心がある事項については、記録し問題意識を持つようにすること。		
教科書	生命倫理への招待（改訂6版） 著者 塩野寛 清水恵子 発行者 南山堂（ISBN 978-4-525-52016-8）		
参考書	厚生労働白書（最新版） 厚生労働省編 （ISBN 978-4-86579-384-0）		
成績評価	本試験80% 平常点 10% 出席点 10%		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤 博康（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : hiro0404yasu@yahoo. co. jp オフィスアワー : 授業終了後		
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-4，○-2		
	全国紙（朝日・読売・産経・日経）の中から一紙、朝刊を毎日読む習慣をつけるよう努力しましょう。大学生として教養とコミュニケーション力を高めましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
北小路 博司			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTRODUCTIONとして医療概論で学ぶことの概要と意義を説明する。その後医療の歴史についてテキストに基づいて説明しスライドを用いて補足する。</p> <p>第2回 医療と健康の概念 医療および健康の概念について説明する。特にWHOによる健康の定義について重点的に解説し、理解させる。</p> <p>第3回 医の倫理とバイオエシックス 医療従事者の倫理観について概説する。また医療技術や遺伝子工学の進歩とともにクローズアップされたバイオエシックスについても解説する。配布テキストによる説明とスライドによる補足説明。</p> <p>第4回 医療の質と安全性 医療の質の現状や評価について解説する。また医療事故の概要と防止策についても説明する。配布テキストとスライドにより補足説明する。医療者の責任と医療訴訟について、概要を説明し、実例やデータをもとに解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第5回 QOLとヘルスプロモーション 健康の概念について再確認するとともに、生活の質（QOL）の考え方について解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第6回 医療と経済 医療費と医療保険制度の概要について概説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第7回 EBMとCAM EBM(エビデンスに基づく医療)と補完代替医療(CAM)について概説する。配布資料とスライドを利用する。</p> <p>第8回 まとめ(評価含む)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>初回講義で配布されるテキストを中心に復習してください。</p> <p>配布資料・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。</p>
教科書	なし(講義でプリントを配布します)
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社
成績評価	出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。
担当教員の基本情報	<p>担当者 : 北小路博司 研究室 : 非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド：ビデオ配信）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	本授業は、東洋医学的観点から人体を観察する手法と、その理論を学びます。そして、各自の専門領域において東洋医学的素養の涵養を本授業のねらいとします。
授業計画	<p>1回目 東洋医学の不思議を知ろう！ 【到達目標】東洋医学の特徴を説明できる。 【備考】※課題1：今回の授業の「内容」を200字程度で教えてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>2回目 基本理論：陰陽五行と気血津液論 【到達目標】陰陽五行と気血津液論の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題2：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>3回目 東洋医学的人体論①：肝・胆 【到達目標】肝・胆の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題3：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>4回目 東洋医学的人体論②：心・小腸 【到達目標】心・小腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題4：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>5回目 東洋医学的人体論③：脾・胃 【到達目標】脾・胃の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題5：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>6回目 東洋医学的人体論④：肺・大腸 【到達目標】肺・大腸の経脈の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題6：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p> <p>7回目 東洋医学的人体論⑤：腎・膀胱 【到達目標】腎・膀胱の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】※課題7：今回の授業の「内容」を200字程度でまとめてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>8回目 本授業のまとめ ※アクティブ・ラーニング（学びの振り返りと表出） 【到達目標】この授業の目的から、各自の専門領域を東洋医学的視点で見直すことができる。 【備考】※課題8：テーマや字数などはGoogle ClassroomにUpします（期日までにGoogle Classroomへ提出）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、Google ClassroomにUpします。 ・週4時間の授業時間外学習が必要となります。
教科書	平馬直樹（総監修）『基本としくみがよくわかる 東洋医学の教科書』ナツメ社
参考書	「新版 東洋医学概論」公益社団法人東洋療法学校協会編（医道の日本社）
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の提出締切日：期日までにGoogle Classroomへ提出してください（厳守）。 2. 課題点：①+②=100点 ※期日を過ぎると点数はありません。 ①「課題1～7」：10点×7課題=70点（提出点） ②「課題8」：30点（配点基準は、ルーブリックを参照：後日） 3. 60点以上が合格点です（単位認定）。 4. 教員からの各課題へのコメントは、全体or個別でGoogle ClassroomにUpします。
担当教員の基本情報	<p>教員名：河井正隆 連絡先：m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー(3号館別室)：水曜日 16:30～18:00</p>
備考	実務経験：京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 「態度：○」, 「技能・表現：◎」
	授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、Google Classroomでお伝えします。
	科目ナンバー：KK-1-ME4-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
榎原 智美			
配当学科：看護学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	KK-1-MM1-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>看護の対象となる人間はどのようなからだのしくみとはたらきをもって生きているのでしょうか。その正常な基本を知らなければ、病的状態を理解することはできません。この基本を学ぶのが解剖生理学です。からだのしくみは、構造（かたち）と機能（はたらき）に分けてとらえるとわかりやすく、解剖学は主に構造に、生理学は機能に、それぞれ視点をおく学問です。ここでは、人体のなりたちの概要をつかみ、人体を主要な機能ごとに分けられるグループ（器官系）にわけて、解剖学のおよび生理学的な基本事項を押さえそれらを統合して人体を理解します。</p> <p>「人体の構造と機能 I」では、支える・動く（運動器系）、食べる（消化器系）、息をする（呼吸器系）を中心に、それらの働きを支える血液循環（循環器系）について学習します。</p> <p>「II」（後期）ではさらに、排泄（排尿・排便）する（泌尿器系・消化器系）感じる（感覚器系・神経系）、子どもを生む（生殖器系）を加え、これらを調節・維持する機構（循環器系（再）・内分泌系・神経系）を学習します。</p> <p>人間はどのようなしくみとはたらきで生きているのかの基本を自分なりに語れるようになるのが目標です。</p>
授業計画	<p>1回目 看護の土台となる解剖生理学 (1) 【到達目標】《教科書 第1章》 人体のなりたちを、複数の視点から概説できる。 器官系を網羅的に挙げられる。</p> <p>2回目 看護の土台となる解剖生理学 (2) 【到達目標】《教科書 第1章》 器官系を網羅的に挙げられる。 器官系に属する器官名が挙げられる。</p> <p>3回目 細胞と組織 (1) からだを構成するしくみ 総論 【到達目標】《教科書 第2章》 人体は、細胞と細胞以外（細胞間質）でできていると知る。 人体を構成する全4組織について、それぞれ区別できる。</p> <p>4回目 細胞と組織 (2) 細胞はそこで生きている 【到達目標】《教科書 第2章》 細胞が”生きる”とは（細胞活動）、”そこ”とは（各組織）について概説できる。 細胞膜について知る。 細胞活動の中心に、たんぱく質合成があることを知る。</p> <p>5回目 運動器系 (1) 骨格系：体を支えるしくみ① 総論 【到達目標】《教科書 第11章-2・3》 骨格の概要（体幹・上肢・下肢）を説明できる。 ほぼ全ての骨名を、自分の身体に指し示しながら列挙できる。 主要な関節名を、自分の身体に指し示しながら列挙できる。</p> <p>6回目 運動器系 (2) 骨格系：体を支えるしくみ② 骨組織の機能 【到達目標】《教科書 第11章-1・4・5》 骨化について概説できる。 骨の中心部の骨髄で、造血が行われていることを知る。 血液の成分とはたらきを概説できる（後期II予習《教科書 第4章》）。</p> <p>7回目 運動器系 (3) 筋系：体を動かすしくみ① 運動ミクロ 【到達目標】《教科書 第12章-1・2》 筋組織3種類を区別できる。 骨格筋組織の構造と筋収縮について概説できる。</p> <p>8回目 運動器系 (4) 筋系：体を動かすしくみ② 運動マクロ 【到達目標】《教科書 第12章-3・4》 からだの各部位の運動を、体幹・上肢・下肢にわけて概説できる。 からだの各部位の運動を、関節に着目して説明できる。 上肢・下肢の主要な運動を担う主要な筋を挙げられる。 体幹の主要な運動を担う主要な筋を挙げられる。</p> <p>9回目 循環器系 (1) 血液をめぐるしくみ 総論 【到達目標】《教科書 第5章 総論 + 第6章 総論》 心臓・血管（動脈・静脈・毛細血管）を完璧に区別できる。 体循環と肺循環を区別して解説できる。 肺循環と肺呼吸をリンクして説明できる。 胸腔・胸膜腔・心膜腔・縦隔を定義できる。</p> <p>10回目 循環器系 (2) 心臓 ① 【到達目標】《教科書 第5章-1》 心臓の基本構造を図示できる。 心臓の弁について説明できる。 心膜について概説できる。</p> <p>11回目 循環器系 (3) 心臓 ② 【到達目標】《教科書 第5章-1》 心臓の刺激伝導系と心周期について概説できる。</p>

	心周期と心音について概説できる。 心電図のきほんを概説できる。
12回目	循環器系 (4) 血管の機能 【到達目標】《教科書 第5章-2(1・5)・3》 血管壁の特徴を示せる。 血圧について概説できる。 血圧を調節する因子を列挙できる。
13回目	循環器系 (5) 体循環 ① 【到達目標】《教科書 第5章-2(2・3)・4》 大動脈を4区画にわけ、それぞれ主要な流域を、動脈名とともに概説できる。
14回目	循環器系 (6) 体循環 ② ・ リンパ系 【到達目標】《教科書 第5章-2(2・3)・4》 静脈系の主要な流路を、主要な静脈名とともに概説できる。 リンパ系の主要な流路を示せる。
15回目	呼吸器系 (1) 呼吸をするしくみ 総論 【到達目標】《教科書 第6章-総論・1(1)》 呼吸の役割を概説できる。(ガス交換と発声) 呼吸器系器官を順に挙げられる。(鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺) 肺循環について概説できる(復習)。
16回目	呼吸器系 (2) 下気道 ② 肺 【到達目標】《教科書 第6章-1(6)》 肺の構造を概説できる。 肺と胸膜・胸膜腔の関係を説明できる。 肺胞におけるガス交換を説明できる(復習)。
17回目	呼吸器系 (3) 上気道 ① 鼻腔・咽頭 【到達目標】《教科書 第6章-1(2・3)》 鼻腔と副鼻腔を概説できる。 咽頭の周囲器官との位置関係を説明できる。 呼吸時と嚥下時の咽頭のしくみを説明できる。
18回目	呼吸器系 (4) 上気道 ② 喉頭 ・ 下気道 ① 気管・主気管支 【到達目標】《教科書 第6章-1(4・5)》 喉頭の構造と発声のしくみを概説できる。 気管と食道、気管支と肺門の位置を示せる。 縦隔を説明できる。
19回目	中間試験+解説・総括 中間試験(試験範囲:1~16回目)を行う。 試験解説をしつつ、前半を振り返る。
20回目	呼吸器系 (5) 呼吸のプロセス 呼吸生理① 【到達目標】《教科書 第6章-2》 換気(吸息・呼息)を呼吸運動とともに概説できる。 肺気量分画を列挙し、区別して説明できる。 ガス交換・外呼吸と内呼吸を区別して説明できる。
21回目	呼吸器系 (6) 呼吸のプロセス 呼吸生理② 【到達目標】《教科書 第6章-3》 酸素の運搬とヘモグロビンについて説明できる。 二酸化炭素の運搬と酸塩基平衡について概説できる。 呼吸の調節について概説できる。
22回目	消化器系 (1) 総論 ① 食べるとは? 【到達目標】《教科書 第7章 総論・1》 ひとはなぜ食べるのか、呼吸をするのか、立ち止まって考えよう。 また、食欲とは? 消化管(口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸)と消化腺(唾液腺・肝臓・膵臓)を区別して説明できる。
23回目	消化器系 (2) 総論 ② 【到達目標】《教科書 第7章 総論・1》 食物(三大栄養素)摂取から、咀嚼・嚥下・消化・吸収・排泄の過程が上記のどこで生じるのか示せる。
24回目	消化器系 (3) 咀嚼するしくみ 口腔 【到達目標】《教科書 第7章 2》 口腔のつくりを図7-1・2を用いて概説できる。 唾液腺・唾液・酵素(プチアリン)を区別して説明できる。 乳歯と永久歯と歯の3組織について概説できる。 咀嚼筋を挙げられる。
25回目	消化器系 (4) 嚥下するしくみ 咽頭・食道 【到達目標】《教科書 第7章 3》 咽頭の周囲器官との位置関係を図7-7を用いて説明できる(呼吸器系の復習)。 呼吸時と嚥下時の咽頭のしくみを説明できる(呼吸器系の復習)。 食道の縦隔における位置を図7-9を用いて説明できる。
26回目	消化器系 (5) 消化するしくみ ① 胃・小腸 【到達目標】《教科書 第7章 4(1・2)》 胃の腹腔内での位置と、つくりを概説できる。 胃壁の構造と胃液分泌と胃運動について概説できる。 小腸の区分と小腸壁の肉眼的特徴を概説できる。
27回目	消化器系 (6) 消化するしくみ ② 肝臓・膵臓 【到達目標】《教科書 第7章 4(3・4)》 図7-20を用いて、胆膵管系(胆汁と膵液の流路)を解説できる。 肝臓のつくりと働きを概説できる。 膵臓のつくりと働きを概説できる。

	<p>28回目 消化器系 (7) 吸収するしくみ ③ 小腸 【到達目標】《教科書 第7章 4 (5)》 三大栄養素の消化と吸収 (消化器系総論②) の復習 唾液・胃液・胆汁・膵液・腸液の復習</p> <p>29回目 消化器系 (8) 吸収するしくみ ④ 大腸 【到達目標】《教科書 第7章 4 (5)》 大腸のつくりと働きを概説できる。 排便の機序を概説できる。</p> <p>30回目 期末試験+解説・総括 期末試験 (試験範囲: 15~29回目) を行う。 試験解説をしつつ、前期を振り返る。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>シラバスの各項をチェックし、教科書のページを事前学習してください (約1時間/1回分)。その内容が授業で解説されます。授業で学習した内容を自分なりのノートにまとめて下さい (約1時間/1日分)。</p> <p>満トラ; 各單元ごとにいくつかのオンライン小テストを出題します (満点トライアルテスト、通称“満トラ”)。予習復習に役立ててください。満点をとれるまで何度もトライ出来ます。問題がアップされてから満点をとるまでの時間によって“早勝ちポイント”が加点され、合計得点で上位成績に反映されます。(必修課題以外は任意)</p> <p>知識の整理をすることで自分のモノにします。自分のモノになると楽しくなります。なかなか楽しくならないひと、学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があるひとは、気軽に担当教員に質問し補ってください。</p>
教科書	<p>『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学』坂井建雄 他 (医学書院) この教科書では、オンラインのAR (Augmented Reality) コンテンツが利用できます。 各自、「メディカAR」アプリをネット検索してダウンロードしておきましょう。</p> <p>單元ごとのオンデマンド教材 (“満トラ”) を、Classroom にアップします。</p>
参考書	<p>『系統看護学講座 専門基礎 1 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学』坂井建雄 他 (医学書院) 『新体系看護学全書 人体の構造と機能① 解剖生理学』橋本尚詞・鯉淵典之 編 (メヂカルフレンド社) さわ研究所の教科書・問題集 https://www.sawa-kenkyujo.com/text/</p> <p>『カラー人体解剖学』井上貴央 監訳 西村書店 『入門組織学』牛木辰男著 南江堂</p>
成績評価	<p>中間試験 (100点満点) と期末試験 (100点満点) を行い、総合して評価します。試験日は別途お知らせします。</p> <p>試験形式はいずれも、基本問題 (60%以上獲得) および“満トラ (必修課題クリア)” で合否を判定し、応用問題や、“満トラ (総得点)” の早勝ちポイント、独自のノートづくり等の点数獲得状況で上位成績を評価します。</p> <p>出席率60%未満の学生さんは受験資格がありませんので注意してください。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 榎原 智美 (博士 (医学) 専門: 解剖学・組織学・神経機能形態学) 研究室 : 5号館3階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー (対面): 火~水 早朝または放課後 (できるだけ前日までにメールまたはmellyで予約下さい)</p> <p>質問等は、Mellyでは随時 (24時間) 受け付けます。可及的速やかに (原則として週日の早朝) お返事します。</p>
備考	<p>アクティブラーニング: 授業前にシラバスの要点をもとに教科書を予習をし、授業でその内容と補足の解説を受けた後、随時、学生間で理解内容を確認しあう時間を設けます。学習内容を自らノートにまとめ、知識・理解を確実なものとし、Classroom に順次掲載される“満トラ” (成績集計を中間発表します) を利用し、知識の深度を確認してください。</p>
	<p>この授業とディプロマ・ポリシーとの関連:◎-1 ○-2 科目ナンバリング: KK-1-MM1-RS-L-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
榎原 智美			
配当学科：看護学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	KK-1-MM2-RS-L-1
添付ファイル			

授業目標	<p>看護の対象となる人間はどのようなからだのしくみとはたらきをもって生きているのでしょうか。その正常な基本を知らなければ、病的状態を理解することはできません。この基本を学ぶのが解剖生理学です。からだのしくみは、構造（かたち）と機能（はたらき）に分けてとらえるとわかりやすく、解剖学は主に構造に、生理学は機能に、それぞれ視点をおく学問です。ここでは、人体のなりたちの概要をつかみ、人体を主要な機能ごとに分けられるグループ（器官系）にわけて、解剖学のおよび生理学的な基本事項を押さえそれらを統合して人体を理解します。</p> <p>「人体の構造と機能Ⅰ」では、支える・動く（運動器系）、食べる（消化器系）、息をする（呼吸器系）を中心に、それらの働きを支える血液循環（循環器系）について学習します。</p> <p>「Ⅱ」（本科目）ではさらに、排泄（排尿・排便）する（泌尿器系・消化器系）感じる（感覚器系・神経系）、子どもを生む（生殖器系）を加え、これらすべてを調節・維持する機構（循環器系（再）・内分泌系・神経系）を学習します。</p> <p>人間はどのようなしくみとはたらきで生きているのかの基本を自分なりに語れるようになるのが目標です。</p>
授業計画	<p>1回目 泌尿器系（1） 血液から尿をつくるしくみ 総論・腎臓① 【到達目標】《教科書 第8章-1(1・2)》 P194図1を用いて、泌尿器系器官（腎臓・尿管・膀胱・尿道）の基本構造を示せる。 P194図1を用いて、腎臓の血流路を示せる。 ネフロン構成要素を示せる。</p> <p>2回目 泌尿器系（2） 腎臓② 【到達目標】《教科書 第8章-1(1・2)》 ろ過の場を示すことができる（ネフロンのどこ？ 腎小体の血液・尿閉門）。 再吸収の場を示すことができる（尿細管・集合管のどこ？ 上皮細胞）。 尿の生成と尿量調節について概説できる。</p> <p>3回目 泌尿器系（3） 排尿のしくみ 尿路（尿管・膀胱・尿道） 【到達目標】《教科書 第8章-1・2》 尿管・膀胱・尿道の位置と壁構造を概説できる。 排尿の生理を概説できる。</p> <p>4回目 泌尿器系（4）・血液・免疫系（1）血液成分の調節 【到達目標】《教科書 第8章-1(3)・第4章》 血液の組成について概説できる（前期Ⅰの復習）。正常値も示せること。 体液の組成について概説できる。 酸塩基平衡について概説できる。 電解質バランスについて概説できる。 浸透圧について概説できる。</p> <p>5回目 血液・免疫系（2）血球 【到達目標】《教科書 第4章・第15章》 赤血球・白血球・血小板の機能を区別して説明できる。 血液凝固と線溶系について説明できる。 血液型について説明できる。</p> <p>6回目 血液系・免疫系（3）免疫総論 【到達目標】《教科書 第4章・第15章》 赤色骨髄中の造血幹細胞と造血について概説できる。 自然免疫（非特異的生体防御機構）と獲得免疫（特異的）を区別して説明できる。 特異的生体防御機構の細胞性免疫と液性免疫を区別して説明できる。</p> <p>7回目 内分泌系（1）ホルモンで調節 総論① 【到達目標】《教科書 第9章-1》 内分泌と外分泌を明確に区別できる（図9-1または図7-20を用いて）。 P218図1を用いて、主要な古典的内分泌器官（下垂体・甲状腺・副腎・膵ランゲルハンス島）の位置と分泌されるホルモン名を示せる。</p> <p>8回目 内分泌系（2）ホルモンで調節 総論② 【到達目標】《教科書 第9章》 古典的内分泌器官の構造の特徴をそれぞれ挙げられる。 内分泌腺細胞、ホルモン、血流、標的細胞を連携して説明できる。 ホルモン系の全体像を俯瞰できる（以下※①～⑬）。</p> <p>9回目 内分泌系（3）視床下部・下垂体・松果体 【到達目標】《教科書 第9章-2》 P219図2を用いて、視床下部および下垂体の位置と関係とホルモンについて概説できる。 下垂体門脈の他とは異なる点を指摘できる。 ※① 成長ホルモン（GH）-ソマトリニン系、※② プロラクチン（PRL）、 ※③ バザプレッシン（ADH）系：図9-8を用いて、ADHによる水分代謝系を概説できる。 ※④ チトシ、※⑤ メイトン</p> <p>10回目 内分泌系（4）甲状腺・上皮小体 【到達目標】《教科書 第9章-3・4》 ※⑥ TSH-甲状腺ホルモン系</p>

	<p>図を用いて甲状腺のメイン（濾胞）のはたらきが全身の代謝亢進・熱産生であることを概説できる。</p> <p>※⑦ カルシウム-PTH-VD系 図を用いて、甲状腺のサブ（濾胞傍細胞）と副甲状腺（上皮小体）によるカルシウム代謝を概説できる。</p>
11回目	<p>内分泌系 (5) 膵臓・副腎皮質</p> <p>【到達目標】《教科書 第9章-5・6》</p> <p>※⑧ 膵ホルモン（血糖調節）系 膵ホルモンによる糖代謝を概説できる。 膵ホルモンが、肝臓や上腕の皮下組織に届くまでの経路が言える。</p> <p>※⑨ ACTH-糖質（グルコ）コルチコイド系 ※⑩ ACTH-鉱質（電解質）コルチコイド系 ・ レン・アンギオテンシン・アルドステロン（RAA）系（※⑫） 副腎皮質から分泌される3種のホルモンを列挙し、それぞれの系を概説できる。</p>
12回目	<p>内分泌系 (6) 古典的内分泌以外の系</p> <p>【到達目標】《教科書 第9章-8》</p> <p>※⑪ 消化管ホルモン・その他 消化管ホルモンを列挙し、はたらきがいえる。 腎臓・心臓・脂肪・血管内膜から分泌される主要なホルモン名を挙げられる。</p> <p>※⑫ レン・アンギオテンシン・アルドステロン（RAA）系 図8-5, 8-10を用いて、RAA系による体液調節・血圧調節を概説できる。</p>
13回目	<p>生殖器系 (1) 女性生殖器系① ・ 内分泌系 (7) ゴナドトロピン - 性腺ホルモン系</p> <p>【到達目標】《教科書 第10章-1(4)・第9章-7》 女性性周期を、卵巣周期と月経周期を区別して説明できる。 卵巣における卵子の成熟過程と排卵後の黄体形成について説明できる。 女性ホルモンを列挙し、それぞれの内分泌器官と標的器官を示せる。</p>
14回目	<p>生殖器系 (2) 女性生殖器系②</p> <p>【到達目標】《教科書 第10章-1(5)》 胎盤の構造説明し、母体の血液と胎児の血液が混ざることなく胎児が育つことを示せる。 胎児循環のみに特殊な構造を列挙できる。 受精から出産までの胎児発生・成熟の過程が概説できる。</p>
15回目	<p>生殖器系 (3) 女性生殖器系③</p> <p>【到達目標】《教科書 第10章-1(1・2・3)》 女性生殖器（卵巣、卵管、子宮、陰、外陰部）の基本構造について概説できる。 排卵・受精・卵割・着床・分娩・月経 が生じる部位を示せる</p>
16回目	<p>生殖器系 男性生殖器系</p> <p>【到達目標】《教科書 第10章-1》 精巣の曲精細管における精子形成について概説できる。 男性ホルモンについて概説できる（図9-20）。 精路（精巣上体・精管・射精管・尿道 および 生殖腺）の配置について示せる。 陰茎の基本構造を示せる。</p>
17回目	<p>中間試験＋解説・総括</p> <p>中間試験（範囲：1～14回目） 試験解説、前半を振り返る。</p>
18回目	<p>神経系 (1) ・ 感覚器系 (1) 情報をあつかうしくみ 総論</p> <p>【到達目標】《教科書 第13章-1・第14章-1》 神経系を俯瞰する。 中枢神経（脳＋脊髄）と末梢神経（脳神経＋末梢神経）を明確に区別できる。 神経細胞（細胞体＋突起）と神経膠細胞を区別できる。</p>
19回目	<p>神経系 (2) ニューロンのはたらき</p> <p>【到達目標】《教科書 第13章-2》 電動と伝達を区別して説明できる。 静止膜電位と活動電位を概説できる。 シナプスについて概説できる。 反射について概説できる。</p>
20回目	<p>神経系 (3) 中枢神経系 脳・脊髄</p> <p>【到達目標】《教科書 第13章-3(1・2・3・4・5・6)》 脳の基本構造（6区画、脳室）を区別できる。 神経細胞体の分布場所（灰白質・神経節）を指摘できる。 髄膜の構造について、3層を区別できる。</p>
21回目	<p>神経系 (4) 末梢神経系 分類と中枢の伝導路</p> <p>【到達目標】《教科書 第13章-3(7)・4》 末梢神経の感覚神経・運動神経・自律神経を形態学的に明確に区別して定義できる。 主要な上行性伝導路の経路を概説できる。 主要な下行性伝導路の経路を概説できる。</p>
22回目	<p>神経系 (5) 脳（大脳・間脳・脳幹）</p> <p>【到達目標】《教科書 第13章-3(1・2・3)》 脳の主な構造と機能局在を概説できる（表13-1を図13-14・15に対応させる）。 大脳基底核・大脳辺縁系・視床・視床下部を区別して概説できる。 脳神経をすべて挙げ、成分と目的の末梢器官および主たるはたらきが概説できる。 脳の高次機能の主たる要素を</p>
23回目	<p>神経系 (6) 脳（脳幹・小脳）・脊髄</p> <p>【到達目標】《教科書 第13章-3(3・4・5)・4(3)》 脊髄の主な構造と機能局在を概説できる（表13-1を図13-14・15に対応させる）。 脊髄神経を脊髄の区画とともに概説できる。 体幹・体肢の主な神経束の名称が挙げられる（肋間神経、橈骨神経、坐骨神経など）。</p>
24回目	<p>神経系 (7) 自律神経系①</p> <p>【到達目標】《教科書 第13章-4(4・5・6)》 図13-31を用いて、自律神経（遠心性）の特徴を概説できる。 交感神経と副交感神経の違いを明確に説明できる。</p>

	<p>25回目 神経系 (8) 自律神経系② 【到達目標】《教科書 第13章-4(6)》 交感神経と副交感神経の薬理の基本を知る。 図13-31を用いて、下記それぞれの器官系別に自律神経調節が概説できる。 循環器系(心臓)、呼吸器系、消化器系、 泌尿器系(腎臓)、泌尿器系(排尿)、生殖器系、 汗腺、循環器系(血管)、眼球(→視覚器(遠近調節・対光反射)へ)</p> <p>26回目 感覚器系(2) 特殊感覚① 視覚器 【到達目標】《教科書 第14章-2(1・2・3)》 図14-2・3を用いて、眼球の基本構造を説明できる。 眼球の付属器官の構造を説明できる。</p> <p>27回目 感覚器系(3) 特殊感覚② 視覚の調節と視覚伝導路 【到達目標】《教科書 第14章-2(3・4・5)》 外眼筋と眼球の動きを概説できる。 図14-8を用いて、光(明暗・色)の情報の伝導路と視覚中枢を示せる。 遠近調節と近視・遠視について概説できる。 眼球の反射について概説できる。</p> <p>28回目 感覚器系(4) 特殊感覚③ 平衡・聴覚器 【到達目標】《教科書 第14章-3》 図14-10を用いて、外耳・中耳・内耳の区分を説明できる。 聴覚受容器(蝸牛)と蝸牛神経、および聴覚伝導路について概説できる。 平衡覚受容器(三半規管・前庭)と前庭神経および平衡覚伝導路について概説できる。</p> <p>29回目 感覚器系(5) 特殊感覚④ 嗅覚器・味覚器・体性感覚・内臓感覚 【到達目標】《教科書 第14章-4・5・6》 鼻腔における嗅上皮の所在と構造を概説できる。 嗅覚伝導路が他の感覚器系と異なる点を指摘できる。 舌乳頭を列挙できる。 味蕾の分布とはたらきを概説できる。 舌の支配神経3種がいえる。 皮膚の3層構造と感覚受容器の分布とデルマトームが概説できる。 皮膚感覚(痛覚・触覚・温度感覚・ほか)を概説できる。 深部感覚(筋紡錘・筋紡錘)と内臓感覚を概説できる。</p> <p>30回目 期末試験+解説・総括 期末試験(範囲:第14~29回目)を行う。 試験解説、解剖生理学全般を振り返る。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>シラバスの各項をチェックし、教科書のページを事前学習してください(予習35分x2/1日分)。その内容が授業で解説されます。授業で学習した内容を自分なりのノートにまとめて下さい(復習35分x2/1日分)。</p> <p>満トラ; 各單元ごとにいくつかのオンライン小テストを出題します(満点トライアルテスト、通称“満トラ”)。予習復習に役立ててください。満点をとれるまで何度もトライ出来ます。問題がアップされてから満点をとるまでの時間によって“早勝ちポイント”が加点され、合計得点で上位成績に反映されます。(必修課題以外は任意)</p>
教科書	<p>『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学』坂井建雄 他(医学書院) この教科書では、オンラインのAR (Augmented Reality) コンテンツが利用できます。 各自、「メディカAR」アプリをネット検索してダウンロードしておきましょう。</p> <p>各回ごとの講義資料・オンデマンド教材(“満トラ”)あり。</p>
参考書	<p>『系統看護学講座 専門基礎 1 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学』坂井建雄 他(医学書院) 『新体系看護学全書 人体の構造と機能① 解剖生理学』橋本尚詞・鯉淵典之 編(メヂカルフレンド社) さわ研究所の教科書・問題集 https://www.sawa-kenkyujo.com/text/</p> <p>『カラー人体解剖学』井上貴央 監訳 西村書店 『入門組織学』牛木辰男著 南江堂</p>
成績評価	<p>中間試験(100点満点)と期末試験(100点満点)を行い、総合して評価します。試験日は別途お知らせします。</p> <p>試験形式はいずれも、基本問題(60%以上獲得)および“満トラ(必修課題クリア)”で合否を判定し、応用問題や、“満トラ(総得点)”の早勝ちポイント、独自のノートづくり等の点数獲得状況で上位成績を評価します。</p> <p>出席率60%未満の学生さんは受験資格がありませんので注意してください。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 榎原 智美(博士(医学)専門:解剖学・組織学・神経機能形態学) 研究室 : 5号館3階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー(対面): 火~水 早朝または放課後(できるだけ前日までにメールまたはmellyで予約下さい)</p> <p>質問等は、Mellyでは随時(24時間)受け付けます。可及的速やかに(原則として週日の早朝)お返事します。</p>
備考	<p>アクティブラーニング: 授業前にシラバスの要点をもとに教科書を予習をし、授業でその内容と補足の解説を受けた後、随時、学生間で理解内容を確認しあう時間を設けます。学習内容を自らノートにまとめ、知識・理解を確かなものとし、Classroomに順次掲載される“満トラ”(成績集計を中間発表します)を利用し、知識の深度を確認してください。</p>
	<p>この授業とディプロマ・ポリシーとの関連: ◎-1 ○-2 科目ナンバリング: KK-1-MM2-RS-L-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
辻村 敦			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	生化学講義では人体を構成する物質の構造とその代謝（合成や分解）を学びます。体を構成するそれぞれの物質の化学的な特徴を理解することにより、糖尿病や脂質代謝異常、肥満などの生活習慣病などの疾患の発症機序を理解し、患者に寄り添うための知識の習得に繋がります。さらに、生化学の学習を通して自分の食生活を省みて健康を考える機会を提供します。ダイエットや筋トレ、スポーツのパフォーマンス向上のヒントも紹介していきます。		
授業計画	第1講	序論：生化学学習目標の理解。生体を構成する生体分子の構造と機能を学ぶ。 [到達目標] 生化学の基礎を理解。原子や分子の構造、酵素や基質について説明できる。 [授業形態] 講義プリントを配布し、パワーポイントを利用して説明を行う。毎回、前回の復習とその日のまとめ問題を提示し、全員で理解度を確認する。 [備考] 人体を構成する生体物質を理解する。生命活動維持のに重要な必須成分と酵素の働き、細胞の構造を理解。	
	第2講	炭水化物と代謝 [到達目標] 炭水化物の構造と生体内での消化、吸収、エネルギー産生について説明できる。 [備考] 代表的な炭水化物の構造を体系的に理解する。エネルギーを取り出す過程（解糖系、TCA回路、電子伝達系）を理解する。	
	第3講	脂質と脂質代謝 [到達目標] 脂質の化学構造、性質と代謝について説明できる。 [備考] 脂質の生体内での消化、吸収を理解。脂質からのエネルギーの取り出し、脂質から作られる生体物質を理解する。	
	第4講	核酸(ヌクレオチド)の代謝 [到達目標] 遺伝を司る核酸の構造と機能、生合成について説明できる。 [備考] 核酸(RNAやDNA)の構造を理解し、染色体の複製、遺伝子の転写、翻訳について学ぶ。血中尿酸濃度の上昇による痛風を知る。	
	第5講	タンパク質・アミノ酸 [到達目標] 身体を作るタンパク質、その構成要素であるアミノ酸の構造を知り、遺伝子設計図に基づく合成の過程を説明できる。さらに、タンパク質が機能を獲得する過程を説明できる。 [備考] タンパク質とアミノ酸の構造と性質、必須アミノ酸、翻訳後修飾、突然変異について学ぶ。	
	第6講	ビタミン、ミネラル、ホルモンの役割 [到達目標] ビタミンの生理機能と生化学、欠乏症との関係を説明できる。ホルモンの作用機序を生体内恒常性の維持として理解できる。 [備考] ビタミンの生体内での役割と欠乏症。ホルモンの分類と作用機序、疾患との関連を学ぶ。	
	第7講	遺伝子組み換え技術 [到達目標] 遺伝子を操作する技術と、身近な応用例を知る。 [備考] 医療や品種改良における遺伝子操作の例、犯罪捜査や親子鑑定に利用される個人識別技術を知る。	
	第8講	まとめ（評価含む） [到達目標] 生体物質の構造と代謝を関連づけて説明できる。 [備考] 全講義の総括を行い、試験を行う。講義内容の理解度を測る問題だけではなく、自分の考えを記述する問題もあるため、普段から生化学を学ぶ意義について考えておくこと。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	分かりやすい図を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。各講義のタイトルに関連する項目を、参考書や高校教科書などで事前学習すること（1時間）。体系的授業のため、遅刻・欠席は厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること。講義後は必ずプリント内容の確認を行い、不確実な部分は質問するなどして次回までに解決すること（1時間）。講義後Classroomから簡単な復習問題を配信します。期限までの提出のみ平常点に加点します。		
教科書	特になし (講義時間ごとにプリントを配布します。重要項目のマーキングや追加の情報を記入して、自分自身のプリントを完成させてください)		

参考書	『栄養科学イラストレイテッド生化学』 藺田 勝/編 (羊土社) 『マンカでわかる生化学』 武村 政春他(オーム社) 『イラストレイテッド生化学』 石崎 泰樹他 (翻訳) 原書5版(丸善出版)
成績評価	講義内容に関連した知識を筆記試験 (定期試験、小テスト) にて把握し、その理解度を評価する。 授業時間中の質問に対する回答、演習への積極的な取り組み状況の評価する。 評価割合: (定期試験 60%、小テスト20%、平常点20%)とし総合評価60%以上を合格とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 辻村敦 研究室 : 京都府立医科大学・基礎老化学 メールアドレス : a_tsujimura@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 質問等は、講義前後または、メール、Classroomの限定コメントでお願いします。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
濱田 尚美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>栄養とは人間が生命活動を維持する上で必要な栄養素を取り入れて利用することである。食物の摂取は健康の保持・増進や疾病の予防・回復・重症化予防と密接な関係があり、栄養素の質や摂取量が適正でなければならない。</p> <p>本講義では五大栄養素の種類、機能、生体内での働き、ライフステージ別栄養について解説を行う。看護の対象となる人々を栄養学的側面からサポートし、栄養・食生活の意義について理解することを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1講 人間栄養学と看護 [第1章] [到達目標] 栄養学と看護の関連について理解する。</p> <p>[備考] シラバスの内容を確認する。教科書第1章を読み、配布プリントを見直す。</p> <p>第2講 栄養素の種類とはたらき (1) (糖質・脂質・タンパク質、食物繊維) [第2章] [到達目標] 糖質・脂質・タンパク質、食物繊維の生体内でのはたらきを理解する。</p> <p>[備考] 講義終了時に復習問題に取り組む。教科書第2章の該当箇所を読み、配布プリントを見直す。</p> <p>第3講 栄養素の種類とはたらき (2) (ビタミン・ミネラル) [第2章] [到達目標] ビタミン・ミネラルの種類と生体内でのはたらきを理解する。</p> <p>[備考] 講義終了時に復習問題に取り組む。教科書第2章の該当箇所を読み、配布プリントを見直す。</p> <p>第4講 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 [第3章] [到達目標] 各栄養素の消化と吸収、代謝について理解する。</p> <p>[備考] 講義終了時に復習問題に取り組む。教科書第3章の該当箇所を読み、配布プリントを見直す。</p> <p>第5講 エネルギー代謝 [第4章]、食事バランスガイド [第5章] [到達目標] バランスの良い食事について理解し、食事バランスを確認する方法を習得する。</p> <p>[備考] 食事バランスガイドを作成する。教科書第4章及び第6章の該当箇所を読み、配布プリントを見直す。</p> <p>第6講 ライフステージと栄養 (1) (乳児期、幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期) [第8章] [到達目標] ライフステージ別の栄養の特徴を理解する。</p> <p>[備考] 講義終了時に復習問題に取り組む。教科書第8章の該当箇所を読み、配布プリントを見直す。</p> <p>第7講 ライフステージと栄養 (2) (妊娠期、授乳期、更年期、高齢期) [第8章] [到達目標] ライフステージ別の栄養の特徴を理解する。</p> <p>[備考] 講義終了時に復習問題に取り組む。教科書第8章の該当箇所を読み、配布プリントを見直す。</p> <p>第8講 まとめ (評価含む) [到達目標] 第1講から第7講で学んだことについて理解を深める。</p> <p>[備考] 評価として筆記試験を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>予習： シラバスを参照の上、次回の授業内容について教科書の関連する箇所を読んでおく。</p> <p>復習： 配布プリントを見直し疑問や興味をもった点があれば、教科書や他の参考書で調べる。 (予習復習時間 1回あたり4時間)</p>
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 (第13版)」 小野章史、倉貫早智、五味郁子、柴田みち、杉山みち子、鈴木志保子、外山健二、中村丁次 著 (医学書院)
参考書	「楽しくわかる栄養学」中村丁次 著 (羊土社)
成績評価	期末テスト60%、小テスト20%、課題20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名： 濱田 尚美</p> <p>研究室： 6号館1階 非常勤講師室</p> <p>メールアドレス： na_hamada@tch.meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー： 講義終了後またはメールにて質問を受け付ける</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	感染症について、疾病の要因としての病原微生物の特徴、感染症の発症のメカニズムについて学び、その上で、我々の体に備った感染防御のメカニズムについて理解する。さらに、いかに感染制御するか：滅菌法と消毒法、診断と治療について学ぶ。実践的に感染制御に携われる看護師を目指す。
授業計画	<p>第1回 微生物と感染症 【到達目標】：感染症とは、病原微生物の分類と特徴を理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第2回 発症のメカニズム 【到達目標】：病原体の排泄経路・感染経路と発症のメカニズムについて理解する。 発症に関わる病原体側因子および宿主因子について理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第3回 細胞内寄生体・真菌・原虫・寄生虫 【到達目標】：リケッチア・クラミジア・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫についてそれらの特徴、構造、増殖様式およびそれらに関わる感染症について理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第4回 滅菌と消毒、感染予防 【到達目標】：感染予防の方法：感染源対策、感染経路対策、感受性体対策について理解する。 滅菌法・消毒法の種類と特徴および問題点を理解する。 検体の取り扱いについて理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第5回 化学療法 【到達目標】：化学療法剤の分類・特徴・作用機序およびその副作用について理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第6回 感染防御反応1 【到達目標】：自然免疫と獲得免疫について理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第7回 感染防御反応2、アレルギー、自己免疫疾患 【到達目標】：自然免疫と獲得免疫について理解する。 I～IV型アレルギーについて理解する。 自己免疫疾患について理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第8回 中間試験/全身感染症1 中間試験 【到達目標】：全身感染症を起こす病原微生物の特徴、および全身感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第9回 全身感染症2 【到達目標】：全身感染症を起こす病原微生物の特徴、および全身感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第10回 呼吸器感染症 【到達目標】：呼吸器感染症を起こす病原微生物の特徴、および呼吸器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第11回 消化器感染症 【到達目標】：消化器感染症を起こす病原微生物の特徴、および消化器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第12回 尿路・生殖器感染症、皮膚感染症、神経系および眼感染症 【到達目標】：尿路・生殖器感染症、皮膚感染症、神経系感染症および眼感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第13回 ウイルス性肝炎 【到達目標】：ウイルス性肝炎の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第14回 レトロウイルス・プリオン 【到達目標】：レトロウイルス感染症の予防・感染と発症のメカニズムについて理解する。 プリオン病の病原体の特徴、予防・感染と発症のメカニズムについて理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>第15回 期末試験/注目される感染症・総括 期末試験 【到達目標】：</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・最近注目されている感染症について理解する。 ・本講義を通じて学んだことを述べることができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習45分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習45分)
教科書	「病原体・感染・免疫」 藤本秀士 編(南山堂)
参考書	「系統看護学講座 微生物学」南嶋洋一、吉田眞一 著 医学書院 「戸田細菌学」吉田眞一、柳雄介 編(南山堂) 「シンプル微生物学」東匡伸、小熊恵二、堀田博 編(南江堂)
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 中間試験(試験86%、課題14%)、期末試験(試験86%、課題14%)それぞれ6割以上を合格とし、 中間試験(50%)と期末試験(50%)により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、金曜日 12:40-13:30
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1、○-2 科目ナンバー : KK-1-MM6-RS-L-1

講義科目名称： 生殖健康論

授業コード： 4K133

英文科目名称： Women's Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義（遠隔授業）	
添付ファイル			

授業目標	GIO（一般目標）：女性生殖器分野の、看護師として必要な代表的疾患について、それぞれの病態生理・診断（検査を含む）・治療（薬物療法・手術療法ほか）および予後について説明できる。 SBO（個別目標）：定期試験での60点以上の獲得を目標とします。定期試験は、国家試験と同形式（マークシート・4者択1から5者択2）・同程度の難易度で行います。勉強すべき範囲は厚生労働省の「看護師国家試験出題基準」がウェブなどで閲覧できるので参考にしてください。講師は、大切な事項は繰り返し登場するように協力しますので、受講生は繰り返ししたことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にしてください。
授業計画	第1講 オリエンテーション 月経周期と疾患 月経前症候群<PMS> 月経前不快気分障害<PMDD> これから学ぶ主要疾患 第2講 性感染症・不妊症 ウイルス／細菌／真菌／原虫感染症 骨盤内炎症症候群<PID> 男性不妊 精索静脈瘤 第3講 原発性／続発性無月経 内分泌性・性器形態異常・染色体異常 摂食障害・やせ 第4講 月経困難症 機能性月経困難症 器質性月経困難症（子宮筋腫・子宮内膜症・子宮腺筋症） 第5講 女性／男性生殖器がん 子宮頸がん 子宮体がん 卵巣がん 精巣がん 陰茎がん 第6講 更年期障害 自律神経症状と不定愁訴 萎縮性陰炎 骨粗鬆症 第7講 性感染症 クラミジア 梅毒 淋病 HIV 第8講 まとめ（評価含む）
授業時間外の学習（準備学習等）について	当科目は大学設置基準に基づいて、講義時間22.5時間（90分×15回）＋時間外学習22.5時間＝45時間（1単位あたりの必要学習時間）と定められています。普段の講義外での自己学習は特に求めないので、講義時間内で学習を完了させてください。定期試験を時間外学習22.5時間が必要な難易度に設定しますので、試験前には3時間×7日間程度の時間外学習時間の確保を必ずお願いいたします。
教科書	「女性生殖器—成人看護学〈9〉」（医学書院）
参考書	おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。 「なぜ？ どうして？ 2020-2021 ⑧女性生殖器／母性看護学」（メディックメディア） ：看護学生とネコナースの会話形式で、とにかくブログや絵本のように読みやすい参考書です。記憶がストーリーだと定着しやすい人向きです。1冊あたり安いので、講師のイチオシです。 「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科」（メディックメディア） ：中学高校の「資料集」のようなビジュアルで疾患や臓器のことを解説しているので、視覚で記憶する人向きの参考書です。
成績評価	定期試験100%。試験形式は授業目標・SBOを参考にしてください。大学の取り決めがあり、定期試験の受験には規程にある出席日数が必要ですので気をつけてください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはmellyを使ってください。24時間送信いただいて大丈夫ですが、反応は早くありませんので、試験前や公休などは余裕を持って連絡してください。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
後藤 渉子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は解剖学や生理学などの「正常な人体の構造や機能」を学んだ上で「病気の原因やその成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり「基礎医学と臨床医学の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり「病気を治すあるいは上手に付き合っていく」ためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。</p> <p>この講義では「病気の原因には何があるのか」「何がどうなって身体に影響をおよぼすのか」「臓器や組織そして細胞がどのように変化するのか」について学びます。</p> <p>講義の前には「予習課題」を出しますので、教科書を見て作成し講義前日の23:00までにGoogleclassroomに提出してください。</p> <p>講義では、はじめに前回講義の復習として「小テスト」を行います。この「小テスト」で満点を取ることが目標です。そのために、その日の講義内容を理解しているかどうかを確認する「確認問題」を講義時間の最後に行います。また、その「確認問題」の解説を書いた「解説ノート」を作成してください。これは次回の「小テスト対策」や「定期試験対策」になり、ひいてはいずれ来る「国家試験対策」の練習になります。</p> <p>「リアクションペーパー」をGoogleformで毎回取ります。質問やわからなかったことを書いてもらおうとメリーや次回の講義でお答えします。これを疑問解消に利用し、自立できる学習者となることを目指します。</p> <p>[到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な「病気の原因やその成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学で学ぶこと・病理診断の実際 [到達目標・学習目標] 「病理学で学ぶこと」「病理診断の実際」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「病理学で学ぶこと（P3-12）」「病理診断の実際（P325-334）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p> <p>第2回 細胞・組織の損傷と修復、炎症① [到達目標・学習目標] 「細胞・組織の損傷と修復、炎症」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症（P13-32）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p> <p>第3回 炎症② [到達目標・学習目標] 「炎症」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症（P13-32）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p> <p>第4回 免疫・移植と再生医療 [到達目標・学習目標] 「免疫・移植と再生医療」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「免疫・移植と再生医療（P33-54）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p> <p>第5回 感染症</p>

第6回	<p>[到達目標・学習目標] 「感染症」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「感染症（P55-70）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p>
第7回	<p>代謝障害</p> <p>[到達目標・学習目標] 「代謝障害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「代謝障害（P93-102）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p>
第8回	<p>生活習慣と環境因子による生体の障害</p> <p>[到達目標・学習目標] 「生活習慣と環境因子による生体の障害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「生活習慣と環境因子による生体の障害（P167-176）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p>
第9回	<p>中間試験と試験振り返り</p> <p>[到達目標・学習目標] 講義前半の範囲（病理学で学ぶこと・病理診断の実際、細胞・組織の損傷と修復、炎症、免疫・移植と再生医療、感染症、代謝障害、生活習慣と環境因子による生体の障害）の試験を行う。合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） 「わからなかったところ、質問など」をGoogleformのリアクションペーパーで回収する。質問についてはメリーで回答する。</p> <p>[備考] 復習：試験後の振り返りで「何点だったか！」だけではなく「わからなかった問題・間違えた問題」の正しい答えを理解しておくことが大切。</p>
第10回	<p>循環障害①</p> <p>[到達目標・学習目標] 「循環障害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「循環障害（P72-92）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p>
第11回	<p>循環障害②</p> <p>[到達目標・学習目標] 「循環障害」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「循環障害（P72-92）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p>
第11回	<p>腫瘍①</p> <p>[到達目標・学習目標] 「腫瘍」についての基礎知識を理解し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。</p> <p>[備考] ①予習：教科書の「腫瘍（P135-166）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。</p>

	<p>第12回 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。 腫瘍② [到達目標・学習目標] 「腫瘍」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「腫瘍（P135-166）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p> <p>第13回 先天異常と遺伝性疾患 [到達目標・学習目標] 「先天異常と遺伝性疾患」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「腫瘍（P115-134）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p> <p>第14回 老化と死 [到達目標・学習目標] 「老化と死」についての基礎知識を理解し説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） リアクションペーパー（Googleformで実施）に講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ、質問など」を書いてください。次回の講義かメリーにて返事します。 [備考] ①予習：教科書の「老化と死（P104-114）」のところを参考に「予習課題」を作成し提出する（講義前日23:00まで）。 ②復習：「確認問題」を使って「解説ノート」を作る。 ③教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p> <p>第15回 期末試験と試験振り返り [到達目標・学習目標] 講義後半の範囲（循環障害、腫瘍、先天異常と遺伝性疾患、老化と死）の試験を行う。合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） 「わからなかったところ、質問など」をGoogleformのリアクションペーパーで回収する。質問についてはメリーで回答する。 [備考] 復習：試験後の振り返りで「何点だったか！」だけではなく「わからなかった問題・間違えた問題」の正しい答えを理解しておくことが大切。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習（30分） ①次の講義範囲の教科書を読み「予習課題」を作成しGoogleクラスルームに提出する。 復習（30分） ①「確認問題」を利用し「解説ノート」を作っておく。 ②教科書や配布資料を参考に教科書の「ゼミナール」をまとめておく。</p> <p>わからないことは、「リアクションペーパーに記入する」「メリーやメールで質問する」「教員に直に質問する」などして、必ず解消してください。</p>
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 第6版」大橋 健一他著（医学書院）
参考書	<p>「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹著（晶文社） 「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集（医歯薬出版） 「新訂版クイックマスター病理学 第2版」堤 寛著（サイオ出版） 「病理学概論」公益社団法人 東洋療法学校協会編 滝澤 登一郎・畠山 茂著（医歯薬出版） 「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著（医歯薬出版）</p>
成績評価	定期試験（中間・期末）90%、その他（予習課題、確認問題、小テスト、リアクションペーパー）10%の割合で評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>①各学科の資格に関する実務経験の有無：実務経験あり。 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学） 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査、外来採血業務に従事する。その実務経験をもとに「病理学」について授業をすすめる。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2 ③科目ナンバー：KK-1-MM16-RS-L-1 授業の進行状態により、若干変更する可能性あり。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
大山 由紀子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	1) 看護の基本となる概念が理解できる 2) 看護の機能と役割が理解できる 3) 看護実践の基盤となる技術、倫理、法律、医療安全について基本的事項が理解できる 4) 看護専門職者の教育とキャリア形成について学び、看護を学ぶ自分と向き合う動機づけができる 5) 看護実践のための理論について理解できる
授業計画	<p>1 回目 看護（学）への導入、看護の本質（概念） 【到達目標】 ・看護とは何かを考えることができる ・看護の役割・機能拡大について理解できる ・看護実践とはどのようなものかイメージできる ・看護の本質 ・看護の主要概念 人間・健康・環境・看護 【授業形態】 講義+ディスカッション 【予習課題】 テキスト p2～8を読み要点をまとめる</p> <p>2 回目 看護の歴史 【到達目標】 ・看護の歴史について説明できる 看護の歴史 世界の看護の歴史 日本の看護の歴史 現代における看護 ・変化している看護 【授業形態】 講義+ディスカッション 【予習課題】 テキスト9～30を読み要点をまとめる</p> <p>3 回目 看護の対象となる個人・家族・地域の理解 【到達目標】 ・統合体として、生活者としての人間について理解できる エリクソンの発達課題 マズロー QOL ・家族とその機能について知り、家族の価値について理解できる 【授業形態】 講義+ディスカッション 【予習課題】 テキスト p 32～41を読み要点をまとめる</p> <p>4 回目 健康 【到達目標】 ・健康の概念について理解できる ・健康に影響を及ぼす要因について理解できる ・各発達段階における健康問題について理解できる ・健康とは WHOの定義 ・患者の心理を理解する。 ・ストレスとコーピング 【授業形態】 講義+ディスカッション 【予習課題】 テキスト p 42～47 p 73～85 を読み要点をまとめる</p> <p>5 回目 看護実践における技術 【到達目標】 ・看護実践の基盤となる技術の特性について理解できる ・看護ケアの基本的役割りについて理解できる ・看護技術とは 看護技術の特性 技術における安全性・安楽性・自立支援 【授業形態】 講義+ディスカッション 【予習課題】 テキスト p 94～105を読み要点をまとめる</p> <p>6 回目 医療安全 【到達目標】 ・看護の責任と医療安全について考えることができる ・医療安全の必要性 医療事故とヒューマンエラー 【授業形態】 講義+グループワーク(アクティブラーニング) 【予習課題】 テキスト p 106～115を読み要点をまとめる</p> <p>7 回目 看護実践と倫理 【到達目標】 ・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる ・倫理とは 看護倫理の原則 看護者の倫理綱領 自己決定権 インフォームドコンセント 【授業形態】 講義+ディスカッション(アクティブラーニング) 【予習課題】 テキスト116～129を読み要点をまとめる</p> <p>8 回目 看護と法 【到達目標】 ・看護を取り巻く主な法律を理解する ・保健師助産師看護師法について理解し、看護の果たす役割と背景を考えることができる ・保健師助産師看護師法 医療法 個人情報保護法 看護教育改革 【授業形態】 講義+ディスカッション 【予習課題】 テキスト130～137を読み要点をまとめる</p>

	9回目	看護の展開 チーム医療と看護 【到達目標】 ・看護過程の一連のプロセスが理解できる ・報告、記録の重要性について理解できる ・クリティカルシンキングとは ・看護過程とは、看護記録の構成要素と記録時の注意点 ・チーム医療の目的と多職種連携について理解できる 【授業形態】講義 【予習課題】テキスト154～163 164～168 170～172を読み要点をまとめる
	10回目	専門性の探求 【到達目標】 ・看護教育制度の変遷について理解できる ・専門職としての責務について理解できる 看護教育制度の変遷 専門職の定義 専門看護師 認定看護師 【授業形態】講義 【予習課題】テキスト186～202を読む
	11回目	看護理論の発展 【到達目標】 ・看護理論とは何かを説明できる ・大理論 中範囲理論 小理論について説明できる ・看護理論を学ぶ意義が理解できる 【授業形態】講義
	12回目	看護理論 【到達目標】 ・ナイチンゲールの看護覚え書について説明できる 【授業形態】講義+グループワーク及び発表（アクティブラーニング） 【予習課題】看護覚え書を読み要点をまとめる
	13回目	看護理論 【到達目標】 ・ヘンダーソンの理論を説明できる 【授業形態】講義+グループワーク及び発表（アクティブラーニング） 【予習課題】看護の基本となるものを読んで要点をまとめる
	14回目	看護理論 【到達目標】・主な看護理論家とその理論を説明できる ペプロー トラベルビー オレム ロイ 【授業形態】講義+ディスカッション（アクティブラーニング）
	15回目	終講試験 【到達目標】 ・1～14回の内容を復習することにより看護学概論のまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる 【授業形態】筆記試験
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書を熟読し、配布プリントと合わせて理解に努めること 各授業のタイトルに応じて予習(60分)、復習(60分)を行う事 課題は授業の進度を踏まえ、その都度指示する	
教科書	1) 「看護学原論 改訂第3版」南江堂	
参考書	1) 「対訳 看護覚え書」うぶすな書院 2) 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版社 3) 「新版・看護の本質」現代社	
成績評価	1) 授業への出席が3/5以上であること 2) 授業への参加度、課題提出と内容(20%)、試験結果(80%)などを踏まえ総合的に評価する	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義内で相談後対応	
備考	公立病院の看護管理者及び看護専門学校での管理者を経験。 その実務経験をもとに看護学概論の授業を行う	
	授業とDPとの関連: 「◎-2」「○-1, 3」 科目ナンバー: KK-1-NSc1-RS-L-1	
	グーグルクラスルームを活用する	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
扇田 千代、大山 由紀子、西野入 則江、篠原 百合子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>1) 看護技術の概念について理解を深めることができる</p> <p>2) 看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる</p> <p>3) 「安全・安楽」の原則を理解し、効率的な姿勢や動作に基づいた技術が修得できる</p> <p>4) 看護の対象となる人々の日常生活における「活動・休息」へのニーズを把握し、生活を支える看護介入の基礎を習得することができる</p>
授業計画	<p>第1回目 看護技術の概念・人間関係を成立・発展させるための技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の構成要素には知識・技術・態度があることを理解する ・看護技術においてアートとサイエンスの側面から考えることができる ・看護実践と看護技術のつながりについて熟考することができる ・看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を習得する。 ・援助課程において患者の尊厳と権利を擁護する方法を学習する <p>【授業形態】 講義+対話</p> <p>第2回目 看護技術の概念・人間関係を成立・発展させるための技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して円滑なコミュニケーション技術を習得する <p>【授業形態】 演習+プレゼンテーション</p> <p>第3回目 感染予防を推進する技術 (標準予防策・経路別予防策・環境整備)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の意義やスタンダードプリコーションの概念が理解できる ・正しく手指衛生が出来る ・標準予防策・経路別予防策・環境整備の必要性について理解できる <p>【授業形態】 講義+対話</p> <p>第4回目 感染予防を推進する技術 (標準予防策・経路別予防策・環境整備)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い・エプロン・マスク・手袋の手技を習得することができる ・感染防止に着目した環境整備ができる <p>【授業形態】 演習+対話</p> <p>第5回目 快適な環境を作る技術 (生活環境・ベッドメイキング)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する ・健康が障害されて、生活していた環境の変更を余儀なくされた人間の闘病意欲を高める環境について、自立度に応じて環境のニーズを充足する方法を看護の視点からアセスメントできる <p>【授業形態】 講義+対話</p> <p>第6回目 快適な環境を作る技術 (生活環境・ベッドメイキング)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法が実施できる ・健康が障害されて、生活していた環境の変更を余儀なくされた人間の闘病意欲を高める環境について、自立度に応じて環境のニーズを充足する方法を看護の視点からアセスメントし実施できる <p>【授業形態】 演習+対話</p> <p>第7回目 効率的で安楽な動きを作り出す技術 (安楽な体位・ボディメカニクス)</p> <p>【到達目標】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスの基本原理を理解し、援助課程において、患者と看護者双方が、安楽かつ安全な体位で、効果的 ・効率的にケアを実践する基本的方法を習得する <p>【授業形態】 講義+対話 効率的で安楽な動きを作り出す技術 (安楽な体位・ボディメカニクス)</p> <p>【到達目標】 ・ボディメカニクスの基本原理を理解し、援助課程において、患者と看護者双方が、安楽かつ安全な体位で、効果的・効率的にケアを実践する基本的方法を実施できる</p> <p>【授業形態】 演習+対話 活動・運動を支援する技術 (体位変換・床上運動・立位と歩行・移動・移送)</p> <p>【到達目標】 ・人間の活動・運動の意義を理解し、患者が健康生活を送る為に必要な援助の方法を習得する</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>活動・運動を支援する技術 (体位変換・床上運動・立位と歩行・移動・移送)</p> <p>【到達目標】 ・ボディメカニクスを活用しながら、安全安楽に体位変換・床上運動・立位と歩行・移動・移送が実施できる</p> <p>【授業形態】 演習+対話</p> <p>ベッドメイキング実技試験</p> <p>【到達目標】 ・清潔で安全な寝心地のよいベッドが作成できる ・ボディメカニクスを活用したベッドメイキングができる</p> <p>【授業形態】 技術試験 ベッドメイキング実技試験</p> <p>【到達目標】 ・清潔で安全な寝心地のよいベッドが作成できる ・ボディメカニクスを活用したベッドメイキングができる</p> <p>【授業形態】 技術試験 シーツ交換</p> <p>【到達目標】 ・生活環境のニーズを充足する方法としてのシーツ交換の意義が理解できる ・臥床中の患者にとって安全・安楽なシーツ交換の方法が理解できる ・ボディメカニクスを活用しながら、シーツ交換が実施できる</p> <p>【授業形態】 講義+演習 シーツ交換</p> <p>【到達目標】 ・生活環境のニーズを充足する方法としてのシーツ交換の意義が理解できる ・臥床中の患者にとって安全・安楽なシーツ交換の方法が理解できる ・ボディメカニクスを活用しながら、シーツ交換が実施できる</p> <p>【授業形態】 講義+演習 まとめと筆記試験</p> <p>【到達目標】 ・基礎看護援助論Ⅰのまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護援助論は履修する項目が多いので、講義までに教科書を読んで、ある程度理解して臨むこと(予習60分) ・各技術は、既習の技術が積み上げられて成立していくため、自己学習を行い次の項目に入るまでに既習技術はマスターしておくこと ・技術の自己学習(練習)のために、実習室は9:30~17:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習する ・事前学習、事後学習は講義内で指示する。レポート等は必ず期限を守って提出のこと。 ・提出物はすべて成績評価の対象となる
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術」メディカ出版 3) 「看護がみえる①基礎看護技術」メディックメディア

	4) 「看護がみえる②基礎看護技術」 メディックメディア
参考書	1) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院 2) 「看護技術プラクティス」 学研
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。 演習のみの参加は認めない
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館 7階 711研究室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	①大阪急性期総合医療センターにおいて救命救急センター、ICU、CCU、SCU、NICUに勤務後感染管理認定看護師として院内感染対策に従事。30年以上にわたる豊富な臨床経験で、学生の指導にあたる。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-2, ○-1, ○-5 ③科目ナンバー : kk-1-NSc2-RS-S-1 ④Googleクラスルーム活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
大山 由紀子、扇田 千代、西野入 則江			
配当学科：看護学科	時間数：60時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	1. 日常生活援助を受ける主体である患者について理解する事が出来る 2. 科学的根拠に基づき、確実かつ安全・安楽に看護技術を提供する為の基本的知識（原理・原則）を修得する事が出来る 3. 基本的な「日常生活に関する援助」における技術・態度を修得する事が出来る
授業計画	<p>1・2・3回目 身体の清潔を援助する技術 概論・洗髪・足浴</p> <p>【到達目標】 ・皮膚と粘膜の保護及び清潔保持による身体的影響や心理・社会的影響を理解し、その人らしい生活を送る為の援助方法を学習する ・解剖・生理学や科学的根拠（エビデンス）に基づき足浴・洗髪援助が実施できる ・効果的な援助方法で、清潔ケアを実施できる</p> <p>【授業形態】講義+演習</p> <p>4・5・6回目 身体を清潔を援助する技術 洗髪・足浴</p> <p>【到達目標】 ・解剖・生理学や科学的根拠（エビデンス）に基づき足浴・洗髪援助が実施できる</p> <p>【授業形態】講義+演習</p> <p>7・8・9回目 身体を清潔を援助する技術 全身清拭・寝衣交換</p> <p>【到達目標】 ・解剖・生理学や科学的根拠（エビデンス）に基づき全身清拭・寝衣交換が実施できる ・和式・洋式それぞれの寝衣交換の手順を理解し、実施できる ・患者の状態に合わせて、適切かつ安全に寝衣交換が実施できる</p> <p>【授業形態】講義+演習</p> <p>10・11・12回目 身体を清潔を援助する技術 陰部洗浄</p> <p>【到達目標】 ・解剖・生理学や科学的根拠（エビデンス）に基づき陰部洗浄が実施できる ・女性・男性の陰部の特徴を理解し、的確な援助が実施できる ・患者の羞恥心に配慮し安全・安楽な援助が出来る</p> <p>【授業形態】講義+演習</p> <p>13・14・15回目 日常生活行動の援助技術 食事介助・口腔ケア</p> <p>【到達目標】 ・健康な人、健康に何らかの影響を与えている人にとって、より良い食事とは何かを理解出来る ・栄養と食事のニーズを充足する為の基礎知識と援助方法が理解できる ・健康のレベル・食事行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足する方法についてアセスメントし、効果的な援助が出来る</p> <p>【授業形態】講義+演習</p> <p>16・17・18回目 排泄を促す技術 床上排泄</p> <p>【到達目標】 ・排尿・排泄に関するメカニズム、日常生活行動における意義が理解できる ・人々が健康的な生活を送る為に必要な援助を選択できる ・排泄を促す援助の方法と留意点を述べる事が出来る</p> <p>【授業形態】講義+演習</p> <p>19・20・21回目 体温を調節する技術 覆法</p> <p>【到達目標】 ・体温調節のメカニズムが理解できる ・寒冷・温熱刺激が生体に及ぼす影響（生理的反応）が理解できる ・患者の安全・安楽を前提に、効果的・効率的な覆法の援助を実施できる</p> <p>【授業形態】講義+演習</p>

	<p>22・23・24 総復習 回目</p> <p>【到達目標】 ・基礎Ⅰ実習で受け持った事例について、各グループで技術を含む援助方法についてディスカッションしまとめる事が出来る</p> <p>【授業形態】 グループワーク</p> <p>25・26・27 総復習 回</p> <p>【到達目標】 ・基礎Ⅰ実習で受け持った事例について、各グループで技術を含む援助方法についてディスカッションしまとめる事が出来る</p> <p>【授業形態】 グループワーク</p> <p>28・29・30 総復習・終講試験 到達目標】 ・各グループ、実習で経験した技術・援助方法についてのまとめを発表し、全員で情報共有出来る ・基礎看護援助論Ⅱでの学びを生かし、終講試験で60点以上取得できる</p>
<p>授業時間外の学習 (準備学習等)について</p>	<p>・基礎看護援助論Ⅱは履修する項目が多いので、講義までに必ず教科書、参考書の該当箇所を読んで講義演習に臨むこと</p> <p>・各授業のタイトルに合わせて予習(60分)、復習(60分)を必ず行うこと</p> <p>・各技術は積み上げの学習であるので、次の項目に入るまでに空コマや放課後の時間を計画的に利用して自己学習を行い、技術を順次マスターすること</p> <p>・技術項目の自己学習(練習)のために、実習室は9:30~17:00まで使用できる。希望者は申請の上、自主的に練習すること。但し、指導に応じず実習室の利用状況が悪い場合は利用制限することがある。</p> <p>・事前学習、事後学習は講義内で指示する。レポートは必ず期限を守って提出すること。提出物は全て評価の対象となる。</p> <p>・提出期限を過ぎた課題は一切受け取らない。</p>
<p>教科書</p>	<p>1) ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 2) 「看護が見える①基礎看護技術」メディックメディア 3) 「看護が見える②臨床看護技術」メディックメディア</p>
<p>参考書</p>	<p>1) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院 2) 「看護技術プラクティス」学研 3) 「看護ケアの根拠と技術」医歯薬出版</p>
<p>成績評価</p>	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他、提出されたレポートや看護師としてふさわしい態度などを総合的に評価する。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館8階 803号室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員 : 扇田 千代 研究室 : 10号館7階 711研究室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
<p>備考</p>	<p>この授業とディプロマポリシーの関連 「◎-2 ○-1,5」 科目ナンバー : KK-1-NSc3-RS-S-1</p>
	<p>グーグルクラスルームを活用する</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
大山 由紀子、扇田 千代、西野入 則江			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	1) ヘルスアセスメントの概念について理解できる 2) バイタルサインの重要性と測定の意義、方法について理解することができる 3) 原理原則に基づきバイタルサイン測定が実施できる
授業計画	<p>1回目 ヘルスアセスメントの概念と治療的人間関係 【到達目標】 ・ヘルスアセスメントの概念が理解できる ・フィジカルアセスメントに必要な体表解剖の基礎が説明できる ・フィジカルアセスメントにおける基本技術について説明できる ・バイタルサインの概念と重要性が理解できる 【授業形態】 講義+アクティブラーニング 小テスト① 人体各部の名称 【予習課題】 テキスト基礎看護学② p132～144を読む テキスト 人体の構造と機能 p17を読んで覚える 1週間の健康チェックを行う</p> <p>2回目 体温の基礎知識と測定方法 【到達目標】 ・体温の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる ・一般用語と医学用語の違いを理解できる 【授業形態】 講義+アクティブラーニング 小テスト② 医学用語 【予習課題】 テキスト p 159～161を読む 看護が見える3（フィジカルアセスメント） p 36～51を読む</p> <p>3回目 呼吸の基礎知識と測定方法 【到達目標】 呼吸の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる 【授業形態】 講義+アクティブラーニング 小テスト③ 呼吸器系の解剖 【予習課題】 テキスト人体の構造と機能 p 130～133 p 143 肺と肺小葉の図を理解する 看護が見える3（フィジカルアセスメント） p 76～83を読む</p> <p>4回目 脈拍・血圧の基礎知識と測定方法 【到達目標】 ・血圧、脈拍の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる ・生命兆候を把握するためのバイタルサインの測定方法が理解できる 【授業形態】 講義+アクティブラーニング 小テスト④ 循環器系の解剖 【予習課題】 テキスト人体の構造と機能 p 100～110を読む 看護が見える3（フィジカルアセスメント） p 52～75を読む</p> <p>5・6回目 血圧の基礎知識と測定方法 【到達目標】 ・血圧の基礎知識と測定方法が理解できる ・原理原則に基づいたバイタルサインの測定方法が理解できる ・バイタルサイン測定結果の報告ができる 【授業形態】 デモンストレーション+演習 【予習課題】 テキスト基礎看護学② p 154～158 p 161～165を読む</p> <p>7・8回目 バイタルサインの測定方法 【到達目標】 ・原理原則に基づいたバイタルサインの測定方法が習得できる ・バイタルサインの測定値をアセスメントし、報告ができる 【授業形態】 演習 【予習課題】 年齢の異なる3人以上の血圧を測定し記録する テキスト基礎看護学② p 166～167を読む</p> <p>9・10回目 技術試験 【到達目標】 ・安全・安楽かつ正確にバイタルサイン測定ができる ・技術試験に合格できる 【授業形態】 技術試験 10分以内にバイタルサインを測定し報告する 【予習課題】 10回以上練習し試験に臨む</p> <p>11回目 看護における観察・記録・報告 【到達目標】 ・看護における観察・記録・報告の意義と方法が理解できる 【授業形態】 講義+演習 【予習課題】 基礎看護学実習Ⅰでの報告内容をまとめる 担当患者の年齢 疾患 バイタルサイン測定値</p>

	<p>12・13回目 課題に応じて実験検証・</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定の変動因子が理解できる ・検証結果をまとめ発表できる <p>【授業形態】 アクティブラーニング 実験+グループワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> ①階段の上り下り後のバイタルサインの変化 ②排尿を我慢しているときのバイタルサインの変化 ③仰臥位と座位の時の血圧の変化 ④血圧の左右差 ⑤衣服の上(一重)からの血圧測定 ⑥捲り上げた服の上からの血圧測定 ⑦触診法と聴診法の差 ⑧上腕動脈直下に聴診器を置いた場合と5cm離れておいた場合の測定値の差 ⑨マンシェットをきつく巻いた場合と緩く巻いた場合の差 ⑩血圧を大腿部で測定する ⑪その他疑問に思う事を検証してみる <p>14回目 課題に応じて実験検証</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定の変動因子が理解できる ・検証結果をまとめ発表できる <p>【授業形態】 アクティブラーニング 実験+グループワーク及び発表</p> <p>15回目 終講試験</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアセスメントⅠで学んだことのまとめができる ・筆記試験で60点以上取得できる <p>【授業形態】 筆記試験+まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能の基礎知識がないと全身を系統的にアセスメントすることができないので、事前学習として必要な知識を予習して授業に臨むこと(特に呼吸・循環・神経系) ・体温・呼吸・循環に関する基礎知識がわからないと授業の内容が理解できないため十分な学習をすること ・各授業のタイトルに合わせて予習(60分) 復習(60分)を必ず行うこと ・技術の自己学習のために、実習室は9:30~17:00まで使用可能である。希望者は申請の上自主的に練習すること ・事前学習、事後学習は講義内で指示する。レポートは期限を守って必ず提出すること ・提出物は全て評価対象となる
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「フィジカルアセスメントが見える」メディックメディア 2) 「基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」メディカ出版 3) 「看護技術プラクティス」学研
参考書	「看護ケアの根拠と技術」医歯薬出版
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が終講試験の受験要件である。また、技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。 その他提出されたレポートなどを総合的に評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館8階 803号室 メールアドレス : y_ooyamameiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後に相談すること</p>
備考	
	授業とDPの関係 : 「◎→2」 「○→1,5」 科目ナンバー : KK-1-NSc6-RS-L-1
	グーグルクラスルームを活用する

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
今井 理香			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義+課題解決型学習	
添付ファイル			

授業目標	成人期にある人のついてその特徴や環境，健康などの視点から理解し，成人期にある人への看護実践に必要な知識を修得することを目的とする。 1) 成人期にある人の特徴について説明できる。 2) 成人期にある人の健康について説明できる。 3) 成人期にある人を看護するために有用な理論，概念について説明できる。 4) 健康状態に応じた看護について説明できる。 5) 成人看護を充実させるための実践的環境について説明できる。
授業計画	<p>1回 成人期にある人の理解 〔到達目標〕 成人の定義，成人の理解の視座，成人期の特徴について理解する。 〔授業形態〕 対面講義+課題 〔備考〕 教科書1P～32Pを熟読し自己学習。講義を参考に課題を完成させる。</p> <p>2回 成人をとりまく今日の状況 〔到達目標〕 成人をとりまく状況について，家族，労働，セクシュアリティ，環境などの視点から理解する。また日本人の健康観・死生観について考える。 〔授業形態〕 対面講義+課題 〔備考〕 教科書34～76Pを熟読し，自己学習。講義を参考に課題を完成させる。</p> <p>3回 成人期にある人の健康 〔到達目標〕 成人期にある人の健康について，健康の定義，健康政策，主な健康障害などの視点から理解する。 〔授業形態〕 対面講義+課題 〔備考〕 教科書78P～153Pを熟読し，自己学習。講義を参考に課題を完成させる。</p> <p>4回 成人期にある人を看護するための基本的な考え方① 〔到達目標〕 成人期にある人と関係を構築するための援助，また変化する健康状態への適応を促す援助のためにそれぞれに有用な理論や概念を理解する。 〔授業形態〕 対面講義+課題 〔備考〕 教科書156P～196Pを予習する。講義を参考に課題を完成させる。</p> <p>5回 成人期にある人を看護するための基本的な考え方② 〔到達目標〕 成人期にある人の発達を促す援助，また人生の統合を促す援助のためにそれぞれに有用な理論や概念を理解する。 〔授業形態〕 対面講義+課題 〔備考〕 教科書197P～237Pを予習する。講義を参考に課題を完成させる。</p> <p>6回 健康状態に応じた看護① 〔到達目標〕 健康の保持増進，疾病予防に向けた看護，健康状態が急激に変化した人，生活機能障害を有する人への看護について理解する 〔授業形態〕 対面講義+課題 〔備考〕 教科書240P～274Pを予習する。講義を参考に課題を完成させる。</p> <p>7回 健康状態に応じた看護②。成人看護を充実させる実践的環境 〔到達目標〕 慢性的な経過をたどる健康障害を有する人，人生の最終段階にある人の看護について理解する。成人における人権擁護，より専門性の高い看護師による看護活動，医療安全の基礎について理解する。 〔授業形態〕 対面講義+課題 〔備考〕 教科書276P～327Pを予習する。講義を参考に課題を完成させる。</p> <p>8回 まとめ（30分）+最終試験（60分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書に沿って授業を進めるため、授業ごとに提示される次回授業の学習範囲を精読し、まとめておくこと。授業後は復習として、教科書、資料を見直し不明な点は質問し解決する。
教科書	成人看護学 成人看護学概論 改訂第4版 林直子他 南江堂
参考書	必要時、授業中に提示する。
成績評価	1) 出席状況は大学学生便覧に準ずる。 2) 授業ごとの課題50%、試験50%で総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員 : 今井理香 研究室 : 10号館 8階 研究室805 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp

	<p>オフィスアワー : 時に指定はしない。質問等がある場合は、あらかじめメール等にて連絡をすること。</p> <p>備考 : 急性期病院にて勤務 (外科系: 脳神経外科・デイスার্ジャーリー診療部、内科系: 血液内科・消化器内科)</p>
備考	<p>授業開始前に指定された座席に着席し授業が受けられるように準備をすること。</p> <p>出席確認は、確認票を用いるので、スマホ・携帯は他学生の学習の邪魔にならないようにして鞆にしまっておくこと。机の上に出しっぱなしになっている場合はその場で没収する。</p>
	<p>この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-2 ○-1, 3</p> <p>本科目の水準コード: KK-1-NSc9-RS-S-1</p>
	<p>本講義は講義と課題解決型学習 (アクティブラーニング) を組み合わせた形で行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
栗山 真由美、東 孝至			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義 演習 アクティブラーニング	
添付ファイル			

授業目標	ライフサイクルにおける老年期、加齢による変化、日本の高齢者に関する社会や制度の変遷など老年看護の基本を学ぶ。また、その役割、倫理的課題の概要を理解する。
授業計画	<p>第1回 老年看護学の概要/高齢者の理解 [到達目標] ①高齢者に関する統計的特徴をこれまでの変遷と将来予測まで説明できる ②老年看護を学ぶにあたり、自分はどのように取り組みたいか説明できる</p> <p>(準備) シラバスに目を通しておくこと (予習) 教科書「高齢者の健康と障害」P. 11-39 を読んでくる (復習) 高齢者に対する自己の興味や疑問について整理する</p> <p>第2回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者とQOL/加齢に伴う変化 [到達目標] ①高齢者のQOLとは何かについて理解しさらにQOLを向上させる関わりについて説明できる ②老いるとは、ライフサイクルにおける老年期の特徴と課題（加齢に伴う身体・精神・社会的な特徴について概要）を説明できる</p> <p>(予習) ①加齢の変化をレポートにまとめる ②教科書「高齢者の健康と障害」P. 39-75を読んでくる (復習) 高齢者の定義・平均寿命を含め、老年期を生きる高齢者の特徴を整理する</p> <p>第3回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者をとりまく社会 [到達目標] ①高齢者が生活する場と家族の生活の場の特徴について説明できる ②高齢者を支える社会制度の全体像、介護保険制度の概要について説明できる</p> <p>(予習) ①教科書「高齢者の健康と障害」P. 78-125を読んでくる ②高齢者の特徴を観察・インタビューし、レポートにまとめる (復習) 高齢者世帯の特徴・受療率・死因について整理する</p> <p>第4回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者の加齢による特徴 [到達目標] ①高齢者の身体的特徴・心理社会的特徴・知的能力などそれぞれの特徴について説明できる</p> <p>(予習) ①第1回から3回の講義資料、教科書を読んでくる ②加齢の変化・インタビューについてまとめたレポートを発表できるよう準備する (復習) グループワークを通して学んだ内容を整理する</p> <p>第5回 [授業形態]グループワーク 発表 高齢者看護の基本 [到達目標] ①高齢者を看護する専門職に必要な態度を説明できる ②高齢者や家族のもつ能力や強みからそれを支える看護を考えることができる</p> <p>(予習) ①教科書「高齢者の健康と障害」P. 168-188を読んでくる ②高齢者看護に関わる理論についてレポートにまとめる (復習) グループワークで学んだ内容を整理する</p> <p>第6回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者看護における倫理 [到達目標] ①高齢者看護の倫理と自己決定の支援について説明できる ②高齢者に対する虐待の実態とその背景、対応の必要性和方法を考え、説明できる</p> <p>(予習)</p>

	<p>①教科書「高齢者の健康と障害」P.189-200を読んでくる (復習) グループワークで学んだ内容を整理する</p> <p>[授業形態]講義形式 グループワーク (新聞記事をまとめる) 発表 高齢者の生活を支える看護 [到達目標] ①高齢者の生きてきた時代背景や昭和の流行歌を知り、高齢者の生活支援について自己の考えを説明できる ②コミュニケーション能力の変化による生活の影響とそのアセスメント、セルフケア支援方法を説明できる</p> <p>(予習) ①教科書「高齢者の健康と障害」P.280-322を読んでくる ②昭和の特徴や流行歌について調べる</p> <p>[授業形態]講義形式 グループワーク 発表</p> <p>第8回 知識の整理とまとめ (30分) 終講試験 (60分) 【到達目標】 老年看護学概論の学びの到達度を確認する</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>(予習と復習の徹底) 予習: 授業予定の範囲の教科書を読んで授業に臨むこと。事前課題を課すことがある。60分程度 復習: 新しいキーワードや十分理解できなかった内容は復習し次の講義に備えること。課題は授業の進行をふまえその都度指示する 60分程度</p>
教科書	「老年看護学-高齢者の健康と障害-」堀内ふきほか著 (メディカ出版) 第6版
参考書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著 (医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著 (医学書院)
成績評価	<p>定期試験60% 課題レポートおよび提出物等40% 課題レポートや提出物等の期限が守られない場合減点の対象となる。また、終講試験までに提出がない場合、終講試験を受けることはできない。</p> <p>★講義時配布したルーバーファイル (ポートフォリオ) を活用するため、指示された方法でまとめておくこと (紛失等は減点対象となる) 再試験実施は1回のみとする。また補講は実施しない。 欠席3回以上で定期試験を受けることができない</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p> <p>担当教員名 : 東孝至 研究室 : 10号館7階709研究室 メールアドレス : t_azuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p>
備考	<p>授業時間開始までに着席すること 看護職として実務経験 (総合病院にて地域医療連携、高齢者への運動指導、栄養管理等の経験) を踏まえて講義を行う ◎-2 ○-1.3 科目ナンバリング「KK-1-NS c 16-RS-L-1」</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
岩本 美由紀			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 子どもの成長・発達と健康増進に向けて、子どもと家族への看護に必要な基礎的知識を習得する。</p> <p>【授業目標】 1. 子どもの成長・発達の特性と小児各期の特徴が理解できる。 2. 子どもの健やかな成長・発達の為に必要な小児看護が理解できる。 3. 子どもと家族を取り巻く環境を理解し、成長・発達と健康増進に必要な政策が述べられる。</p>
授業計画	<p>第1回 小児看護の対象と目的／小児看護の歴史の変遷／小児看護における倫理 「到達目標」 1. 看護の対象となる「子ども」と「家族」の特徴について理解することができる。 2. 小児医療と小児看護の変遷がわかる。 3. 小児医療における子どもの権利と倫理的配慮について考えることができる。 『学習内容』 1. 「子ども」、「子どもにとっての家族」 2. 小児看護の目的 3. 小児医療の変遷と看護の変遷 4. 小児医療・看護における倫理（子どもの権利、倫理原則をふまえたケアの実践） [授業形態]講義形式+グループ討議</p> <p>第2回 子どもを取り巻く社会環境／小児看護に必要な概念と理論 「到達目標」 1. 現代の子どもを取り巻く社会環境が理解できる。 2. 各期の成長・発達の特徴について述べるができる。 3. 小児看護に必要な概念と理論が理解できる。 『学習内容』 1. 子どもと家族に関する保健統計 2. 現代の子どもを取り巻く社会環境 (育児観の変化、育児不安や児童虐待の増加、教育制度の変化) 3. 小児各期の成長・発達の特徴（新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期） 4. 小児看護に必要な概念と理論 ①自我発達理論（エリクソン）／②認知発達理論（ピアジェ）／③家族理論／④母子関係論 [授業形態]講義形式+グループ討議+学習確認テストと解説（フィードバック） +レポート課題の提示（具体的な記載内容・方法を説明）</p> <p>第3回 子どもの成長発達の特性と支援 到達目標 1. 小児看護に必要な、子どもの成長・発達の基礎知識を身につけることができる。 2. 子どもの成長・発達のプロセスと影響因子を理解することができる。 3. 子どもの成長・発達の評価方法を理解し、身体発育の評価ができる。 『学習内容』 1. 子どもの成長・発達（成長・発達の原則）と影響因子 2. 子どもの形態的・機能的発達 3. 成長・発達の評価の目的と方法（身体発育の評価、精神・運動機能の発達の評価） [授業形態]講義形式</p> <p>第4回 子どもの成長発達と看護の特徴①（新生児・乳児期） 到達目標 1. 母体外環境へ適応する、新生児・乳児期の生理機能の特徴について述べるができる。 2. 新生児・乳児の母子相互作用と心理・社会的発達の特徴について理解することができる。 3. 新生児・乳児期におこりやすい健康問題と看護について述べるができる。 『学習内容』 1. 新生児・乳児の形態的、機能的発達の特徴 2. 新生児・乳児の心理・社会的発達と母子相互作用（愛着形成） 3. 新生児・乳児の日常生活の特徴と事故防止支援 4. 新生児・乳児におこりやすい健康問題と家族支援 [授業形態]講義形式（動画視聴）+学習確認テストと解説（フィードバック）</p> <p>第5回 子どもの成長発達と看護の特徴②（幼児期） 到達目標 1. 幼児期の成長・発達の特徴について理解することができる。 2. 幼児期の発達段階に応じた日常生活支援について述べるができる。 3. 幼児期におこりやすい健康問題と看護について述べるができる。 『学習内容』 1. 幼児の形態的、機能的、心理・社会的発達 2. 子どもの遊びの発達と社会性（ビューラー、パーテン） 3. 子どもと家族の日常生活支援（日常生活習慣の獲得過程） 4. 幼児期におこりやすい事故と健康問題 [授業形態]講義形式（動画視聴）</p> <p>第6回 子どもの成長発達と看護の特徴③（学童期および思春期） 到達目標</p>

	<p>1. 学童期・思春期の発達の成長・発達の特徴について理解することができる。</p> <p>2. 学童期・思春期の基本的な日常生活を理解し、必要な援助について述べることができる。</p> <p>3. 学童期・思春期に起こりやすい健康問題を理解し、必要な援助を述べることができる。</p> <p>『学習内容』</p> <p>1. 学童・思春期の形態的、機能的、心理・社会的発達</p> <p>2. 学童・思春期の日常生活の特徴とおこりやすい健康問題</p> <p>[授業形態] 講義形式+グループ討議+学習確認テストと解説（フィードバック）</p> <p>子どもの健康な生活を支援する法・政策／現代における小児看護の役割</p> <p>「到達目標」</p> <p>1. 子どもと家族の健康を支える社会制度と健康増進の為に必要な社会資源がわかる。</p> <p>2. 現代の小児看護の役割と責務について述べるができる。</p> <p>『学習内容』</p> <p>1. 子どもと家族を支える保健・福祉に関する政策と法</p> <p>①児童福祉法 ②母子保健法 ③児童虐待防止法 ④健やか健康21</p> <p>2. 子どもと家族を支える社会資源の活用</p> <p>①様々な社会資源 ②子育て支援サービス ③予防接種 ④学校保健</p> <p>[授業形態] 講義形式</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>終講試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>（予習・復習の徹底）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに沿って教科書で講義予定の範囲を読んでおく（60分程度） ・復習として教科書・配布資料等の要点をノートに整理する（60分程度）⇒ミニテストにて確認します。 ・分からない文言があれば調べて理解できるようにしておくこと。 <p>（授業時間外学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族に関するニュース等を興味をもって見て、なぜそのような問題が起こっているのか考える。 ・母子手帳がある場合は、自己の成長記録を知っておく。
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 MCメディカ出版
参考書	適宜紹介 母子健康手帳配布（卒業まで失くさない）
成績評価	レポート課題の提出 20点（成長・発達のレポート）ルーブリック評価表に基づく 学習確認テスト 10点 筆記試験 70点
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岩本美由紀 研究室 : 10号館8階 メールアドレス m_iwamotoa@meiji-u.ac.jp
備考	岩本美由紀：総合病院で小児看護歴約8年の経験を踏まえて講義を行う
	この授業のDPとの関連 「◎—1」 「○—2・3」 水準コード1 科目ナンバー：kk-1-NSc20-RS-L1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
坪倉 浩美、伊藤 三紀子 山田智子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義(対面) グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 女性のライフサイクルを通して、女性の成長・発達課題を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、女性と男性の性と生殖に関する健康問題について看護・援助方法について学ぶ。母性看護の歩みや現代社会における母性保健をめぐる課題について理解する。母性看護を実践するために必要な生命倫理について認識する。</p> <p><授業目標> 1. 母性に関連する主要概念を説明することができる。 2. 女性のライフサイクル各期における特性を、身体的、心理的、社会的側面から捉えて説明することができる。 3. 母性保健の現状や保健医療の仕組みを理解し、看護の役割や今後の課題を説明できる。 4. 生命の尊厳や倫理観について学び、自己の考えをまとめ、説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 母性看護の基盤となる概念1 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】母性について、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第2回 母性看護の基盤となる概念2 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】母性看護のあり方、母性看護における倫理について理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第3回 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】母子保健統計の動向、母子保健に関連する施策について理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第4回 母性看護の対象理解 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化について理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第5回 リプロダクティブヘルスケア1 担当教員：山田 【授業目標】家族計画、性感染症、人工妊娠中絶、喫煙女性、性暴力を受けた女性、児童虐待の現状を把握し、必要な看護を話し合い、理解することができる。 【授業形態】グループワーク</p> <p>第6回 リプロダクティブヘルスケア2 担当教員：山田 【授業目標】家族計画、性感染症、人工妊娠中絶、喫煙女性、性暴力を受けた女性、児童虐待の現状を把握し、必要な看護を説明することができる 【授業形態】GWと発表</p> <p>第7回 女性のライフステージ各期における看護 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】思春期・成熟期・更年期・老年期の看護を理解することができる 【授業形態】講義 試験</p> <p>第8回 母性看護学の概要のまとめ 担当教員：坪倉 伊藤 【授業目標】母性看護のすべての場面に応じた母性看護の概要のまとめができる 【授業形態】講義</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習(予習60分)し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい(復習60分)。
教科書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 森恵美他 医学書院
参考書	・ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング 女性の生涯発達と看護 高橋真理他 NOUVELLE HIROKAWA ・ウイメンズヘルスナーシング ウイメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護 村本淳子他 NOUVELLE HIROKAWA ・母性看護学(1)：概論・リプロダクティブヘルスと看護 編集中込さと子他 メディカ出版
成績評価	定期試験70% 課題レポート30%
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(事前に連絡をください)</p> <p>伊藤三紀子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：mi_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(事前に連絡をください)</p>

	<p>山田智子</p> <p>研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p>
備考	<p>坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 助産師として病院で勤務し、その実務経験をもとに「母性看護学概論」について授業を進める</p>
	<p>この授業のD Pとの関連 「◎-2」 「○-1・3」</p>
	<p>科目ナンバー：KK-1-NSc23-RS-L-1</p>
	<p>グループワーク・演習によるアクティブラーニングを実施</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
小西 奈美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義・グループワーク	アクティブラーニング
添付ファイル			

授業目標	1. 精神医療における現在の特徴を述べることができる。 2. こころの働きに関する諸理論と精神障害とを関連付けて考えることができる。 3. 精神看護学の対象について知識を得ることができる。
授業計画	1回目 精神医療の現状と精神看護の目指すもの [到達目標] 精神医療の現状と精神看護の目的について理解することができる。 2回目 「精神の障害」とは何か [到達目標] 「精神の障害」とは何であるのかを理解するとともに、学生自身の考えを述べるができる。 3回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (1) [到達目標] ・自我と自己・知能・意識・思考・認知・感情について理解することができる。 4回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (2) [到達目標] ・フロイトの精神分析の基本的な考え方について理解することができる。 5回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (3) [到達目標] エリクソンの発達理論・対象関係論等を理解することができる。 6回目 危機介入とストレス [到達目標] 危機介入とストレスに関する基本的な考え方について理解することができる。 7回目 こころの問題と家族及び集団との関係 [到達目標] こころの問題にも影響を及ぼす家族及び集団との関係性について学ぶことができる。 8回目 まとめ及び試験 まとめ：30分 試験：60分
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、講義で学修した内容をまとめてください。 合わせて60分程度。
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験およびレポート提出、授業への参加度によって評価する。 (定期試験70%、レポート及び授業参加度30%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小西奈美 研究室 : 10号館8階808研究室 メールアドレス : n_konishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)
備考	精神看護学領域での臨床・教育経験をもとに精神看護学に必要な基本的知識についての講義を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3、○-2、○-1
	科目ナンバー : KK-1-NSc31-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
田中 小百合			
看護学科	30時間	講義 (対面)	アクティブラーニングあり
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 地域・在宅看護の概念やその社会背景をはじめ、在宅療養者とその家族を理解し、在宅看護の基本的な理念、地域包括ケアシステム、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。 訪問看護ステーション関連と、家庭訪問に必要な知識・マナーを学び、在宅における危機管理や日常生活援助の基本的なアセスメントや援助技術を学ぶ。</p> <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護の概念とその背景が理解できる。 ・在宅看護の役割・機能が理解できる ・在宅看護の対象者の特性が理解できる。 ・在宅療養を支える制度や社会資源が理解できる。 ・地域包括ケアシステム、関係機関・関係職種間の連携が理解できる。 ・訪問看護ステーションの活動等が理解できる。 ・家庭訪問に必要な知識・マナーがわかる。 ・在宅におけるリスクマネジメントが理解できる。 ・在宅における日常生活援助技術の基本的なアセスメントや援助技術が理解できる。
授業計画	<p>1回目 地域・在宅看護の概念とその背景 【到達目標】 ・地域・在宅看護論における「生活」が理解できる ・生活と健康、地域と健康の関係性が理解できる ・地域を「みる」ということが事例から理解できる ・地域・在宅看護の社会背景が説明できる</p> <p>2回目 地域・在宅看護の基盤 【到達目標】 ・地域・在宅看護活動が理解できる ・在宅看護の役割・機能が理解できる ・施設内看護との相違が説明できる ・在宅看護がイメージできる (DVD鑑賞、アクティブラーニング)</p> <p>3～4回目 在宅看護の対象者 【到達目標】 ・在宅療養の成立条件が理解できる ・在宅療養者の権利保障が理解できる ・在宅療養を支える家族の介護負担について説明できる (アクティブラーニング)</p> <p>5～6回目 在宅看護に関する制度 【到達目標】 ・医療保険制度、介護保険制度のしくみが説明できる</p> <p>7回目 地域包括ケアシステム 【到達目標】 ・地域包括ケアシステムとその背景が理解できる ・地域包括支援センターの機能が説明できる</p> <p>8回目 療養の場の移行に伴う看護 【到達目標】 ・医療機関における入退院時の連携が理解できる ・継続看護が理解できる</p> <p>9回目 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 【到達目標】 ・在宅療養を支える多職種と、その連携・協働が説明できる</p> <p>10回目 在宅看護におけるケース/ケアマネジメント 【到達目標】 ・居宅介護支援事業所、介護支援専門員、ケアマネジメントについて理解できる ・居宅介護サービス計画の記載内容が理解できる</p> <p>11回目 在宅療養を支える訪問看護 【到達目標】 ・訪問看護と、訪問看護における看護職の役割を説明できる (DVD鑑賞後、ワーク→ 発表) ・訪問看護ステーションの設置、管理、運営、従業者、対象者、サービス内容、利用料が説明できる ・訪問看護における介護保険と医療保険の調整について理解できる</p> <p>12回目 家庭訪問 【到達目標】 ・家庭訪問の意義を理解し、手順、倫理と心構えについて説明できる ・初回訪問の目的と技術、配慮すべき点について説明できる ・さまざまな訪問時の場面から対応を考える (アクティブラーニング) ・訪問看護で使用する書類・記録類について説明できる</p> <p>13回目 在宅看護における安全と健康危機管理</p>

	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護における感染症への対応の原則と看護のポイントが理解できる ・在宅看護で多くみられるインシデントについて理解し、看護師・家族への予防指導が理解できる <p>13～14回目 生活ケアの援助技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活におけるアセスメントおよびその支援が理解できる ・在宅療養の場における排泄のアセスメントおよびその支援が理解できる ・在宅での清潔の特徴やアセスメントを踏まえた清潔ケアが理解できる ・在宅での移動時の安全で自立支援を目指した援助方法が理解できる <p>15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の整理のために教科書のページ番号を記載し、空欄を設けたレジメを配布する。それを活用しながら予習、復習を行うこと。 ・教科書とリンクした「メディカAR」を自己学習に利用する。 ・これまでに習った知識（例えば、看護技術など）を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は復習しておくこと。
教科書	ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア 臺有桂、他編（メディカ出版）
参考書	厚生労働省HP（医療保険、介護・高齢者福祉） https://www.mhlw.go.jp/index.html
成績評価	試験
担当教員の基本情報	10号館8階研究室 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	病院での実務経験をもとに「訪問看護」について授業をすすめる。
	不明なことはmelyで対応します。
	この授業のDPとの関連： ◎—1、○—2 科目ナンバー：KK-1-NSc35-RS-L-1

講義科目名称： 人々の生活を知る実習

授業コード： 4K145

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
栗山 真由美、東 孝至 工藤大祐 小高真理子 その他			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	授業形態：実習 アクティブ ラーニング	
添付ファイル			

授業目標	看護の対象である地域の様々な生活の場で暮らす高齢者と関わりながら、対象者を取り巻く環境・支援について学ぶ。また、対象者を支える地域活動や取り組みを知り、地域で生活する高齢者に関心を向けることができる。
授業計画	詳細は、実習要項を参照のこと。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義で使用した教科書および資料、事前学習課題に積極的に取り組み、実習に臨むこと。 教員や指導者から指導された課題や毎日の実習記録は遅れず提出すること。 事前オリエンテーションは必ず参加すること。(評価の対象となる)
教科書	「ナーシンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀内ふき他著 (メディカ出版)
参考書	適宜、紹介する。
成績評価	出席状況、実習への積極的姿勢、ルーブリック評価表に即し、レポート(実習記録含む)の提出を総合的に評価する。 詳細は、実習要項を参照のこと。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること) 担当教員名 : 東孝至 研究室 : 10号館7階709研究室 メールアドレス : t_azuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)
備考	老年看護援学概論で使用した講義資料および課題レポートも活用する。授業時配布したルーパーファイル等まとめて準備しておく。 ◎-2 ○-1 科目ナンバリング「KK-1-NS c 44-RS-P-1」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
扇田 千代、大山 由紀子、西野入 則江、篠原 百合子			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 様々な治療の場と看護活動を見学し、療養している看護の対象を理解する</p> <p>【到達目標】 看護援助の見学・体験を通して看護の機能と役割について学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養中の人々の療養環境を知る 2) コミュニケーションを通して療養中の人々を知る 3) 日常生活行動の援助の体験を通して看護援助の重要性がわかる 4) 病院の機能と役割を知り医療チームにおける看護の機能と役割を考える 5) 看護学生としてふさわしい行動をとることができる 6) 実習経験をとおり看護について考えることができる
授業計画	<p>1日目 病院オリエンテーション、病棟オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 病院実習（1日目） 午前：病院オリエンテーションを通して、病院の概要および看護部の役割と組織について学ぶ 病院施設内見学（外来・病棟・手術室・検査室等）を通して病院施設の機能を知る 外来診察見学を通して、各診療科・処置室等を知る 午後：病棟オリエンテーション カンファレンスを行い、一日の実習の振り返りとまとめができる</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>2日目 病院実習2日目</p> <p>【到達目標】： 病院実習（2日目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①患者の生活の場を知る ②患者による援助方法の違いを知る ③コミュニケーションを通して療養中の人々を知る ④カンファレンスを通して実習の学びを整理する <p>【授業形態】 実習</p> <p>3日目 病院実習3日目</p> <p>【到達目標】 病院実習（3日目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日常生活行動の援助の体験を通して、新重要性がわかる ②看護師と共に安全・安楽に留意して看護援助を行う（環境整備、理念交換、車椅子移送など） ③患者の全体像をとらえる ④カンファレンスを通して実習の学びを整理する <p>【授業形態】 実習</p> <p>4日目 学内学習</p> <p>【到達目標】 実習後のまとめが出来る 実習前の準備学習が出来る</p> <p>【授業形態】 自己学習</p> <p>5日目 実習のまとめ・発表会</p> <p>【到達目標】 ・実習目標に沿って意見交換することで学習を深め、学びを共有することができる</p> <p>【授業形態】 グループワーク＋発表会</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「基礎看護援助論 I」「ヘルスアセスメント I」で学んだ知識・技術を整理しておく（人権尊重と安全・安楽・自立が保証されるように技術練習は必ず行うこと） 2) 「看護基礎理論」の復習（看護とは何か、という知識の整理）
教科書	実習要項を事前に配布する
参考書	「看護学概論」「看護基礎理論」「基礎看護援助論 I」「ヘルスアセスメント I」で学習したテキスト・資料、及び紹介した文献
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習時間の5分の4以上の出席がなければ評価対象とはならない 2) 実習目標達成度を実習評価表、実習姿勢、実習記録（レポートを含む）により評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：扇田千代 研究室：10号館 7階 711研究室 メールアドレス：c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>

	担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :
備考	①大阪急性期医療センターにおいて救急センター、ICU、CCU、SCU、NICUに勤務後感染管理認定看護師として院内感染対策に従事。30年以上にわたる豊富な臨床経験で、学生の指導にあたる。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→「◎-2, ○-1, ○-3」
	[実習病院] 綾部市立病院 亀岡市立病院 淡海医療センター 明治国際医療大学附属病院 大津市民病院
	[実習方法] 様々な治療の場と看護活動の見学、及び指導のもとに可能な援助の体験を行う
	①ディプロマポリシー:①○、②◎、⑤○ ②科目ナンバー : KK-1-NSc45-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>○人から信頼される心優しい医療人を目指すと共に自己の健康づくりと体力づくりを学ぶことができる。</p> <p>○コーディネーション・アジリティ・筋力・持久力トレーニングを学ぶことができる。</p> <p>○集団スポーツゲームにてコミュニケーション能力を学ぶことができる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 体育館に運動・スポーツに適した服装に着替えて室内シューズで集合してください。 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎コーディネーション・アジリティ・筋力アップ・持久力アップのためのトレーニングを体験理解できる。 オンデマンド授業の説明。</p> <p>2回目 コーディネーショントレーニング1 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎ボール1を使用しコーディネーショントレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>3回目 コーディネーショントレーニング2 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎ボール2を使用したコーディネーショントレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>4回目 アジリティトレーニング 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる ◎ラダーとミニコーンを使用したアジリティトレーニングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>5回目 筋力アップ運動1 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎自重とメディシンボールを使用した筋力アップ運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>6回目 筋力アップ運動2 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎マットを使用した筋力アップ運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>7回目 持久力アップ運動 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎ミニハードルを使用した持久力アップ運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>8回目 体力測定1 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎体力測定(握力・上体おこし)を通して、新スポーツテストの実施方法を体験理解できる。 個人の体力評価をグループワーク①で体験できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>9回目 体力測定2 到達目標 ◎ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 ◎体力測定(反復横跳び・立幅跳び)を通して、新スポーツテストの実施方法を体験理解できる。 個人の体力評価をグループワーク②で体験できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>10回目 集団競技1 到達目標 ◎集団バドミントンで持久力向上を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>11回目 集団競技2 到達目標 ◎卓球シングルで生涯における健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p>

	12回目 集団競技3 到達目標 ◎卓球ダブルスゲームで生涯における健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり
	13回目 集団競技4 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲーム①で楽しい集団スポーツを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり
	14回目 集団競技5 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲーム②で楽しい集団スポーツを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり
	15回目 集団競技6 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲーム③で楽しい集団スポーツを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	出席状況と授業の取り組み姿勢、態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業の前後
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部運藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは◎-3 ○-4
	KK-1-HA1-ES-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、それを楽しく実践でき、しかも長続きさせられる手段の一つとして、ネット競技型スポーツ活動は有効である。ネット競技型スポーツの特徴は、ネットを挟んで自分たちの陣地をチームで攻防する。これは、チームの結団が求められ、攻めの技を發揮する時も、単なる技比べだけではなく、同時に相手チームの動きを洞察する能力が求められる。本時では、「バドミントン・バレーボール」をとりあげる。この授業は、先ずルールの把握と基本技術を習得し仲間づくりを兼ねる。その後は、主にゲーム形式を中心として展開し、戦術を練るグループコミュニケーション能力や応用技術を習得する。本時の受講生は、「基礎体力の維持増進を一生涯工夫する能力と、それを実践する運動習慣を身に付けた人」と言われるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。</p> <p>第2講 バドミントン (1) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 概要とルール説明、基本練習（グリップと構え、基本ストローク）について理解し、実践できるようになる。</p> <p>第3講 バドミントン (2) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 基本練習（サーブとスマッシュ）、簡易ゲームを習得できるようになる。</p> <p>第4講 バドミントン (3) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 基本練習（プッシュとハイクリア）、簡易ゲームで技術を習得できるようになる。</p> <p>第5講 バドミントン (4) 簡易ゲーム [到達目標] 簡易ゲーム（試合における戦術を理解することができる）。</p> <p>第6講 バドミントン (5) 応用技術とゲーム [到達目標] 正規ルールでのゲーム（半面シングルスでゲーム進行のルールを覚えることができる）。</p> <p>第7講 バドミントン (6) 応用技術とゲーム [到達目標] 正規ルールでのゲーム（ダブルスでのゲーム進行のルールを覚えることができる）。</p> <p>第8講 バドミントン (7) ゲーム [到達目標] リーグ戦（正規ルールを理解し、応用技術を習得することができる）。</p> <p>第9講 バレーボール(1) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 概要とルール説明、基本練習（正確なフォームでのパス）について理解し、実践できるようになる。</p> <p>第10講 バレーボール(2) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 基本練習（パス、レシーブ、サーブ）の習得、簡易ゲームを習得できるようになる。</p> <p>第11講 バレーボール(3) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] 基本練習（レシーブ、トス、アタック）の三段攻撃の習得、簡易ゲームで技術を習得できるようになる。</p> <p>第12講 バレーボール(4) 簡易ゲーム [到達目標] 簡易ゲーム（試合における戦術を理解することができる）。</p> <p>第13講 バレーボール(5) 応用技術とゲーム [到達目標] 正規ルールでのゲーム（コミュニケーション能力や応用技術を習得することができる）。</p> <p>第14講 バレーボール(6) 応用技術とゲーム [到達目標] 正規ルールを理解し、技術を習得できるようになる。</p> <p>第15講 バレーボール(7) 応用技術とゲーム [到達目標]（まとめ）第1講～第14講を総括した正規ルールを理解し、技術を習得できるようになる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各実技タイトルを事前学習（予習30分）し、実技で学習した内容をまとめておく（復習30分）。資料を集め、バドミントンとバレーボールの自分のルールブックを作成する。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：村川増代 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：m_murakawa@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー：授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	①服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。 ②水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。 ③この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎技術・表現、○態度。 ④科目ナンバー：KK-9-HA2-ES-P-1。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>○医療現場で行われている生活習慣病予防と改善のための運動療法を体験理解し、健康づくりのための楽しい運動を理解できるようになる。</p> <p>○医療人として集団運動指導ができる技術とコミュニケーション能力が向上する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 体育館に運動・スポーツに適した服装に着替えて室内シューズで集合してください。 ◎医療現場で行われている生活習慣病予防と改善、転倒予防、介護予防、認知症予防のための運動療法を体験理解できる。また、健康づくりのための楽しい運動習慣確立を目指す集団指導テクニックについて体験理解できる。毎回、共通運動種目又は体操を体験できる。オンデマンド授業の説明。</p> <p>2回目 運動療法1(ウォーキング・ジョギング) 体育館に集合してください。 ◎到達目標 生活習慣病予防と改善のための健康ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>3回目 運動療法2(ボール運動1.) ◎到達目標 布ボール、軽量ハンドボール、2kgメディシンボールを使い筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>4回目 運動療法3(ボール運動2) 到達目標 ◎バッティング系(ノックと野球)から筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。 ◎集団バドミントンから体力づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>5回目 運動療法4(手作り用具使用1) 到達目標 ◎シートウォーキングから健康づくりのための転倒予防運動を体験理解できる。 ◎集団バドミントンから体力づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>6回目 運動療法5(手作り用具使用2) 到達目標 ◎スクエアシートから転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 ◎集団バドミントンから体力づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>7回目 運動療法6(ドッジビー・輪投げ) 到達目標 ◎ドッジビー・輪投げを使用して健康づくりのための集団運動を体験理解できる。 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>8回目 運動療法7(マット運動) 到達目標 ◎マット運動から筋力・バランス運動を体験理解できる。 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>9回目 運動療法8(ミニハードル) 到達目標 ◎ミニハードル走からリズムとバランス運動を体験理解できる。 ◎卓球・ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>10回目 運動療法9(パターゴルフ) 到達目標 ◎パターゴルフから楽しい健康づくりのための運動を体験理解できる。 ◎集団バドミントンから体力づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>11回目 運動療法10(グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフ) 到達目標 ◎グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフから健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>12回目 運動療法11(ノルディックウォーキング) 到達目標 ◎ノルディックウォーキングから健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p>

	<p>1 3 回目 運動療法12(フロートR・ボルタリング) 到達目標 ◎フロートR(円形・三角形)とボルタリングから健康づくりのための運動を体験理解できる。 ○ソフトバレーボールゲームから楽しい集団健康運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 4 回目 集団ゲーム1 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとしたグループワーク①を体験できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 5 回目 集団ゲーム2 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとしたグループワーク②を体験できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義前後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	出席状況と授業の取り組み姿勢と態度、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名:池本 敬博 研究室:体育館・教員室 メールアドレス:iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:授業の前後
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部連藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは◎ - 1
	KK9-HA-ES-P-0

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	11	選択
担当教員			
坪倉浩美 伊藤三紀子 山田智子 福田セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：495時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 正常分娩経過における助産診断・助産技術の基礎を身につける。併せて、妊娠・分娩・産褥・育児期の母親と胎児・新生児、およびその家族への、個別性を考慮した継続的な助産過程の展開についても学ぶ。また、助産管理の実際についても学ぶ。</p> <p><授業目標> 1. 基礎的知識・技術を通して、助産の対象の全体像が理解できる。 2. 妊産婦と胎児・新生児の健康状態を査定し計画・実施・評価ができる。 3. 助産過程に基づいた助産計画を立案し、分娩経過予測ができる。 4. 安全性・倫理性に基づいた分娩助産技術の実践ができる。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 産婦人科外来、助産師外来で実習を行う。 2) 対象者を決定し、助産診断を行う。 3) 外来での助産援助について理解する。 2. 分娩期実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟で実習を行う。 2) 原則として正常分娩経過をたどる母児を受け持ち、分娩第Ⅰ期～第Ⅳ期において助産過程を展開する。 10例分娩助産終了時に少しの支援でできることを目標とする。 3. 産褥・新生児期実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として分娩期から退院までを継続して受け持つ。 2) 助産過程を展開する。 3) 助産診断から個別性のある保健指導を立案、実施する。 4) 実習期間であれば1か月健診に立ち会う。 4. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 間接助産・出生直後ケア 2) 帝王切開後のケア 3) 母乳育児ケア 4) 集団教育（退院指導、母親学級・両親学級など） 5) 助産管理
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要な知識の学習はもとより、時間外を有効に使うて十分に技術練習を積み重ねておくこと。必要に応じ、課題学習・補習を行う。参考文献・参考資料は、自分たちでも積極的に集めて（または作成して）おくこと。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 堀内成子編 医学書院 2. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 3. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 4. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 横尾京子編 5. 新生児蘇生法テキスト 第3版 細野茂春監修 メディカルビュー社 7. 図説 CTGテキスト 助産実践能力習熟段階〈クリニカルラダー〉レベル3 認証必須研修CTG対応テキスト 中井章人 メディカルビュー社 8. 実践 マタニティ診断 日本助産診断・実践研究会編 9. よくわかる母乳育児 編著：水野 克己他 へるす出版
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第3版 北川真理子・内山和美編集 南江堂 2. 新生児学入門 第5版 仁志田 博司（編集） 医学書院 3. 母乳育児支援スタンダード 第2版 ラクテーションコンサルタント協会編集 医学書院 4. 母性の心理社会的側面と看護ケア 新道 幸恵他 医学書院 5. 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断のケア 町浦 美智子 日本看護協会出版会 6. マタニティ診断ガイドブック 第5版 日本助産診断・実践研究会編 7. 写真で分かる助産技術 平澤美恵子・村上睦子編 インターメディカ 8. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 我部山キヨ子編 医学書院
成績評価	実習内容、実習記録・レポート、ならびに実習態度などを総合的に評価する。実習終了後に実習評価表に基づき面接を行う。
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：hi_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>伊藤三紀子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：mi_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp</p>

	<p>オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：xe_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p>
備考	<p>教員全員助産師として病院に勤務した経験を持っている。 その実務経験をもとに「助産実習」について実習指導を行う。</p>
	<p>D Pとの関連 ◎-4 ○-2・5</p>
	<p>科目ナンバー：KK-4-NSc54-ES-P-MW</p>
	<p>アクティブラーニング</p>